博多 Ⅶ

— 博多遺跡群第28次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第147集

1987

福岡市教育委員会

福岡市報告書　第147集　博多VII 正誤表

頁	行	誤	正
挿図目次	Fig. 23	4号・5号小石室墓	4号・5号小石室墓 (1:30)
挿図目次	Fig. 30	中世石組井戸SE001、SE002、(1:40)	中世石組井戸SE001、SE002、SK382土壙 (1:40)
挿図目次	Fig. 32	2　SK339	2　SK338
挿図目次	Fig. 41	2　SK383	2　SK382
挿図目次	Fig. 44	SK065土壙	SK056土壙
挿図目次	Fig. 45	SK127土壙	SK124土壙
挿図目次	Fig. 47	中石遺物	中世遺物
挿図目次	Fig. 48	中世陶磁器（写真）	中世遺物実測図 (1:2、1:3、1:4)
挿図目次	Fig. 54	朝鮮土器実測図 (1:3)	中世遺物（写真）
挿図目次	Fig. 57	朝鮮土器（写真）	朝鮮土器 (1:2)
挿図目次	Fig. 59	中世瓦類	朝鮮土器写真
挿図目次	Fig. 60	中世瓦類実測図 (1:3)	中世瓦類（写真）
挿図目次	Fig. 61		中世瓦類実測図 (1:3)
挿図目次		Fig. 62	Fig. 63
挿図目次		Fig. 63	Fig. 64
挿図目次		Fig. 64	Fig. 65
挿図目次		Fig. 65	Fig. 66
挿図目次		Fig. 66	Fig. 67
挿図目次		Fig. 67	Fig. 68
挿図目次		Fig. 68	Fig. 69
挿図目次		Fig. 69	Fig. 70
挿図目次		Fig. 70	Fig. 71
挿図目次		Fig. 71	Fig. 72
挿図目次	Fig. 73	近世瓦実測図 (1:3)	近世の瓦類（写真）
挿図目次		Fig. 72　近世の瓦類（写真）	Fig. 74　近世瓦実測図 (1:3)
挿図目次		Fig. 74	Fig. 75
挿図目次		Fig. 75	Fig. 76
挿図目次		Fig. 76	Fig. 77
挿図目次		Fig. 77	Fig. 78
挿図目次		Fig. 78	Fig. 79
挿図目次		Fig. 79	Fig. 80

頁	行	誤	正
本文		Fig. 1　沖の浜・博多浜の地形復元案（約1/10,000）	博多遺跡群調査地点及び地形復元図 (1:10,000)
本文	27	教えて	敢えて
本文 13	Fig. 15	（縮尺700）	(1/700)
本文 13	9	SK−325	SK336
本文 16		Fig. 17	Fig. 18
本文 27	26	3〜45m	3〜4.5m
本文 28	Fig. 30	SE001、SE002、SK325土壙	SE001、SE002、SK382土壙
本文 35		F37	Fig. 37
本文 43	10	船載	舶載
本文 43	15	瓦博	瓦塼
本文 43	21	環元	還元
本文 53	図版説明	171は朱玉か？	172は朱玉か？
本文 54	Fig. 55	朝鮮土器実測図 (1/3)	朝鮮土器実測図 (1/2、1/3)
本文 64	15	SK371	SK370
本文 73	4	2や6	41や45
本文 73	4	1や4	40や43
本文 73	5	9	48
本文 73	5	他の唐草文のよう	他も草花文のよう
本文 73	5	それらの唐花文は	それらの草花文は
本文 73	7	9	48
本文 73	7	8	47
本文 73	7	11	50
本文 75	4	機会をとらえた	機会をとらえて
本文 75	13	約40cm	約40m
本文 75	27	周溝埋、後に	周溝埋没後に
本文 75	29	小口積みと構造	小口積み構造と
本文 91	挿図番号	Fig. 76	Fig. 79
本文 120	2	匱物	遺物

P77中正誤　Tab. 2−①

誤			正		
遺物番号	〜	出土地点	遺物番号	〜	出土地点
9		SK379	9		SK378
10		SK379	10		SK378
12		SK329	12		SK328
15		SK383	15		SK382
30		SK379	30		SK378
35		SK379	35		SK378
53		SK321	53		SK320
72		SK354	72		SK353

P78中正誤　Tab. 2−②

誤			正		
遺物番号	〜	出土地点	遺物番号	〜	出土地点
85		SK323	85		SK322
95		SK331	95		SK330
104		SK328	104		SK327
105		SK375	105		SK374
106		SK336	106		SK335

P80中正誤　Tab. 3−②

誤			正		
番号	〜	出土地点	番号	〜	出土地点
40		SK367	40		SK366

P83中正誤　Tab. 4−①

誤			正		
遺物番号	〜	出土地点	遺物番号	〜	出土地点
21		SK336	21		SK335
25		SK356	25		SK355

P84中正誤　Tab. 4−②

誤			正		
遺物番号	〜	出土地点	遺物番号	〜	出土地点
70		SK340	70		SK339

P85中正誤　Tab. 4−③

誤			正		
遺物番号	〜	出土地点	遺物番号	〜	出土地点
110		SK331	110		SK330

P86中正誤　Tab. 5−①

誤			正		
番号	銭貨名	出土地点	番号	銭貨名	出土地点
29	元豊通宝	SK321	29	元豊通宝	SK320

P89中正誤　Tab. 5−②

誤			正		
番号	銭貨名	備考	番号	銭貨名	備考
40	寛永通宝	背面上に「文」	40	寛永通宝	背面上に「元」

誤			正		
番号	銭貨名	出土地点	番号	銭貨名	出土地点
63	寛永通宝	SK384	63	寛永通宝	SK383
64	寛永通宝	SK384	64	寛永通宝	SK383

P98中正誤　Tab. 6−⑥

誤			正		
整理番号	時期	備考	整理番号	時期	備考
102号	近世		102号	中世	少し近世より紛れ込みがある

P99中正誤　Tab. 6−⑦

誤			正		
整理番号	〜	備考	整理番号	〜	備考
122号		同円番号の土壙あり	122号		同一番号の土壙あり

P114中正誤　Tab. 6−㉒

誤			正		
整理番号	〜	備考	整理番号	〜	備考
406号		井筒かSK300の	406号		SK300の井筒か

博多 Ⅶ

— 博多遺跡群第28次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第147集

遺跡略号　HKT　調査番号　8508

作業風景

昭和62年3月31日

福岡市教育委員会

前方後円墳の葺石（II区）

中近世の遺構検出状態（I区）

博多遺跡群周辺航空写真

序　　文

福岡都市圏の中枢として躍進する博多は、弥生時代以来、大陸文化流入の門戸として栄えてきており、特に中世においては日本の対外交渉の拠点として繁栄した都市でもあります。

近年、再開発による高層ビル化がすすむなかで継続的に発掘調査がすすめられ、古代～中世の「博多」の姿がしだいに明らかになりつつあります。

本書に概要を収めた第28次調査は、博多の中心部から南寄りの古砂丘頂上部に位置しています。中世都市「博多」に関連する数多くの遺構・遺物のほかに、前方後円墳や奈良・平安時代の遺物も多く出土しており、福岡平野の歴史を考えるうえで貴重な資料をうることができました。本書が調査・研究の場で活用されるとともに、埋蔵文化財保護に対する認識と理解の一助となれば幸いです。

発掘調査にあたり、ご指導・ご助言をいただいた諸先生、関係者、及び工事関係者各位に深甚なる謝意を表します。

昭和62年３月31日

福岡市教育委員会

教育長　佐藤善郎

例　　言

1．本書は、博多地区の再開発ビル建設に伴い、福岡市教育委員会が昭和60年度(1985)に実施した緊急発掘調査の報告書である。

2．本書の執筆はつぎのとおりである。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ － 井沢洋一　Ⅲ － 1．井沢　2．米倉秀紀・井沢　3．井沢

4．山崎龍雄・井沢・常松幹雄　5．井沢・常松・山崎

付編　1．池田洋子　2．中橋孝博

3．本書に掲載する遺構実測図は、井沢、山崎龍雄、常松幹雄、米倉秀紀、吉留秀敏、加藤良彦、谷沢仁、清原ユリ子が作成した。遺構の整図は井沢、池田による。

4．遺物実測図は、井沢洋一、米倉秀紀が分担して行い、拓本については山本久美、墨書土器については古賀由美子が担当した。整図は井沢、池田が行った。

5．遺構一覧表は、池本幸子、里尾真理による。青銅器・鉄製品一覧表は東豊子による。

6．Fig.3図は博多Xの図面を利用した。

7．本書に掲載した遺構写真は各調査担当者が撮影し、遺物については井沢、藤美代子、池田が撮影・焼付を行った。

8．本書で用いる方位は磁針方位である。

9．本書で使用する遺構の呼称は記号化した。すなわち溝－ＳＤ、土壙－ＳＫ、井戸－ＳＥ、古墳－ＳＯとする。

10．本書の編集は常松、米倉の助言を得て井沢が行った。

本　文　目　次

Ⅰ章　はじめに……1

Ⅱ章　遺跡の立地と概要……2

Ⅲ章　調査の記録……7

付編　1．博多遺跡群出土の硯について……118

2．６号溝検出の人骨について……121

挿 図 目 次

Fig. 1　博多遺跡群調査地点及び地形復元図(1：10,000) …… 1
Fig. 2　博多遺跡群周辺の遺跡(1：5,000) …… 2
Fig. 3　「石城志」所載の博多古図 …… 3
Fig. 4　博多近隣古図(天文9年—1812年) …… 4
Fig. 5　博多遺跡群第28次調査位置図(1：1,500) …… 5
Fig. 6　第28次調査地全景　①Ⅰ区、②Ⅱ区 …… 6
Fig. 7　博多遺跡群第28次調査遺構配置図(1：300) …… 折り込み
Fig. 8　第28次調査地周辺の環境 …… 7
Fig. 9　Ⅰ・Ⅱ区東西横断土層図(1：80) …… 8
Fig. 10　Ⅰ・Ⅱ区土層図(1：80) …… 9
Fig. 11　弥生式土器実測図(1：3) …… 10
Fig. 12　北側周溝土層状態(1：60) …… 11
Fig. 13　前方後円墳実測図(1：350) …… 11
Fig. 14　前方後円墳裾部及び葺石　①北側裾部の状態 …… 12
②Ⅱ区葺石F群検出状態 …… 12
Fig. 15　前方後円墳復元図(1：700) …… 13
Fig. 16　前方後円墳葺石実測図(1：60) …… 14
Fig. 17　埴輪及び古墳時代遺物 …… 15
Fig. 18　埴輪実測図(1：4) …… 16
Fig. 19　埴輪実測図(1：4、1：3) …… 17
Fig. 20　葺石上面の埴輪出土状態 …… 18
Fig. 21　1号～3号小石室(1：30) …… 19
Fig. 22　小石室墓　①1号小石室、②2号小石室、③3号小石室 …… 20
Fig. 23　4号・5号小石室墓 …… 21
Fig. 24　6号・7号小石室墓、SR001(1：30) …… 22
Fig. 25　4号小石室 …… 22
Fig. 26　小石室墓　①5号小石室、②6号小石室、③7号小石室 …… 23
Fig. 27　古墳時代の遺物実測図(1：3) …… 24
Fig. 28　律令時代の遺物 …… 25
Fig. 29　奈良・平安時代の遺物実測図(1：3) …… 26
Fig. 30　中世石組井戸SE001、SE002(1：40) …… 28

Fig. 31　石組井戸　①ＳＥ001、②ＳＥ002……29
Fig. 32　井戸検出状態　①ＳＥ061、②ＳＫ339、③ＳＥ047・ＳＥ052……30
Fig. 33　ＳＤ01～ＳＤ03溝土層図(1：30、1：60)……31
Fig. 34　溝ＳＤ02　①ＳＤ02、北から　②ＳＤ02土層断面の状態……32
Fig. 35　溝SD02・05　①ＳＤ02土層断面の状態　②③ＳＤ05土層図(1：30)、
④ＳＤ05土層断面の状態……33
Fig. 36　溝ＳＤ05・06　①ＳＤ06（西から）②ＳＤ06　人骨出土状態図(1：60)……34
③ＳＤ06、ＳＤ07　土層断面図(1：60)
Fig. 37　ＳＤ06溝　動物骨出土状態……36
Fig. 38　溝出土遺物(1：3、1：4)……37
Fig. 39　ＳＫ061土壙実測図(1：30)……38
Fig. 40　ＳＫ291(1：30)……39
Fig. 41　円形土壙検出状態　①ＳＫ266、②ＳＫ383、③ＳＫ291……39
Fig. 42　瓦敷実測図及び写真(1：60)……40
Fig. 43　ＳＫ092土壙(1：30)……41
Fig. 44　ＳＫ065土壙(1：30)……42
Fig. 45　ＳＫ127土壙出土遺物実測図(1：3)……44
Fig. 46　中世遺物実測図(1：3、1：4)……45
Fig. 47　中石遺物実測図(1：3、1：4)……46
Fig. 48　中世陶磁器(写真)……47
Fig. 49　中世陶磁器(写真)……48
Fig. 50　中世遺物実測図(1：3、1：4)……49
Fig. 51　中世陶磁器(写真)……51
Fig. 52　中世陶磁器(写真)……52
Fig. 53　中世遺物(写真)……53
Fig. 54　墨書土器実測図(1：3)……54
Fig. 55　墨書土器実測図(1：2)……55
Fig. 56　墨書土器実測図(1：2)……56
Fig. 57　墨書土器(写真)……57
Fig. 58　墨書土器(写真)……58
Fig. 59　中世瓦類(写真)……59
Fig. 60　中世瓦類実測図(1：3)……60
Fig. 62　近世遺構の集合状態……63

Fig. 62　瓦井戸実測図(1：40) ……64
Fig. 63　瓦井戸検出状態　①ＳＥ004　②ＳＥ007　③ＳＥ006 ……65
Fig. 64　ＳＥ059井戸(1：40)……65
Fig. 65　石組遺構(ＳＸ01)(1：60) ……66
Fig. 66　近世陶磁器……67
Fig. 67　近世陶磁器(写真)……68
Fig. 68　近世陶磁器(写真)……69
Fig. 69　近世遺物(写真)……70
Fig. 70　近世墨書土器……71
Fig. 71　近世墨書土器及び底部銘(写真)……72
Fig. 73　近世瓦実測図(１：３)……74
Fig. 72　近世の瓦類(写真)……73
Fig. 74　中近世の青銅製品……81
Fig. 75　中近世の青銅器・鉄製品……82
Fig. 76　中近世の貨幣拓本(１：１)……87
Fig. 77　近世の貨幣拓本(１：１)……88
Fig. 78　貨幣写真……91
Fig. 79　貨幣写真……92

表　目　次

Tab. 1　溝一覧表……61
Tab. 2　墨書土器一覧表……77
Tab. 3　青銅製品一覧表……79
Tab. 4　鉄製品一覧表……83
Tab. 5　貨幣　一覧表……85
Tab. 6　遺構（土壙・井戸）　一覧表……92

Fig. 1　沖ノ浜・博多浜の地形復元案（約1/10,000）　　数字は調査次数を表す

A　呉服町工区調査区（地下鉄関係）
B　店屋町・祇園町・博多駅前工区調査区（地下鉄関係）
C　都市計画道路（博多駅～筑港線）拡幅部調査区

Ⅰ章 はじめに

1．調査に至る経過

那珂川と御笠川の二大河川によって形成された福岡平野の、博多湾に面した地域には古砂丘が形成されており、特に那珂川と御笠川に挟まれた古砂丘は、狭義の「博多」と言われる地域でもある。近年の博多における再開発は、市営地下鉄の営業開始と共に著しく道路整備やビルの高層化等の開発は目白押しである。こうした開発に伴う遺跡の発掘調査は現在までに35次を数える。遺跡は弥生時代から近世に及ぶが、調査の主目的となるのは中世博多の都市景観の復元であろう。今回の発掘調査は西鉄ビル建築に伴うもので昭和60年５月22日から８月31日までの期間に発掘調査を実施した。調査地の地番は福岡市博多区祇園町１番である。対象面積は2,343㎡であるが、安全対策の一環として養生等を行ったため、実際の調査面積は1,745㎡である。

2．調査の組織

調査委託　西日本鉄道株式会社

調査主体　福岡市教育委員会文化部埋蔵文化財課

庶務担当　折尾学（埋蔵文化財第１係長）　飛高憲雄（埋蔵文化財第２係長）
松延好文

調査担当　井沢洋一、山崎龍雄、常松幹雄、米倉秀紀

調査補助　谷沢　仁、池田洋子

調査協力　山本　一男、高浪信夫、熊本義徳、広田熊雄、神尾順次、吉住作美、野中辰雄
出雲義住、大内士郎、中村昇平、横井久雄、吉岡田鶴子、松井フユ子、松井邦子、井上真寿美、有富いつ子、平井和子、佐藤テル子、庄野崎ヒデ子、清原百合子、坂口フミ子、後藤ミサヲ、板倉文子、西尾たつよ、柴田勝子、宮原邦江、門司弘子、緒方マサヨ、金子由理子、堀川ヒロ子、尾畑信江、養原幸江、徳永ノブヨ、北原ヒサ子、松尾キミ子、柴山ツネト、萬スミヨ、三島博子、野田文香、児玉美由紀、磯崎忍、早弓友子、広松秀子、吉内素子、安田ひろ子

整理作業　大内士郎、池本幸子、東豊子、里屋真理、山本久美、斉藤恭子、古賀由美子、内藤紀美子、岸田久美、瀬戸公美子、内村明子、坂本淳子、岸川ひろみ、松永みどり、岩崎泰子

なお、今回の発掘調査にあたっては、施主の西日本鉄道株式会社にご理解とご協力を賜った。又、埋蔵文化財課の吉留秀敏、加藤良彦の各氏に協力を得たことを記し、深く感謝する次第である。

Ⅱ章 遺跡の立地と環境

福岡平野は東に三郡山地が、南から西にかけては背振山地が横たわり、北方には博多湾が広がる面積約240㎢の沖積平野である。この平野は平尾丘陵（標高100ｍの鴻ノ巣山）によって東部は狭義の福岡平野と西部の早良平野に分かれる。狭義の福岡平野は那珂川と御笠川の二大河川によって形成されるが、博多湾に面した地域には砂堆が発達しており、これらが袖ノ湊のの北側にあった息浜（沖ノ浜）と袖ノ湊の南側の博多浜と言われる古砂丘に相当する。いずれも地形上、博多の町割りの基盤であり、且つ海外交易という経済活動の中心地域である。又、この地域が埋蔵文化財として保存対象とする中・近世の「博多」でもある。

現存する博多古図の多くは18世紀以後の作成とされている。したがって、それらは古代から中世の地形を忠実に写しとったものとは言いがたい。中山平次郎は『古代乃博多』のなかで、「博多古図なるものは、『筑前国続風土記』に依て啓発された旧地形に関する考案の上に、諸事蹟に対する自家の見解を記入したもの」と述べている。これまでの博多古図に共通しているのは、博多の町が入海を挟んで北側の息浜（沖の浜）[注1]と南側の櫛田神社や聖福寺、承天寺のある一帯（博多浜）に分かれていることである。また、『石城志』の古図では、比恵川が石堂川と流れを一にしているのだが、『伏敵編』や住吉神社の絵馬によると、比恵川は承天寺の南側を西に、冷泉津に注いでいるなど、異なっている部分もある。

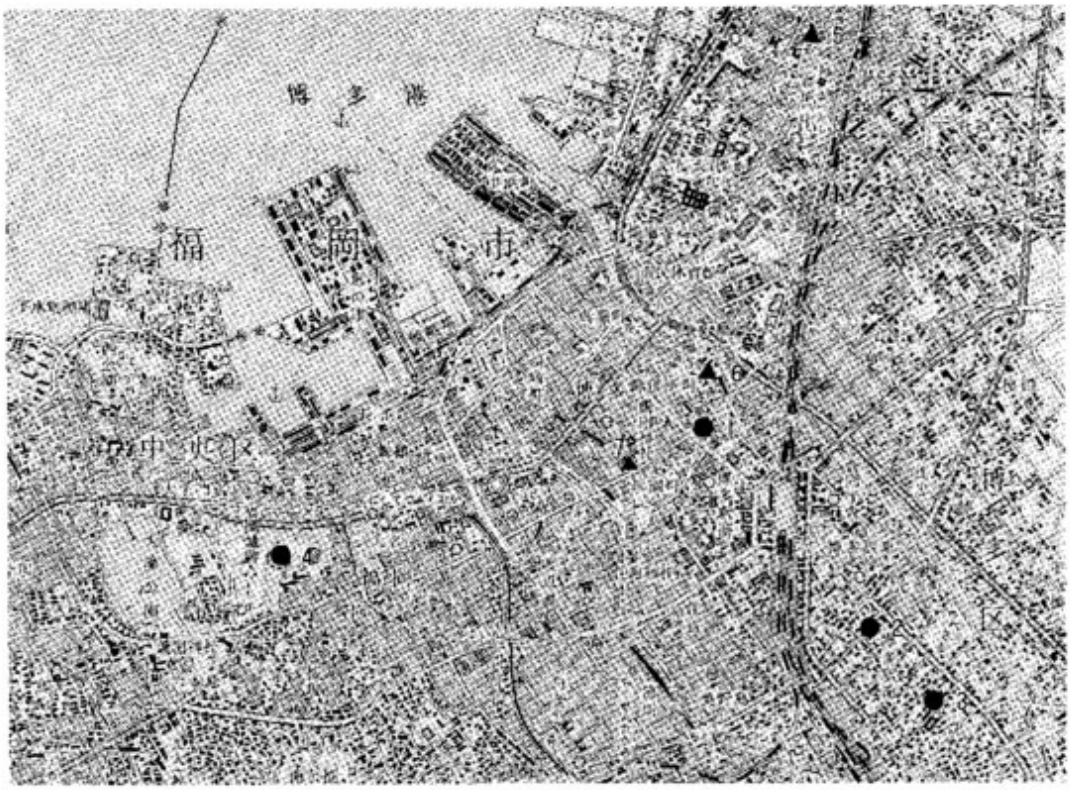


Fig. 2　博多周辺の遺跡（1/50,000）
1．博多第28次調査　2．瑞穂遺跡　3．比恵遺跡
4．鴻臚館前跡　5．筥崎宮　6．聖福寺　7．櫛田神社

古図によると、息浜と博多浜をつなぐ4mの等高線の付近（呉服町交差点）は、何れも入海となっており、より西側にかけられた橋によって結ばれていたことになっている。ところが地下鉄関係の調査では、この地点に杭・板・石で土留された南北方向の側溝や、それに直交する溝や木棺墓、井戸も検出されている。ここの遺構最下面の時期は、青磁が殆どなく白磁のみが卓越する11世紀後半から12世紀初頭[注3]に比定されるという。平清盛が大宰大弐となったのは保元2年(1157)のことだが、この時期には少なくとも息浜と博多浜は地続きになっていたのである。

博多浜のなかにも、石堂川沿いには筥崎宮を氏神とする町々がある。これは比恵川の流れをかえて石堂川とする以前からの慣習とも言われている。ともかく比恵川は、かって承天寺の南を通り冷泉津へ流れていたことはほぼ間違いない[注4]ようである。明治13年の地図にも、溝状の流れが記されており、岩八幡の南側や住吉1丁目にある湾曲する道路にその形跡を止めているようだ。また、この溝は元亀のはじめ（1570頃）大友氏の武将、臼杵安房守鑑速が博多防衛のために掘らせたという房州堀にも大筋で一致するようである。

以上、博多の現況図から旧地形[注5]の推定を試みた結果、第28次調査区の位置、いわゆる博多浜の南東部に位置した旧町割の南界に近い部分として捉えられる。

（常松・井沢）

〈注〉
1．中山平次郎著、岡崎敬校閲　「博多古図」『古代の博多』　九州大学出版会　1984年
2．高さの基準は東京湾の平均海面（T・P）である。
3．折尾学、池崎譲二、森本朝子　「中世の博多―発掘調査の成果から―」　『古代の博多』　九州大学出版会　1984年
4．井上精三　「博多と産土神」『福岡・博多の町名誌』　福岡市都市計画局　1982年
5．吉永正春　「房州堀と矢倉門」　ふくおか歴史散歩　第二巻　1987年

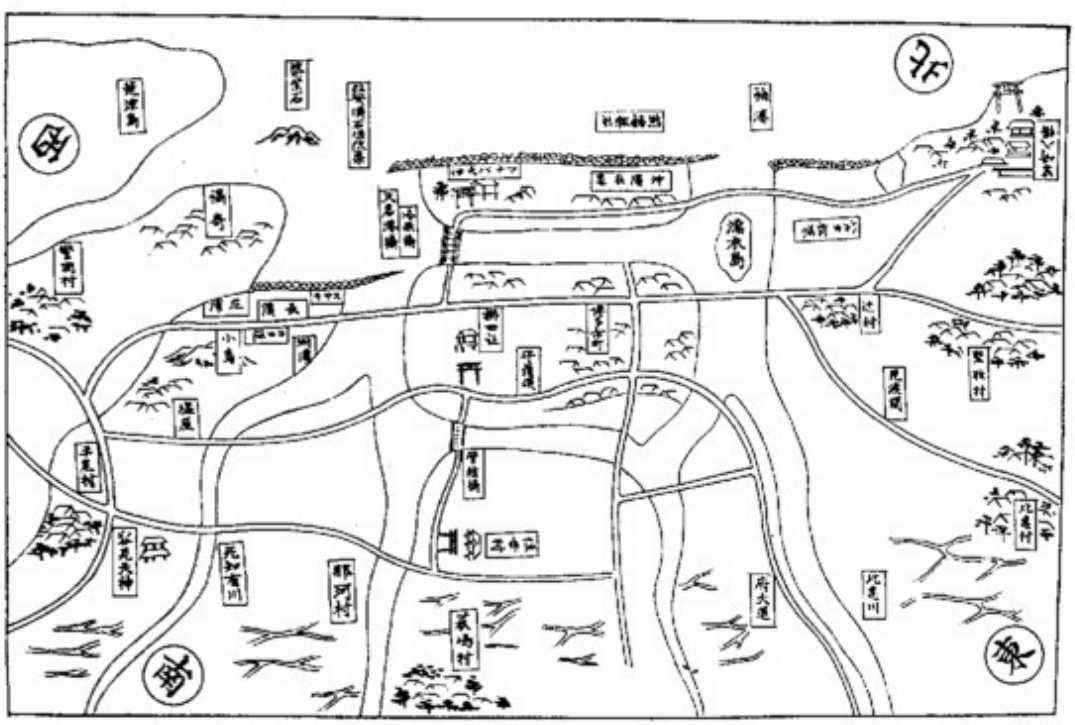


Fig. 3　『石城志』所載の博多古図

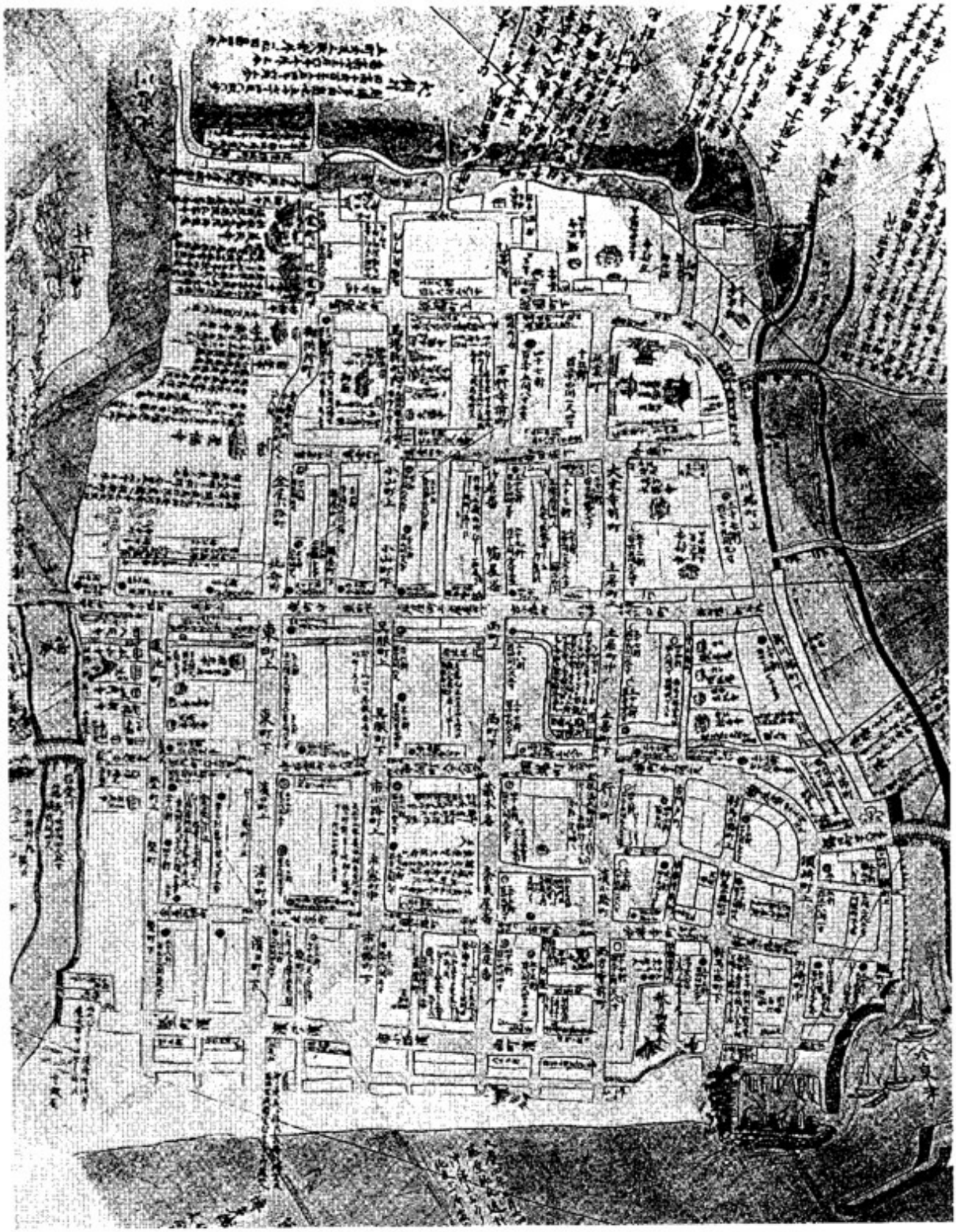


Fig. 4　博多近隣古図（天保９年－1812年）

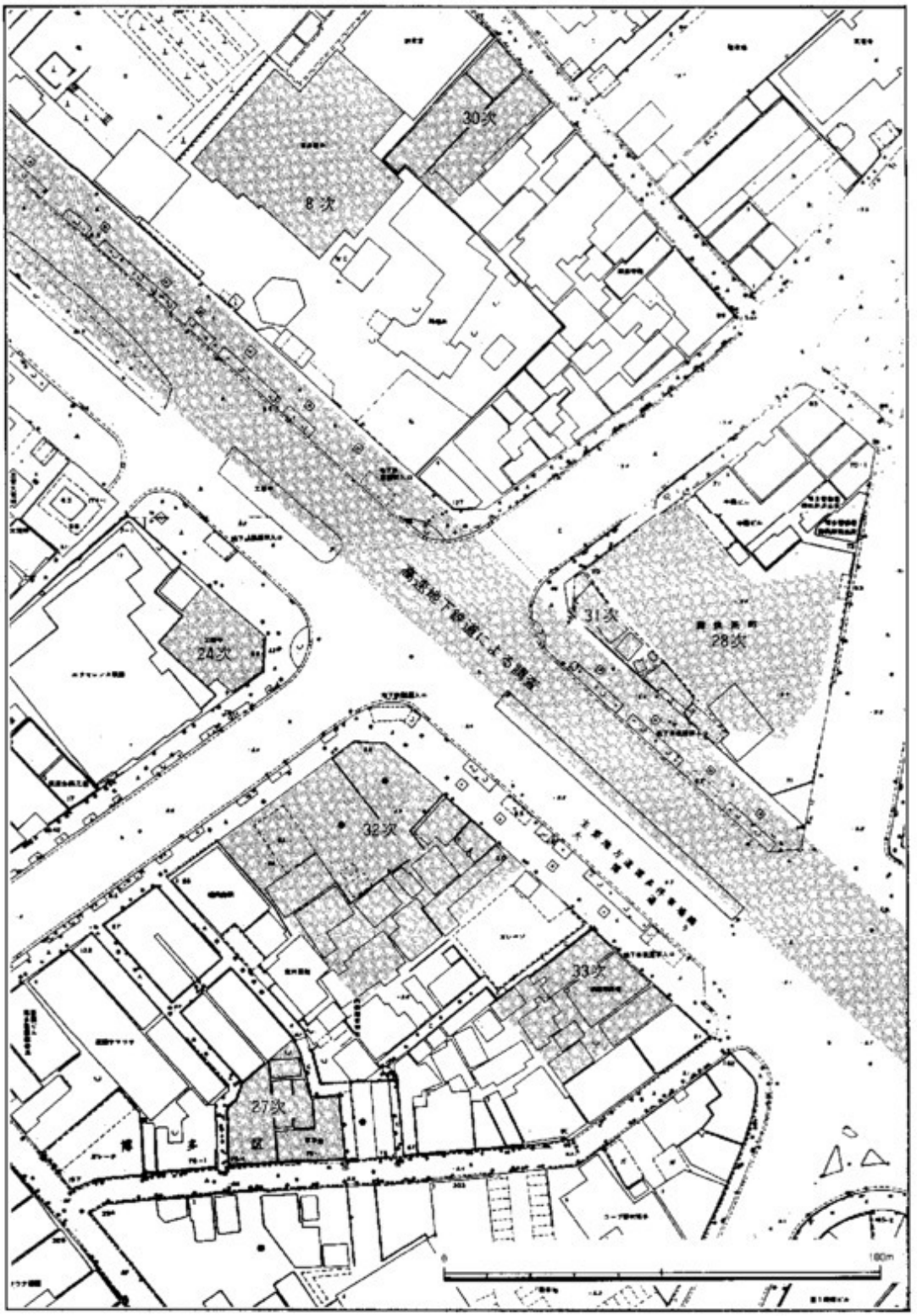


Fig. 5　博多遺跡群第28次調査位置図（1/1,500）

Fig. 6　第28次調査地全景　①I区　②II区

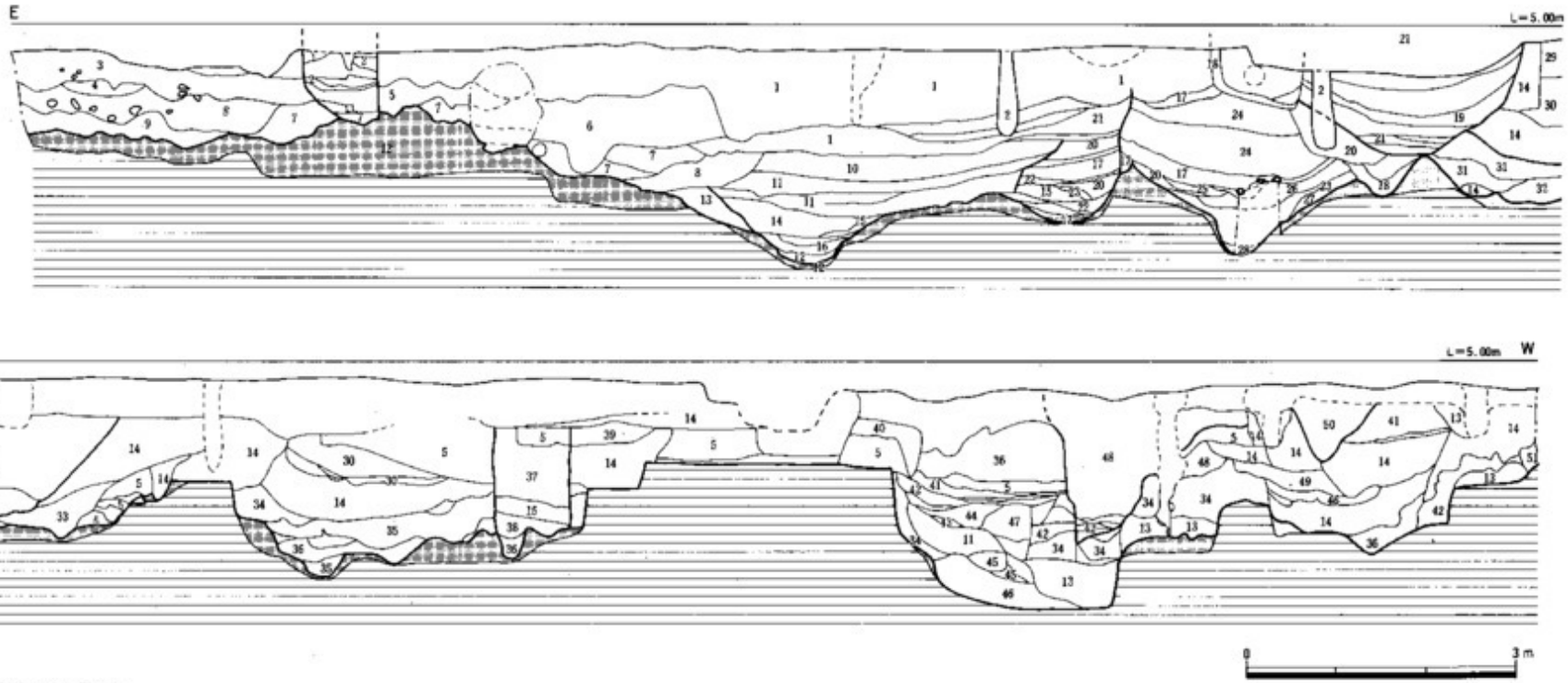
Fig. 7　第28次調査遺構配置図（1/300）

Ⅲ章 調査の記録

1．調査の概要

博多遺跡群の発掘調査は福岡市高速鉄道建設に伴う発掘調査を端緒として、周辺の再開発に伴う調査の結果、数々の成果を得ている。博多の町が古砂丘上に立地していることは明きらかであるが、当該調査地はこの砂丘上、標高5.2ｍを測る博多浜の砂丘頂上部に位置する。この調査区の北側、26次調査地点との比高差は約２ｍ、南側一博多駅方向の17次調査地との比高差は約１ｍを測る。調査は施主・施工者との協議の結果、調査に先行して地表下約1.5ｍの深さに表土を除去・排出しており、この結果、地表面からの土層状態及び各時代の遺構面の観察が不可能になると共に、中近世遺構の形状、規模などの把握が困難な状況になった。調査では排土の関係から、調査区を南北の二区（Ⅰ・Ⅱ区）に分け、北側のⅠ区より調査を開始した。発掘調査に先立っては、調査区の表面が荒れていたため、再度表土の除去を行った。Ⅰ区の現地表下約２ｍでは焼土層を伴う硬く叩き締められた面を検出したため、この面を第１面として調査に着手した。Ⅰ区の北側は整地層、版築層が存在するが、この版築層は北方の呉服町方向へ深くなる。南側は既に黄褐色・黄白色の地山砂層が表出しており、Ⅱ区ではこれらの砂層面は南側へ下る。Ⅰ区の北側では、弥生時代から中世に及ぶと思われる数面の遺構面を把握したが、期間の関係上調査は断念した。古墳の葺石を検出したⅠ区の東側からⅡ区地域においては中世遺構を完全に撤去し、古墳の全形把握に努めた。検出した遺構は、土壙386基、井戸86基、溝８条、前方後円墳１基、小石室７基、土壙墓２基、炉跡２基である。古墳時代・奈良・平安時代～近世に及ぶが、圧倒的に近世の遺構が主体を占める。土壙の内、井戸の可能性をもつものが多いが、教えて土壙として報告する。（井沢）

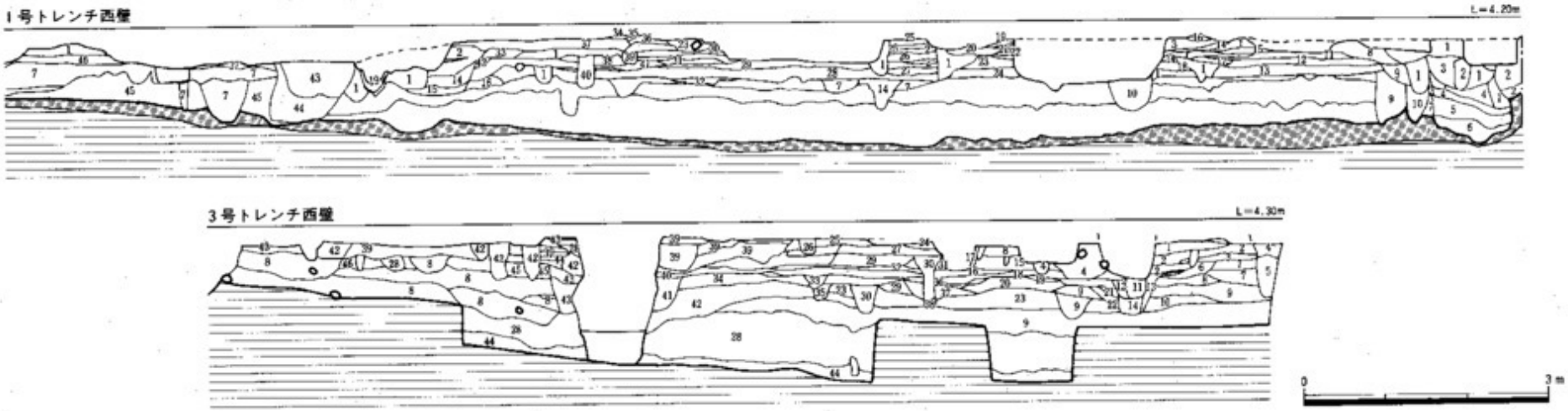
Fig. 8　第28次調査地周辺の環境



調査区東西方向土層名称

1．近現代層(黒灰色粗砂)
2．撹土層
3．暗灰色土層
4．暗茶褐色砂層
5．褐色土層(炭化物を含む)
6．灰褐色砂質層
7．暗褐色砂層
8．暗褐色砂層(炭化物を含む)
9．暗褐色砂層(縄紋土と黄白色砂混入)
10．砂の堆積層
11．黄褐色砂層
12．黄白色砂層(地山、海浜砂層)
13．黒褐色砂質土層(炭化物を含む)
14．暗褐色砂質土層(炭化物を含む)
15．黒褐色粗砂層
16．黄褐色砂層(黒褐色砂のブロック混入)
17．茶褐色粗砂層(炭化物、礫を含む)
18．黄褐色粗砂層(鉄分を含む)
19．黒灰色粗砂層(炭化物、レンガを含む)
20．黒灰色粗砂層(炭化物を含む)
21．黒褐色粗砂層(黄色粗砂混入)
22．黒褐色粗砂と黄白色粗砂の混合層(炭化物を含む)
23．黄白色粗砂層
24．暗褐色粗砂層(地山層ブロック混入、鉄分、炭化物を含む)
25．暗黄褐色粗砂層
26．暗茶褐色粗砂層
27．黄褐色粗砂層(黄白色粗砂ブロック混入)
28．暗褐色粗砂層(黒色粘質土ブロック混入)
29．暗褐色土層(砂粒、小礫を含む)
30．暗黄褐色土層（炭化物、石炭、小礫、土師器片を含む)
31．暗黄褐色土層(小砂粒、炭化物を含む)
32．黄白色砂層（褐色土が混入、炭化物を含む)
33．暗黄褐色砂質土層（粘性が多い、粘土塊を含む)
34．明褐色砂層
35．暗褐色土層（黄白色土が混入、漸移層)
36．暗褐色土層（礫、炭付物、焼付片、瓦片、土師器片、貝殻を含む)
38．黒褐色土層(礫、瓦片、焼付を含む)
39．明褐色土層(大砂粒、炭化物を含む)
40．暗褐色土層(橙色の小塊、青磁片を含む)
41．黄褐色砂層(炭化物を含む)
42．暗黄褐色砂層(炭化物、粘土塊を含む)
43．黒褐色土層(暗黄褐色砂混じり、炭化物、粘土塊を含む)
44．黄褐色砂層(黒褐色土混じり、炭化物を含む)
45．暗褐色砂層(黒褐色粘土塊、炭化物、土師器片を含む)
46．暗褐色砂層(炭化物を含む)
47．暗褐色砂層(黒褐色土、黄褐色土の砂が混入炭化物を含む)
48．黒褐色土層(炭化物、焼土塊を含み、ガラス製品、陶磁器片、瓦片がみられる)
49．褐色土層(暗黄褐色の砂と炭化物を含む)
50．黒褐色土層（粘土ブロック混入、炭化物、礫を含む)
51．黄褐色土層(炭化物を含む)

Fig. 9　Ⅰ・Ⅱ区東西横断土層図（1/80)



1号トレンチ西壁土層名称

1．暗褐色砂質土層(炭化物を含む)
2．暗褐色砂質土層(焼土、炭化物、灰、鉄分を含む)
3．茶褐色砂質土層(炭化物、焼土を含む)
4．黒褐色土層(灰、炭化物、焼土を含む)
5．黄褐色砂質土層(灰、炭化物を含む)
6．黄褐色と暗褐色混合砂層(炭化物を含む)
7．暗褐色砂層
8．黄褐色砂と黒褐色砂質土の混合層(灰、炭化物を含む)
9．暗褐色砂質土層(黄褐色砂を含む)
10．黒褐色砂質土層
11．黒褐色砂と黄褐色砂の混合層(鉄分、炭化物を含む)
12．茶褐色・黄褐色・灰色砂層と黒褐色砂質土層の混合層(炭化物を含む)
13．暗褐色砂と灰色砂と黄褐色砂の混合層(炭化物、陶器片を含む)
14．黄褐色砂層(暗褐色砂層をブロック状に含む)
15．茶褐色砂層(炭化物、灰、鉄分を含む)
16．黄褐色砂層
17．黄褐色と暗灰色砂層(鉄分を含む)
18．灰色砂質土と暗褐色砂質土の混合層
19．暗茶褐色砂質土層
20．茶褐色土層(地土ブロック混入)
21．茶褐色土層(炭化物を含む)
22．黄土色粘質土層(炭化物を含む)
23．黒灰色土層
24．茶褐色砂質土と暗褐色砂質土の混合層
25．灰白色砂質土層(黄褐色土のブロック混入)
26．黄褐色砂と暗褐色砂質土の混合層
27．暗褐色砂質土層(上部は黄褐色細砂)
28．暗褐色・黄褐色・茶褐色砂質土の混合層(炭化物を含む)
29．黄褐色細砂層(鉄分を含む)
30．暗褐色土層(下部は灰、炭化物、焼土の混合層)
31．黄灰色土・暗褐色土・黄褐色砂の混合層
32．暗褐色砂質土と黄褐色砂の混合層(鉄分、白磁片を含む)
33．黄褐色砂質土層(暗褐色砂質ブロック混入、土師器片を含む)
34．焼土層
35．焼土・灰の混合層
36．淡茶褐色砂質土層
37．灰の焼物層(黄褐色、暗灰色砂質土、炭化物、土器、鉄分、焼土を含む)
38．暗灰色砂質土層(炭化物、鉄分を含む)
39．黒褐色砂質土と黄褐色砂の混合層(鉄分を含む)
40．灰褐色砂質土層(炭化物、鉄分、黄土色の砂質土を含む)
41．黄褐色砂質土と暗褐色土の混合層(炭化物、鉄分を含む)
42．炭化物・灰・焼土の混合層
43．暗灰褐色砂質土層(炭化物、鉄分、砂粒を含む)
44．暗灰褐色砂層(炭化物を含む)
45．暗茶褐色砂層
46．黒褐色砂質土層(灰色土混入、鉄分を含む)

3号トレンチ西壁土層名称

1．暗茶褐色粘質土層(地土ブロック混入、炭化物を含む)
2．茶褐色粘質土層(炭化物黄灰色粘土ブロック混入)
3．地土ブロックと炭化物の混合層
4．暗茶褐色砂質土層
5．暗茶褐色砂質土層(黄灰色粘土ブロック混入)
6．黄灰色粘土と炭化物の互層
7．暗灰褐色砂質土層(黄灰色粘土ブロック混入)
8．暗褐色砂質土層
9．黒褐色砂層
10．黒茶褐色細砂層
11．暗茶褐色砂質土層(黒褐色粘土ブロック混入)
12．茶褐色砂質土層(黄灰色粘土ブロック混入)
13．黄灰色粘土ブロックと暗褐色砂の混合層
14．暗茶褐色砂質土層(黄灰色粘土ブロック混入、炭化物を含む)
15．茶褐色細砂と黄褐色細砂の混合層
16．茶褐色細砂層(褐色粘土ブロック混入、炭化物を含む)
17．茶褐色粘質土層
18．灰褐色粘土ブロックと褐色砂の混合層
19．褐色砂層
20．暗褐色砂層(炭化物、明褐色砂ブロック混入)
21．暗褐色砂層(黒褐色粘土ブロック混入)
22．黒褐色粘土暗茶褐色砂の混合層
23．暗茶褐色砂層
24．炭褐色粘土と炭化物の互層
25．暗褐色土層(炭化物、地土ブロック混入)
26．黒褐色土層
27．明褐色砂と灰褐色粘土の混合層(下に炭化物をはさむ)
28．暗褐色砂層(炭化物を含む)
29．茶褐色砂層(炭化物を含む)
30．明黄褐色砂層
31．明褐色砂層
32．黄褐色粘土層(炭化物を含む)
33．褐色砂層(黄褐色砂ブロック混入)
34．茶褐色砂層(明褐色砂ブロック混入)
35．茶褐色砂層
36．明茶褐色砂層(炭化物を含む)
37．茶褐色砂と黒褐色砂の混合層
38．暗茶褐色砂層(灰褐色粘土ブロック混入)
39．明灰褐色砂質土層(炭化物を含む)
40．茶褐色砂質土層(炭化物を含む)
41．褐色砂質土層(粘土ブロック混入)
42．暗褐色砂質土層(地土ブロック混入)
43．灰褐色砂質層(地土ブロック混入、炭化物を含む)
44．褐色砂質土層
45．褐色砂質土層(褐色粘土ブロック混入)
46．暗褐色砂質土層(鉄分を含む)

Fig. 10　Ⅰ・Ⅱ区土層図（1/80）

2．弥生時代の遺構と遺物

調査期間の都合上、この時代の遺構については精査することができなかった。弥生時代の遺物は全て包含層、又は整地層、中世の土壙内より出土したものである。調査区周辺では17次調査にて後期の住居跡を、35次調査では中期の住居跡を検出している。今回の遺物には弥生時代中期から終期終末までの土器の他、磨製石斧も出土している。3は丹塗り土器であるが、当調査区の西側一帯に甕棺墓が存在することを考え合せれば、祭祀又は甕棺に利用された土器と考えられよう。

（井沢）

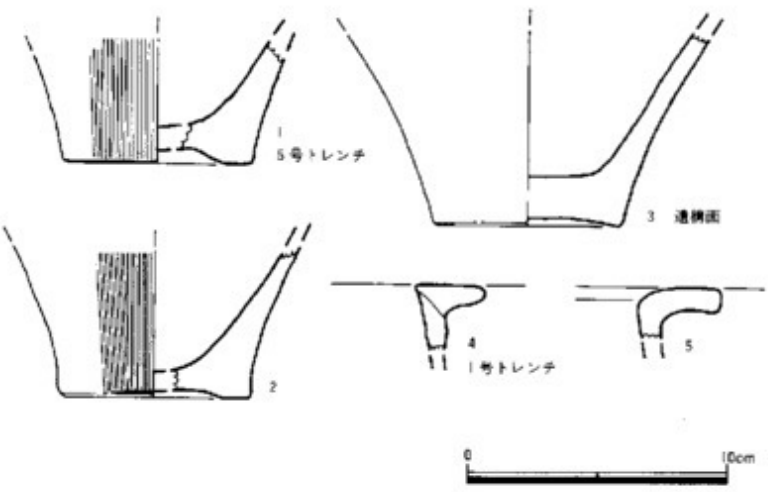


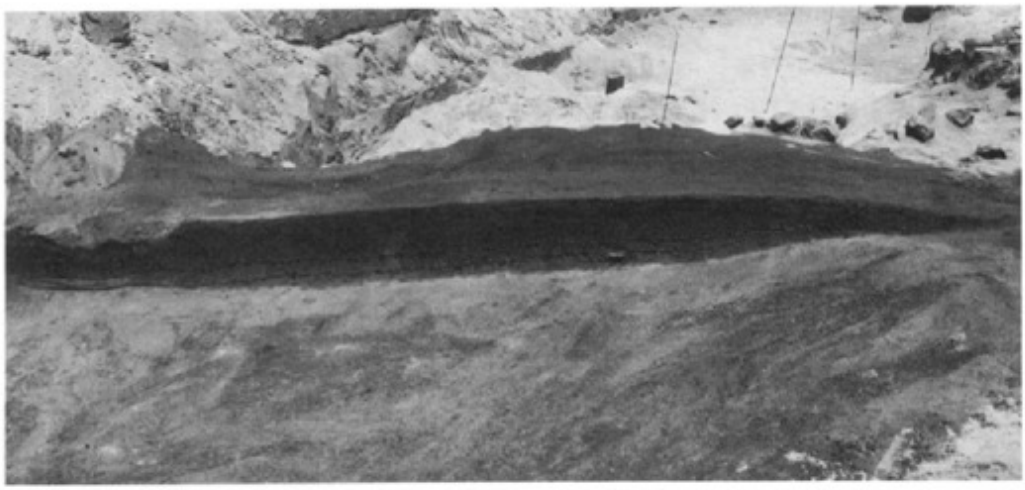
Fig. 11　弥生式土器実測図（1/3）

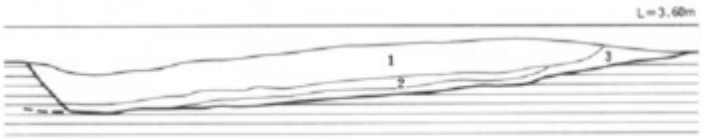
3．古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、前方後円墳1基、小石室墓7基、土壙(墓)2基である。これらの遺構に伴った遺物は極めて少なく、前方後円墳から埴輪片、小石室墓から鉄製刀子、須恵器片、土師器片が出土しただけで、いずれも現位置を離れている。ただし中・近世の遺構内や調査区北側の整地層内から埴輪、須恵器、土師器、管玉などが出土している。

1）前方後円墳（博多第1号墳）

前方後円墳は調査区のほぼ中央にあり、主軸をN－50°40′－E近くにとる。前方部・後円部とも調査区外に伸び、前方部ラインの延長は隣接する第31次調査区西壁で確認されている。墳丘は後世の削平のためほとんど遺存せず、わずかに基底部葺石の一部のみが断続的に残っているにすぎない。葺石の残存部分は、前方部に4カ所ある。いずれも墓石部分のみしか残存しておらず、必ずしも現位置か疑問が残るが、第31次調査区の成果を考えると、大きな位置のズレはない。後円部は大きく見て7カ所に分けられ、北から反時計回りにA～Gの名を付すと、B・E・Fの3群は配列に乱れがなく、ほぼ原形を保っているものと思われる。石材は玄武岩・花崗岩を多





土層名称
1．黒褐色細砂層
2．1に白色砂を少し含む
3．黒褐色細砂に白色細砂のブロックを含む層

Fig. 12　北側周溝土層状態（1/60）

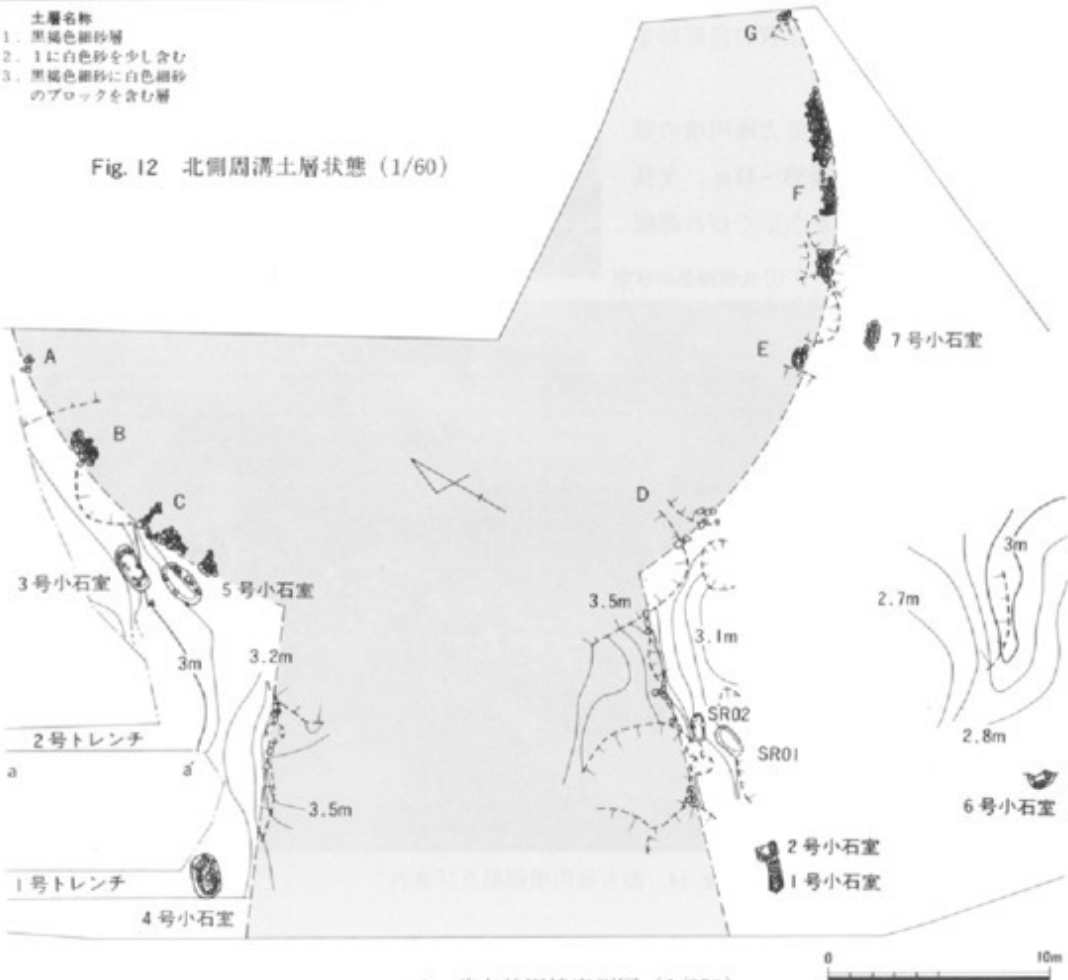


Fig. 13　前方後円墳実測図（1/350）

く使用する。基石は長さ40～50cm程度の角礫を用い、その上に長さ10～30cm程の角礫・円礫をぎっしり詰める。墳丘裾部の立ち上がり角度は約22°である。葺石下の墳丘は大きく３層に分かれ、葺石直下の第Ⅰ層が暗茶褐色砂層で腐食砂層である。第Ⅱ層は黄色砂層で炭化物を含む。第Ⅲ層は黄白色砂層である。第Ⅰ層は旧表土と考えられ、少なくともこの面から下は地山整形を行っている。その高さは約1.5ｍ以上を測る。墳裾レベルは、墓石の下で見ると、後円部はほぼ標高3.3m を測り、前方部は3.5～3.6m とやや高い。

周濠部分も後世の遺構や撹乱によってかなり不明確ではあるが、全体のコンターや墳丘南側の地形変換ラインの存在等から標高2.6～2.7m を底とし、くびれ部からの幅12m 以上を測る周濠の存在が考えられる。周濠内の覆土は３層に分かれ、第Ⅰ層は黒褐色細砂でもっとも厚い。第Ⅱ層はⅠ層に黄白細砂のブロックを含み、第Ⅲ層は第Ⅱ層よりさらに黄白色細砂を多く含む。

以上の諸点を総合し、前方後円墳の原形を考えれば、後円部径38～41m 、全長56m 以上（60～65cm位か？）、くびれ部幅

①北側裾部の状態

②Ⅱ区葺石Ｆ群検出状態

Fig. 14　前方後円墳裾部及び葺石

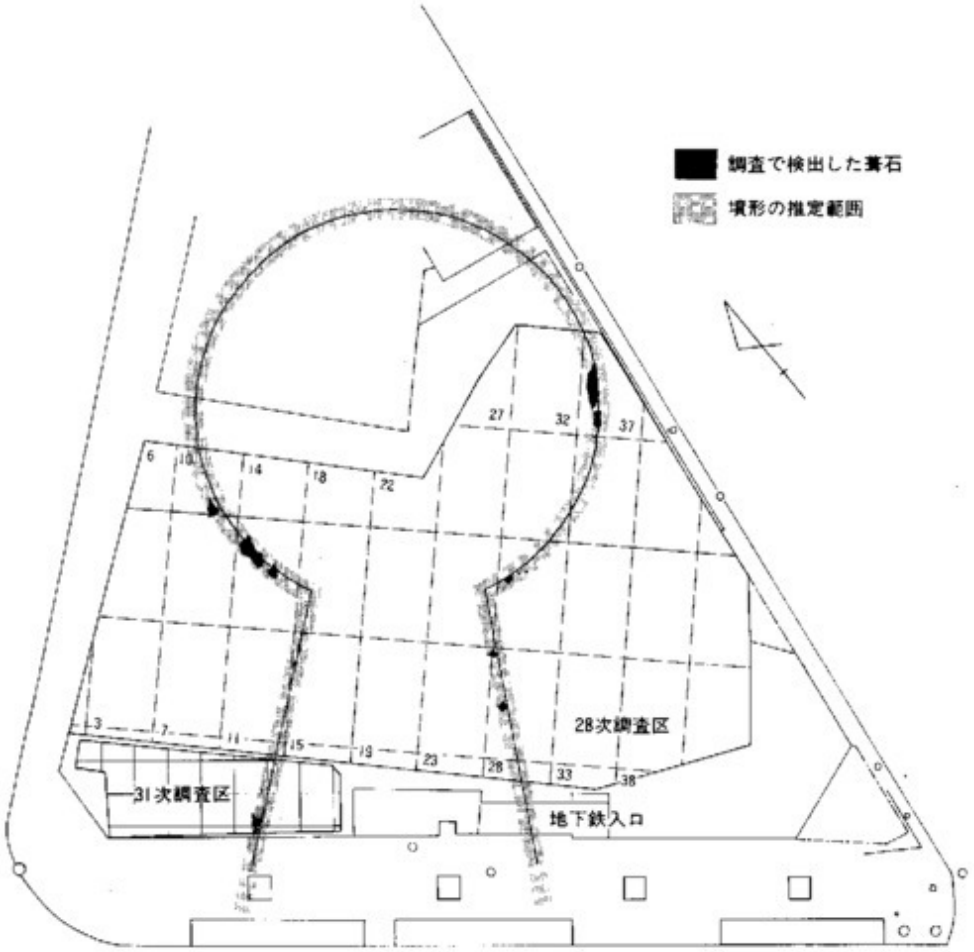


Fig. 15　前方後円墳復元図（縮尺700）

13～17m、前方部幅24m以上、くびれ部付近における周濠幅50m以上程度であろう。また残存する葺石の傾斜角から、他の前方後円墳に比べて高さが低かったものと思われる。これは地山及び盛土が砂であったため、必然的なものであろう。

内部主体については完全に破壊されているため全く推測の域を出ないが、後述する7号小石室において、赤色顔料を施こした安山岩の板石数枚が用いられており、前方後円墳の石室材であった可能性がある。

2）前方後円墳出土遺物

前方後円墳に伴った出土遺物は、埴輪片及び数点の土師器片のみである。中・近世遺構から出土したものも含めて、埴輪片はコンテナ約5箱出土している。またＳＫ－325からは碧玉製管玉

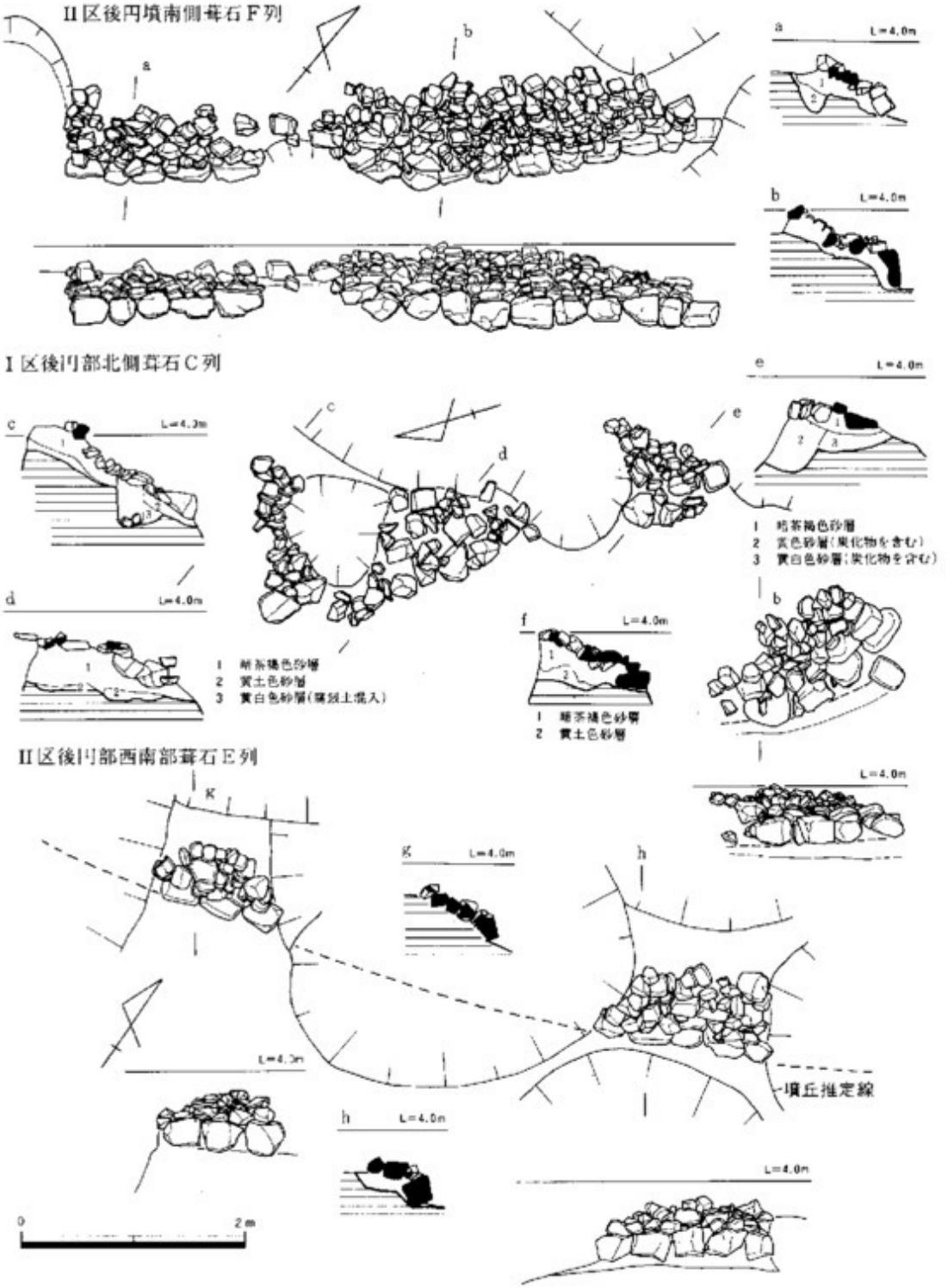


Fig. 16　前方後円墳葺石実測図（1/60）

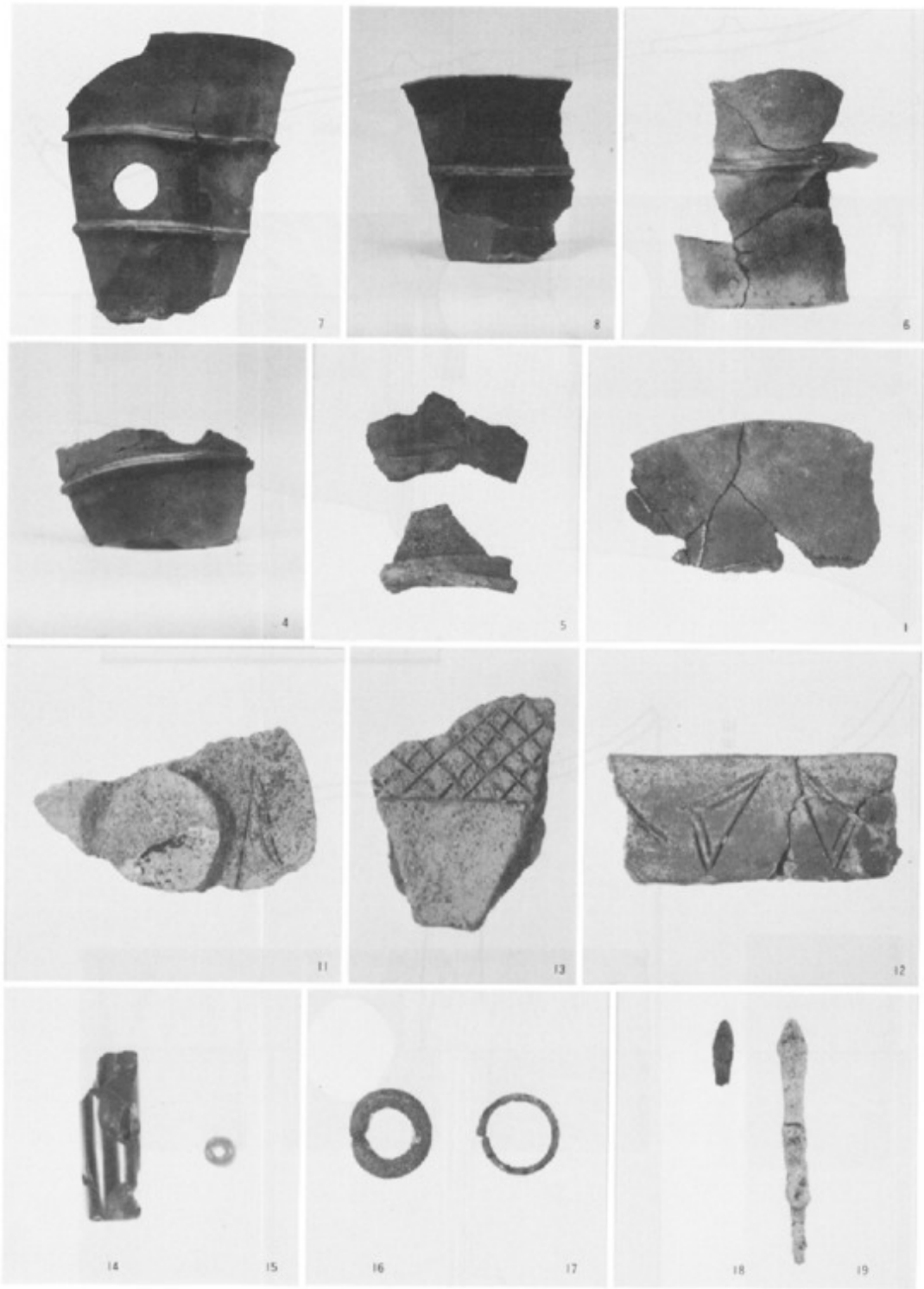


Fig. 17　埴輪及び古墳時代遺物

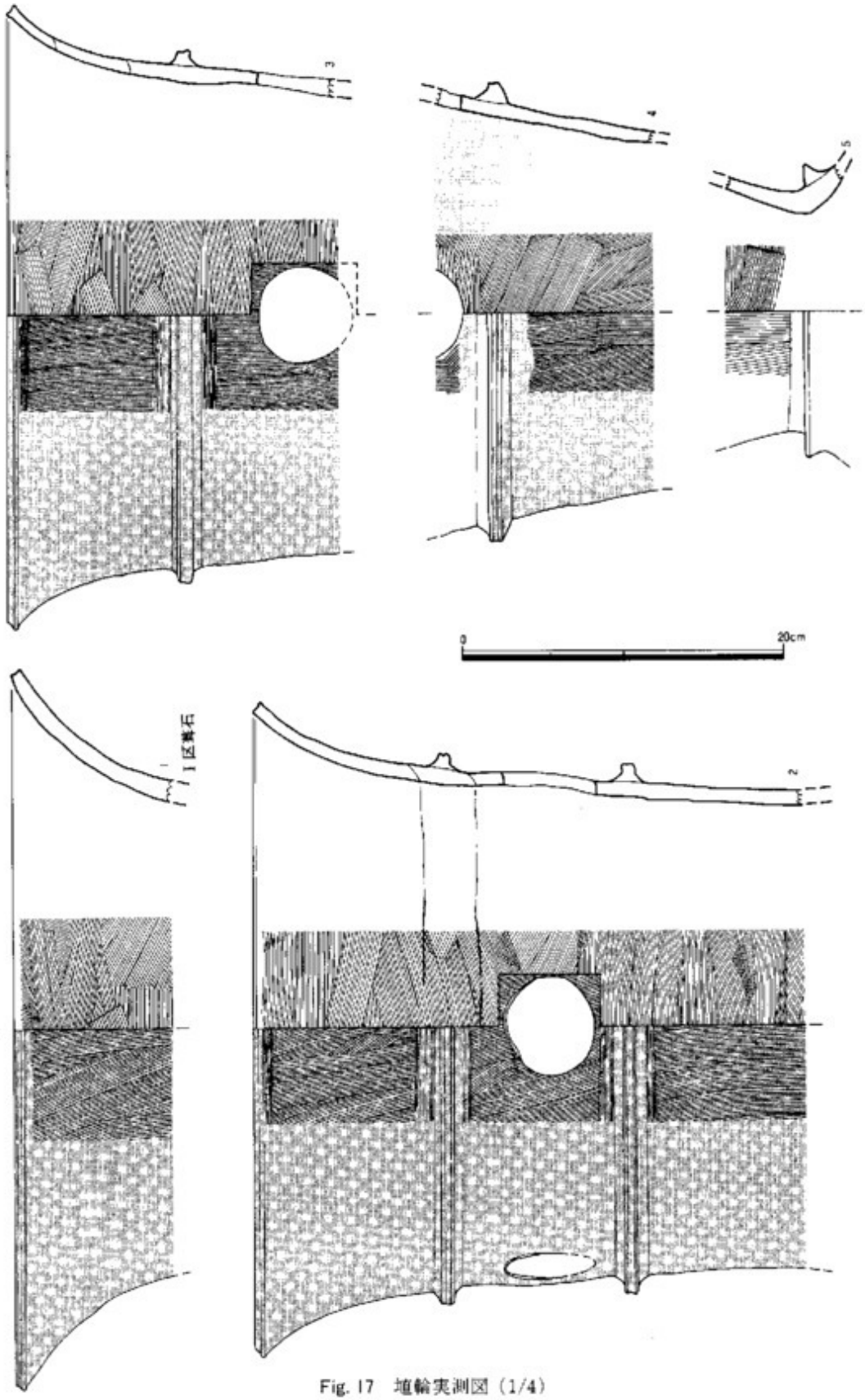


Fig. 17　埴輪実測図（1/4）

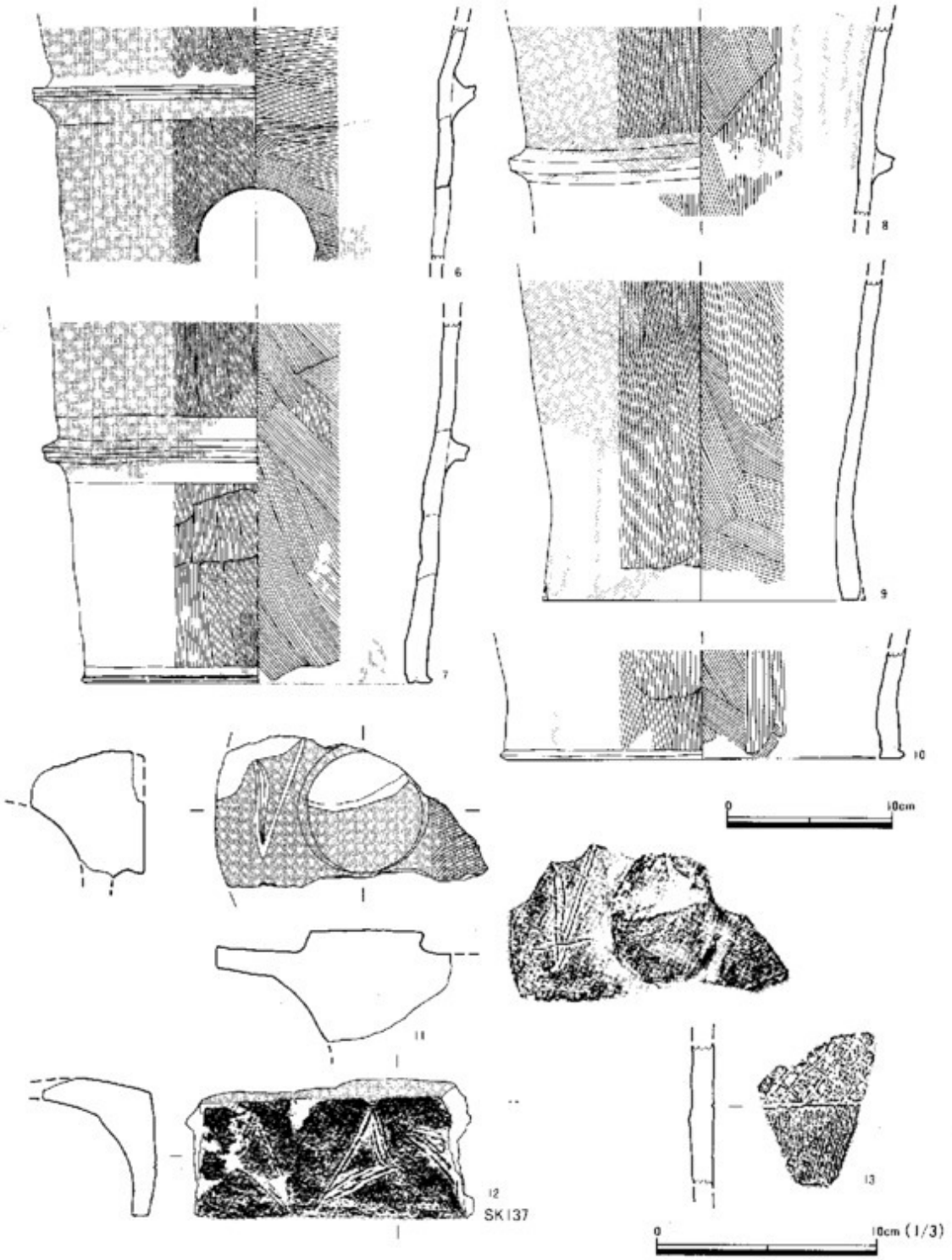


Fig. 19　埴輪実測図（1/4、1/3）

片が1点出土している。これらのうち土師器は小片のうち実測し得ず、ここでは埴輪についてのみ述べる。

出土した埴輪は、1・2号小石室周辺からは大破片が、後円部北側葺石上からは小片がまとまって出土した以外は、小片が各地点から出土している。円筒埴輪は完形に近いものがないため、全体の器形はわからないが、透し穴の位置等から凸帯4段のものが多いと思われる。2～4・7・8は円筒埴輪（1部朝顔形のものに含むかもしれない）片で、凸帯の断面形は台形に近いM字凸帯である。外面調整はタテハケのみ、内面調整は各方向のハケの他接合部を中心に指ナデ・ナデである。調整は全体的にやや雑で、ハケ調整の結果できた凹凸が著しい。赤色顔料はほとんどの破片に塗布されており、凸帯一段目以下には、赤色顔料が垂れ下がっているものが多い、口径35～40cm、底径19～21cmを測る。

1・5・6は朝顔形円筒埴輪で、口縁部及び頸部の破片である。基本的には円筒埴輪と同じ作りであるが、頸部片のうち赤色顔料を塗付していないものもある。1は口縁部片で口径45cmを測る。全面に赤色顔料を塗布する。形象埴輪は十数点出土したが、実測可能なものは3点にすぎない。その3点も小片のため、何の形象埴輪か判然としない。いずれも赤色顔料を塗布する。

Fig. 20　葺石上面の埴輪出土状態

2）小石室墓（SO）

小石室墓は7基検出したが、いずれも前方後円墳裾部近くに位置し、墳丘に沿うように配置し

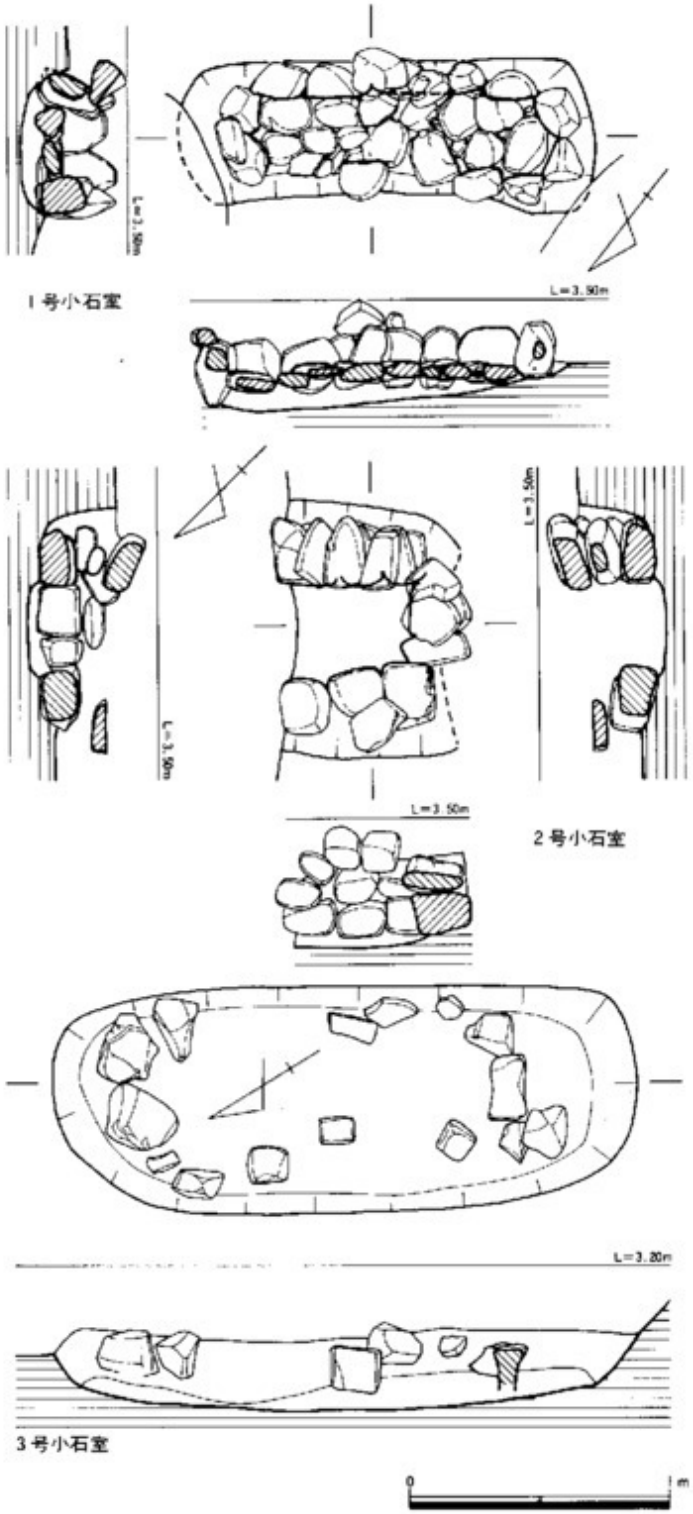


Fig. 21　1号～3号小石室（1/30）

ている。完存している石室はないが、1・4号小石室は比較的残りが良い。掘り方プランはいずれも長方形を呈する。石材は前方後円墳葺石とほぼ同じサイズの花崗岩を用いており、葺石を転用したものと思われる。後世の攪乱のため不明瞭なものもあるが、掘り込んだ面は、3・5号小石室は周濠埋没後で他の石室も同様であろう。以下、各石室について簡単に述べる。

1号小石室（Fig. 21・22）

前方部南側で検出した。掘り方は長さ1.56m、幅0.60mを測る。石室は一番下の段のみがほぼ遺存し、長さ2.24m幅0.72mを測る。石室小口部にはそれぞれ2石を、側壁には6～7石を用いる。床面にはやや扁平な礫を敷いている。

2号小石室（Fig. 21・22）

1号小石室の東側にあり、掘り方を1号小石室に切られる。SE－052によって東側が破壊され、西側の下3段のみ遺存している。掘り方幅は0.98m、石室幅は0.36mを測る。壁面はすべて丸味を帯びた角礫を小口積みにして構築されている。

①１号小石室

②２号小石室

③３号小石室

Fig. 22　小石室墓

３号小石室（Fig.21・20）

後円部北側のくびれ部付近で検出した。掘り方の長さ2.23m、幅0.96mを測る。石材は少なく、両小口部、及び側壁の一部にのみ石材が認められた。木棺墓であろうか。

４号小石室（Fig. 23・25）

前方部の北側、調査区西端近くで検出した。７基の中でもっとも良好に遺存する。掘り方の長さ1.94m、幅1.26m、石室の長さは1.24m、幅0.5mを測る。最下段は大ぶりの礫を用い、小口部はそれぞれ１石、側壁は北側４石、南側６石から成る。２段目以上は長さ20～30cm、幅10～20cm程度の礫を小口積みにする。

５号小石室（Fig.23・26）

３号小石室の南で検出した。掘り方の長さ2.18m、幅1.08mを測る。石材は側壁の一部にのみ認められ、又、礫は掘り方に密着しており、他の石室とは異なる。南側小口部から刀子状の鉄製品片が出土した。木棺墓の可能性あり。

６号小石室（Fig.24・26）

前方部の南側やや離れたところで検出した。残存状況が悪いため判然としないが、小口部のみが遺存しているもの

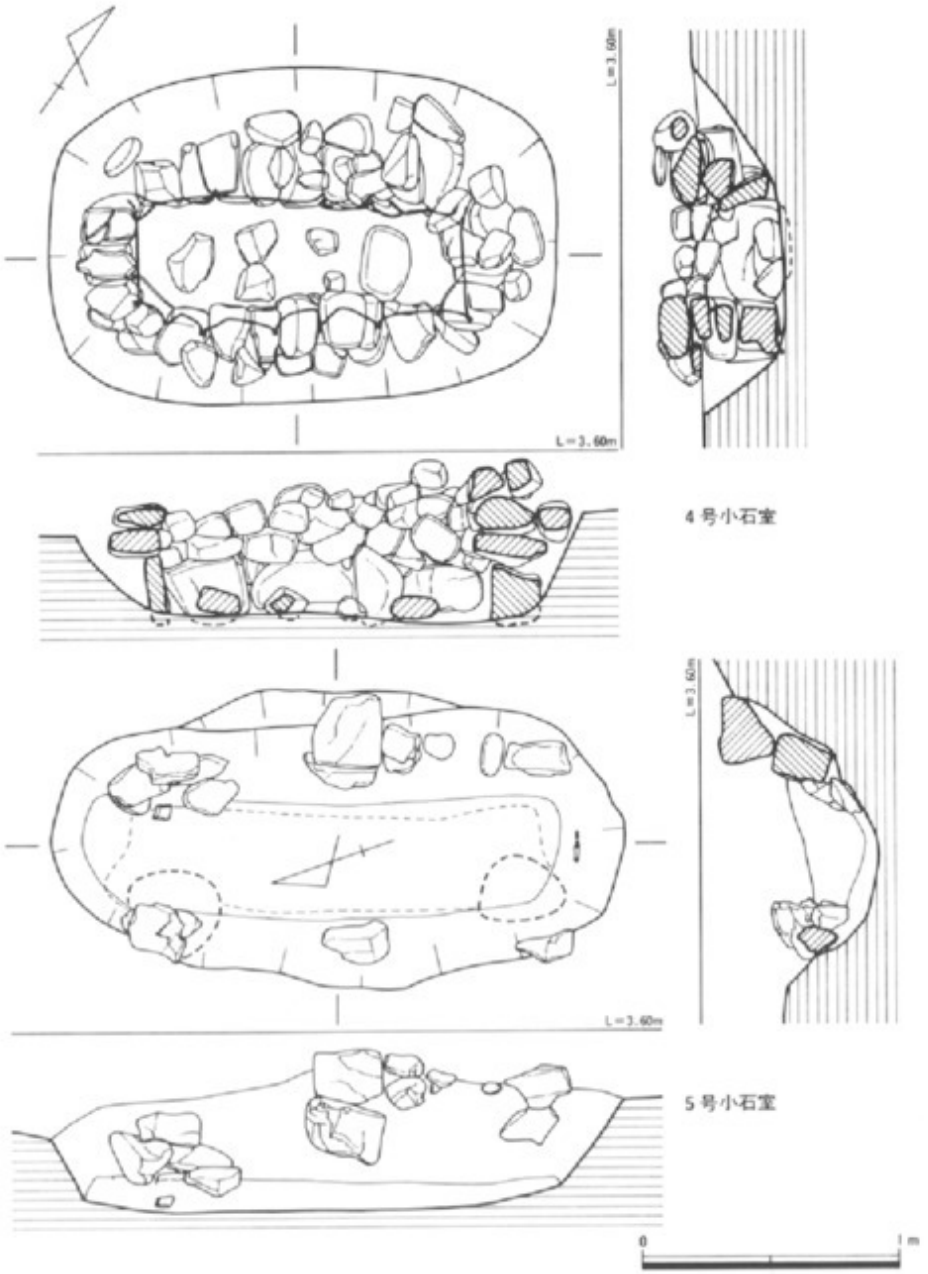
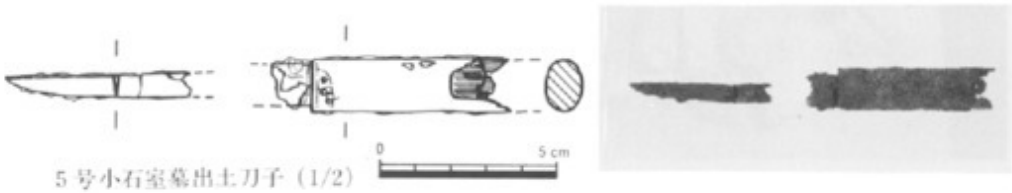


Fig. 23　4号・5号小石室墓（1/30）



5号小石室墓出土刀子（1/2）

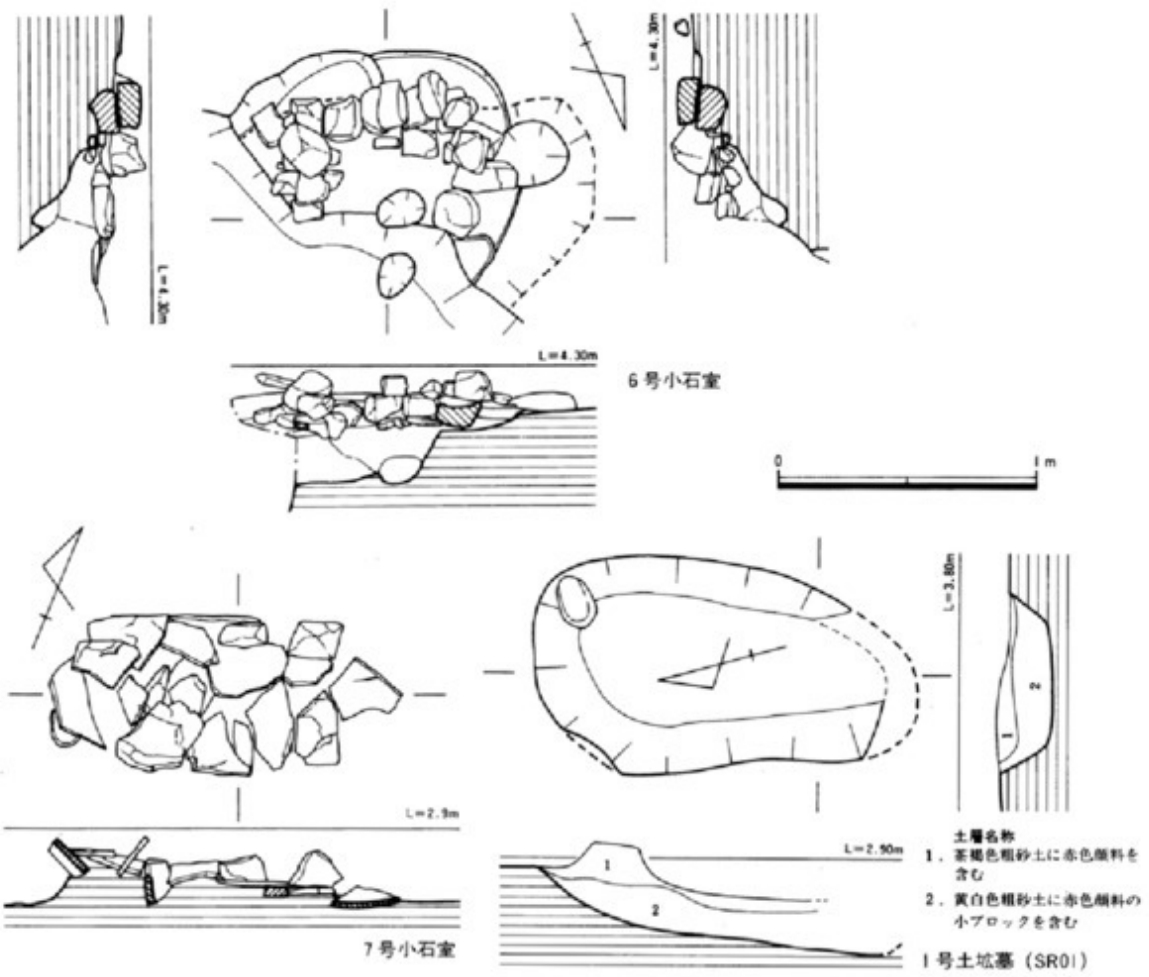


Fig. 24　6号・7号小石室墓，SR01（1/30）

Fig. 25　4号小石室

と思われる。ただし、掘り方が明確に検出できなかったこと、石材が他の石室ほど整っていないことから石室が破壊された後の残骸かもしれない。

7号小石室（Fig.24・26）

後円部南側で検出した。十数点の板石と数点の小礫が長方形に配置され、石室

①5号小石室

②6号小石室

③7号小石室

Fig. 26　小石室墓

の残骸と考えたが、床敷の礫とするとレベルがそろわず、確実性は少ない。板石の中には赤色顔料が施されているものもあり、前方後円墳の内部主体の石材であった可能性が高い。

3）土壙（墓）

調査中に土壙墓と称したものが2基ある。いずれも構造上、墓とすべき積極的根拠は見出し得なかった。

ＳＲ　01（Fig.24）前方部南側で検出した。南端部は確認されている。現存の長さ1.32m、幅0.84mを測る。断面形は逆台形を呈し、床面は南にむかって下降する。覆土から赤色顔料を検出した。

ＳＲ　02　1号土壙のすぐ北で検出した。長さ1.26m、幅0.57m、深さ25cmを測る。覆土は暗茶褐色細砂である。検出面は黄白色細砂（地山）である。規模が小さく墓とは断定できない。

4）その他の古墳時代遺物

(Fig.27)

埴輪以外の遺物は、遺構に伴うものが少なく、いずれも整地層、又は中近世土壙内より出土した。前期の土師器は布留式土器併行期の土器が出土しているが、庄内併行期の土器は無い。この時期には17次と27次調査で方形周溝墓も検出しており、墓

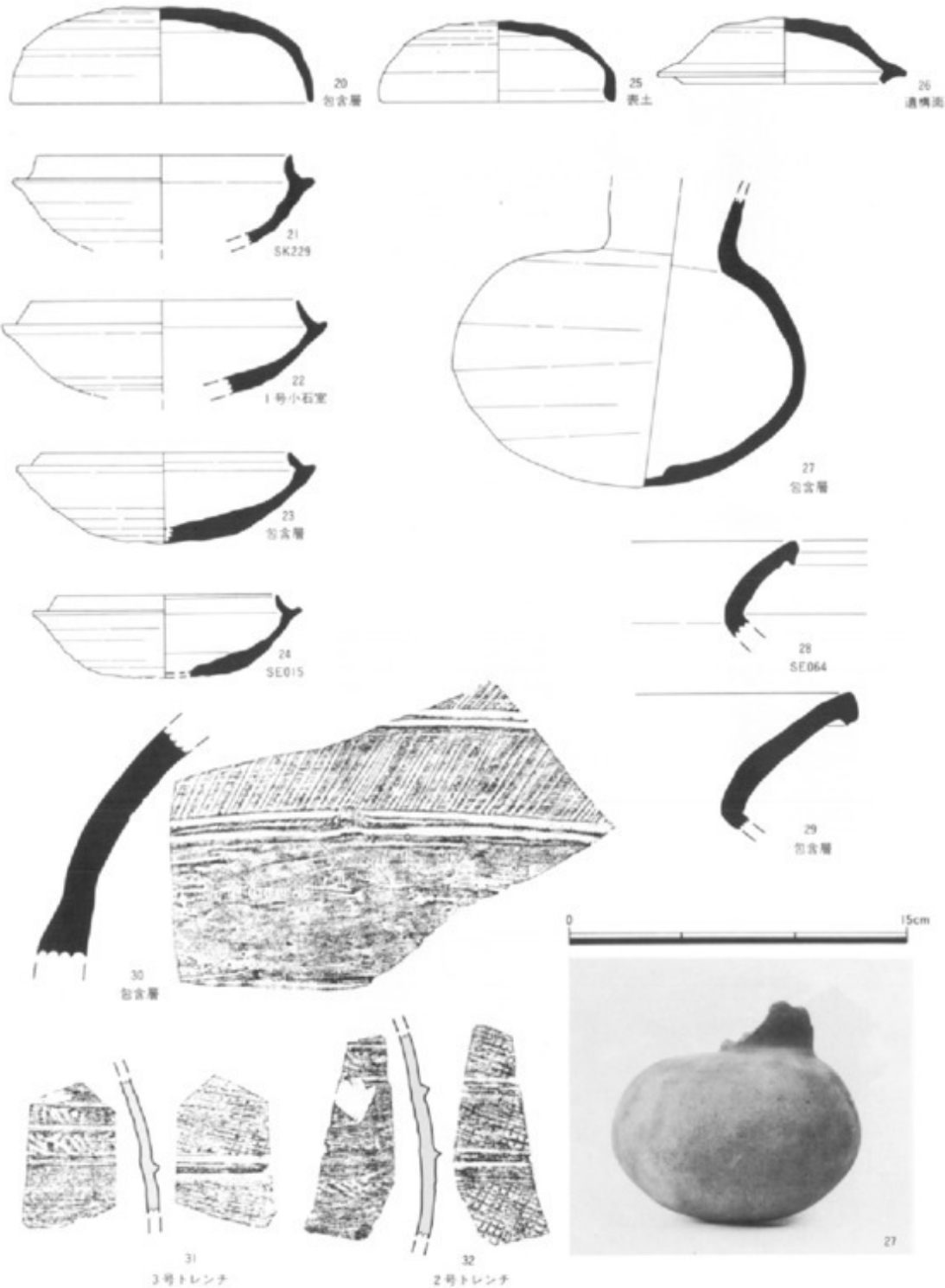


Fig. 27　古墳時代の遺物実測図（1/3）

地、集落の存在が明らかになっている。又、5世紀から6世紀の甕・甑・高杯・鉢などが散見できるが、数量的には多くは無い。須恵器は整地層より多量に出土している。器種には杯身・蓋・甕・平瓶・甕がある。杯身・蓋は須恵器編年のⅢ～Ⅳ期が主体を占める。22は1号小石室内に流れ込んだ状態で出土した。鉄製品には鉄鎌・刀子等がある。玉類には青銅製の耳環3個、碧玉製管玉1個、ガラス小玉1個が出土している。（米倉）

5）小　　結

前方後円墳の築造時期を示す唯一の資料は埴輪である。円筒埴輪は外面に黒斑を持つ。外面の調整はタテハケ1次調整のみのものがほとんどであるが、小破片が多いため確実ではない。但し、朝顔型円筒埴輪のみ、頸部にヨコハケを施す。突帯数は不明であるが、三段であった可能性が強い。透しは円形で2孔と思われ、一段目と三段目にある。以上の点を勘案すれば、川西宏幸編年のⅡ期、概ね4世紀末～5世紀初頭前後であろう。

7基の小石室墓は、石材が前方後円墳の葺石、内部主体のものと思われるものを利用していること、周濠埋没後に造られているものがあることから、前方後円墳の築造からかなり遅れるようである。石室の構築方法は、1・2・4号の3基を見ると、1号は最下段のみであるが、石室の長辺を立てている。2号は最下段から小口積にする。3号は最下段の石材のみが大きく、腰石的な配置をする。という様に形態が異なっており、時期差があることが考えられる。大略の時期としては、周辺から須恵器のⅢb・Ⅳ型式が出土していること、石室墓の形態が井沢分類のⅠ－3a類に属し、同タイプの石室が概ね6世紀後半～7世紀後半に属することから、ほぼこの範疇にはいるものと思われる。（米倉）

3．律令時代の遺構と遺物

この時期に考えられる遺構としては包含層や一墓の土壙が存在するのみである。遺物は地山の砂層上に存在する包含層や攪乱壙より出土した。器種には須恵器の杯身・蓋・皿・椀・長頸壺・

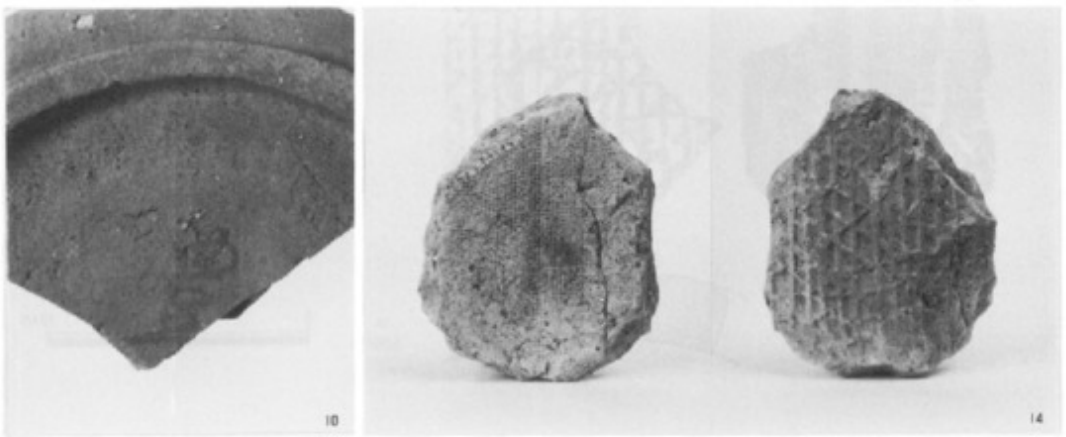


Fig. 28　律令時代の遺物

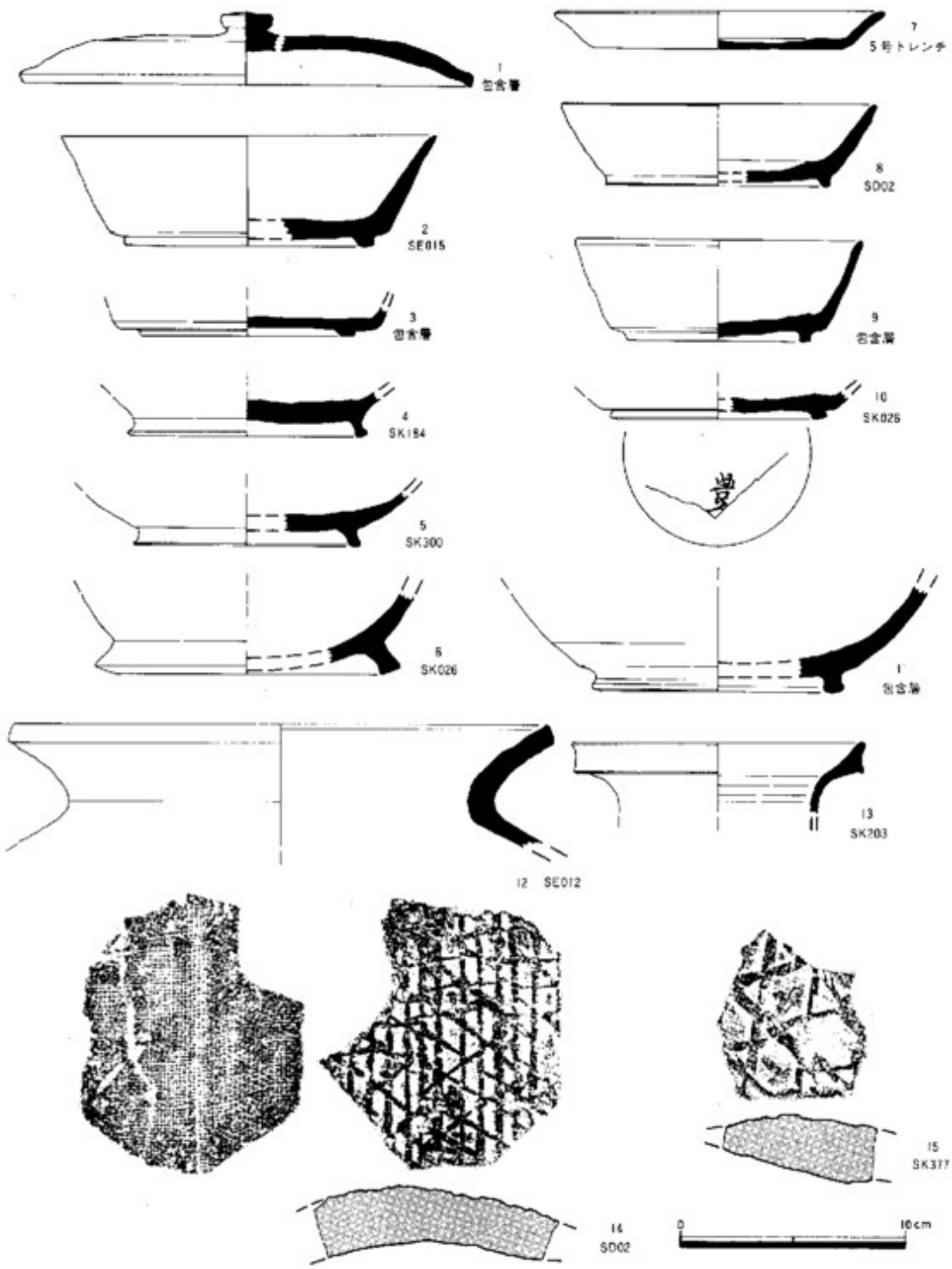


Fig. 29　奈良・平安時代の遺物実測図（1/3）

甕・高杯等が出土した。杯(10)の外底には「豊」の墨書がある。甕形土器片は特に多い。土師器では椀・皿・甕・移動式のカマドなどが出土しているが、数量的には決して少くはない。瓦は数点出土したが、外面に斜格子目のタタキを施している。周辺では鴻臚館式の軒丸瓦や石帯、越州窯陶器も多数出土しており、官衙が存在した可能性は強い。（井沢）

4．中世の遺構と遺物

調査区の遺構の大部分が中・近世の遺構である。調査概要で述べた通り、中世の遺構面は南側で2面、北側では3～4面存在しているが、限定された調査期間の中では一面を精査するにとどまった。遺構は土壙・井戸・溝を主体とするが、炉跡（SK056）、又は鍛冶跡（SK092）や土壙墓と考えられる遺構も存在する。土壙数は385カ所を数えるが、この内には井戸と思われる遺構も少くない。井戸は86基である。この内の2基は井筒が石組構造である。SE001は14世紀代、SE002はSD02溝に切られており、16世紀代を比定できる。溝は8条検出した。博多の町割りは従来の調査から、条里の方向の町割り、現在の大博通りに対して平行する町割り（磁北30°～42°西に振る）一の両者の存在が明確であるが、SD05溝は条理方向に一致し、SD02溝は大博通りに平行する。以下に各々の遺構について概述する。（井沢）

1）井戸状遺構

今回の調査区で最も多く検出された遺構の一つで、86基検出した。調査区全体に満遍なく分布するが、その中でも南西境界地周辺や、調査区中央やや西寄り、調査区北東境界地周辺の3カ所で円形状に集中する所が見られる。遺存状況は当地点に旧博多駅があった事による撹乱や、遺構面が砂地で崩壊し易いという点から、余り良好ではなかった。中世の66基の井戸の内訳は、石組井戸2基で、残りは素掘り井戸である。井戸の形状は大半が円形であり、その規模は大小様々である。井戸底については、砂地で崩壊の危険があったため、確認は行っていないものもある。以下に井戸について若干述べる。

中世井戸

時期の明きらかな9基の井戸の内、石組井戸は2基、その他は素掘りの井戸である。素掘りの井戸は50～60cmの円形の木樋井筒を確認している。石組井戸のうちSE001井戸は、直径約3～45mを測る円形の掘り方の中に、径113cm×95cm、深さ185cm以上を測る井筒がある。積石は井筒の上方に5～6段残存している。30～60cmの比較的大ぶりの花崗岩転石を横積みし、その間に小石を積め込み補強している。積石下は湧水の為確認出来なかった。SE002井戸はSD02溝底より検出したものである。直径164cmを測る円形の掘り方内に、径88cmを測る円形の上半分を小礫で石積みする井筒がある。深さ1.6mで湧水の為、その深さは確認していない。石積みは6～7段程残るが、大小様々な石を粗雑に積上げている為、面はそろっていない。使用石材は花崗岩が多く、石棺材の一部と思われるものもある。出土遺物には、土師器・瓦器・土師質土器・瓦質土器・中国産陶磁器・瓦類などがある。

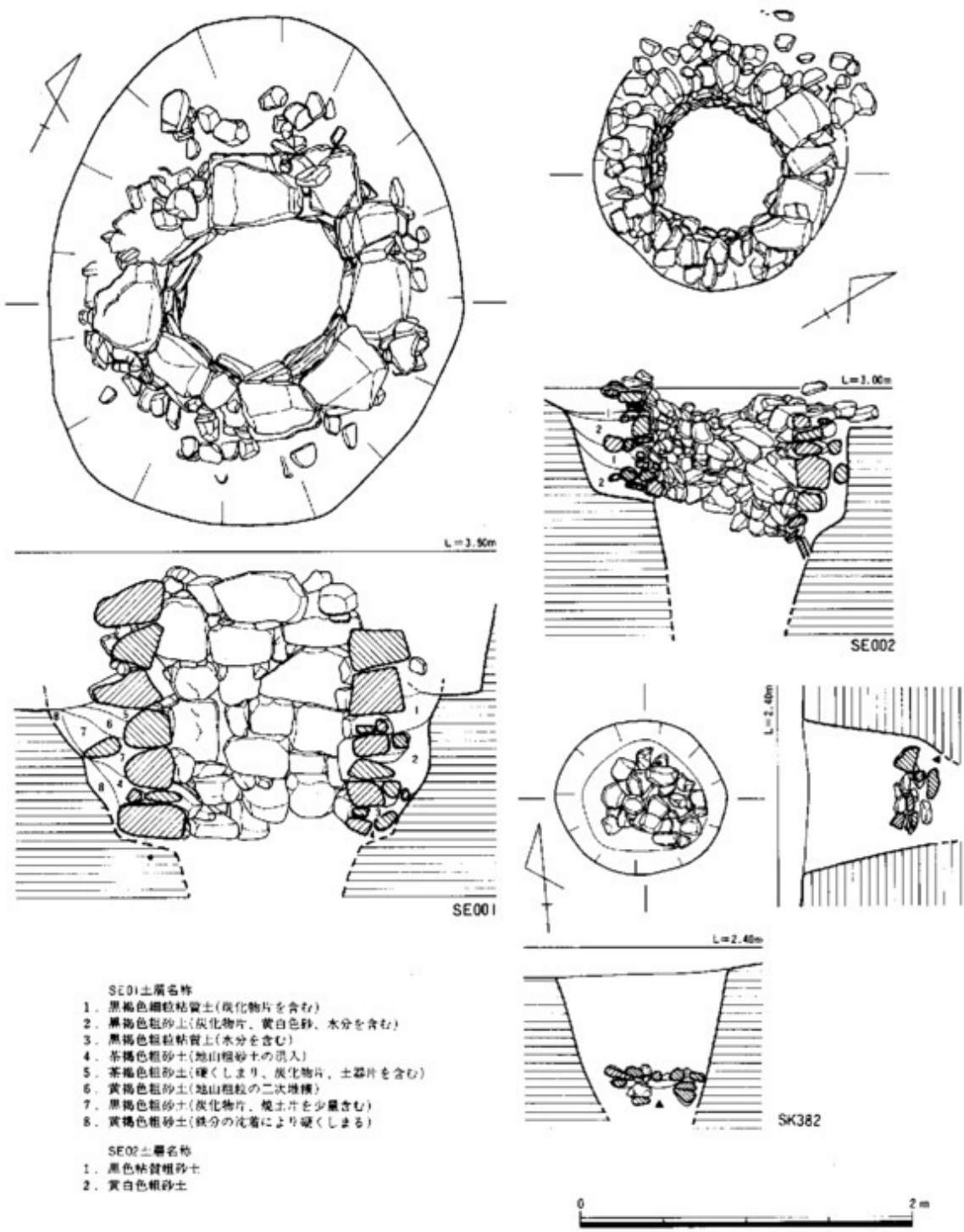
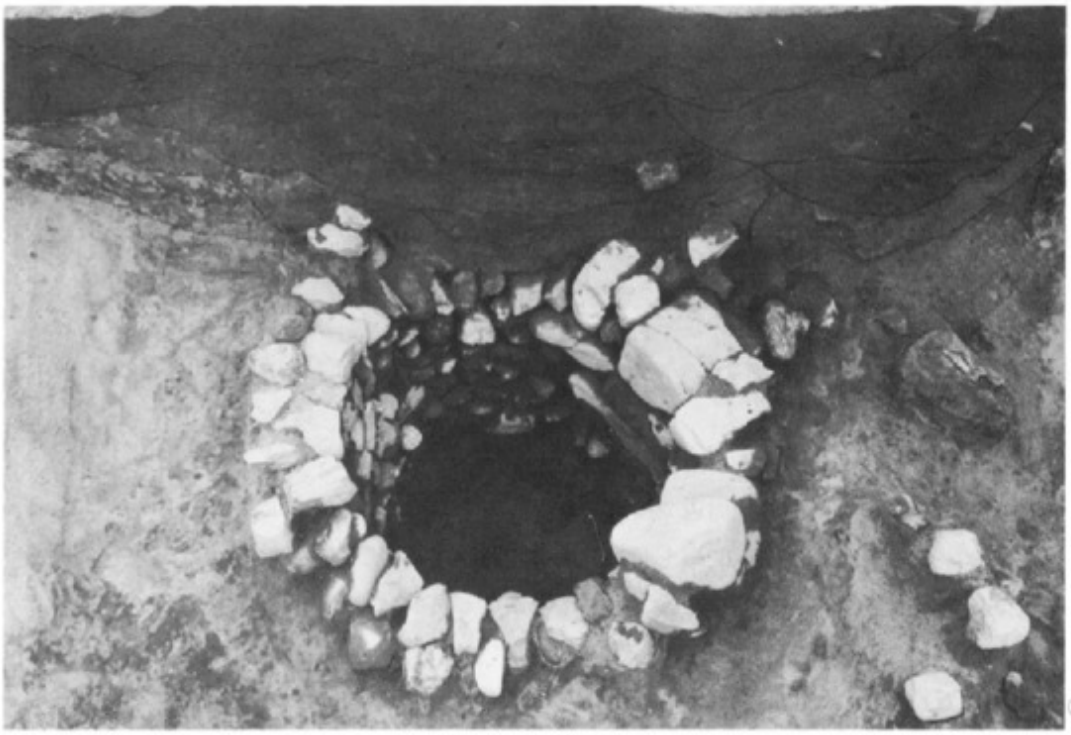


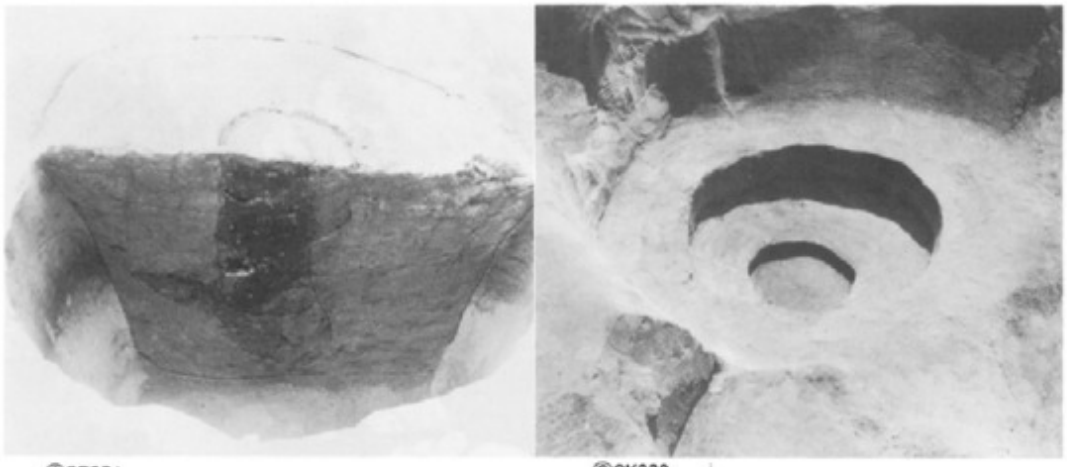
Fig. 30　中世石組井戸SE001・SE002、SK325土坑（1/40）

①

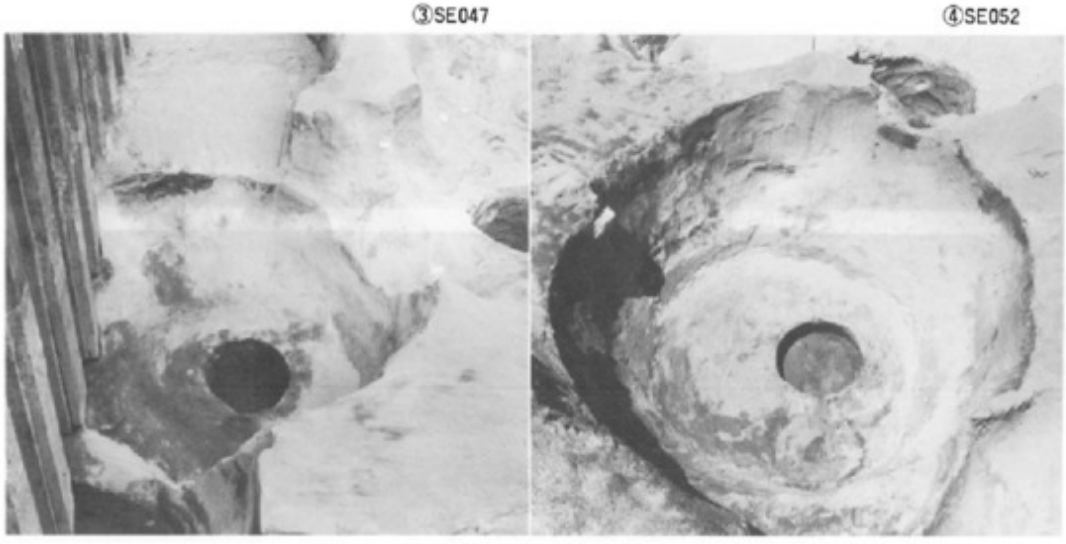


②

Fig. 31　石組井戸　　①SE001　②SE002



①SE061　　②SK338



③SE047　　④SE052

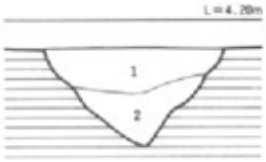
Fig. 32　井戸検出状態

2）溝状遺構

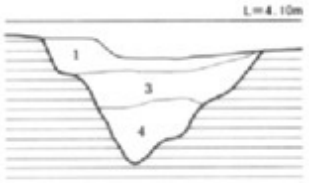
今回の調査では溝状遺構を７条検出した。

ＳＤ01溝はⅠ区調査区境界地周辺で検出した東西方向の溝で、主軸方向をＮ－10°－Ｗにとる。溝幅は80～85cm、深さは40～60cmを測る。溝の断面形はＶ字形を呈し、覆土は黒色～暗褐色砂層である。出土遺物は土師器や瓦器、中国産磁器などを多く含む。

ＳＤ02溝は調査区を南東から北西へ、ややカーブを持ちながら貫流する溝である。主軸方向はⅠ区でＮ－32°－Ｗ、Ⅱ区でＮ－22°－Ｗに取る。溝幅は2.5～4.5cmを測るが、攪乱の具合によってかなり異なる。溝の断面形はＶ字形である。堆積状態から常時滞水の様子はうかがえなか

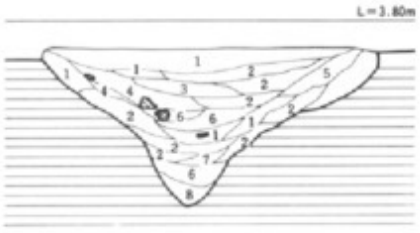


土層名称
1．黒褐色砂質土層
2．暗茶褐色粘質土層
3．暗褐色粘質土層(砂礫混り)
4．黒褐色細砂層(粘質土混入)



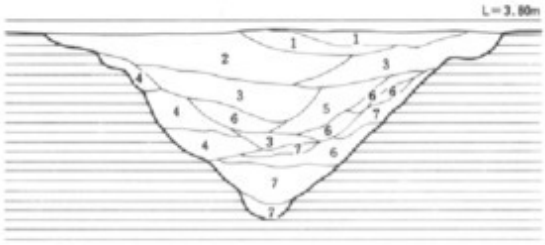
SD01
(1/30)

溝SD01 土層断面写真



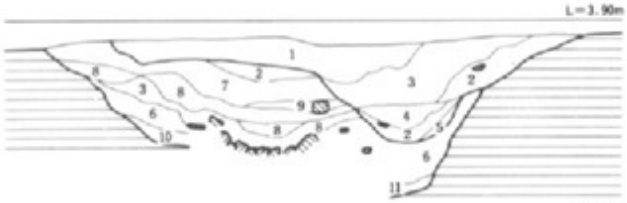
SD02

土層名称
1．暗灰褐色砂層
2．暗茶褐色茶層
3．茶褐色砂層
4．灰褐色砂層
5．茶褐色砂層
6．暗茶褐色砂層
7．暗茶褐色粘質土層
8．暗黄褐色砂層



SD02

土層名称
1．暗灰褐色砂層
2．暗褐色砂質土層
3．暗灰褐色砂質土層
4．灰褐色砂層
5．暗灰褐色粘質土層
6．暗灰褐色粘質土層
7．暗茶褐色砂層



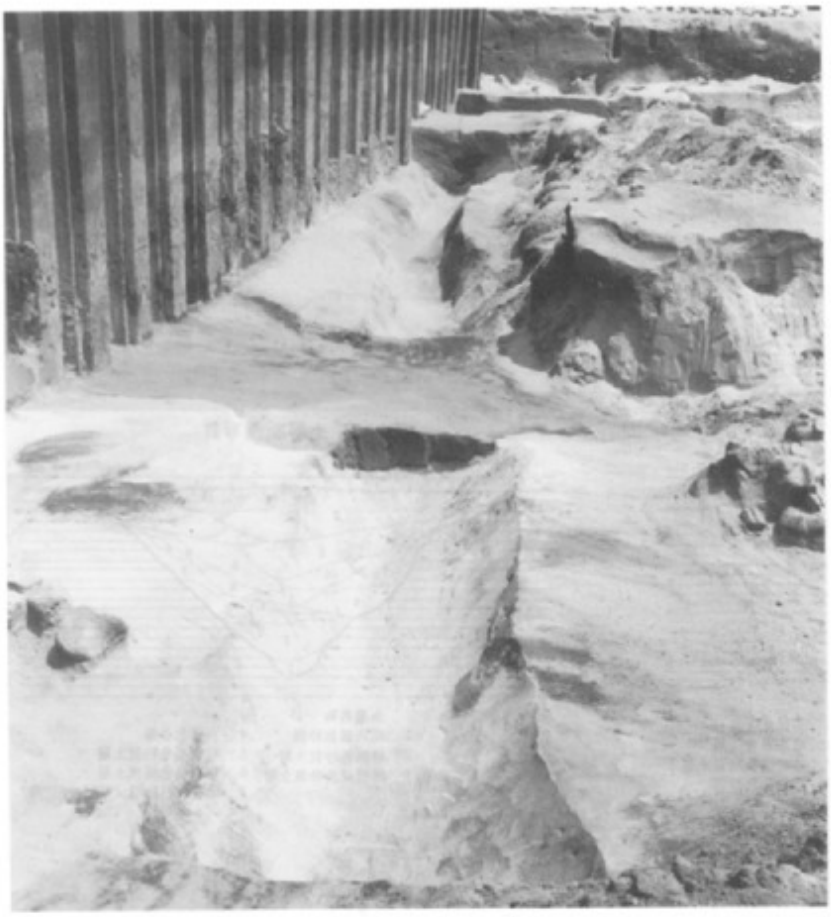
SD02

土層名称
1．黒灰色細砂層
2．暗茶褐色細砂層
3．暗茶褐色細砂層(部分的に白砂ブロックを含む)
4．黒褐色細砂層(黒色粘土の混入)
5．黒褐色細砂層
6．白砂と暗茶褐色砂と黒色砂がブロック状に混合する層
7．黒灰色細砂と暗茶褐色細砂の混合層
8．細砂層(黒褐色粘土混入)
9．黒褐色粘質土層
10．白砂層(黒色砂のブロックを含む)
11．黒色粘質土と茶褐色細砂の互層

SD03

土層名称
1．黒褐色砂質土層
2．茶褐色砂質土層
3．黄褐色砂質土層
4．暗茶褐色砂質土層
5．黄茶～黄褐色粗砂層
6．灰褐色粗砂層

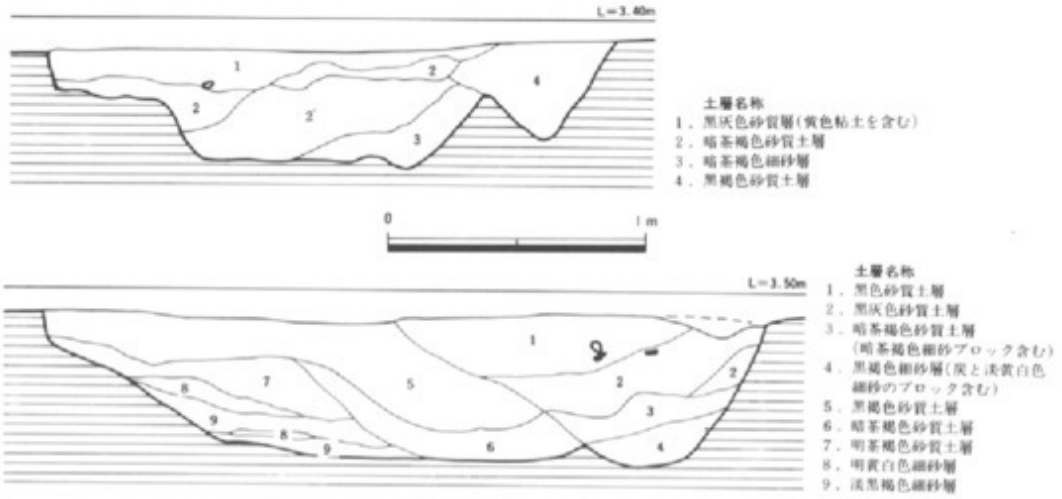
Fig. 33 溝SD01～SD03土層図 (1/30, 1/60)

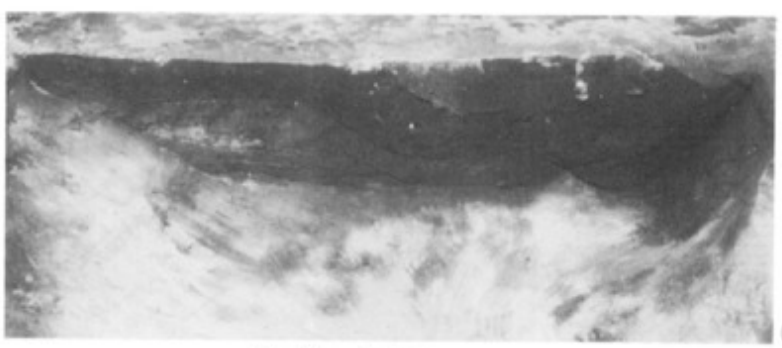


① SD02(北から)

Fig. 34　溝SD02　　②溝SD02の土層断面の状態

①溝SD02土層断面の状態



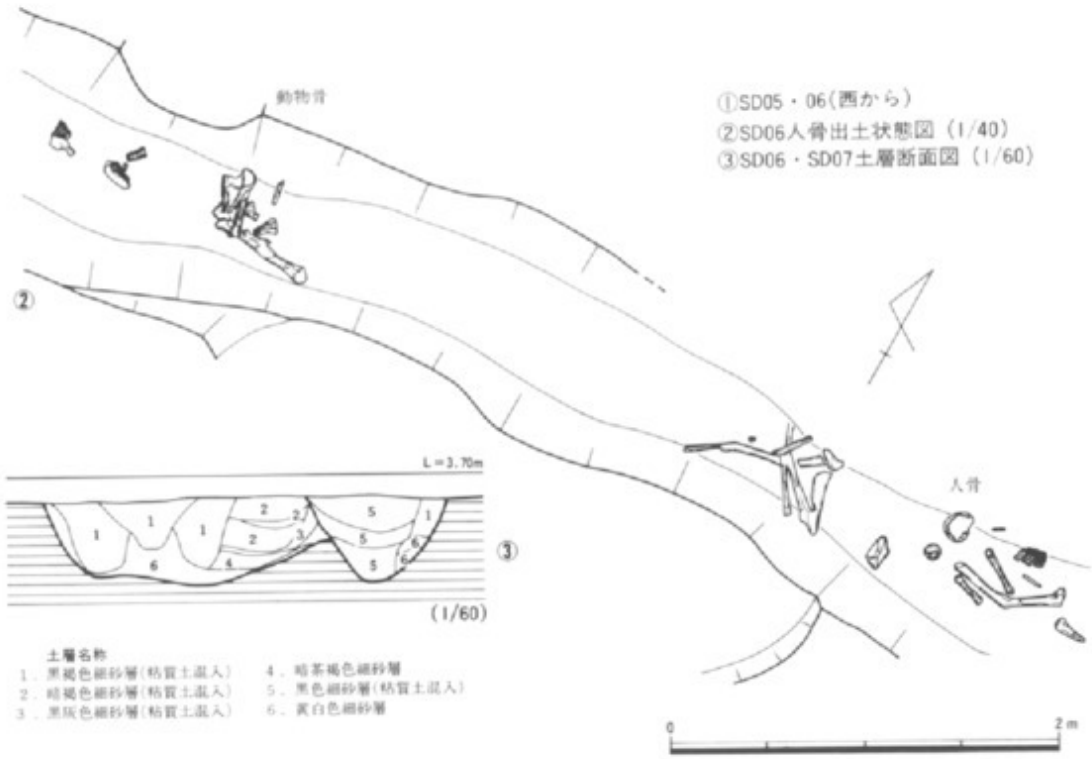


②SD05土層図（1/30）
③SD05土層図（1/30）
④SD05土層断面の状態

④

Fig. 35　溝SD02・05

①



①SD05・06(西から)
②SD06人骨出土状態図 (1/40)
③SD06・SD07土層断面図 (1/60)

土層名称
1．黒褐色細砂層(粘質土混入)
2．暗褐色細砂層(粘質土混入)
3．黒灰色細砂層(粘質土混入)
4．暗茶褐色細砂層
5．黒色細砂層(粘質土混入)
6．黄白色細砂層

Fig. 36　溝SD05・06

①

②

F 37　溝SD06内動物骨出土状態　　①動物骨　②人骨

った。出土遺物は弥生式土器から、伊万里・京焼など近世初期迄の遺物を多量に含む。中世と考えられるＳＢ01石組井戸より新しい時期・下層出土の明の青磁などの出土から、中世後半代に掘開され、その埋没時期は上層に初期伊万里や唐津など国産陶磁器を含むことから、近世中頭頃が考えられる。

ＳＤ04溝はⅡ区の南東隅、境界地付近で検出した。ＳＥ061井戸によって切られる溝である。溝幅は40cmを測る。遺物は多くない。

ＳＤ05溝はⅡ区南側隅で検出した。主軸方向をＮ－83°－Ｗに取る東西方向の溝である。溝幅は2.2～3.0m、深さ50cm～60cmを測る。中央、及び南側土層の観察によれば一部他遺構の切合はあるものの、溝の断面形は逆台形を呈する。覆土は黒灰色～暗茶褐色粘土混りの砂層を主体とする。主な出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、中国産陶磁器などがある。

ＳＤ06溝は溝ＳＤ05の南側、溝ＳＤ05と並行して東西方向に延びる溝で、主軸方向をＮ－94°－Ｗに取る。溝幅は80～130cm、深さ60cm前後を測り、溝の断面形はＶ字形をなす。覆土は黒褐色砂を主体とする。この溝の東側で、人骨や動物骨が底よりやや浮いた状態で検出された。遺存状況は良好で頭骨や四肢骨などがある。土壙墓などの遺構の存在を考えたが、明瞭な遺構は確認出来なかった。出土遺物は多く、土師器、瓦器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、中国産輸入陶磁器、国産陶器などがある。

ＳＤ07溝は溝ＳＤ06に切られる東西方向の溝で、上面からいくつかの土壙が切り込んでいる。溝幅は2.3ｍ以上、深さ70cm前後を測る。溝の断面形は逆台形を呈する。覆土は粘土混りの黒灰色砂～暗褐色砂を主体とする。出土遺物には土師器・瓦器・須恵器・瓦質土器・中国産輸入陶磁器など種々雑多な遺物を含む。

ＳＤ08溝はⅡ区の中央で検出した小溝で、南北に延び、南側で西側へ鍵形に廻る。溝幅は50～80cmを測る。出土遺物はそれ程多くない。

博多遺跡群では今迄の調査の成果から、Ⅰ期は11～14世紀前半迄の東西・南北方向の溝、Ⅱ期は14世紀半ば～16世紀迄のＮ－30～42°－Ｗの方向を取る溝、Ⅲ期16世紀末の太閤街割に合った溝の３時期の溝が確認されている。今回の溝をそれらの基準に合せれば、ＳＤ05～ＳＤ07号溝はⅠ期、ＳＤ02溝はⅡ期に位置づける事が出来よう。

（山崎）

3）土　壙（ＳＫ）

土壙の総数は386基である。この内、井戸と思われるものが相当数存在するが、確認できない。平面形は円形・不整円形・楕円形・隅丸長方形状を呈し、断面形は舟底形・逆梯形・摺鉢形・皿状形・截頭円錐形を呈している。調査区の北側には版築によって遺構面が形成されるが、この地域では土壙の平面形は隅丸長方形や隅丸方形を呈し、断面形はＵ字形・舟底形のものである。浅い土壙が多い。調査区中央部から南側の土壙の平面形は円形・不整円形を呈し、深い。断面形は円筒状を呈するものが多く、これらは井戸構造をもつものと考えられる。

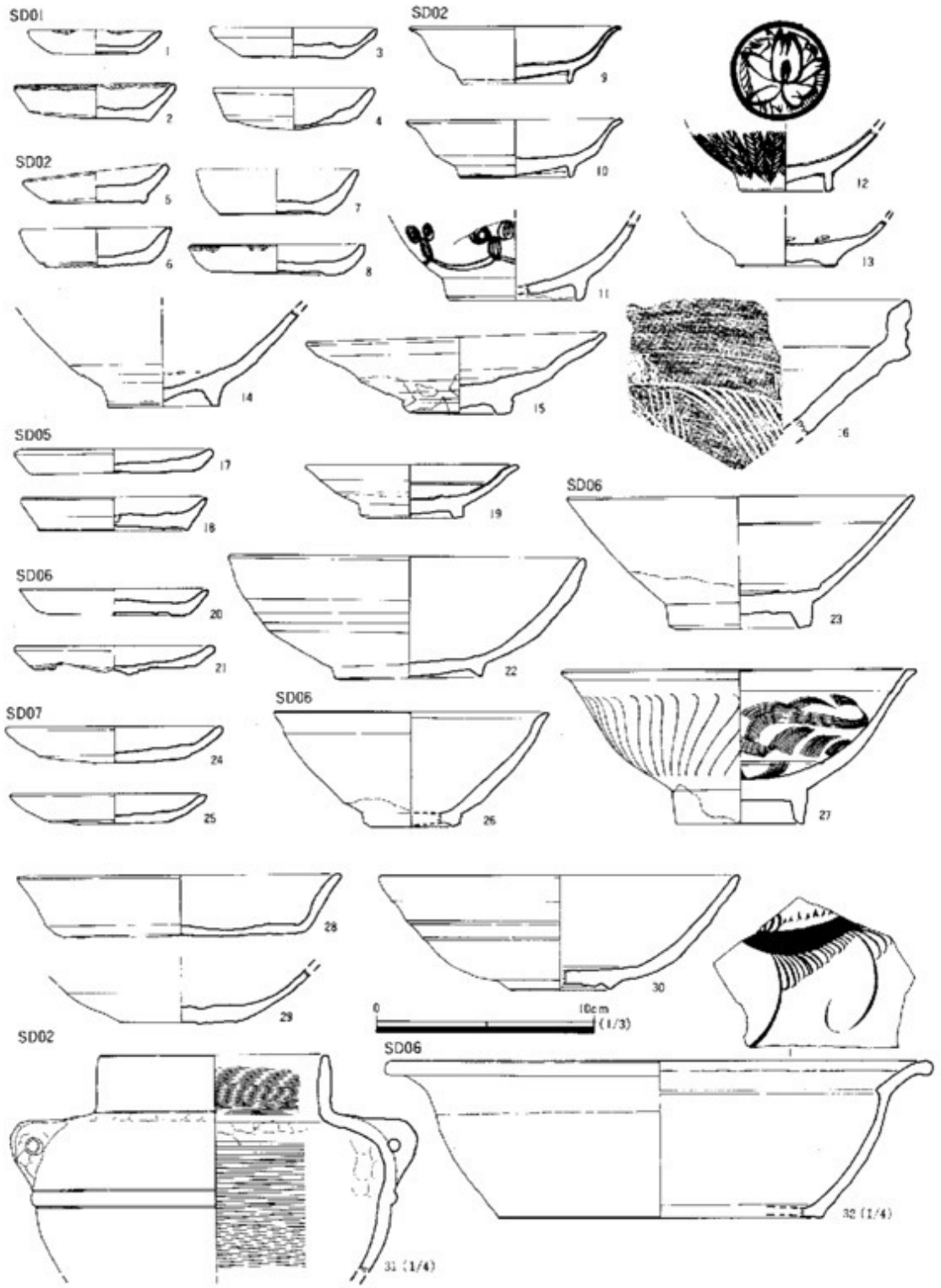


Fig. 38　溝出土遺物（1/3, 1/4）

SK061

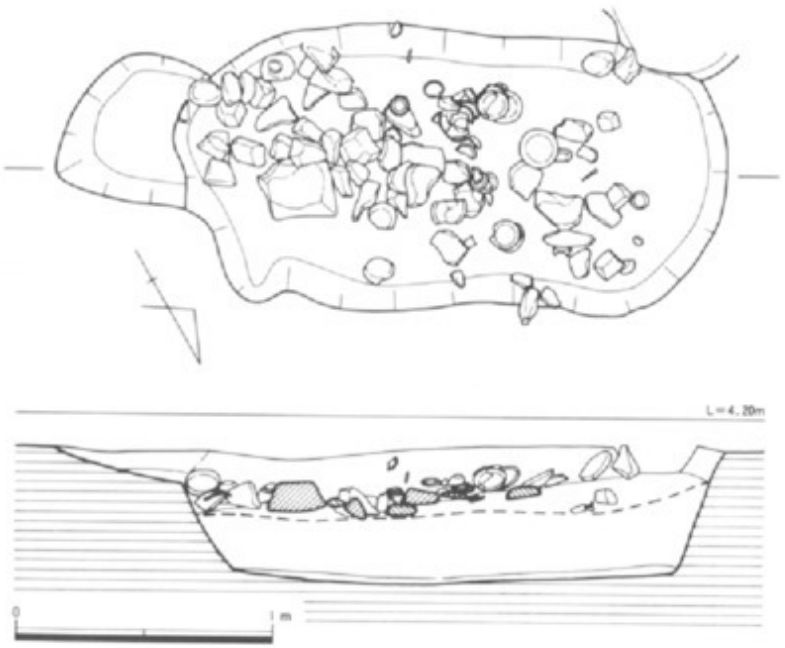


Fig. 39　SK061土坑実測図（1/30）

①SK266

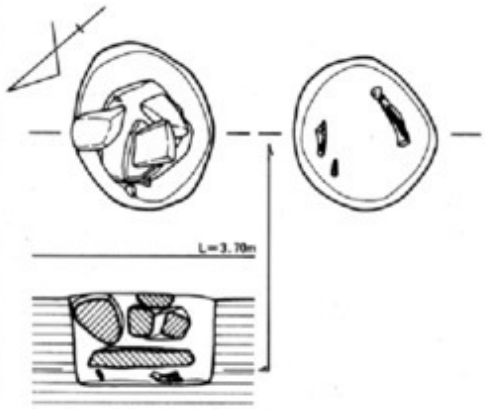
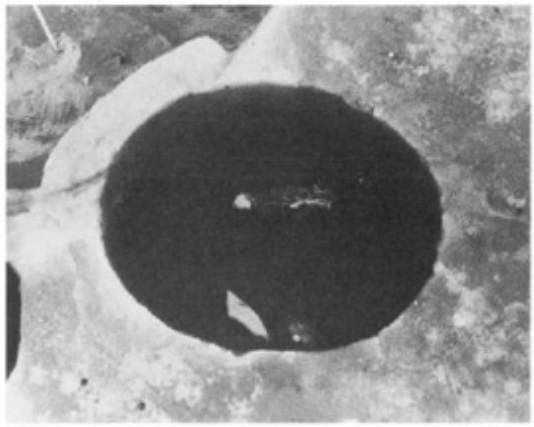


Fig. 40　SK291土坑（1/30）

②SK382



③SK291

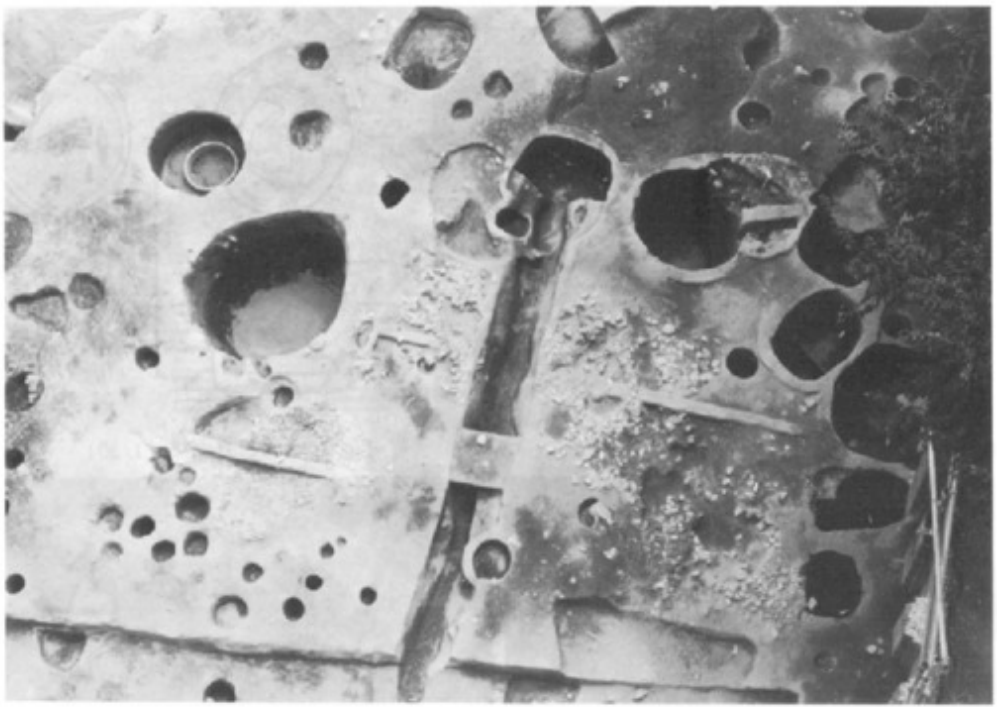
Fig. 41　円形土坑検出状態

SK061 (Fig. 39)はⅠ区で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は逆梯形である。長さ216cm、幅110cm、深さ50cmを測る。土壙の中位、上面から25cmの位置には花崗岩、砂岩の角礫、及び割石がほぼ水平に散在しており、その中には土師器の糸切り皿・杯、龍泉窯青磁椀片、白磁椀片、陶器片、須恵質の鉢、などが混在している。礫は焼けたものが多く、鉄釘も数本出土していることから墓の可能性もある。

SK124はⅠ区北側で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、断面形は逆梯形で、現存長580cm、幅290cm、深さ17～20cmを測る。北側はSE 014に切られ、南側は境界地で切られる。壙底には凸凹がある。遺物は土師器糸切りの皿・杯、青磁龍泉窯系椀・皿、鎬蓮弁椀、同安窯系椀・皿、陶器壺・鉢などが出土した。

4）土　壙　墓

上記の土壙の内、SK 061のように鉄釘を出土する土壙は少くない。特に調査Ⅰ区の北側の集石をもった浅い土壙に多い。これらの礫は二次的に火を受けていることが多く、火葬墓等が考えられる。その他にも特異な例があるので以下に述べる。



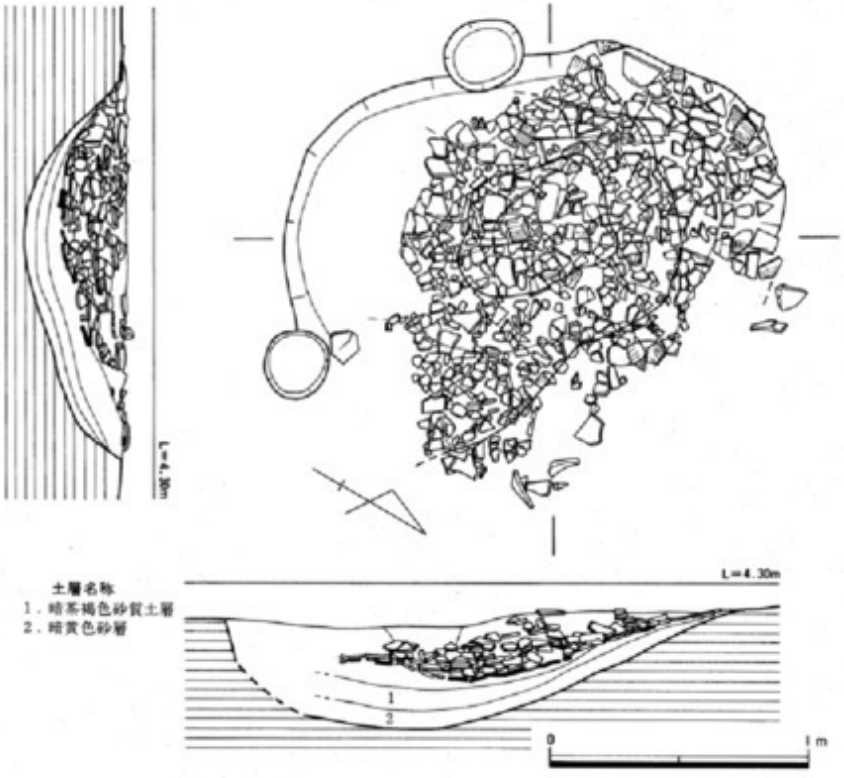
SK291（Fig.40・41）は、Ⅱ区で検出した。平面形は不整円形を呈し、断面形は円筒形である。直径65×56cm、深さ36cmを測る。壙内の下部に長さ45cm、厚さ7cmの板石を置き、その上部には、更に18～25cm大の角礫を置いて塡圧としている。下部の板石下からは大腿骨と考えられる人骨が3点出土している。（井沢）

5）瓦敷遺構（Fig.42・43）

調査区の北西部に於いて5m×4mほどの範囲に瓦を敷きつめた不定形の広がりがみられた。

Fig. 42　瓦敷実測図及び写真（1/60）

SK092（東から）



瓦片はかなり細かく砕かれており、瓦敷の厚味はないが、かなり密に分布しているので、人為的に敷かれたと考えるのが妥当だろう。当初は道路上面の瓦敷と考えていたが、瓦敷の範囲が限られることや、周辺に焼土塊が存在することなど、判別し難い、但し、SK092（Fig.45）などは瓦

Fig. 43　SK092土坑（1/30）

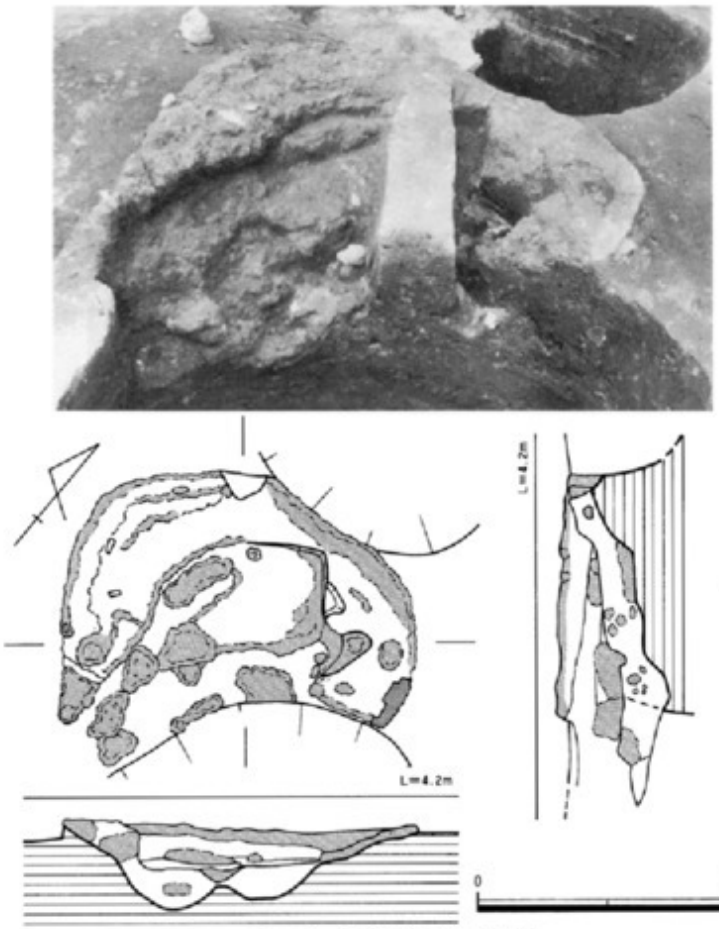


Fig. 44　SK056土坑（1/30）

片を本来土壙に楕円形に敷いていたと思われ、断面を観察すると火をうけた形跡がある。炭化物も含まれていることから、これらの瓦敷は火を用いる工房などの基底に敷かれていた可能性があるのではないだろうか。この面からは平瓦・軒瓦の他、中国製の白磁椀・皿、青磁椀・皿、陶器片の出土がある。瓦は調整ではいずれもいぶしを受けておらず、又、軒瓦は同一形態を呈するところから、この瓦敷は一時的に行われたものと理解できる。

ＳＫ092土壙(Fig.45)　瓦敷遺構内に位置している。瓦敷は一体に平坦に敷き詰められているが、一部は土壙状に掘り窪め、壙底、及び壁に瓦片を貼り付けている。但し、貼り付けた瓦片は土壙肩の平坦部にも連続する。土壙は平面形が不整楕円形を呈し、断面形は浅いレンズ状を呈している。長さ190cm、幅130cm、深さ30cmを測る。土壙内南側の瓦の貼り付けは破損を受け、消失している。覆土は４層に分かれ、第１層は粘土まじりの黒灰色細砂層、２層は黒褐色粘質土と淡黄褐色細砂の混合層で、赤褐色土のブロックや、焼土、炭を多く含んでいる。３層は焼土と黒灰色粘土を含んだ細砂層。４層は黒褐色粘質土と淡黄褐色粘質土の混合土で、細砂、及び炭、焼土を多く含んでいる。又、貼り付け瓦の下層は、茶褐色砂質土と炭化物を含んだ暗黄色砂層が存在する。遺物は覆土、及び貼り付け瓦の間で出土したが、白磁椀・皿、青磁椀・皿、瓦器椀片等がある。年代は12世紀～13世紀の幅を考えたい。

6）炉　　跡

ＳＫ056土壙(Fig.44)　ＳＥ012土壙によって切られており、平面形は隅丸長方形を呈する。現存の南北長は125cm、東西長120cm、深さ35cmを測る。本来は楕円形だったと推定される。粘質土と焼土ブロックの覆土である。土壙の中央部が階段状に低くなる。壙内から羽口片も出土しているので、この遺構は土壙という表現よりも、むしろ炉といったほうが適切かもしれない。

但し、鉄滓は一切見つかっていないので、小鍛治ではないようだ。さきの瓦敷遺構の北西部に接しているので、関連づけて捉えられると思う。（常松）

7）中世の遺物

平安時代末期から戦国時代末期まで及ぶもので、陶磁器には、舶載品として青磁龍泉窯系椀・皿・杯、同安窯系皿・椀、白磁椀・皿・杯、青白磁の合子、明代の青磁椀・白磁皿・染付皿・椀、高麗青磁、李朝の象嵌類・三島手の皿・椀、中国陶器甕・鉢・壺・水注、緑釉陶器がある。その他、頑具では犬の模造品がある。国産品では、瀬戸瓶、備前焼の鉢・壺、美濃系の皿、常滑焼の甕などが出土している。鉄製品（表４）には刀子・刀・庖丁・鉄鏃、青銅製品（表３）は飾金具・塗金を施した柄頭金具・柄飾金具・鈴・仏像・貨幣がある。貨幣（表５）はいずれも舶載品であるが、初鋳は唐から明代に及んでいる。

石製品は、滑石製品では石鍋の他、つまみを有した蓋形品(134)、一面に陽刻を施した印状品(125)、５面に線刻を施した印状品(126)、杓子形品(135)、転用硯１点である。凝灰岩・砂岩製では風字硯、長方硯がある。他に砥石が多数出土する。瓦は瓦敷遺構から多数検出しているが、軒丸瓦・軒平瓦・平瓦・丸瓦・瓦博などで、特に平瓦・丸瓦片は多い。軒平瓦は、瓦当の下部が波状を呈したものや瓦当飾に唐草文を配するものがある。又、軒丸瓦も瓦当の飾りが、草花文状のモチーフをもつもとの、三巴文を配するものがある。唐草文の軒平瓦と三巴文の軒丸瓦は共伴するもので、全体にいぶしが施されることから、14世紀～16世紀の年代が与えられる。軒平瓦159と軒丸瓦163は瓦敷遺構、及びＳＫ092にて共伴しており、軒丸瓦163は油山天福寺の出土品に例がある。又、軒平瓦は福岡城石垣出土瓦や、斜ケ浦瓦窯跡出土品に例を見出すことができる。丸瓦はいぶしを行うが、平瓦はいずれもいぶしを施さず、且つ須恵器的な環元焼成を行っている。共伴遺物は舶載陶磁器であるが、12～13世紀の年代を与えることができる。墨書土器は、表２に示したが、数や名前、或いは花押と思われるものがある。名前を表わす墨書には「李佃」「王二」「有久」「金」「王佃」などがある。花押は(84)と同一の墨書は他にも出土例がある。その他に特殊な遺物には朱玉と思われる板状のベンガラ片(172)、瓦片製の泥メンコなどがある。土師器は杯・椀・皿で、皿はヘラ切り底、糸切り底の両者があるが、糸切り底が圧倒的に多く、16世紀代まで存在する。瓦器椀は器高が深く、高台がコの字形を呈するものから、底部高台が退化した13世紀代の器形もある。土師質土器には鍋・鉢・摺鉢、瓦質土器は鍋・火舎・摺鉢・湯釜等があるが、鍋には三脚を有した鼎形土器が２点出土しており、瀬戸内地方からの流入品と思われる。国内からの搬入品の内、須恵質土器には東播系の鉢・甕、亀山焼の甕、十瓶山焼甕などの製品が搬入されていることが、従来の調査や武蔵寺経塚の遺物などから確認できるが、第28次調査でも東播系の鉢は多量に出土する。鉢の他は皿・甕があるが、甕には魚住窯や亀山焼が多く、十瓶山焼なども存在する。東播系の鉢は、12世紀から13世紀代に集中している。

尚、硯については近世の硯も含めて、付編１にてまとめて整理しているので参考にされたい。（井沢）

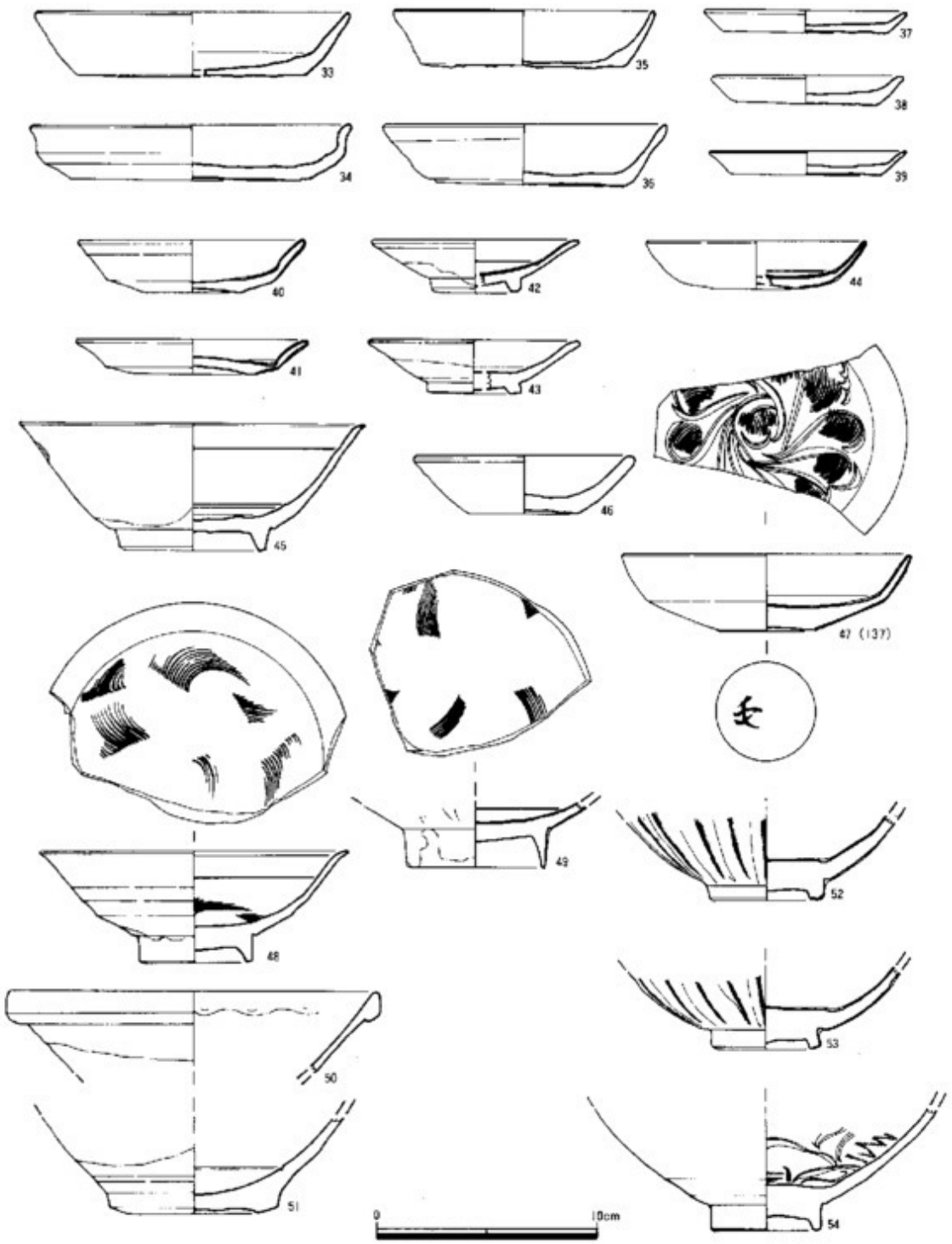


Fig. 45　SK124土坑出土遺物実測図（1/3）　（　）は墨書土器一覧表の番号

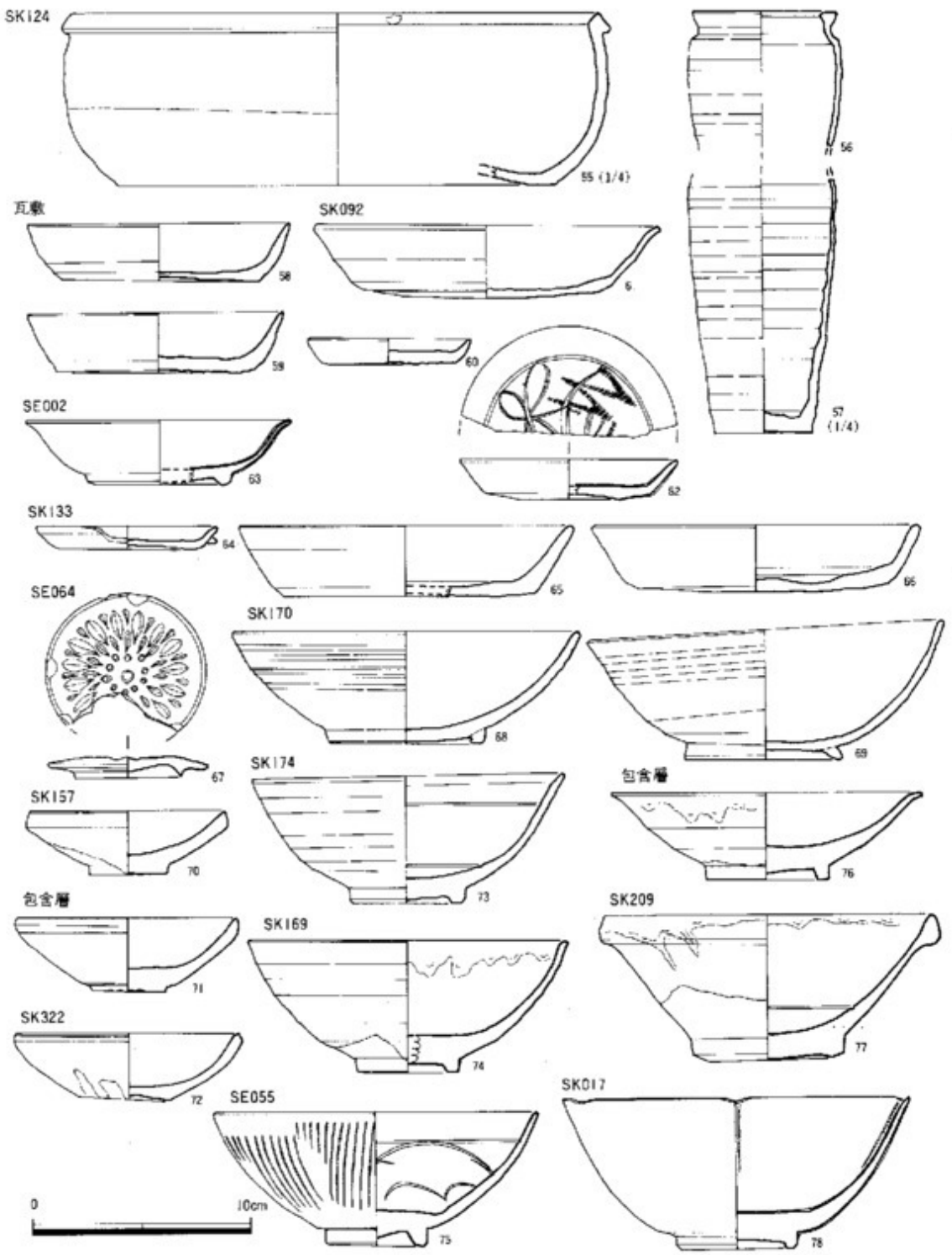


Fig. 46　中世遺物実測図（1/3, 1/4）

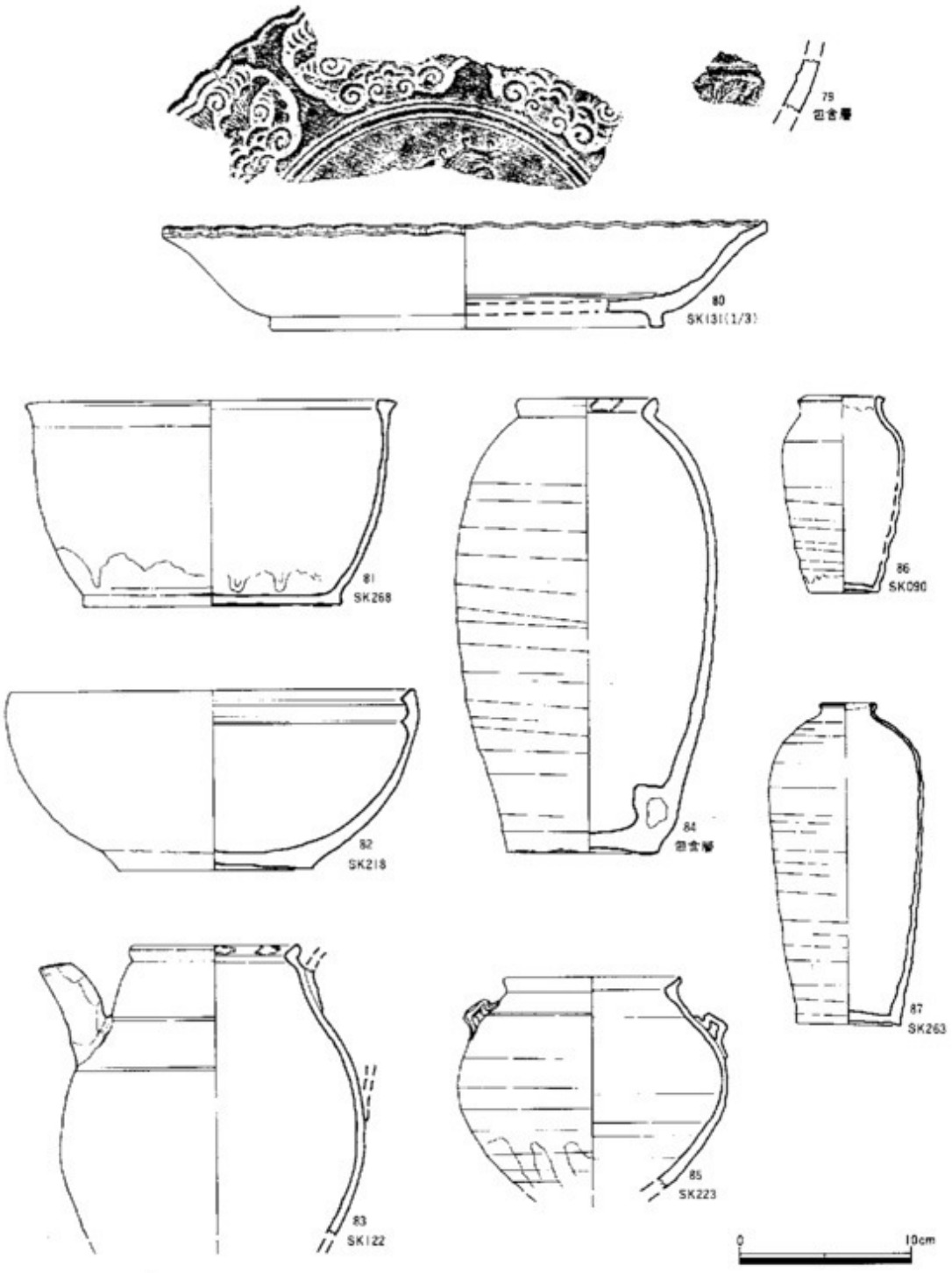


Fig. 47　中世遺物実測図（1/3, 1/4）

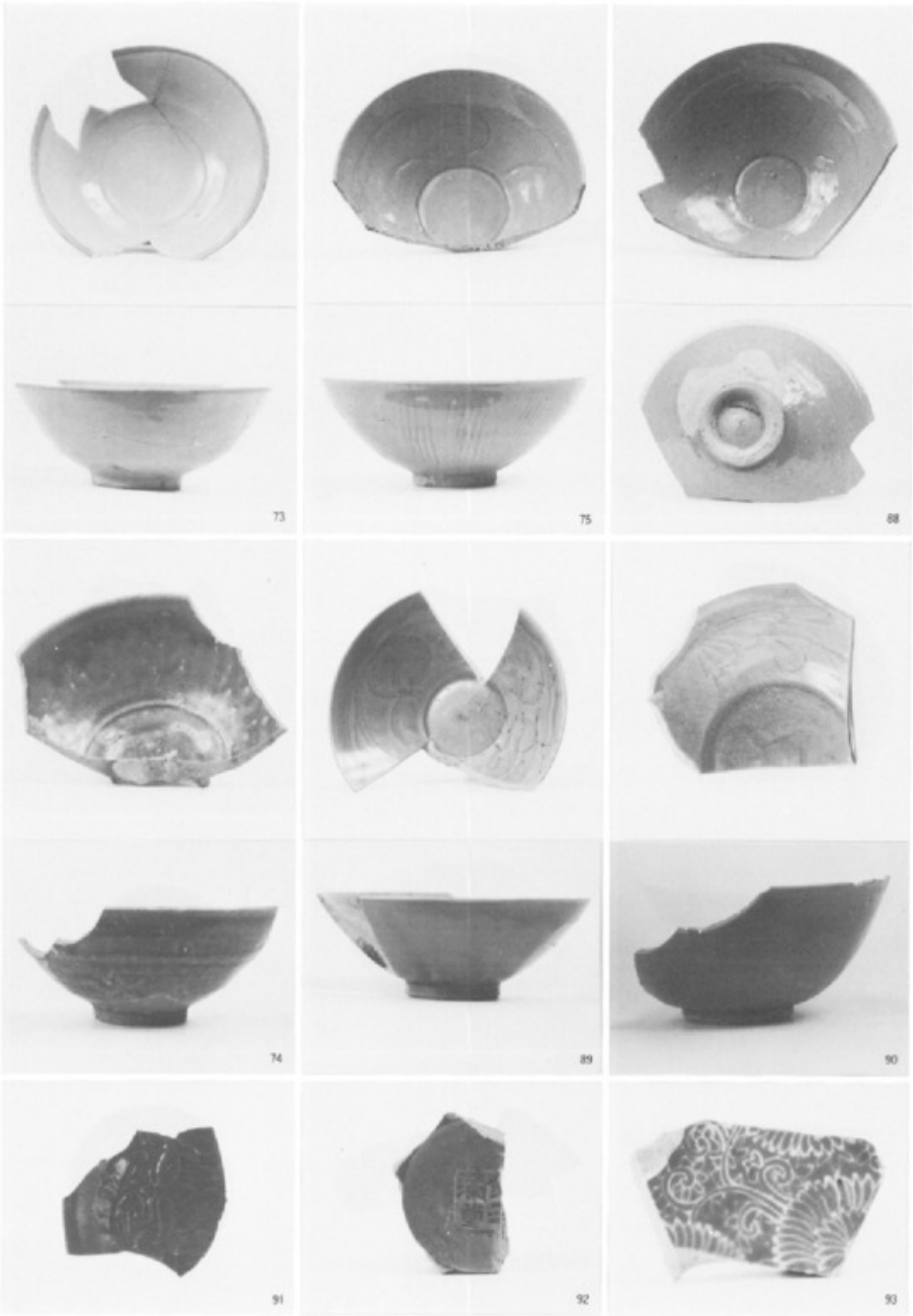


Fig. 48　中世遺物

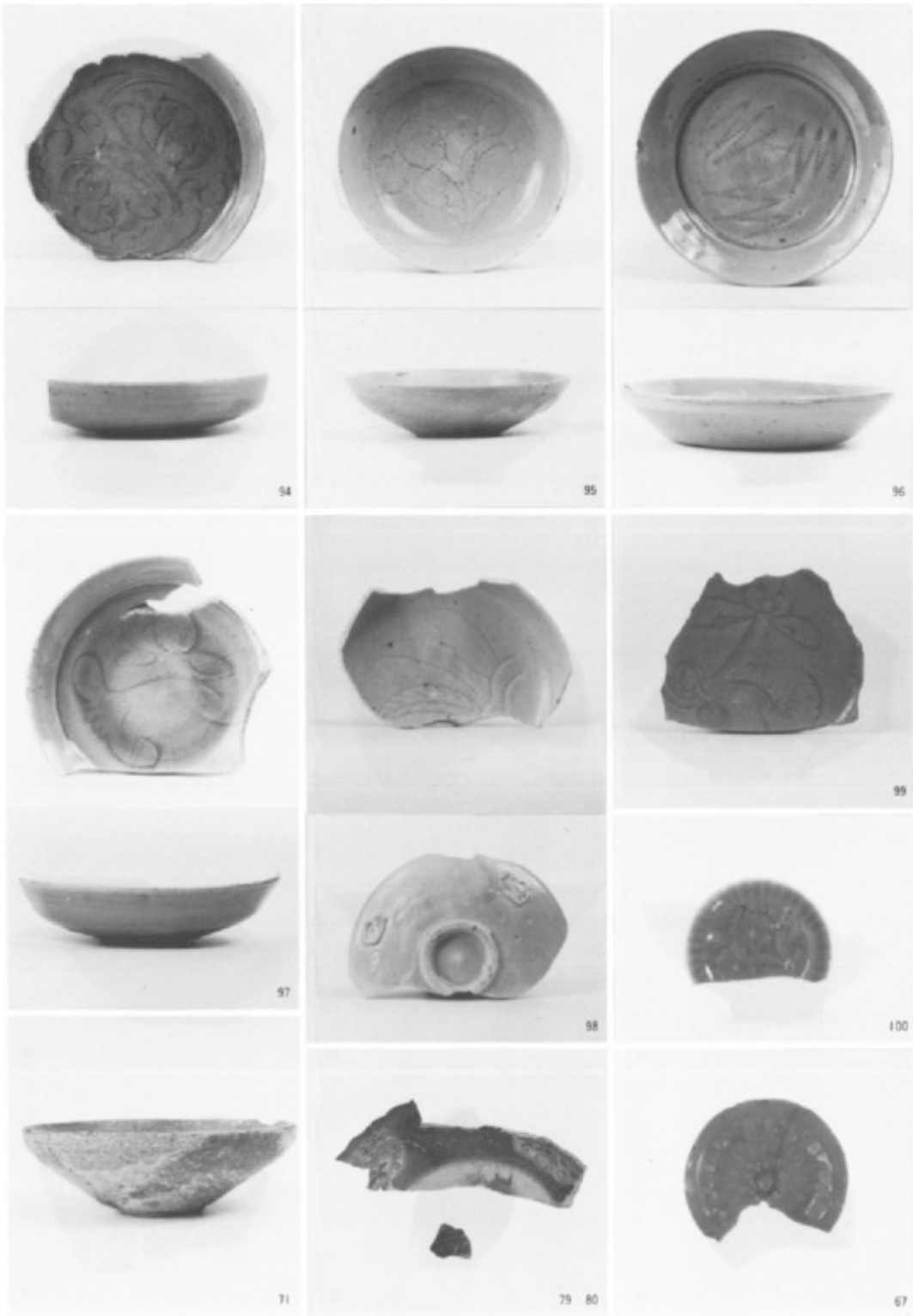


Fig. 49　中世遺物

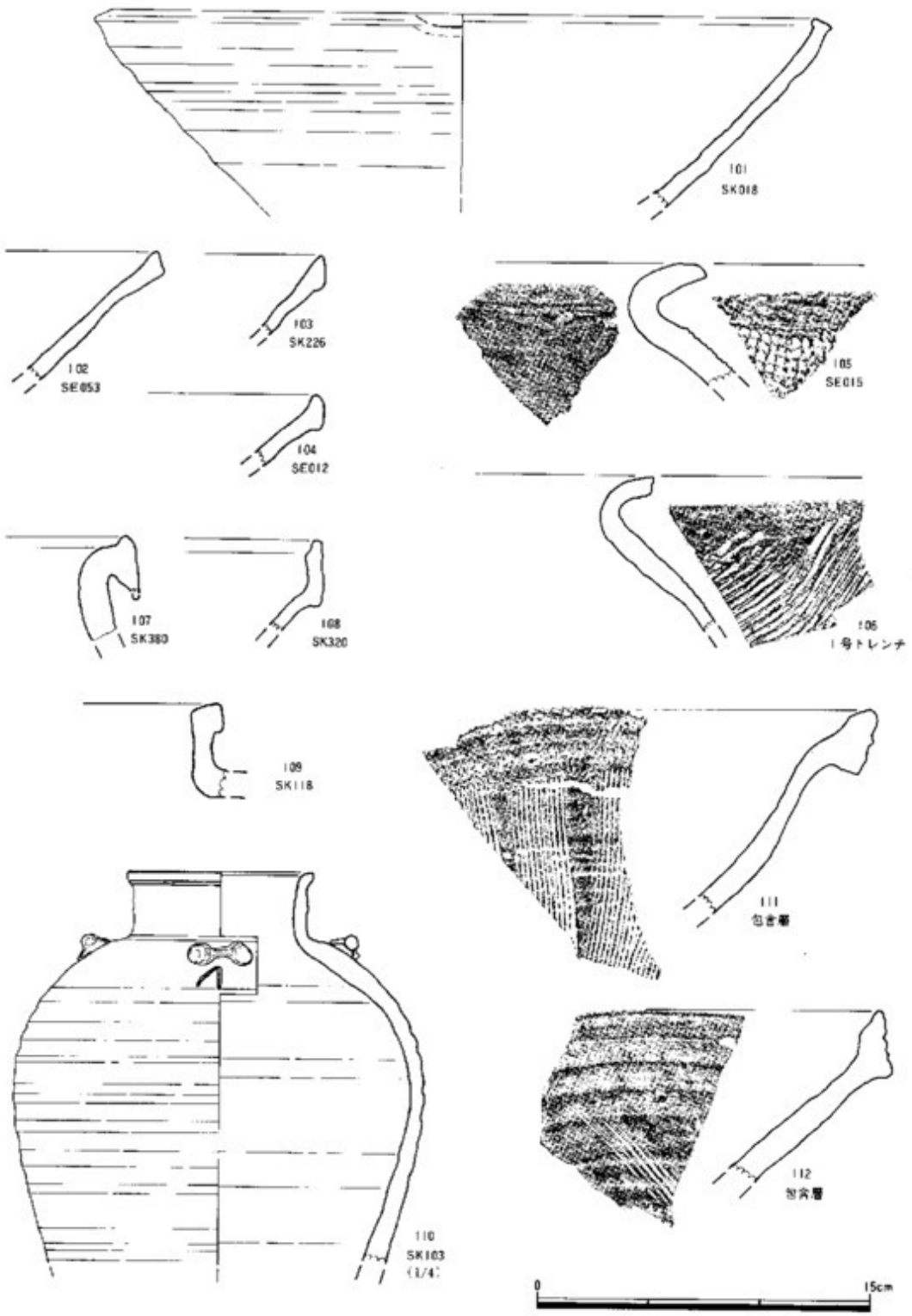


Fig. 50　中世遺物実測図（1/3, 1/4）

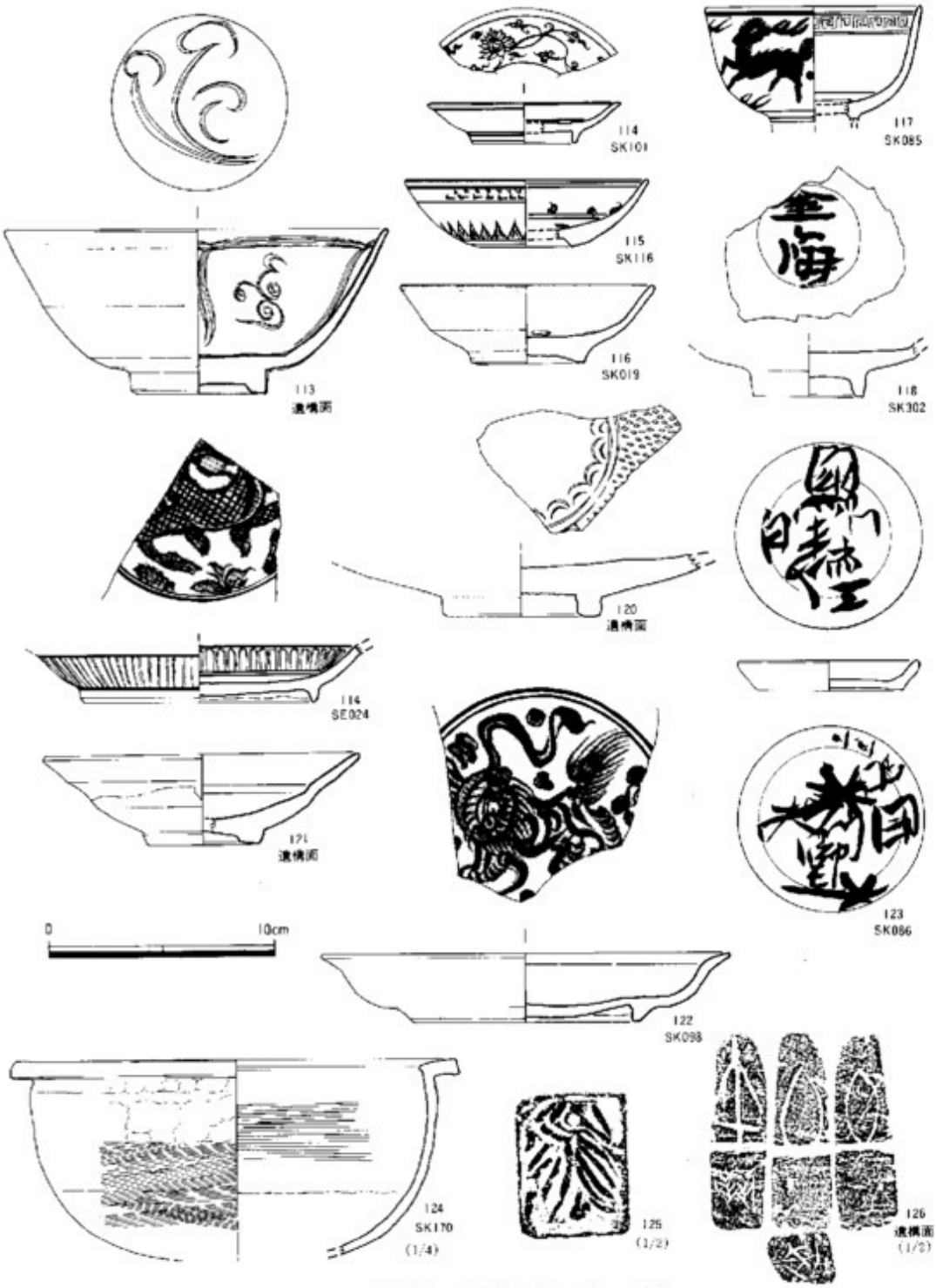
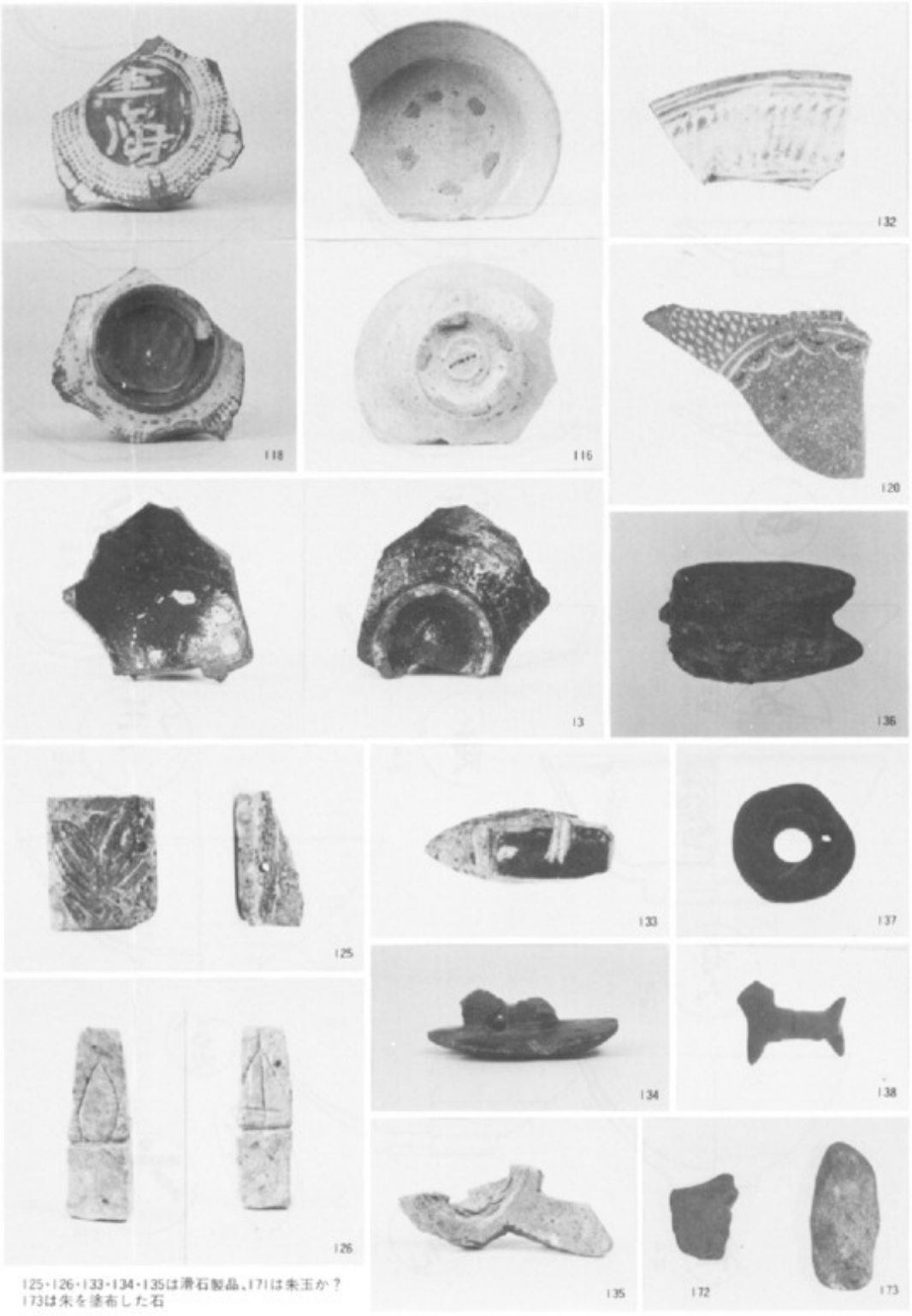


Fig. 51　中世遺物実測図（1/2, 1/3, 1/4）

Fig. 52　中世遺物

Fig. 53　中世陶磁器



125・126・133・134・135は滑石製品、171は朱玉か？
173は朱を塗布した石

Fig. 54　中世遺物

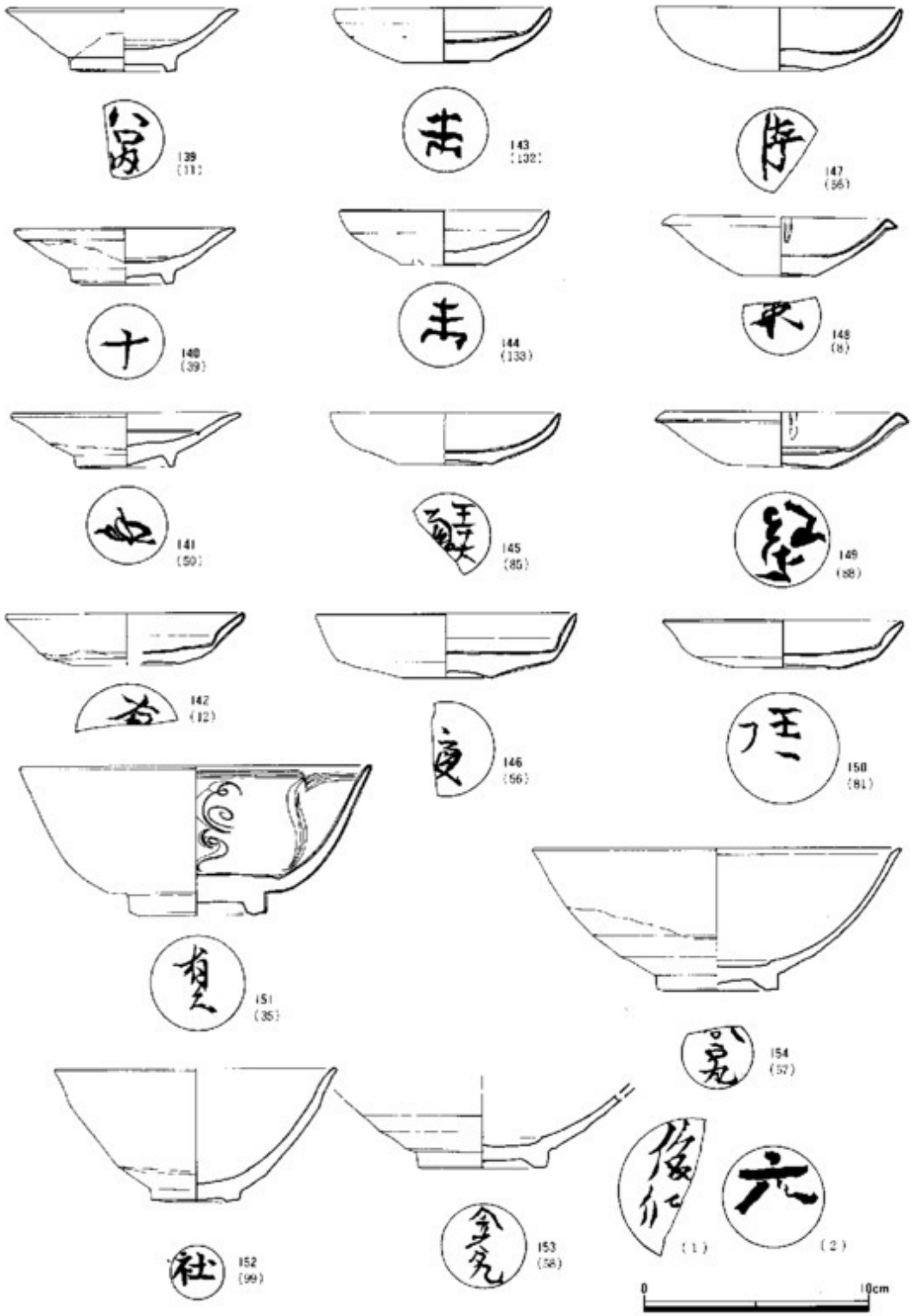


Fig. 55　墨書土器実測図（1/3）　（　）は墨書土器一覧表の番号

Fig. 56　墨書土器（1/2）（数字は墨書土器一覧表の番号）

Fig. 57　墨書土器（1/2）（数字は墨書土器一覧表の番号）

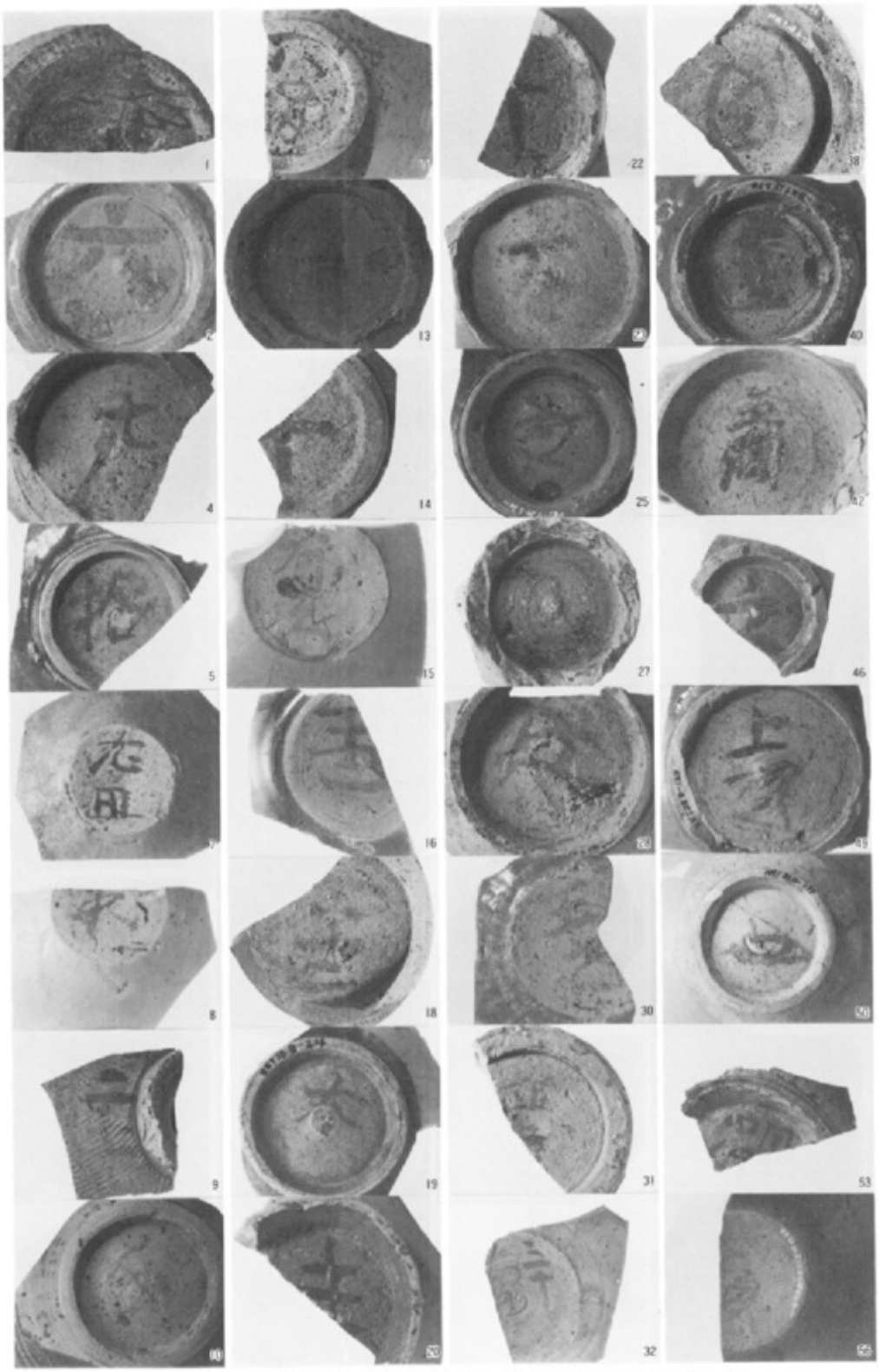


Fig. 58　墨書土器写真　（数字は墨書土器一覧表の番号）

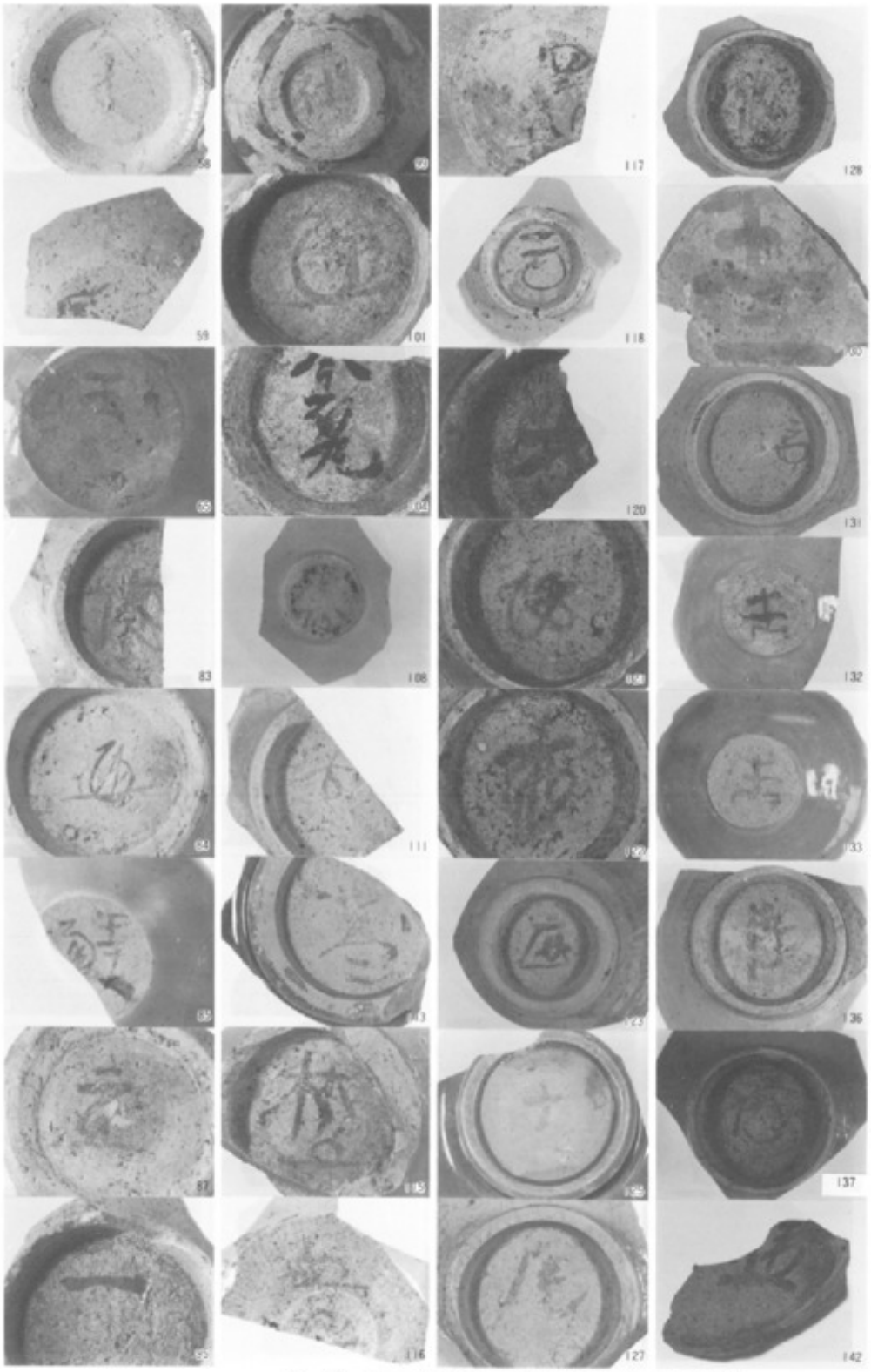


Fig. 59　墨書土器写真　（数字は墨書土器一覧表の番号）

8）中世の瓦について

今回の調査で出土した軒瓦について解説を行う。軒瓦は158～161の軒平瓦と162～168の軒丸瓦とに大別される。さらに軒平瓦は、唐草文をモチーフとする155～158と、下縁部に連続する押圧文が施された159～160にグルーピングできる。

唐草文は何れも均整唐草文で、158のように細い1本の線よりなる極めてシンプルなものと、159～161のように線を部分的に合わせて、重厚な趣を出したものがある。以上の軒平瓦には、いぶしが施されている。唐草の軒平瓦は、型押しによる瓦当部に平瓦をドッキングさせて出来るが、一方、押圧文のある軒平瓦は、桶巻によって平瓦をつくる段階で、端部に数条の粘土紐を巻きつけて、瓦当部を構成する。160や161には分割のための切り込みの痕跡がよく残っていたので、整作工程についてさらに明らかになったことがある。瓦当部正面からの切り込みを入れ、次に桶の模骨の方から切り込みを入れているのである。従って、生乾きになった時点で模骨を解き、分割する数に応じて切り込みを入れ、その切口に合わせて内側から切り込みを加えたことが推測できる。このような整作技法なので、押圧文のある軒平瓦に同笵はなく、粘土紐巻きつけ時の調整でタイプが決まるわけである。加えてこの種の瓦にはいぶしがみられない。

つぎの軒丸瓦は、162～165のように草花文をあしらったものと、166～168のような三巴瓦がある。162は市内の南にある油山の天福寺に類例があるという。162以外は、ほぼいぶしがかかっている。三巴瓦は、166・168の外区の珠文も少なく、巴の先端も丸味を帯びていることからさほど古式に属するものではないようだ。（常松）

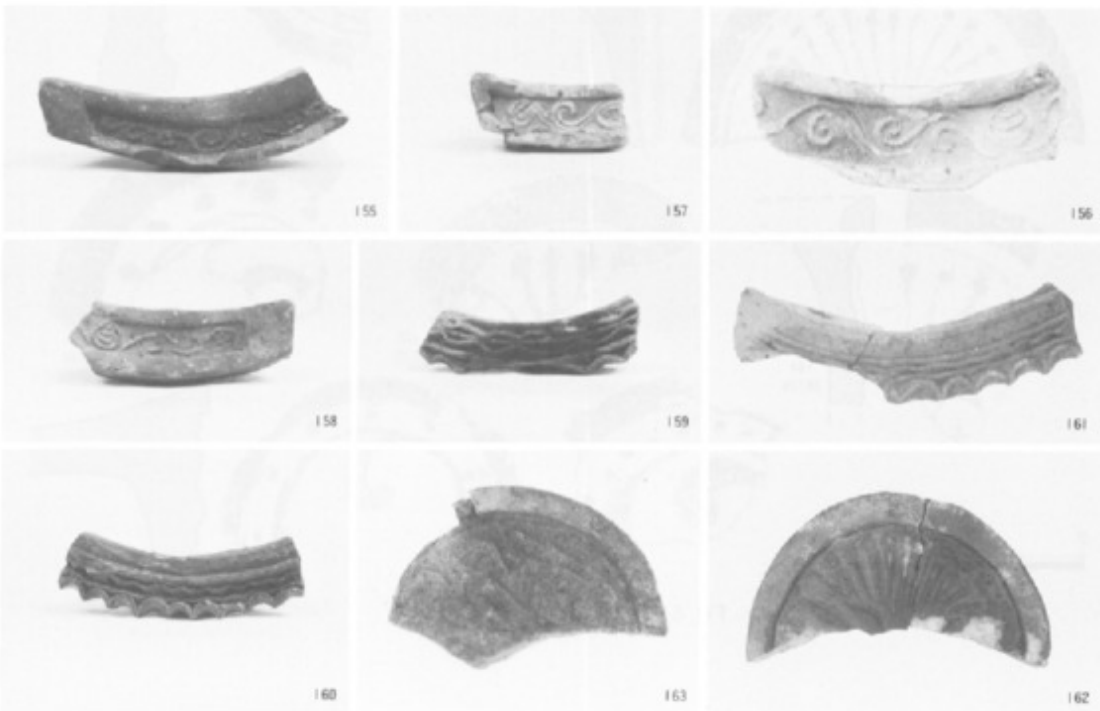


Fig. 60　中世瓦類

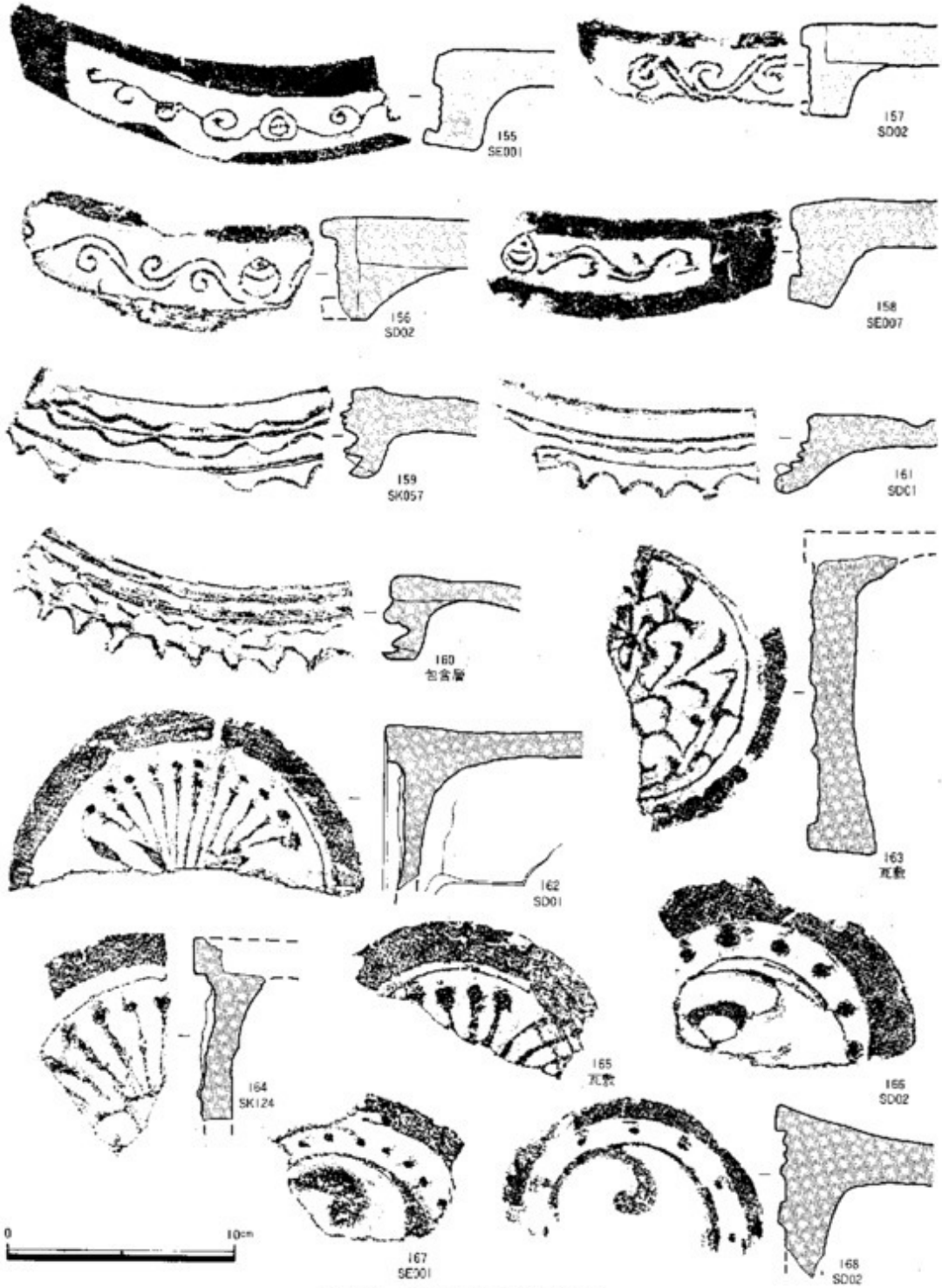


Fig. 61　中世瓦類実測図（1/3）

Tab. I　第28次調査検出溝一覧表

遺構番号	溝断面形	規模（計測値） 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
SD01	V字形	14 m	80～85 cm	40～60 cm	瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、瓦質土器、須恵質土器、須恵質土器（東播系鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢）、龍泉（碗）、同安（碗）、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、銅銭、滑石鍋、埴輪 上層－土師器（杯・皿）、土師質土器、国産陶器（碗）、輸入陶器、中国白磁・青磁（碗）、鉄釘、埴輪 中層－土師器（杯）、土師質土器、輸入陶器、朝鮮陶器（碗）、中国白磁・青磁（碗・皿）、鉄滓、埴輪 下層－土師器、中国青磁、瓦、埴輪	12～13	
SD02	V字形	52 m	250～450 cm	120～150 cm	上層－土師器（杯・皿・灯明皿）、瓦器（鉢・碗・皿）、須恵器（鉢・碗・皿・蓋）、土師質土器（甕・壺・鉢・鍋・湯釜・摺鉢・七輪・灯明台）、瓦質土器（甕・壺・摺鉢・香炉・蓋・湯釜）、須恵質土器（甕）、備前系（甕・摺鉢）、唐津系（鉢・碗・皿・摺鉢）、国産陶器（甕・壺・鉢・碗・皿・瓶）、伊万里系（碗・皿・鉢）、国産白磁（碗・皿）、国産青磁（瓶・壺）、明代（碗）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・瓶・つば・盤・摺鉢）、緑釉陶器、朝鮮陶器（碗）、龍泉（碗・皿）、同安（碗・皿）、中国青磁（碗・皿・瓶・香炉）、中国白磁（碗・皿・瓶・香炉・合子）、中国染付（碗・皿）、瓦、土面、七鈴、鉄釘、銅銭、滑石石鍋、泥めんこ、砥石、埴輪、貝、鉄滓 中層－土師器（杯・皿・灯明台・蓋）、瓦器（碗）、須恵器（甕）、土師質土器（甕・壺・鉢・鍋・湯釜・摺鉢）、瓦質土器（甕・鉢・湯釜・摺鉢・盤・香炉）、須恵質土器（甕）、須恵質土器（東播系甕）、備前系（摺鉢）、唐津系（壺）、国産陶器（壺・碗）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・耳付壺・瓶・盤）、朝鮮陶器（李朝・碗・皿）、龍泉（碗・皿）、中国青磁（碗・皿）、中国白磁（碗・皿・瓶・合子）、明代（皿）、中国染付（皿）、瓦、鉄釘、鉄滓、滑石石鍋、硯、砥石、埴輪 下層－土師器（杯・皿・灯明皿・瓶）、瓦器（碗・杯）、須恵器、土師質土器（甕・鉢・鍋・摺鉢）、瓦質土器（甕・鉢・鍋・摺鉢）、須恵質土器（東播系鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・耳付壺・瓶・盤）、龍泉（碗）、同安（碗・皿）、中国青磁（碗・皿・香炉）、中国白磁（碗・皿）、明染付（碗・皿）、瓦、鉄釘、鉄滓、木炭、埴輪 その他－ベンガラ塗布石、骨、埴輪、滑石杓子	16～17	瓦質土器（甕・亀山焼） 明代（染付碗、16世紀） 瓦（平安瓦）
SD03	舟底形	15 m	260 cm	90 cm	土師器（杯・皿・蓋）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋）、伊万里（碗）、輸入陶器（甕・壺・碗・瓶・盤）、龍泉窯（碗）、同安窯（碗・皿）、中国白磁（碗・皿）、瓦、鉄釘、鉄滓、滑石石鍋、埴輪		
SD04	逆梯形	4 m	40cm	43cm	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、須恵質土器（東播系鉢）、国産陶器（壺）、輸入陶器（甕・壺）、龍泉（碗）、中国白磁（碗・壺）、瓦、滑石石鍋、埴輪		
SD05	逆梯形	23.5 m	220～300 cm	50～60 cm	上層－土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋・摺鉢）、須恵質土器（壺）、輸入陶器（碗・皿・瓶・盤）、龍泉（碗）、中国白磁（碗・皿・蓋）、瓦、瓦塼、鉄滓、埴輪 下層－土師器（碗・杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、輸入陶器、同安（皿）、中国青磁・白磁（碗）		輸入陶器（碗・絵・彫り）
SD06	逆梯形	8.5 m	80～130 cm	60cm	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、須恵質土器（甕）、輸入陶器（甕・壺・鉢・盤）、同安（皿）、中国青磁（碗）、中国白磁（碗・皿）、滑石石鍋、硯、骨、埴輪		
SD07	V字形	9.6 m	230 cm	70cm	土師器（杯・皿・鉢・碗）、瓦器（碗）、須恵器（甕・壺・碗・皿・蓋）、土師質土器（鍋・火舎・摺鉢・碗）、須恵質土器（棒万丈・甕）、瓦質土器、国産白磁（皿）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・瓶・盤）、中国白磁（碗・壺・皿）、瓦、鉄釘、鉄滓、埴輪		
SD08	逆梯形	4.2 m	50～80 cm	17cm			

5．近世の遺構と遺物

近世の遺構、及び遺物については従来、余り注意を払われることなく、遺構についてはゴミ穴もしくは攪乱壙として処理され、遺物も注意を払われることがなかった。近年、博多の歴史や近世の商人・町人の文化を知る上において、こうした近世の遺物、遺構の状況を調査することが非常に重要になりつつあり、こうした近世の調査が町割りの復元への一助ともなり得てきた。近世遺構の大部分は調査の関係上、一律的に上部を削平しており、遺構として把握し得るのは深く掘られた穴、すなわち、井戸や廃棄物の投棄穴である。博多商人の性質を表わすものとして、井戸の廃棄の際にゴミ穴として利用することが頻繁にあることで、井戸祭祀には神経を使っていない。同様には地下鉄線路内の祇園駅出入口２・３の調査では中世井戸（１号土壙）に火災によって破損したと思われる中国陶磁器数百点を投棄した例を検出したが、これも上記に通じる。こうした井戸やゴミ穴からは初期伊万里、古伊万里、古唐津、高取焼、須恵焼、小岱焼、関西系焼物、瀬戸焼、備前焼などの16世紀末から19世紀までの陶磁器が出土する。その他、江戸時代の台所用具、汁器、信仰関係のものなど多数の遺物に恵まれた。以下に近世遺構について述べる。（井沢）

1）井　　戸

時期が確定できた20基の内、５基は瓦組井戸である。掘り方の平面形がいずれも円形である。直径は最大でも140㎝未満で、素掘り井戸に比べて小さい。瓦組井戸の形態として大きく２つに分類出来る。Ⅰ類はＳＥ003～ＳＥ005・ＳＥ007号井戸で、平均の厚さが20～25㎝の長方形の板瓦を各段10枚づつ用い、１段おきに目地が通るように交互に積み上げたものである。

Fig. 62　近世遺構の集合状態

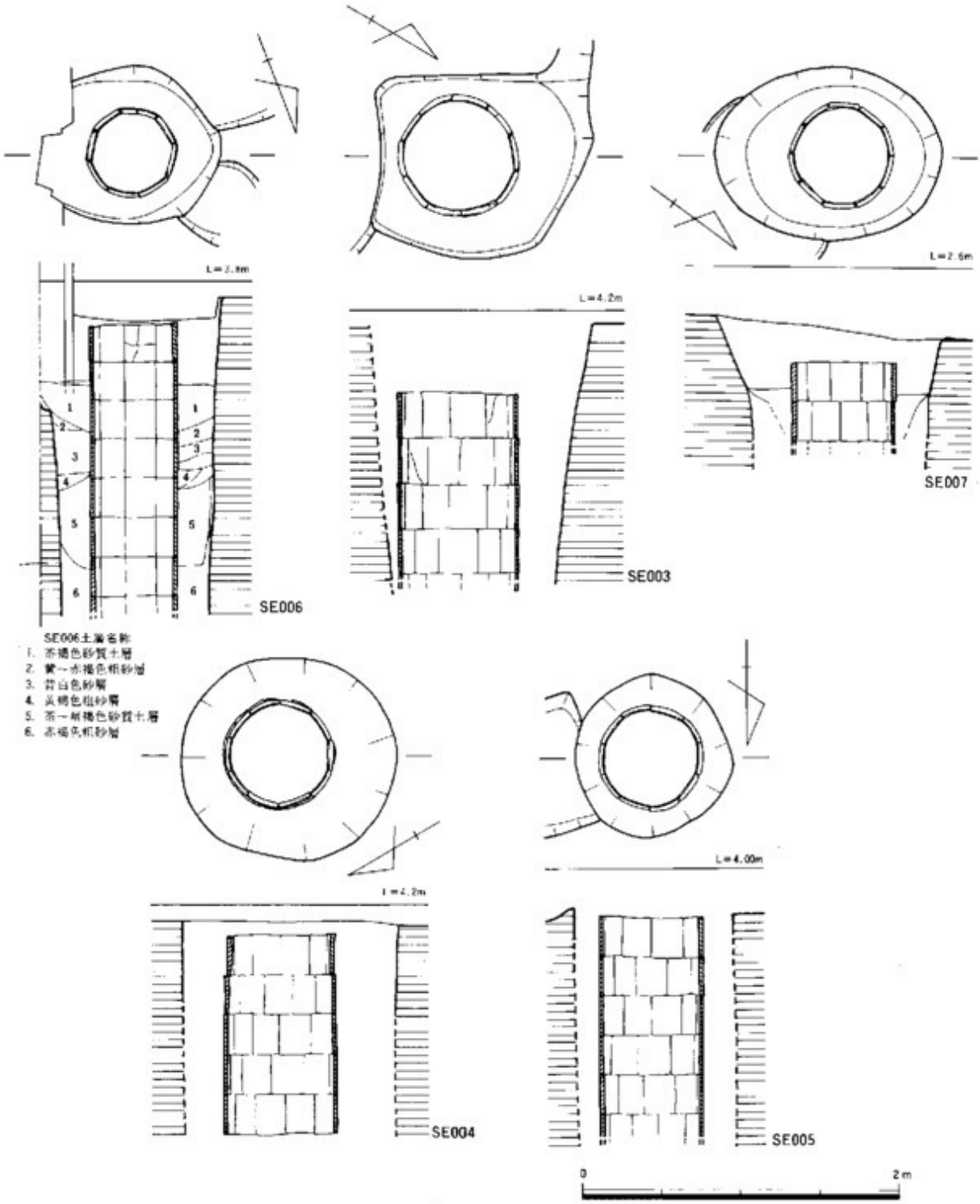
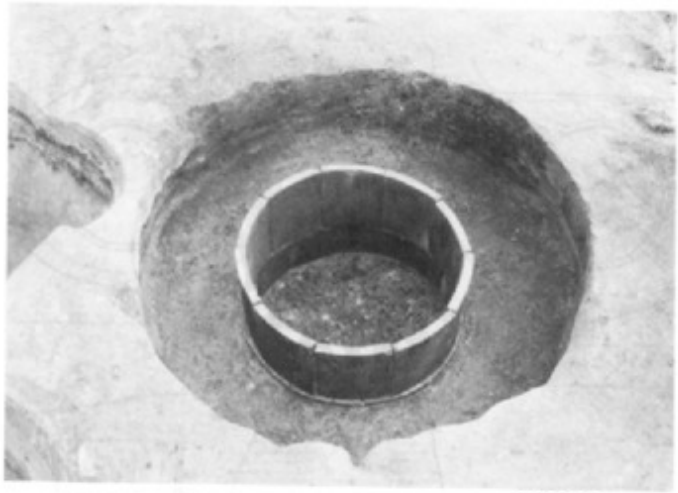


Fig. 63　瓦井戸実測図（1/40）



①SE004

③SE006

②SE007

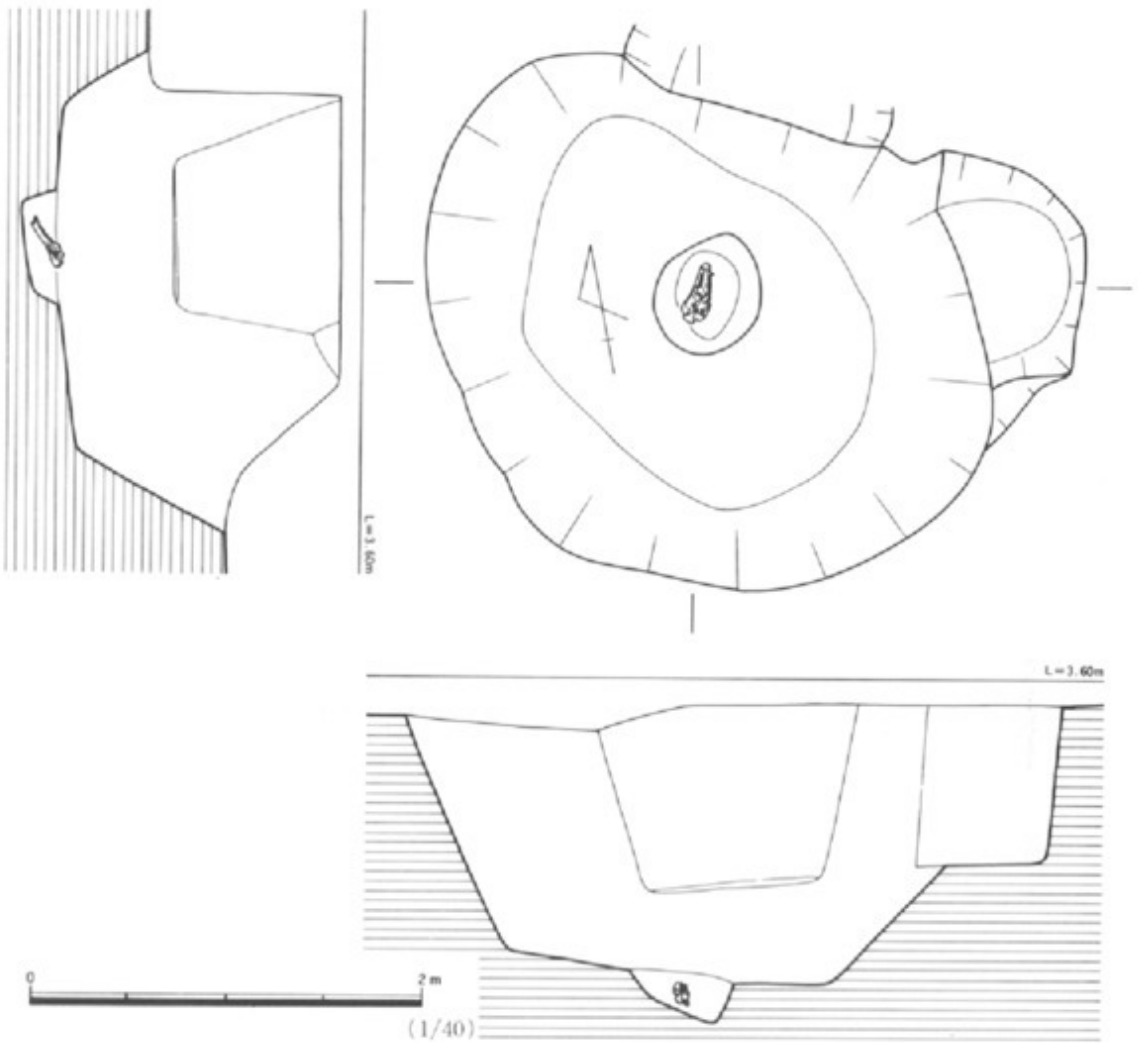
Fig. 64　瓦井戸検出状態

Ⅱ類はSE006井戸で、厚さ18～24cmを測るⅠ類よりやや細長い板瓦を各段8枚づつ用いる。井筒の直径はⅠ類よりひと回り小さい。縦・横の十字に目地が通るように積み上げており、瓦と瓦との間は漆喰で補強している。遺物は井筒内を中心に古代から近世迄のものが出土している。SE003・SE006号井戸は上層からガラスやタイル、貝類など近・現代遺物などが出土している。

素掘り井戸は砂地という性質の為か、掘り方は一般に大きく、何度か掘り直した為か切り合が著しく、全体の形状を知りうるものは少ない。井筒はいずれも木桶を用いており、直径50～90cm程度で、遺存状態は悪い。出土遺物は、井戸廃絶後にゴミ穴として利用されたものもあり、古代から近世迄の種々雑多な遺物を数多く含んでいる。又、SE059 井戸は直径50cmの井筒内から猪の頭骨(38)が単独で出土しており、何らかの祭祀的意味合があると思われる。（山崎）

2）土　　壙

いずれも塵芥処理として利用しており、SK018、SK019、SK121、SK166、SK 371が相当する。長さ4.5～7.0m、深さ約40～100cmを測る規模で、形状は不定形である。遺物は陶磁器の他、鉄製品、青銅製品（煙管など）、木製品（漆器・臼）などがある。



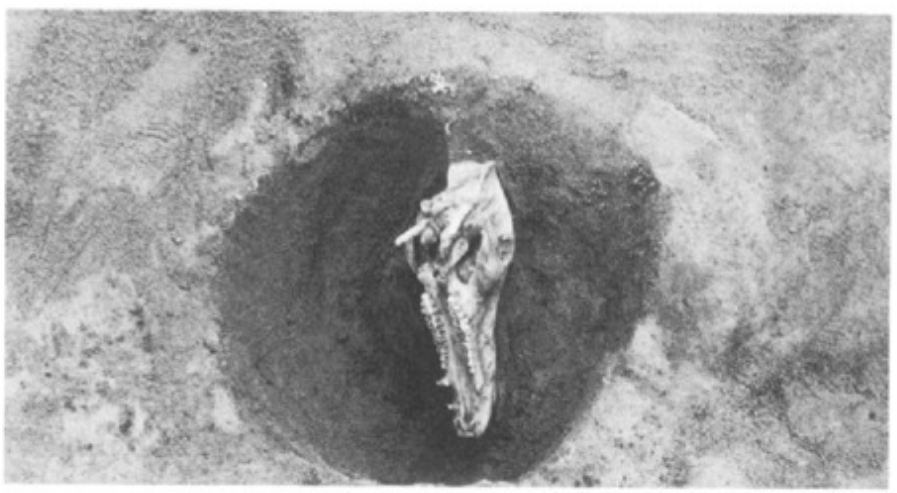
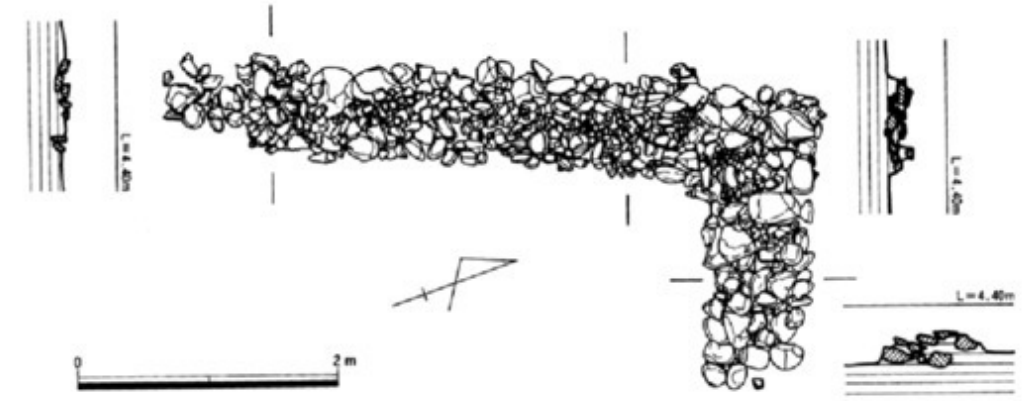


Fig. 65　SE059　　獣骨出土状態



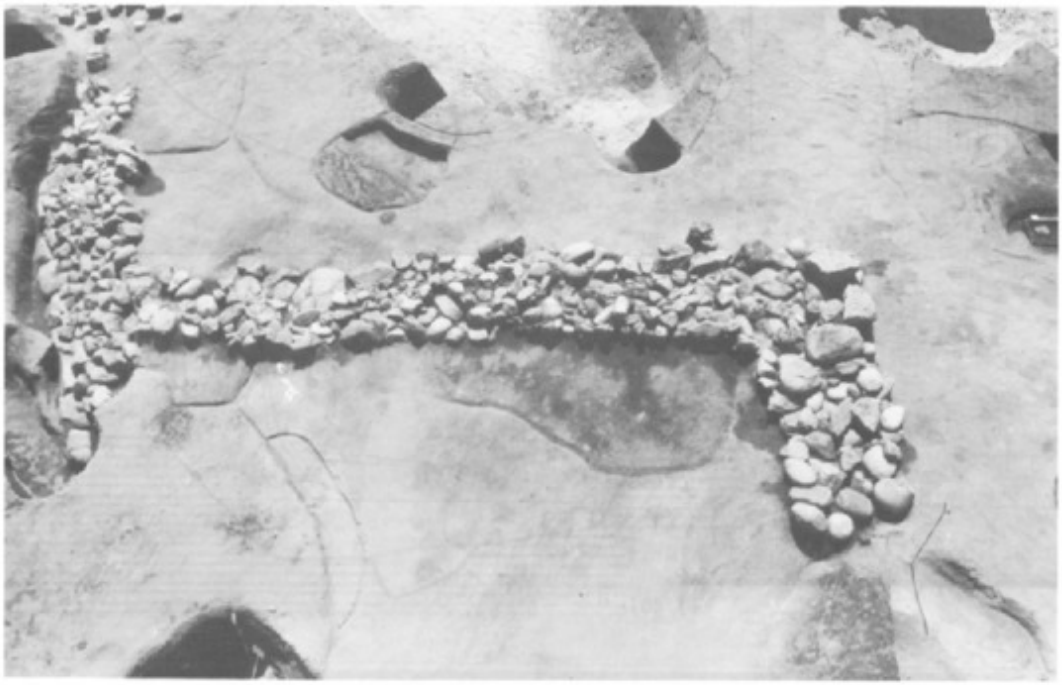
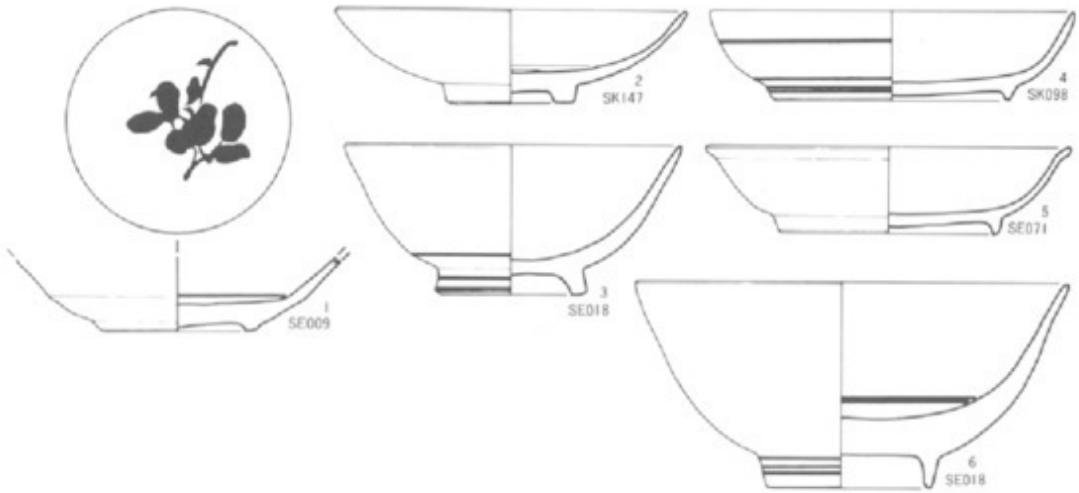


Fig. 66　石組遺構（SX01）(1/60)

3）石組遺構（ＳＸ01）

長辺５ｍ、短辺２ｍを測る逆Ｌ字型に組まれた石組が、調査区の南東部で見つかった。当初、前方後円墳に関連する施設かと思ったが、共伴の遺物から近世のものであることが明らかになった。更に、この矩形の石組は、さらに延びる可能性はあるものの、幅は約80cmを測り、ほぼ均一である。一応完結した様でもある。用途としては、暗渠排水や雨落溝の一部とするのが妥当かと思うが、肝腎の上部施設が全くわからないので、断定はできない。

また時期については、中国製陶磁器に混じって伊万里の染付皿や軒瓦が出土している。三巴瓦は外区の珠文が大粒で、数が少なく、福岡城の石垣や御鷹屋敷の三巴文軒丸瓦Ⅲ類よりも後出するタイプのようなのである。18世紀代に入るのではないかと思う。[註2]　（常松）



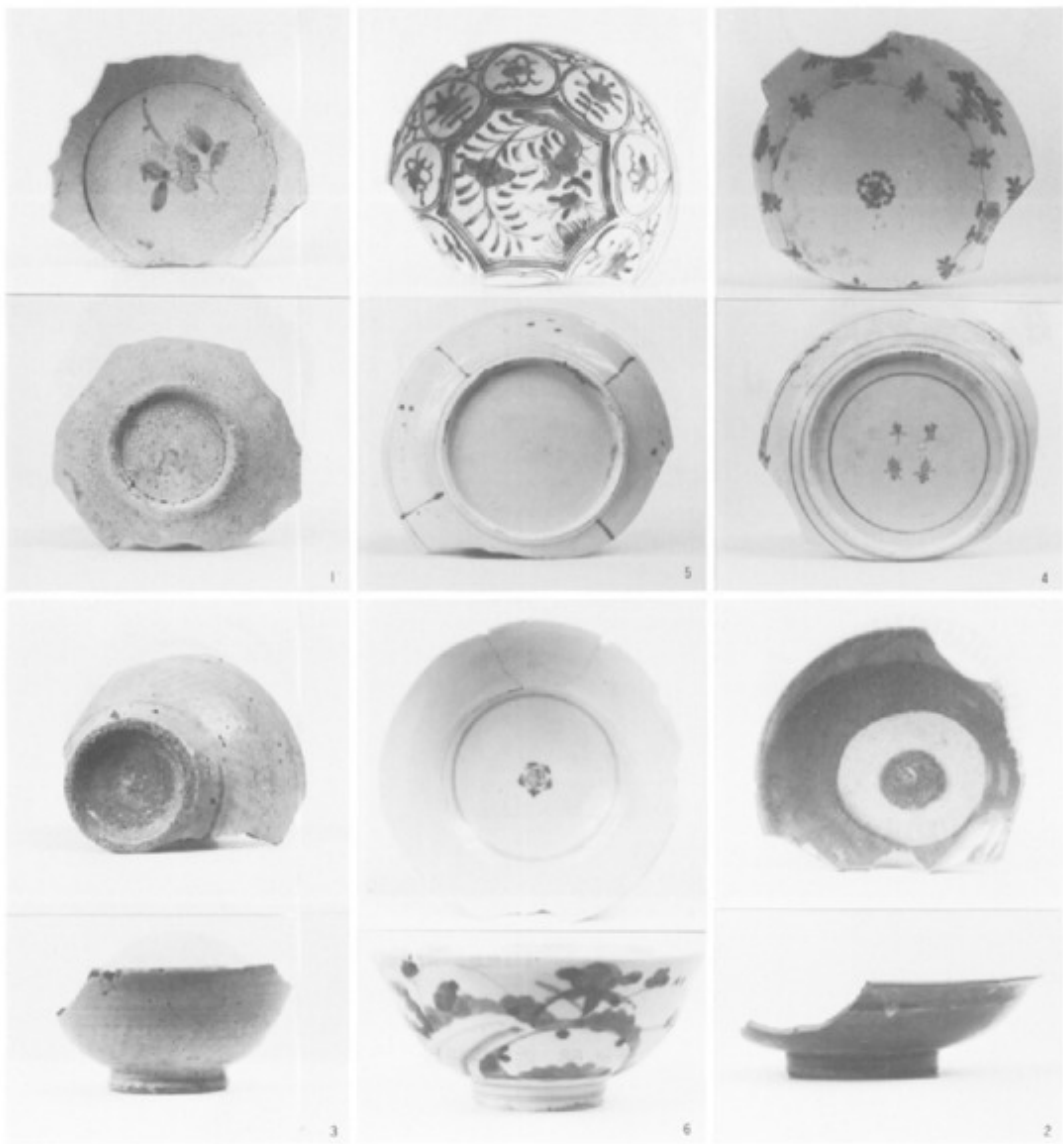


Fig. 67　近世陶磁器

9は製皿、13は紅皿

Fig. 68　近世陶磁器

Fig. 69　近世陶磁器

Fig. 70　近世遺物

Fig. 71　近世墨書土器（数字は墨書土器一覧表の番号）

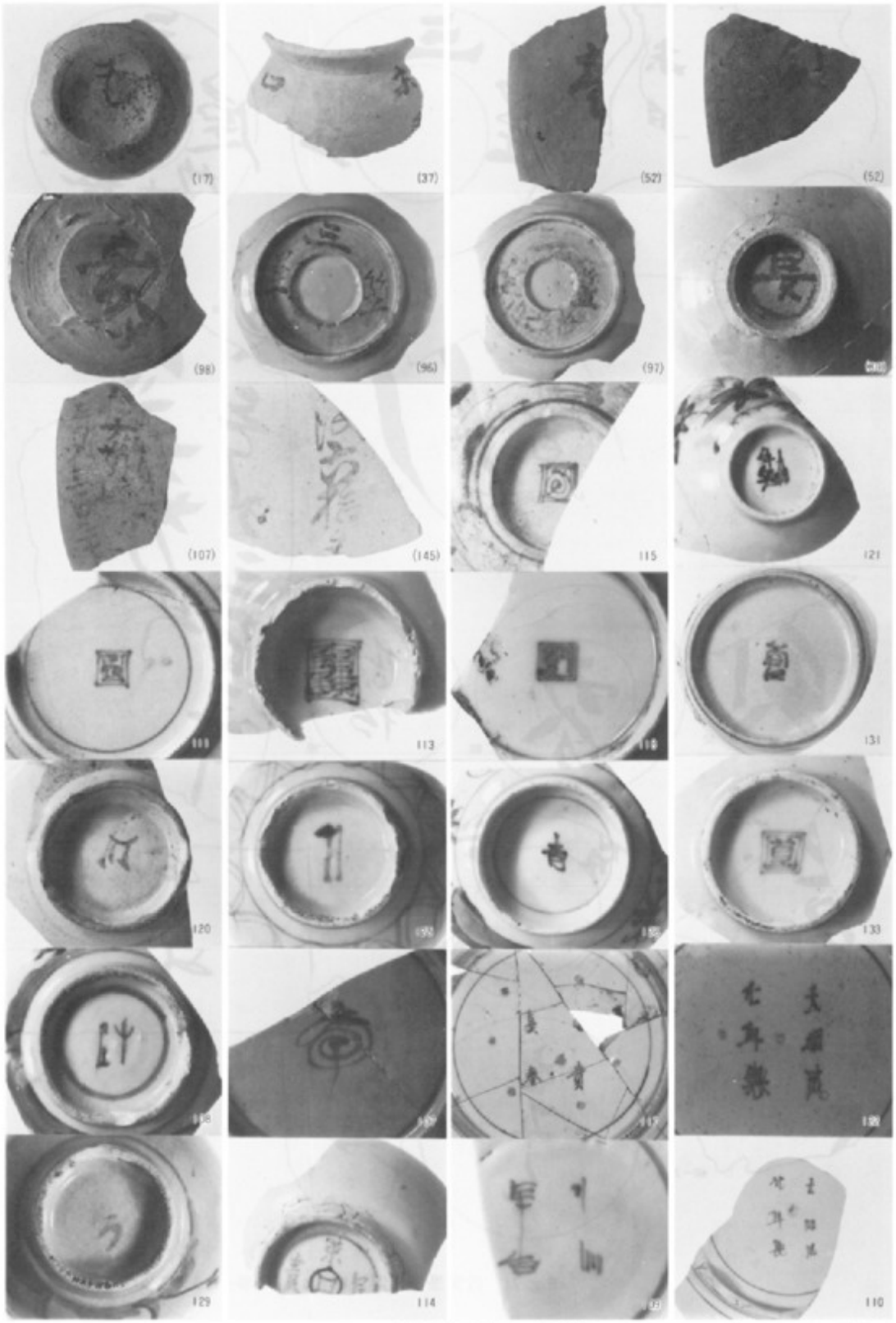


Fig. 72　近世墨書土器及び底部銘　（　）の数字は墨書土器一覧表の番号

4）近世の軒瓦

軒瓦の内、軒丸瓦は巴瓦のみである。巴瓦は、時期が下るにつれて外区の珠文が少なくなりまた巴の頭は丸味を帯びて尾が短くなるといわれている。そうすると新しい要素を備えているのは、珠文の数では2や6、巴の形態では1や4といったところである。

軒平瓦は9に唐草の文様を配しており、他の唐草文のようである。それら唐花文は、元をただせば、宝相華文と唐草文が合わさったものがデェフォルメしたような感じをうける。

9は左上に、雀口をもつ鎌軒瓦といわれる形態である。また8には「今宿又一」、11には「ヤママサ（山正）利助」など商標と思われるスタンプが押されている。（常松）

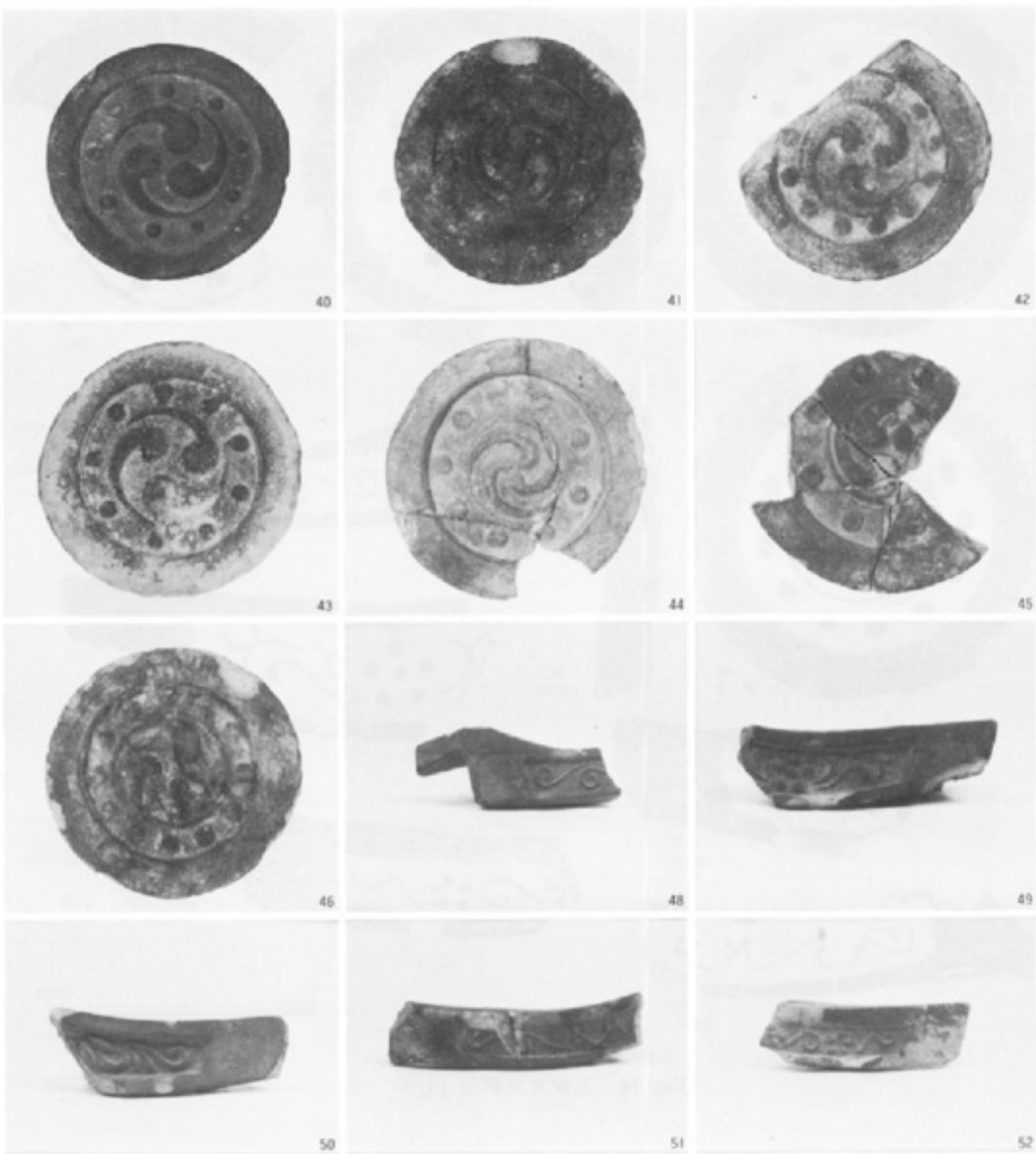


Fig. 73　近世の瓦類

Fig. 74　近世瓦実測図（1/3）

Ⅳ章 ま と め

Ⅲの調査記録で述べたとおり、遺構の密度や内容は非常に豊富であったが、整理が不充分なため満足できる報告ができなかったのは残念である。紙面の都合で具体的に報告できなかった遺構や遺物については、後日、機会をとらえた発表したいと考えている。ここでは当該調査の成果を簡単に整理し、今後の発掘調査への一助としたい。遺構の時期はⅠ期－弥生時代、Ⅱ期－古墳時代、Ⅲ期－奈良・平安時代、Ⅳ期－中世、Ⅴ期－江戸時代に大きく分けることが可能である。

Ⅰ期の遺構は調査の都合上、確認できなかったが、遺物からみて弥生時代中期～後期の範囲にある。遺構は先述したように30次調査で中期の住居跡、17次調査で後期後半の住居跡を検出更には24・32次調査等で、中期の甕棺墓が出土しており、砂丘の頂上周辺が弥生時代の集落及び墓地であったことが伺える。

Ⅱ期の古墳時代は遺物からみるかぎり、布留式土器併行期から須恵器のⅢ期に亘っている。前方後円墳は後世の著しい破壊によってほとんど原形をとどめていないが、残存した葺石や地形変換等から、全体形を復原することができた。全長約60～70m、後円部径約40cmの規模は、福岡平野南部に位置する古墳時代初頭の那珂八幡古墳や4世紀後半の老司古墳に匹敵する。周辺の小型小石室の内、7号小石室の石材は板石を用いている。この板石の小口面のみは赤色顔料を塗布しており、明らかに前方後円墳の石室材を利用したものである。板石の小口積みを行い、且つ、赤色顔料を塗布した石室は鋤崎古墳や老司古墳等の竪穴系の石室構造が考えられる。埴輪、及び葺石の存在からも妥当であろう。埴輪は朝顔・円筒・形象（家？）があるが、時期は川西編年のⅡ期に属するものと考えられる。よって前方後円墳の時期は4世紀末～5世紀初頭に位置づけておきたい。

博多遺跡群では、これまで第17次・27次調査で4世紀代の方形周溝墓2基、木棺墓2基、粘土槨1基等が検出されているが、前方後円墳はこれらに続く時期のものと考えられる。福岡平野北部の前方後円墳としては、那珂八幡古墳（4世紀前半？）に次ぐものである。この時期に海外線に近い地点、しかも砂丘という古墳の築造に適さないところに前方後円墳を築造した意味等、残された課題は多い。あるいは第17次調査で出土した、当前方後円墳の時期に比較的近い時期の朝鮮製瓦質土器（長胴壺）に答があるかもしれない。

小型小石室の7基はいずれも前方後円墳の葺石や板石を用いており、且つ、周溝埋、後に掘り込むことから明らかに前方後円墳に後出する。小石室には1・2・4・5号小石室のように小口積みと構造、7号小石室のように側壁を立てた石棺構造がある。3号・5号小石室は小口、又は側壁の一部が抜き取られた状態を示すが、3号小石室は小口周辺及び、両側壁の中央位置に各々石を配しており、5号小石室は側壁中央と、4隅に配石を行うことから、3・5号小石室は組合せ木棺と考えられる。配石は木棺の固定石であろう。県内で発見される竪穴構造の小石室の内石棺系の小石室には5世紀代に位置づけられるものもあるが、一般的には6世紀以降に出現する。又、立地は前方後円墳や古墳群の周辺に配置される場合が多く、且つ、単独例は少ない。墳丘の明確な例も少なくない。当該調査の小石室も前方後円墳周辺に配置される

状況よりみて、6世紀を前後する時期を考えたい。

Ⅲ期は明確な遺構が少ない。調査区の南側に中近世の遺構が密集していたことや、北側の調査Ⅰ区が期間の制約で調査できなかった点にもある。須恵器杯・椀の出土量は多い。17次調査では青銅製蛇尾が、西側に隣接する31次調査では丸鞆が出土しており、官衙の存在を裏付けている。

Ⅳ期は遺構が最も集中、且つ、博多の町割りに関する遺構が多い。土壙・井戸・溝・炉跡など豊富であるが、井戸と判断しかねるものは全て土壙とした。井戸はＳＥ001、002を除き全て素掘りの状態を示しているが、本来は木製井筒が存在するものと思われる。井戸ＳＥ002は溝ＳＤ02から切られており、井戸内からは明の染付・白磁皿等が出土している。溝ＳＤ02は大博通りにほぼ平行しており、方位はＮ－30°－Ｗにある。この溝の上層からは李朝や古唐津の皿などが出土している。大閤町割に前後する時期を考えられ、町割りに関連すると思われる。溝ＳＤ05は磁北に対してほぼ直交する溝であるが、条里方向に一致する。この溝の埋没は12世紀後半が考えられる。遺物では中国の陶磁器の他、李朝、明代の陶磁器が出土するが、国内からの流通品も少なくない。特に12世紀~13世紀の東播系の鉢はコンテナ1箱分に達している。備前の鉢は14世紀以降に出現する傾向にある。

Ⅴ期は、江戸時代の約300年間に亘っており、土壙、及び井戸のみである。土壙はいずれもゴミ処理として掘られた不定形の穴である。井戸は瓦井戸と素掘り井戸がある。素掘りの井戸は、井戸下部で、腐蝕した桶が出土することから、本来は井筒に桶を用いたものと思われる。井戸も又、廃物投棄場所として利用しており、遺物の内容も豊富である。陶磁器、石臼、木製臼、漆器などの木製品や火鉢、七輪、油壺などの台所用品、又、お歯黒壺、玩具、土面、祭祀具なども出土する。これらはセットとして把握することが可能で、民俗資料としても今後充分に活用できるものが多い。又、陶磁器は伊万里系、唐津系を主体とするが、初期伊万里(1)、古唐津(17)に始まって、19世紀まで年代を追うことが可能である。更に、18世紀のくらわんか茶椀や輸出品としての端皿(9)、大阪商人の特別注文品である紅皿(13)、関西風茶椀などがある。他の窯では、熊本の小岱焼、須恵町の須恵焼、高取焼なども出土し、当時の流通を知る手懸りとなり得る。

以上、当該調査について、簡略に整理した。資料整理が不充分なため個々の遺構については時期を明確にし得ないので残念であるが、後日機会を改めたい。　　（井沢，米倉）

〈注〉
1．福岡市教育委員会「博多－高速鉄道関係調査(2)－」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第126集　1986年
2．福岡市教育委員会「筑前国福岡城三ノ丸　御蔵屋敷」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第59集　1980年
3．昭和61年度の発掘調査を行った。遺物には石塔丁等も出土している。加藤晋康氏より御教示を得た。
4．福岡市教育委員会「鳥越・七隈古墳群」福岡市埋蔵文化財調査報告書第124書　1985年
5．福岡市教育委員会「博多出土肥前陶磁器分類表」『博多－高速鉄道関係調査(1)－』所収　福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集　1984年
6．近世陶磁器については佐賀県陶磁文化館の大橋康治氏に御教示を得た。

Tab. 2　第28次調査墨書土器一覧表 ①

遺物番号	挿図番号	出土地点	遺物種類	器種	墨書名	遺物番号	挿図番号	出土地点	遺物種類	器種	墨書名
1	55	包含層	中国白磁	碗	儀？・綱	38	56	SK 061	舶載陶器	壺	
2	〃	SE 081	中国青磁	碗	六	39	55	SK 067	中国白磁	皿	十
3	56	SK 213	中国白磁	碗	花押？	40	〃	SK 061	中国龍泉	碗	十二
4	〃	SK 123	中国白磁	碗	七	41	71	SE 021	土師質	壺	□ ●
5	〃	SE 049	中国同安	碗	拾	42	56	SK 131	中国白磁	碗	王綱
6	〃	SK 026	須恵器	皿	畳	43	〃	SE 071	中国白磁	碗	金
7	〃	SK 121	中国白磁	皿	恵 財	44	〃	SK 063	中国白磁	碗	□ □
8	55	SK 306	中国白磁	皿	東	45	〃	SD 02	国産陶器	蓋	二
9	56	SK 379	中国同安窯	皿	王 二	46	〃	SK 003	中国白磁	碗	六 ？
10	〃	SK 379	中国青磁	碗	王 工	47	〃	SD 02	中国同安	碗	金
11	55	4号小石室周辺	中国白磁	皿	八口内	48	〃	SE 071	中国白磁	碗	丁卿？
12	〃	SK 329	中国白磁	皿	有	49	〃	SK 133	中国白磁	碗	上 □
13	56	SK 038	中国龍泉窯	碗	丨	50	〃	SE 057	中国白磁	皿	花 押
14	〃	SK 016	中国白磁	碗	十	51	〃	SE 057	中国白磁	皿	林 □
15	〃	SK 353	中国龍泉窯	皿	有 久	52	71	遺構面	土師質	捏鉢	
16	〃	SE 025	中国同安窯	皿	王 二	53	〃	SK 321	中国白磁	碗	福 か
17	71	SK 121	国産陶器	小碗	も ？	54	〃	SK 130	中国白磁	小皿	
18	56	SE 062	中国白磁	碗	王 二	55	〃	SK 086	土師器	皿	表 角か白・門 裏 万万万・聞
19	〃	SE 043	中国白磁	碗	大	56	55	SE 066	中国青磁	皿	
20	〃	SK 100	中国白磁	碗	帝	57	〃	SE 066	中国白磁	碗	□□丸
21	〃	SK 260	中国白磁	小碗	王	58	〃	SE 066	中国白磁	碗	□□丸
22	〃	SK 075	中国白磁	碗	十	59	56	SD 02	中国白磁	皿	金
23	〃	SE 065	中国白磁	碗	大又は丈	60	71	SK 001	土師質	鍋	適 か
24	〃	SE 043	中国白磁	皿	米	61	〃	SE 033	高取焼	鍋	サル田
25	〃	SK 103	中国同安	碗	花 押	62	56	第1トレンチ	中国白磁	碗	
26	〃	SK 056	中国白磁	碗	寄	63	〃	包含層	中国白磁	皿	四 か
27	〃	第3トレンチ	中国白磁	碗	可又は花押？	64	〃	SK 105	中国陶器	皿	三
28	〃	SE 014	中国白磁	碗	花押？	65	〃	SK 131	中国白磁	碗	不 明
29	〃	SE 070	中国白磁	碗	王 □	66	〃	SK 131	中国白磁	碗	不 明
30	〃	SK 379	中国同安	皿	王 □	67	〃	SK 131	中国白磁	碗	不 明
31	〃	遺構面	中国龍泉	碗	金 □	68	〃	SK 131	中国白磁	碗	不 明
32	〃	遺構面	中国白磁	皿	三十□内か	69	〃	SE 052	中国青磁	碗	不 明
33	〃	SK 291	中国白磁	碗	王 二	70	〃	SE 067	中国同安	碗	不 明
34	〃	SD 002	中国白磁	皿	不 明	71	57	遺構面	中国龍泉	碗	不 明
35	55	SK 379	中国龍泉	碗	有 久	72	〃	SE 354	中国白磁	碗	花 押
36	56	第1トレンチ	中国白磁	碗	□	73	〃	SK 038	中国白磁	碗	花 押
37	71	SE 021	国産陶器	碗 蓋	二	74	〃	SE 064	中国青磁	碗	

Tab. 2　第28次調査墨書土器一覧表 ②

遺物番号	掲図番号	出土地点	遺物種類	器種	墨書名	遺物番号	掲図番号	出土地点	遺物種類	器種	墨書名
75	57	SK 378	中国白磁	碗		112	57	遺構面	中国龍泉	碗	
76	〃	SD 01	中国白磁	碗	王綱か	113	〃	遺構面	中国龍泉	碗	
77	〃	SK 170	中国白磁	碗		114	〃	遺構面	国産陶器	碗	
78	〃	SK 170	中国白磁	碗		115	〃	包含層	中国白磁	碗	林 口
79	〃	SD 02	中国白磁	碗		116	〃	包含層	中国白磁	皿	侍 口
80	71	SK 001	肥前陶器	皿	五 分	117	〃	包含層	中国白磁	皿	四十口又は四郎
81	55	SK 219	中国同安	碗	王 口	118	〃	包含層	中国白磁	香 炉	花 押
82	57	SK 124	中国白磁	碗	不 明	119	〃	包含層	中国白磁	碗	
83	〃	SK 124	中国白磁	碗		120	〃	包含層	中国白磁	碗	大 か
84	〃	不 明	中国白磁	碗	花 押	121	〃	包含層	中国白磁	碗	花 押
85	55	SK 323	中国白磁	皿	花 押	122	〃	包含層	中国白磁	碗	屋
86	57	遺構面	中国青磁	皿	侍 か	123	〃	包含層	中国白磁	碗	庫
87	〃	SK 175	中国白磁	碗	花 押	124	〃	包含層	伊万里染付	瓶	加 月か
88	55	SE 033	中国白磁	皿		125	〃	包含層	中国青磁	碗	十
89	57	SK 218	国産陶器	鉢	不 明	126	〃	遺構面	中国白磁	碗	
90	〃	SK 225	国産陶器	植木鉢	組メ止	127	〃	遺構面	中国白磁	碗	尾
91	71	SK 229	素焼き	鉢	ダ、カタ、シコ、タ	128	〃	遺構面	中国白磁	碗	執 か
92	57	SK 229	中国龍泉	皿	梅の花か	129	71	遺構面	国産陶器	灯明皿	多
93	〃	SK 170	中国白磁	皿	侍	130	57	遺構面	舶載陶器	壷	主 二
94	〃	SE 052	中国白磁	碗	不 明	131	〃	SK 248	中国白磁	碗	橋又は柳の異体字
95	〃	SK 331	中国白磁	碗		132	55	第5トレンチ	中国白磁	碗	来 か
96	71	SK 230	伊万里染付	皿	二笠屋	133	〃	第5トレンチ	中国白磁	碗	来 か
97	71	SK 220	伊万里染付	皿	三笠屋格式与	134	57	黄白釉陶	舶載陶器	瓶	王
98	57	SK 018	京焼系	碗	長 か	135	〃	SK 124	中国白磁	碗	侍
99	55	SK 312	舶載陶器	天目碗	杜	136	〃	SK 124	中国龍泉	皿	-
100	57	SK 005 SK 006	舶載陶器	壷		137	〃	遺構面	中国白磁	碗	侍
101	〃	SK 255	中国白磁	碗	花 押	138	〃	SK 001	中国龍泉	皿	大佐又は大左
102	〃	SK 255	中国白磁	碗	不 明	139	〃	SK 005 SK 006	土師器	皿	七
103	〃	SD 05	中国白磁	皿	不 明	140	〃	遺構面	中国白磁	碗	庫 か
104	〃	SK 328	中国白磁	碗	□□丸	141	〃	SD 02	中国同安	皿	不 明
105	〃	SK 375	中国白磁	碗	花 押	142	〃	第5トレンチ	舶載陶器	瓶	
106	〃	SK 336	中国白磁	碗	土	143	〃	攪 乱	中国白磁	碗	
107	71	SK 97	土師質土器	鉢		144	〃	第5トレンチ	舶載陶器	壷	
108	57	SK 101	中国白磁	碗		145	〃	遺土内	土師質	鍋 転	
109	〃	SE 012	中国白磁	皿		146	〃	遺構面	伊万里白磁		(朱書)
110	71	遺構面	国産陶器	転	もみじ	147	〃		伊万里染付		(朱書)
111	57	遺構面	中国白磁	皿							

※福岡市歴史資料館の高田茂廣氏及び埋蔵文化財課の池崎譲二氏の教示を得た。

Tab. 3　第28次調査青銅製品一覧表 ①

番号	種　類	出土地点	計測値（単位cm）	備　考
1	煙管吸口部	遺構面	現存長5.3、羅宇接合部径1.0、吸口径0.5	内部に羅宇材質残る
2	煙管火口部	遺構面	現存長5.2、羅宇接合部径1.1	火皿を欠く
3	煙管火口部	SK 001	長さ5.9、火皿外径1.5、内径0.8、羅宇接合径0.9	
4	煙管吸口部	SK 001	現存長6.3、羅宇接合部径0.95	内部に羅宇材質残る
5	煙管吸口部	SK 002	現存長5.35	
6	煙管吸口部	SK 005	現存長4.5、羅宇接合部径0.9	内部に羅宇材質残る
7	煙管吸口部	SK 005・SK 006	現存長4.9、羅宇接合部径1.0	内部に羅宇材質残る
8	煙管吸口部	SK 005・SK 006		
9	煙管吸口部	SK 005・SK 006	現存長4.9、羅宇接合部径1.2	
10	煙管火口部	SK 006	長さ5.25、羅宇接合部径1.3～1.4 火皿外径1.35、火皿内径1.1、深さ0.9	
11	煙　管	SK 006		
12	煙管火口部	SK 006	現存長約4.5、羅宇接合部径1.2	内部に羅宇材質残る
13	煙管火皿	SK 010	外径1.7、内径1.4、深さ0.9	
14	煙管火口部	SK 018	長さ6.1、羅宇接合部径0.9 火皿外径1.5、火皿内径1.3、深さ0.9	
15	煙管火口部	SK 018	長さ5.8、羅宇接合部径0.85 火皿外径1.7、火皿内径1.35、深さ0.85	
16	煙管吸口部	SK 018	現存長4.4	
17	煙管火口部	SK 018	現存長5.75	火皿を欠く
18	煙管火口部	SK 018	現存長約7.15	
19	煙管吸口部	SK 019	長さ4.3、吸口部径0.6、羅宇接合部径1.0	内部に羅宇材質残る
20	煙管吸口部	SK 019	現存長7.5、羅宇接合部径1.1	
21	煙管吸口部	SK 019	長さ5.6、羅宇接合部径1.0	
22	煙管吸口部	SK 019	長さ6.6、羅宇接合部径0.8、吸口部径0.4	
23	煙管火口部	SK 019	長さ5.5、火皿外径1.5、火皿内径1.1、深さ0.75	
24	煙管火口部	SK 019	現存長5.6、羅宇接合部径0.9	火皿を欠く
25	煙管火口部	SK 019	現存長4.0、火皿外径1.75、火皿内径1.35、深さ0.8	
26	煙管火口部	SK 019・SK 020	長さ4.9、火皿外径1.35、火皿内径1.1、深さ0.85 羅宇接合部径0.85	
27	煙管吸口部	SE 014	吸口部径0.4	
28	煙　管	SE 014	現存長2.1	内部に羅宇材質残る
29	煙管火口部	54号土壙SK 046	長さ4.1、火皿外径1.5、火皿内径1.3、深さ0.9	内部に羅宇材質残る
30	煙　管	70号土壙SR 061		内部に羅宇材質残る
31	煙管火口部	114号土壙SK 099	長さ5.6、火皿外径1.65、火皿内径1.35、深さ0.9	内部に羅宇材質残る
32	煙管吸口部	114号土壙SK 099	現存長6.4	
33	煙管吸口部	120号土壙SK 103	長さ6.8、羅宇接合部径0.9	内部に羅宇材質残る
34	煙管火口部	133号土壙SK 113	長さ6.1、火皿外径1.65、火皿内径1.35、深さ1.0 羅宇接合部径1.0	
35	煙管火口部	137号土壙SK 116	長さ4.7、火皿外径1.6、火皿内径1.35、深さ1.0 羅宇接合部径1.1	
36	煙管火口部	SK 158～SK 160	現存長4.6、羅宇接合部径1.05	
37	煙管吸口部	SE 065	長さ6.6、羅宇接合部径1.0、吸口部径0.4	

Tab. 3　第28次調査青銅製品一覧表 ②

番号	種類	出土地点	計測値（単位cm）	備考
38	煙管火口部	SK 281	現存長6.3、火皿外径1.6、火皿内径1.25、深さ1.1	
39	煙管	SK 281		土圧により圧縮されている
40	煙管	SK 367	現存長9.1	土圧により圧縮されている
41	煙管	包含層	現存長4.6	
42	煙管火皿	包含層	外径1.7、内径1.46、深さ約1.0	
43	耳環	遺構面	外径1.3、内径1.0	
44	耳環	遺構面	外径2.7、内径2.2	
45	耳環	遺構面	外径2.7～2.9、内径1.4～1.6	1号土壌整備面
46	飾金具	遺構面	径1.75、厚0.05	ぼたん状
47	飾金具	SK 018	外径2.2、内径0.4、厚0.1	ぼたん状
48	飾金具	SE 041	現存長2.7、山幅0.8、谷幅0.6、厚0.1	
49	飾金具	SK 198	現存長3.9、幅1.15、高さ0.6	
50	柄飾金具	P 1	長約3.85、幅最大1.2、厚約0.13	菱形状のものが二連状を呈する
51	柄頭金具	遺構面	長さ3.8、幅3.0、高さ1.7～2.4	縁に塗金を施す
52	耳かき	SE 079	長さ8.5	赤銅
53	釘	包含層	長さ7.5	
54	釘	SK 011	現存長3.1	
55	銅鈴	SE 025	径2.1	
56	銅鈴	SK 213	径3.7	
57	観音像	SK 237	高さ6.2、台座径2.6	
58	飾金具	SK 046	径1.7～1.8、厚0.2	ぼたん状
59	環状銅製品	SK 018	幅0.85、厚約2.0	一部に塗金を施す
60	環状銅製品	SK 281	幅0.85、厚0.05	土圧により変形
61	銅製品片	SK005・SK006		
62	銅製品片	SK 018		
63	銅製品片	SE 023	現存長2.8、幅1.5、厚さ0.3	
64	銅製品片	SE 039		
65	器種不明	遺構面	現存長10.3、現存幅6.3	
66	器種不明	SK 005・SK 006	現存長5.1、幅0.9、厚さ0.1	一方の端に径0.3mmの透あり
67	器種不明	SK 138	現存長3.7、幅2.3、厚0.1	
68	器種不明	SE 046	長さ2.5、口径1.8、底径1.5	円柱状
69	器種不明	SE 047	現存長6.30、幅4.35～5.3、厚0.15～0.2	
70	器種不明	SK 281	現存長2.9、厚0.1	一方の端が輪をなす
71	器種不明	3号トレンチ版築	径約3.58、厚約0.8	縁付近に双圏文様の透し多四つ等間隔に施す
72	器種不明	不明	径2.1、厚さ0.2	

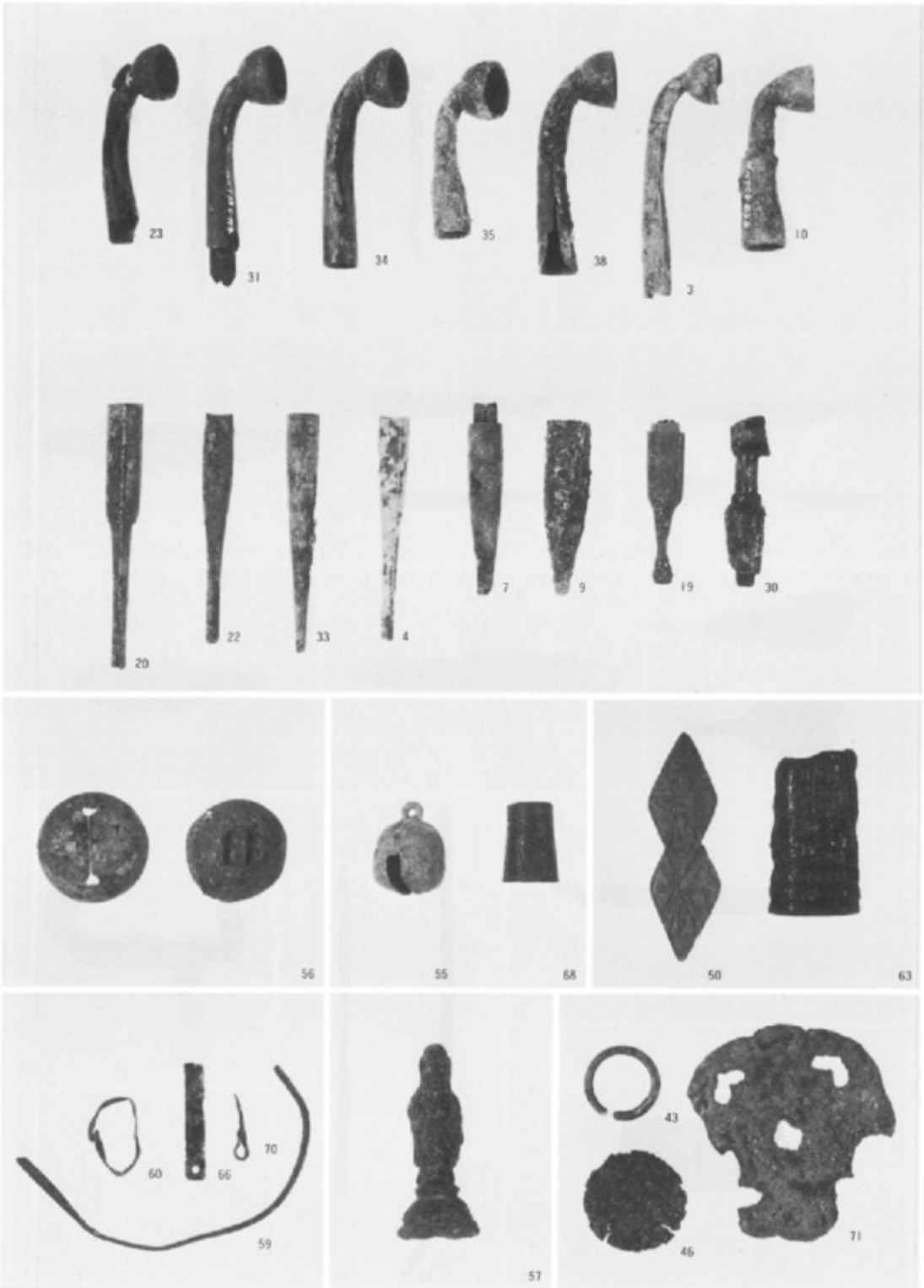


Fig. 75　中近世の青銅製品　　数字は青銅器一覧表の番号に一致する。

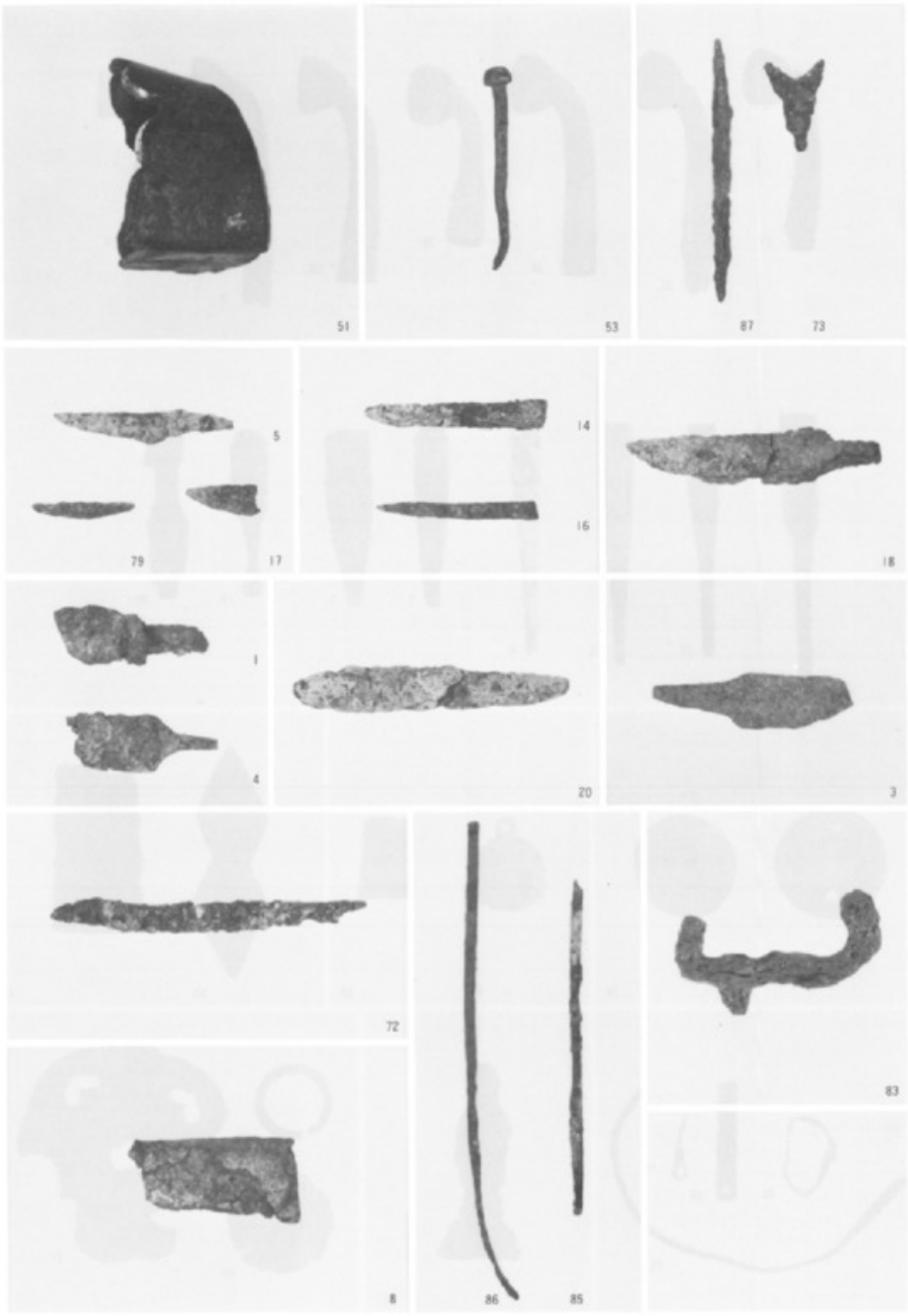


Fig. 76　中近世の青銅器・鉄製品　数字は青銅器・鉄製品一覧表の番号に一致する。

Tab. 4　第28次調査鉄製品一覧表 ①

遺物番号	種類	出土状況	計測値（単位cm） 長	幅	厚	備考
1	鹿角か	攪乱	現存長 11.7	身幅約4.2		
2	鹿角又は刃物	SE 018	現存長 12.2	3.8	1.0~0.1	断面は2等辺三角形
3	鹿角又は鏃	SK 088	現存長 9.7	5.0	0.2~0.5	先端が厚みをもつ
4	鉄鹿子	SK 098	現存長 13.1 身 8.7	身 4.2、柄 0.4	身0.2、柄0.4	
5	刀子	遺構面	約3.8 5.7	関幅1.7	0.7	古墳時代
6	刀子か?	SK 001	約 9.0			錆が著しい
7	刀子か?	SK 001	現存長 5.6	約1.3	約 0.2	
8	刀子	SE 011	現存長 10.4	身最大約2.9、柄約1.8	約 0.3	
9	刀子か?	SK 014	現存長 6.6	約1.5	0.2	柄の木質残る、身のみ残存
10	刀子	SK 014	現存長 3.0	1.3	0.2	破片
11	刀子	SK 015	現存長 5.2	約1.3	約 0.2	
12	刀子か?	SE 023	現存長 10.1	1.1	0.3	
13	刀子か?	SK 084	現存長 5.1	1.2~1.5	0.4	
14	刀子	SK 128・SK 129・SK 130	現存長 9.75	身最大 1.6		
15	刀子	SK 134	現存長 4.9	1.3		身のみ残存
16	刀子	包含層	現存長 8.8	1.0	0.25	SK 300埋土攪乱側
17	鉄刀	SE 018	現存長 5.9	最大約 2.4	0.2	先端部分残存
18	鉄小刀	遺構面	現存長 17.3 身 14.1	身最大約3.5、柄1.3	0.5	朽損る
19	鉄小刀	包含層	現存長 6.4	約 1.3	約 0.2	
20	鉄小刀	包含層	現存長約21.2	約 2.6	約 0.2	
21	鉄小刀	SK 336	現存長 7.2	約 2.2	0.5	先端部分残存
22	鉄鉾	SE 027		推 3.0		刃片残存
23	鉄鏃	SK 220	現存長 3.7	1.5	0.2	先端部分残存
24	鉄鏃	SD02下層	現存長 4.2	最大 1.4	0.15	古墳時代
25	鉄鏃	SK 356	約15.2	先端最大約 1.8	0.4	先端は二角形状を呈す
26	鳥銃	排土内		1.6~2.1	0.5	
27	鉄片	包含層		現存幅3.5	約 1.3	トレンチ断面出土
28	鉄片	遺構面	現存長約 2.6		0.3	
29	鉄片	包含層	現存長 3.0	6.7	0.2	
30	鉄片	包含層	現存長 4.1		0.1	
31	鉄片	表採		2.6~4.2	0.3	幅のある L字形
32	鉄片	表採	現存長 4.8	現存幅3.8	0.5	
33	鉄片	SE 018	現存長 4.0	約2.7	0.1	
34	鉄片	SK 220	現存長 7.8	現存幅 2.6	0.1	
35	鉄片	SK 241	現存長約 3.0	約 2.9		
36	鉄片	SK 243	現存長約 5.2	約 2.6	約 0.4	
37	棒状鉄製品	SK 046	約21.9	約 0.7	約 0.7	

Tab. 4　第28次調査鉄製品一覧表 ②

遺物番号	種類	出土地点	計測値（単位cm）			備考
			長	幅	厚	
38	棒状鉄製品	SK 058	現存長 22.7	1.0	0.9	
39	器種不明	遺構面	約 6.7	最大 4.6		
40	器種不明	SE 001	約12.6	1.3	0.2	井戸側内、幅広のL字状
41	器種不明	排土内	7.4	1.4	0.1	鏃か
42	器種不明	排土内	現存長 6.2		0.1	近・現代か？
43	器種不明	排土内		現存幅 3.3	0.15	
44	器種不明	包含層	現存長約11.3	2.2		
45	器種不明	SD02上層	現存長 4.0			
46	器種不明	撹乱				錆が著しい
47	器種不明	SK 001	現存長 5.4	約 1.9		長方形状
48	器種不明	SK 011	高さ 5.7	底辺 4.6	0.2	直角三角形状
49	器種不明	SK 012	6.6	2.8	0.9~0.3	馬鍬の破片か
50	器種不明	SK 015	現存長約 5.4			錆が著しい
51	器種不明	SK 021	現存長 3.2	現存幅 2.8	0.2	木質残る
52	器種不明	SE 018	現存長 11.3	1.7	0.2	
53	器種不明	SE 018	10.3	約 1.6	1.1~0.2	
54	器種不明	SE 018	現存長 5.7	最大 4.1	0.2	二等辺三角形状
55	器種不明	SE 018	現存長約12.3	2.5	約 0.9	
56	器種不明	SE 018	現存長 8.6	1.0~ 1.3		
57	器種不明	SE 018	約 6.8			鏃形状、近・現代か？
58	器種不明	SE 023	現存長約 6.3	1.6~3.1	0.3	先端を欠く、二等辺三角形状
59	器種不明	SK 086	現存長約 6.9	0.7~1.0	約0.3	刀子状
60	器種不明	SE 028	現存長約 6.1	1.1	約 0.7	
61	鉄片	SE 033			0.1	木質残る。板の破片状
62	器種不明	SE 034	現存長 3.8	最大幅 4.6	0.6	
63	器種不明	SK 171	現存長約 4.3	1.0		刀子状
64	器種不明	SE 044	現存長 9.1			棒状に近い錆が著しい
65	器種不明	SE 046	現存長 11.0	最大幅 1.5		現代か。先端が輪をなす
66	器種不明	SK 213	現存長 7.4	2.8		刃物
67	器種不明	SK 213	現存長 5.3	2.6	0.2	
68	器種不明	SE 059	現存長 8.7	現存幅 5.3~3.8	0.3	平べったい板状
69	器種不明	SK 267	現存長約 4.8	0.6	0.2	
70	器種不明	SK 340	現存長 18.8	0.6	0.1	
71	器種不明	SE 007	現存長 5.0	現存幅 1.9	0.2	
72	小刀又は鏃Ⅰ	SK 219	全長 29.3 身長 19.9	茎子約 1.4 身 約 3.0	茎子 0.4	佐賀県市場遺跡より同器種出土
73	鉄鏃	包含層	現存長 5.7	幅 3.6 基幅 3.0	0.6~0.4	有茎、中世
74	刀子又は鉄鏃	撹乱	現存長 4.7	1.0	0.3	身の一部残存

Tab. 4　第28次調査鉄製品一覧表 ③

遺物番号	種　　類	出　土　地　点	計　測　値 (単位cm)			備　　考
			長	幅	厚	
75	刀　　子	遺構面	現存長　3.1	現存最大 1.6	0.2	先端部分残存
76	刀　　子	遺構面	現存長　4.9	0.9	0.3	
77	刀子茎子又は鉄鏃	遺構面	現存長　2.1	0.6	0.3	
78	刀　　子	包含層	現存長　4.9	1.0~1.4	0.2	
79	刀　　子	包含層	8.1	最大 1.4	0.2~0.4	
80	刀　　子	包含層	現存長約 7.7			SK300両側、身部残存、錆が著しい
81	刀　　子	SK 018	現存長約 5.7			木質残る
82	馬具か?	遺構面	現存長　3.1	0.9~0.6	約 0.7	L字形、先端は輪状に曲がる
83	馬具か?	SK 162	現存長　6.2	0.7~0.6	0.4	幅広いU字形
84	馬具か?	不　　明	現存長　3.8	0.7~0.5	0.4~0.3	Y字形
85	金　　具	遺構面	現存長 20.2	0.5	0.3	
86	金　　具	SE 033	28.6	0.6	0.3	頭部は内側へ折りかえす。先端付先端付近から緩やかにカーブする
87	棒状鉄製品	包含層	15.5	0.9~0.4		幅は真中が最大値を示す
88	棒状鉄製品	不　　明	約26.2	1.3	1.0	頭部が大きい
89	棒状鉄製品	不　　明	約24.0	0.5	0.5	頭部が大きい
90	楔　　状	SE 011			0.3	片片残存、木質付着
91	金　　具	遺構面	現存長　5.7	0.6		端端が輪状をなす
92	鉄　　片	遺構面	現存長　4.9	1.3~1.8	0.6~0.3	鋳物
93	鉄　　片	遺構面	現存長　4.0		0.3	
94	鉄　　片	SE 011	現存長　4.5	2.0	0.4	
95	鉄　　片	SE 024	現存長約 2.9			
96	銭　　か?	不　　明	約 2.3		約 0.2	片片
97	器種不明	トレンチ	約 6.2	約 1.0		
98	器種不明	トレンチ		約 1.6	0.2~0.3	平べったいL字形
99	器種不明	2号トレンチ整地層		径 3.4	0.2	鏃か、真中に方形(長さ0.4cm)の把手有り
100	器種不明	SD02上層	現存長約10.2	約 1.0	約 0.8	L字形
101	器種不明	遺構面	現存長　4.1	0.9~0.3	0.6~0.2	緩やかなL字形を呈する
102	器種不明	遺構面	現存長約 4.6			
103	器種不明	包含層	現存長約 5.5			
104	器種不明	SK 005	現存長約 3.0			
105	器種不明	SK 113	現存長約10.4	1.7	0.8	
106	器種不明	SE 056	現存長約 5.2			
107	器種不明	SK 251	約 4.3	約 0.9		
108	器種不明	SK 270	現存長約 2.9	約 0.8		101、107と類似
109	器種不明	SK 277	約 9.9			
110	器種不明	SK 331	現存長約 4.4	1.1	1.1	
111						

Tab. 5　第28次調査貨幣一覧表 ①

番号	銭貨名	外径(cm) 水平	外径(cm) 垂直	外縁厚(cm)	出土地点	初鋳年	時代	備考
1	開元通宝	2.31	2.35	0.11	遺構面	621（武徳4年）	唐	
2	開元通宝	2.46	2.46	0.12	遺構面	621（武徳4年）	唐	
3	開元通宝	2.36	2.36	0.09	SK 018	621（武徳4年）	唐	
4	祥符通宝	2.51	2.54	0.11	遺構面	1008（大中祥符元年）	北宋	
5	崇寧通宝	3.60	3.55	0.25	遺構面	1103（崇寧2年）	北宋	
6	元祐通宝	2.40	2.40	0.14	SE 001掘り方	1093（元祐8年）	北宋	
7	元祐通宝	2.39	2.39	0.11	SK 061	1093（元祐8年）	北宋	
8	元祐通宝	2.41	2.40	0.12	SK 272	1093（元祐8年）	北宋	
9	元祐通宝	2.45	2.40	0.15	遺構面	1093（元祐8年）	北宋	
10	元祐通宝	2.49	2.49	0.12	不明	1093（元祐8年）	北宋	
11	聖宋元宝	2.44	2.49	0.11	遺構面	1101（建中靖国元年）	北宋	
12	政和通宝	2.54	計測不可	0.12	遺構面	1111（政和元年）	北宋	
13	熙寧元宝	2.50	2.50	0.11	包含層	1068（熙寧元年）	北宋	
14	熙寧元宝	2.46	2.46	0.12	遺構面	1068（熙寧元年）	北宋	
15	熙寧元宝	2.39	2.35	0.15	遺構面	1068（熙寧元年）	北宋	
16	熙寧元宝	2.40	2.40	0.15	SK 086	1068（熙寧元年）	北宋	
17	熙寧元宝	2.56	2.56	0.11	SD02東側	1068（熙寧元年）	北宋	
18	明道元宝	2.61	2.59	0.10	SD02	1032（明道元年）	北宋	他に嘉祐通宝1枚出土
19	皇宋通宝	2.50	2.50	0.11	SD02上層	1039（宝元2年）	北宋	
20	皇宋通宝	2.45	計測不可	0.11	体土中	1039（宝元2年）	北宋	
21	天聖元宝	2.50	2.50	0.12	不明	1023（天聖元年）	北宋	
22	天聖元宝	2.49	2.50	0.12	SD03上層	1023（天聖元年）	北宋	
23	嘉祐通宝	計測不可	計測不可	0.11	SK 038	1119（嘉祐元年）	北宋	
24	至和元宝	2.50	2.50	0.11	遺構面	1054（至和元年）	北宋	
25	咸平元宝	2.50	2.50	0.12	SK 213	998（咸平元年）	北宋	
26	景徳元宝	2.42	2.42	0.15	SE 065	1004（景徳元年）	北宋	他に寛永通宝1枚出土
27	景徳元宝	2.52	2.52	0.11	不明	1004（景徳元年）	北宋	
28	大観通宝	2.50	2.50		表採	1107（大観元年）	北宋	
29	元豊通宝	2.49	2.49	0.14	SK 321	1078（元豊元年）	北宋	
30	元豊通宝	2.40	2.50	0.11	不明	1078（元豊元年）	北宋	
31	宋元通宝か？	計測不可	計測不可	0.09	遺構面	960（建隆元年）	北宋	錆が著しい
32	嘉祐通宝	2.51	2.51	0.11	遺構面	1056（嘉祐元年）	北宋	
33	紹聖元宝	2.40	2.40	0.10	遺構面	1094（紹聖元年）	北宋	SK 09周辺
34	大中通宝	2.25	2.29	0.15	遺構面	1367（至正27年）	元	
35	永楽通宝	2.55	2.60		遺構面	1408（永楽6年）	明	
36	永楽通宝	2.50	2.50	0.15	SK 019	1408（永楽6年）	明	他に寛永通宝9枚出土
37	宣徳通宝	2.49	2.49	0.14	SD02	1433（宣徳8年）	明	

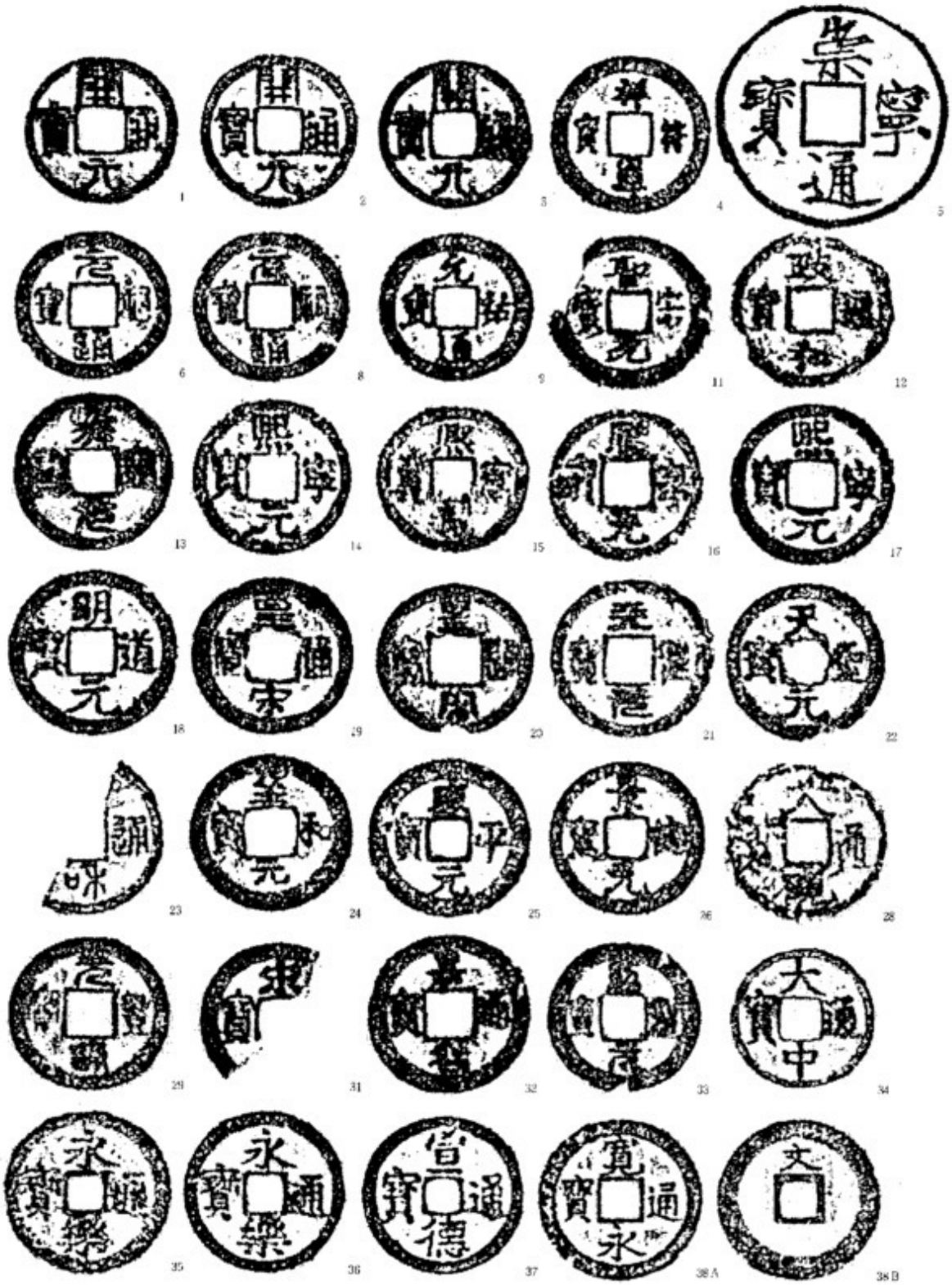


Fig. 77　中近世の貨幣（1/1）　　数字は貨幣一覧表の番号に一致する。

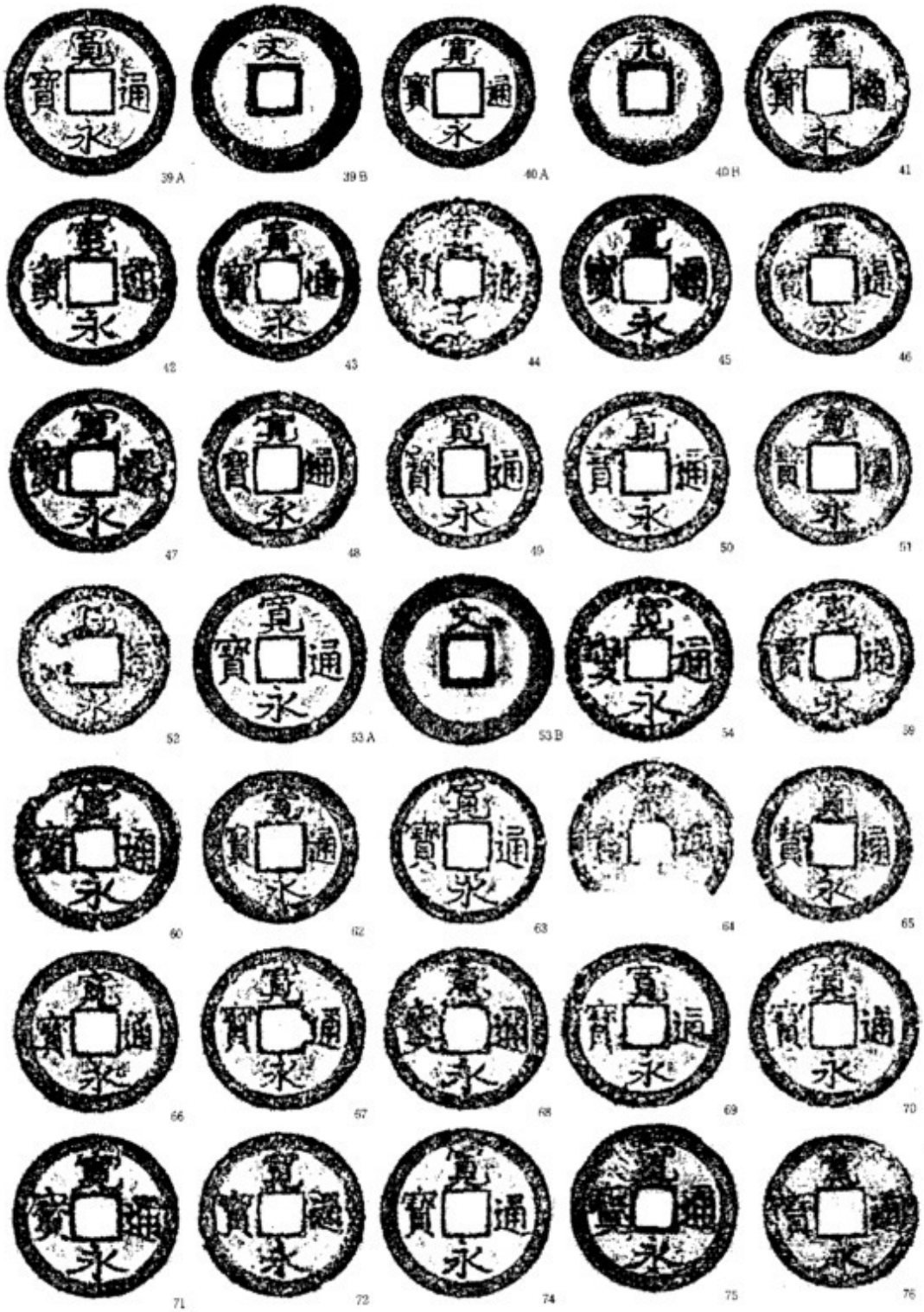


Fig. 78　近世の貨幣（1/1）（Aは表Bは裏を示す）数字は貨幣一覧表の番号に一致する。

Tab. 5　第28次調査貨幣一覧表 ②

番号	銭貨名	外径(cm) 水平	外径(cm) 垂直	外縁厚(cm)	出土地点	初鋳年	時代	備考
38	寛永通宝	2.51	2.51	0.11	遺構面	1668（寛文8年）	江戸	背面上に「文」
39	寛永通宝	2.51	2.51	0.15	遺構面	1668（寛文8年）	江戸	背面上に「文」
40	寛永通宝	2.26	2.26	0.1	遺構面	1241（寛保元年）	江戸	背面上に「文」
41	寛永通宝	2.46	2.46	0.1	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
42	寛永通宝	2.51	2.51	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
43	寛永通宝	2.44	2.44	0.1	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
44	寛永通宝	2.42	2.42	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
45	寛永通宝	2.49	2.49	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
46	寛永通宝	2.31	2.31	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
47	寛永通宝	2.55	2.55	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
48	寛永通宝	2.35	2.36	0.09	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	背面上に「足」 底部、下野足尾所鋳造
49	寛永通宝	2.35	2.35	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
50	寛永通宝	2.45	2.45	0.11	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
51	寛永通宝	2.30	2.30	0.1	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
52	寛永通宝	2.21	2.21	0.1	遺構面	1636（寛永13年）以降	江戸	
53	寛永通宝	2.51	2.51	0.11	遺構面	1668（寛文8年）	江戸	背面上に「文」
54	寛永通宝	2.51	2.50	0.15	表採	1636（寛永13年）以降	江戸	
55	寛永通宝	約2.30	計測不可	0.12	SK 001	1636（寛永13年）以降	江戸	
56	寛永通宝	約2.51	約2.51	約0.12	SK 001	1636（寛永13年）以降	江戸	
57	寛永通宝	約2.41	約2.41	約0.1	SK 001	1636（寛永13年）以降	江戸	
58	寛永通宝	約2.42	約2.42	約0.11	SK 001	1636（寛永13年）以降	江戸	
59	寛永通宝	2.31	2.29	0.11	SK 005・SK 006	1636（寛永13年）以降	江戸	
60	寛永通宝	2.46	2.49	0.11	SK 005・SK 006	1636（寛永13年）以降	江戸	
61	寛永通宝	2.50	2.50	0.11	SK 005・SK 006	1636（寛永13年）以降	江戸	
62	寛永通宝	2.31	2.31	0.11	SK 006	1636（寛永13年）以降	江戸	
63	寛永通宝	2.31	2.31	0.11	SK 384	1636（寛永13年）以降	江戸	
64	寛永通宝	2.41	計測不可	0.11	SK 384	1636（寛永13年）以降	江戸	
65	寛永通宝	2.40	2.39	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
66	寛永通宝	2.45	2.45	0.1	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
67	寛永通宝	2.42	2.42	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
68	寛永通宝	2.42	2.45	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
69	寛永通宝	2.50	2.50	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
70	寛永通宝	2.50	2.50	0.11	SK 019	1668（寛文8年）	江戸	背面上に「文」
71	寛永通宝	2.45	2.45	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
72	寛永通宝	2.46	2.46	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	背面上に「松」 佐渡相川所鋳銭
73	寛永通宝	2.31	2.31	0.11	SK 019	1636（寛永13年）以降	江戸	
74	寛永通宝	2.51	2.51	0.11	SE 065上層	1668（寛文8年）	江戸	背面上に「文」

Tab. 5　第28次調査貨幣一覧表 ③

番号	銭貨名	外径(cm) 水平	外径(cm) 垂直	外縁厚(cm)	出土地点	初鋳年	時代	備考
75	寛永通宝	2.55	2.55	0.11	腐植	1636（寛永13年）以降	江戸	
76	寛永通宝	2.30	2.30	0.10	包含層	1636（寛永13年）以降	江戸	
77	一銭	2.81	2.83	0.19	遺構面	1874（明治7年）	明治	
78	不明	計測不可	計測不可	0.11	遺構面			錆が著しい
79	不明	計測不可	計測不可	0.15	遺構面			〃
80	不明	計測不可	計測不可	計測不可	遺構面			〃
81	不明	2.50	2.50	0.15	遺構面			〃
82	不明	2.50	2.50	0.15	遺構面			〃
83	不明	計測不可	計測不可	計測不可	遺構面			〃
84	不明	計測不可	2.52	0.12	遺構面			〃
85	不明	2.60	2.60	約0.25	遺構面			〃
86	不明	2.30	2.30	0.1	遺構面			〃
87	不明	計測不可	計測不可	0.1	排土中			〃
88	不明	計測不可	計測不可	0.11	SD01			破片
89	不明	計測不可	2.45	0.12	SD02			錆が著しい
90	不明	計測不可	計測不可	0.1	SD 021上層			〃
91	不明	計測不可	計測不可	0.11	SD02上層			破片
92	不明	2.49 2.51		0.11	SD02			No3ベルト内、錆が著しい
93	不明	計測不可	計測不可	計測不可	SK 005 SK 006			錆が著しい
94	不明	計測不可	計測不可	計測不可	SK 005 SK 006			〃
95	不明	計測不可	計測不可	計測不可	SE 012			〃
96	不明	2.6	2.6	約 0.2	SE 012			〃
97	不明	計測不可	計測不可	0.2	SK 031			〃
98	不明	2.15	2.15	0.11	SK 061			〃
99	不明	計測不可	計測不可	計測不可	SK 128・SK 129 SK 130			〃
100	不明	約2.50	約2.50	約 0.2	SK 172			〃
101	不明	2.40 2.40		0.12	SK 064			〃

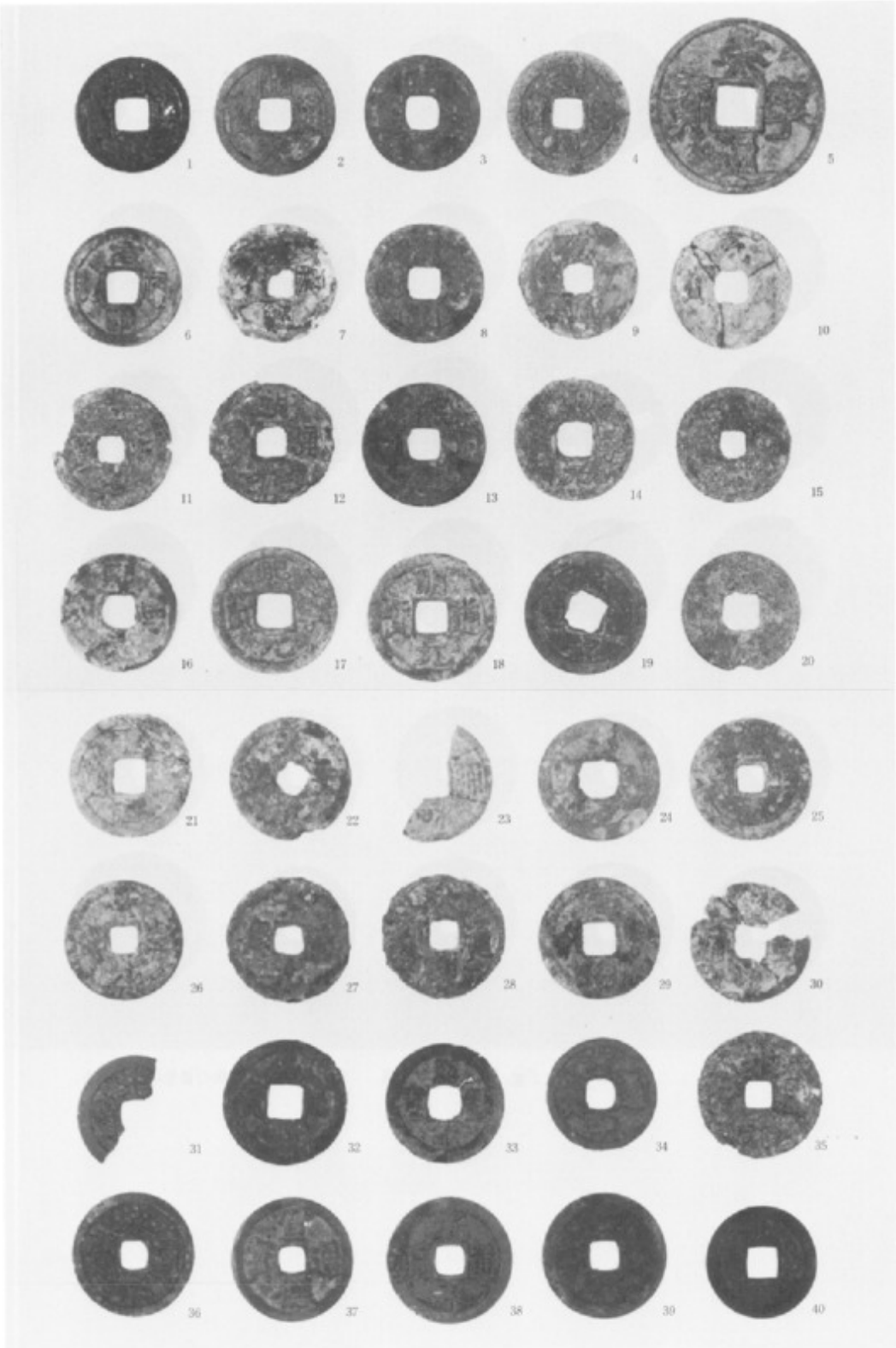


Fig. 76　貨幣写真　　数字は貨幣一覧表の番号に一致する。

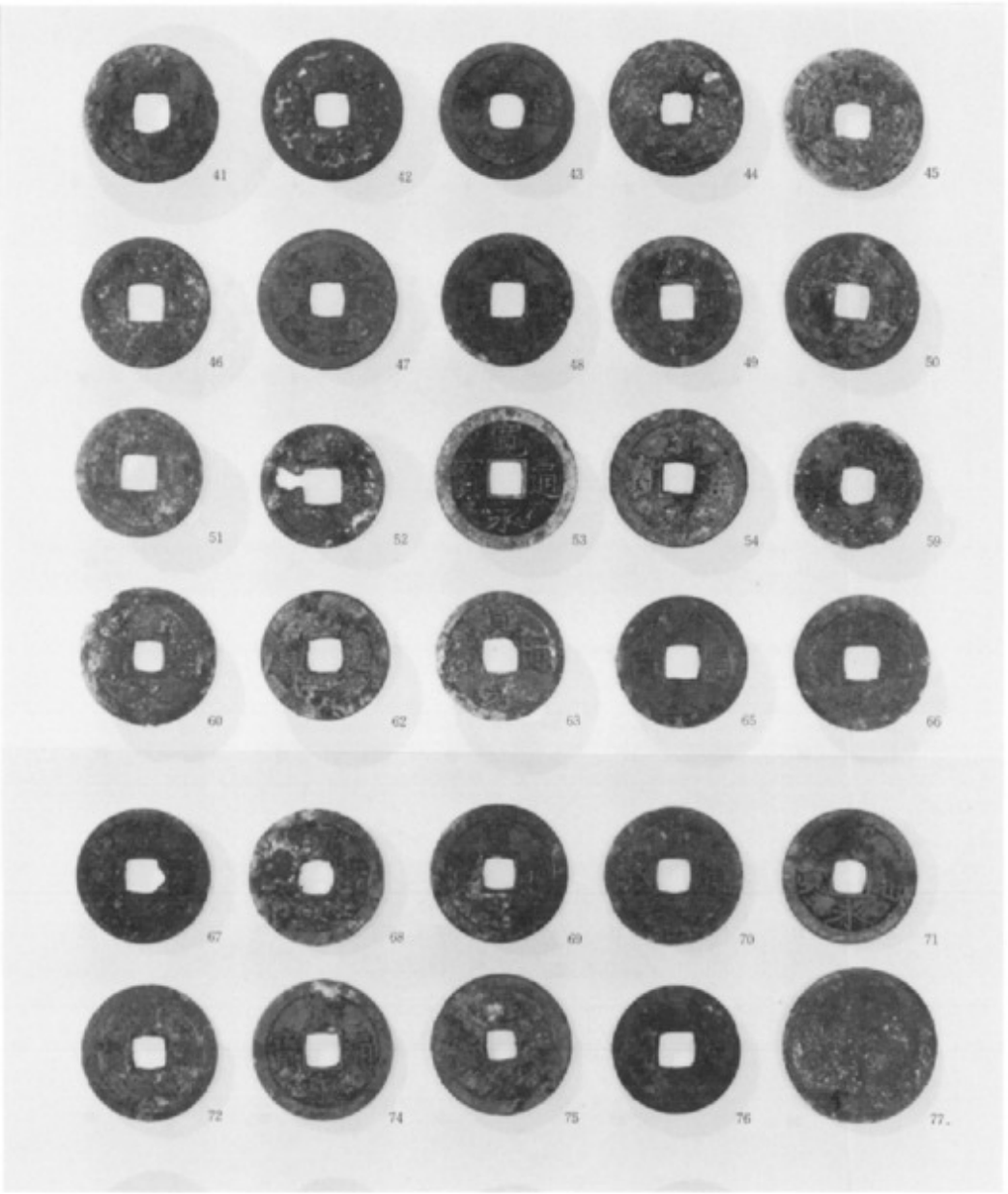


Fig. 80　貨幣写真　　数字は貨幣一覧表の番号に一致する。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ①

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
1 号	SK 001	土壙	楕円形		352	約 400	34.2	青銅器（煙管）、刀子、銅銭	近世	
1A号	SK 002	土壙 井戸か	楕円形	截頭円錐形	126	136		土師器（杯・皿・灯明皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鉢、鍋・湯釜・火舎、七輪）、瓦質土器、須恵質土器、唐津系（甕・壺・碗・皿）、京焼系（碗・皿）、肥前系（壺・蓋）、伊万里系（碗・皿・小杯）、建泉（碗・皿）、高麗（象嵌・瓶）、李朝陶磁器、中国白磁（碗・皿）、輸入陶器（水差・瓶・壺）、瓦、土鈴、土錘、土人形石製品、埴輪、青銅器（煙管）	近世	肥前陶器（壺・蓋18世紀～幕末）井戸か、未掘
1B号	SK 003	土壙 井戸か	円形	截頭円錐形	240	約 200	143	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・杯）、土師質土器（鍋・甕）、瓦質土器（火舎）、陶質土器（擂鉢）、唐津系（碗・甕）、関西系陶器（色絵碗）、伊万里系（小皿・壺・瓶・そば猪口）、建泉（碗・皿）、同安（碗）、中国白磁（碗・小皿）、瓦、土錘、埴輪	近世	唐津系18世紀、関西系18世紀、伊万里系18世紀、瓶17世紀後半、そば猪口18世紀）
2 号	SK 004	土壙 井戸か	円形	截頭円錐形	約 244	200	65.4	土師器（甕・碗・杯・灯明皿・焼塩壺・皿）、瓦器（皿）、土師質土器（甕・鍋・火舎・皿・杯・鉢）、国産陶器（関西系壺・土瓶・肥前系碗・小壺・灯明皿）、国産磁器（碗・皿・杯・仏花器・そば猪口）、青銅器（煙管）	近世	国産陶器（関西系壺17世紀後～幕末土瓶18～19世紀、肥前系碗18～19世紀、小壺18世紀～幕末）
3A号	SK 005	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 130	約 120	76.5	土師器（杯・皿）、須恵器、唐津系（甕・碗）、肥前系（甕）、建泉（碗・皿）、同安（碗・皿）、中国白磁（碗・皿）、輸入陶器（壺・鉢・天目碗）、埴輪、瓦	近世	井戸か
3B号	SK 006	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 106	約 166	87	土師器（焼塩壺・杯・皿・灯明皿）、土師質土器（灯明皿・焼塩壺）、関西系陶器（土瓶）、伊万里系（小碗・皿・仏花器）、鉄釘、鉄津、青銅器（煙管）、銅銭	近世	関西系陶器（土瓶18～19世紀）井戸か
4 号	SK 007	土壙	隅丸長方形	U字形	約 150		61.3	土師器（皿）、中国明代（碗）		
5 号	SK 008	土壙	隅丸方形		約 156		117	土師器（杯・皿）、瓦器（甕・鉢・碗）、土師質土器（鍋・灯明皿）、須恵質土器（東播系）、高取系（鉄釜壺）、京焼系（碗）、伊万里系（筒江窯碗・小碗・大皿・青炉・紅皿・仏飯器・そば猪口）、輸入陶器（壺・鉢・大甕）、輸入磁器	近世	伊万里系（小碗18世紀、大阪新町お茶紅）
6 号	SK 009	土壙	円形		100	100				
7 号	SE 009	井戸	円形	円筒形	363	300 約 33	83 70	土師器（杯・皿）、土師質土器（七輪・大皿）、瓦質土器（甕）、唐津系（甕・壺・碗・皿）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・皿）、建泉（碗）、輸入陶器、埴輪	近世	伊万里系（碗・皿、1640～59）
8 号	SE 010	井戸	円形	円筒形	（井筒） 65 152	63 130	46.5	土師器（皿）、土師質土器（灯明皿）、輸入陶器（天目碗）、中国白磁（碗）	近世	
9 号	SK 010	土壙	円形	円筒形	約 127	129	93.5	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（鍋・摺鉢）、唐津系（鉢・瓶・小碗）、京焼系（碗）、伊万里系（碗）、建泉（碗）、同安（碗）、埴輪、青銅器（煙管）、瓦、滑石石鍋	近世	
10 号	SK 011	土壙	円形	円筒形	約 245	240	124.3	土師器（杯・皿）、土師質土器、唐津系（鉢・瓶・碗・鉄絵皿）、伊万里系（碗・小碗・皿）、輸入陶磁器、瓦、鋳型、土鈴、鉄釘	近世	唐津系（鉢・瓶・碗・鉄絵皿、1030～1059）井戸
11 号	SK 012	土壙	長方形	逆梯形	85	160	90.8	土師器、瓦質土器、京焼系（碗）、緑釉陶器（灯明皿）、輸入陶器	近世	
12 号	SE 011	井戸	円形	逆梯形	150	200		土師器（杯・皿）、瓦器（甕）、土師質土器（灯明皿）、唐津系（碗）、伊万里系、鉄釘、刀子、鉄製品	近世	
13 号	SK 013	土壙	楕円形	逆梯形	300	170	133	土師器（杯・皿・灯明皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋・七輪）、須恵質土器（碗）、唐津系（甕・壺・碗・調鉢・瓶・皿）、京焼系（皿・碗）、伊万里系（碗・小碗・瓶・皿）、輸入陶器、中国白磁（碗・瓶・紅・皿）、建泉、土鈴、滑石石鍋、埴輪	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ②

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
14 号	SK 014	土壙	隅丸長方形	逆梯形	90	230	80	土師器（杯・皿・灯明皿）、瓦器（碗）、土師質土器（火舎・鍋）、鍋蓋系（甕）、唐津系（鉢・碗）、輸入陶器（陸地鋸花手）、中国白磁（碗）、李朝（皿）、伊万里系（皿）、土製人形、鋳型、鉄釘、滑石石鍋、埴輪、刀子	近世	輸入陶器（陸地鋸花手16世紀末～17世紀初）
15 号	SK 015	土壙	楕円形	擂鉢形	256	263	113.5	土師器（杯・皿）、土師質土器（火舎）、須恵質土器（甕・鉢）、唐津系（瓶・碗）、伊万里系（碗・小杯・仏飯器）、輸入陶器、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、瓦、刀子	近世	
16 号	SK 016	土壙	円形	擂鉢形	186	180	200.5	土師器（杯・皿）、中国白磁（碗）、埴輪 下層—土師器（杯・皿）、須恵器（甕）、国産陶器、龍泉（碗）、中国白磁（碗・皿）	近世	
17 号	SK 017	土壙	楕円形	逆梯形	約 160	約 190	123	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（七輪）、唐津系（碗・鉢）、国産磁器、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、瓦、滑石石鍋、埴輪	近世	
18 号	SE 012	井戸	楕円形	截頭円錐形	(井筒) 60 142	60 117	150	土師器（杯・皿）、瓦器（拉鉢・鉢・瓶）、土師質土器（湯釜・火舎）、須恵質土器（東播系捏鉢）、唐津系（甕）、輸入陶器（甕・壺・碗・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、銅銭、チャート、骨、木炭、滑石石鍋、埴輪	中世	唐津系陶器は流込みか
19 号	SK 384	土壙	楕円形		120	100		中国白磁（碗）、銅銭	中世	井戸か
20 号	SK 018	土壙	楕円形	舟底形	約 630	500	190.5	土師器（皿・灯明皿）、瓦器（皿）、土師質土器（甕・鍋・七輪・焼塩壺）、須恵質土器（鉢）、唐津・伊万里系（鉢・碗・皿・そば猪口・紅皿・菊皿・仏飯器）、銅銭、青銅器（煙管）、青銅器片、刀子、中国明代（碗）、瓦、土鈴、土製人形、鉄釘、鉄滓、漆被膜、骨、砥石、環状銅製品	近世	伊万里系（碗、18世紀）、中国明代（碗、16世紀末～17世紀前）
21 号	SK 019	土壙	楕円形	舟底形	約 600	400	101.1	土師器（杯・皿・灯明皿・焼塩壺）、土師質土器（鍋・七輪）、瓦質土器（火舎・湯釜）、須恵質土器、唐津系（甕・鉢・碗・内野山窯・皿・瓶）、京焼系（碗）、伊万里系（甕・皿・瓶・猪口・鉢・碗・仏飯器・髯皿）、輸入陶器（壺・碗）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（皿）、瓦、土製鋳型、土製人形、釘、砥石、銅銭、青銅器（煙管）	近世	唐津系（内野山窯・皿・瓶、17世紀後～18世紀前）、伊万里系（髯皿、18世紀）
22 号	SK 020	土壙	隅丸方形	逆梯形	約 92	約 65	71.2	土師器（杯・灯明皿）、土師質土器（鍋・焼塩壺）、唐津系（甕・皿）、伊万里系（碗・鉢・大皿）、輸入陶器、中国白磁（碗）、中国明代（碗・皿）、骨、瓦、埴輪	近世	
23 号	SK 021	土壙	楕円形	逆梯形	160	116	62	常生式土器（甕）、土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵質土器（東播系）、輸入陶磁器、中国白磁（碗）、瓦	中世	
24 号	SK 022	土壙	隅丸方形	舟底形	63	約 125	80	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、丹後土器（中国白磁（碗）、輸入陶器（壺）、同安（碗）、龍泉（皿）、木炭、埴輪	中世	境界地にある
25 号	SK 023	土壙	隅丸方形	逆梯形	125	約 110	60	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器（擂鉢）、輸入陶器、中国白磁（碗）、瓦、埴輪	中世	SK 109、121を切る
26 号	SK 024	土壙	隅丸長方形		約 50			土師器（杯・皿）、須恵器、瓦器（碗）、土師質土器、中国黒磁器、龍泉（碗）、釘	中世	
27 号	SK 025	土壙	楕円形	逆梯形	98	71	94	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵質土器（甕）、龍泉（碗）、埴輪	中世	
28 号	SK 026	土壙	円形	逆梯形	154	135	108.9	土師器、須恵器、須恵質土器（東播系）、土師質土器、中国白磁（碗）、埴輪	中世	
29 号	SK 027	土壙	隅丸長方形	逆梯形	206	80	97	土師器（杯・皿）、須恵質土器（東播系壺・鉢）、土師質土器、中国白磁（碗）、龍泉（碗）、埴輪	中世	土壙墓か
30 号	SE 013	井戸	隅丸方形	逆梯形	約 92	約 95	67.2	土師器（杯・皿）、中国青磁（皿）、埴輪	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ③

整理番号	分類番号	遺構名	形態		規模（計測値、単位：cm）			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
31 号	SK 028	土壙	楕円形	逆梯形	76	54	9.4	土師器、砥石	中世	
32 号	SK 029	土壙	楕円形	逆梯形	123	91	16.1	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器、瓦	中世	
33 号	SK 030	土壙	楕円形	舟底形	116	77	41.6	土師器、土師質土器、瓦器（鍋）、輸入陶器、中国白磁（碗）、国産陶磁器、瓦	近世	
34 号	SK 031	土壙	隅丸方形	逆梯形	約 89		39	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器、須恵質土器（東播系）、輸入陶器、中国白磁（碗）、泥メンコ、植輪	中世	
35A 号	SK 032	土壙	隅丸長方形		約 118	約 98	14.6	土師器（甕・杯・皿）、土師質土器、唐津系（摺鉢・碗）、輸入陶器、中国白磁（碗）、龍泉・同安（碗）、瓦	近世	
35B 号	SK 033	土壙	隅丸長方形			約 125	44	国産・輸入陶磁器	近世	
36 号	SK 034	土壙	長方形		190	97	34.5	土師器（杯・皿）、国産陶磁器、輸入陶器、中国青磁・白磁（碗）、鉄釘	近世	
37 号	SK 035	土壙	隅丸方形		131	121	23	土師器（杯・皿）、輸入陶器、中国白磁（碗）、漆被膜鉄釘	中世	
38 号	SK 036	土壙	隅丸方形	逆梯形	140	約 120	83.7	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、輸入陶器（壺・甕）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）、泥メンコ、植輪	中世	SK 170と切り合う
39 号	SK 037	土壙	隅丸長方形	逆梯形	122	104	30.3	弥生式土器（甕）、土師器（杯）、輸入陶器、中国白磁（碗）、草食動物像、植輪、鉄釘 下層―弥生式土器、土師器、輸入陶器、中国白磁（碗）、瓦質土器（甕）	中世	
40 号	SK 038	土壙	楕円形			約 145	74	土師器（杯・皿）、中国白磁（碗）、龍泉・同安（碗）、輸入陶器（甕・壺・摺鉢）、銅鏡	中世	
41 号	SE 014	井戸	円形	円筒形	310	320		土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋・七輪・焼塩壺）、瓦質土器（鍋・摺鉢・甕）、瓦器（碗）、輸入陶器（甕・壺・鉢・盤・双耳壺）、龍泉・同安（碗・皿）、李朝青磁（皿）、植輪、青銅器（運管）、瓦、鉄釘、輝緑凝灰岩		
42 号	SK 039	土壙	隅丸長方形			約 180		土師器（杯）、土師質土器（壺・鍋）、京焼系（碗）、中国明代（碗）、中国白磁	近世	井戸か
43 号	SE 015	井戸	楕円形	円筒形	約 380	550	207.2	土師器（杯・皿）、須恵器（奈良・碗・杯）、瓦器（甕・碗）、土師質土器（鍋・摺鉢）、瓦質土器（鍋・摺鉢）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・皿）、龍泉・同安（碗）、李朝（皿）、瓦、鉄釘、鉄津、植輪、骨、石炭	近世	
44 号	SK 040	土壙	円形	摺鉢形	約 166	約 132	約41.8	土師器（杯）、瓦器、土師質土器、輸入陶器、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）	中世	
45 号	SK 041	土壙	円形		約 73	約71		土師器、須恵器、輸入陶器、植輪（形象）	中世	
46 号	SE 016	井戸	円形	截頭円錐形	（井筒） 123 226	118 185	130.9	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（碗）、土師質土器、須恵質土器（甕）、瓦、植輪、骨、輸入陶器（碗・水差）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）、朝鮮（皿）	中世	
47 号	SK 042	土壙	楕円形	逆梯形	110	約 107	65	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器（塩焼壺）、輸入陶器、唐津系（碗・皿）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、泥メンコ、砥石、輝緑凝灰岩、植輪	近世	
48 号	SK 043	土壙	隅丸方形	半丸底形				土師器、瓦器（碗）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）	中世	
49 号	SE 017	井戸	不整円形	逆梯形	183	177	137	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋・焼塩壺）、瓦質土器（鍋・茶釜）、輸入陶器（甕・鉢）、国産陶磁器、中国白磁（碗・皿）、龍泉（碗）、土製人形、貝	近世	
50 号	SK 044	土壙	円形	円筒形	14	14		土師器（皿）、土師質土器（鍋・焼塩壺）、国産陶磁器輸入陶器、龍泉（碗）、同安（皿）、中国白磁、土製人形	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ④

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値，単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
51 号	SK 045	土 壙	不整円形		100	100	70	土師器、瓦器、土師質土器、輸入陶磁器、鉄釘、中国白磁（碗）	中世	
52 号	SE 018	井 戸	円 形	逆梯形			88	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器（鍋・擂鉢）、唐津・京焼系（碗・皿）、国産陶器、伊万里系（碗）、中国白磁（碗）、朝鮮染付（碗）、鉄釘、瓦、刀、鉄製品	現代	井筒は土管
53 号	SE 003	井 戸	円 形	擂鉢形	約 60	約 65	8	土師器、土師質土器、国産陶磁器	近世	
54 号	SK 046	土 壙	楕 円 形	逆梯形	90	130		土師器（皿）、土師質土器（焼塩壺・擂鉢・鍋・七輪）、瓦質土器（甕）、唐津系（碗・皿・瓶）、京焼系（碗）、伊万里系（壺・鉢・碗・仏飯器・蓋）、国産白磁（碗）、輸入陶器（鉢）、龍泉（碗）、中国白磁（碗・皿）、中国染付（碗）、瓦、土製人形、石英、青銅器（煙管・銅金具）、鉄滓、棒状鉄製品	近世	井戸か
55 号	SE 019	井 戸	円 形	円筒形	約 60	約 65	8	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋・火舎）、須恵質土器、輸入陶器、中国白磁（碗）、鉄釘、赤間石	中世	
56 号	SK 047	土 壙	隅丸方形	逆梯形	180	190		土師器（杯・皿）、輸入陶磁器、鉄滓	中世	
57 号	SK 048	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	150		54.9	土師器（杯・皿）、土師質土器（甕・釜・鍋・擂鉢）、瓦質土器、唐津系（碗・皿）、伊万里系（碗）、輸入陶磁器、鉄滓、砥石、滑輪	近世	同一番号の土壙がある
58 号	SK 049	土 壙	楕 円 形	逆梯形	136	99	92.5	土師器（杯・皿）、須恵器（杯）、土師質土器（鍋）、李朝（碗）、中国白磁、輸入陶器、鉄釘、滑輪	中世	
59 号	SK 050							土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）、越州（皿）、同安（碗）、鉄棒、木炭、瓦	中世	
60 号	SK 051	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	約 35	約 74	80	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器、瓦 上層－土師器（杯・皿）、輸入陶磁器、瓦、土錘、鉄釘	中世	境界線にある
61 号	SK 052	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	約 147	約 102	99	土師器（杯・皿）、土師質土器、国産陶磁器、輸入陶器、中国白磁（小皿）、瓦 下層－土師器、輸入陶器、中国白磁（碗）、瓦	中世	国産陶磁器は流込みか？ 境界線にある
62 号	SK 053	土 壙	隅丸方形		約 70	約 80	71.4	土師器（杯・皿）、輸入陶磁器、鉄釘	中世	
63 号	SK 054	土 壙	隅丸長方形	U字状	115	85	90.5	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、陶質土器（擂鉢）、輸入陶器（龍泉・同安）、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、瓦 上層－土師器（杯・皿）、龍泉（碗）、瓦	中世	
64 号	SK 055	土 壙	長 方 形	逆梯形	164	95	86.8	土師器（杯・皿）、須恵器、瓦器、土師質土器（甕）、京焼系（皿）、国産陶磁器、輸入陶器、中国白磁（碗）、中国青磁、瓦、滑輪	中世	
65 号	SK 056	土 壙	不 整 形	逆梯形	約 73	約 140	3.2	土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、土師質土器、国産陶磁器、輸入陶器、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦、滑輪	近世	
66 号	SK 057	土 壙	隅丸長方形		約 120	56.3		土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗）、瓦、鉄滓 上層－土師器（杯・皿）、輸入陶器、鉄滓 下層－土師器（杯・皿）、輸入陶磁器	中世	
67 号	SK 058	土 壙	隅丸長方形		156	約 95	24.4	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗）、朝鮮（皿）、瓦、棒状鉄製品、滑輪	中世	
68 号	SK 059	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	約 90	65	35	土師器（杯・皿）、輸入陶磁器、滑輪、瓦 下層　土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器（甕・壺）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）、鉄釘	中世	
69 号	SK 060	土 壙	不 整 形	逆梯形	138	約 123	39.1	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（杯）、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（龍）、中国白磁（碗）、中国青磁、瓦、滑石石鍋	中世	境界線にある

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表　⑤

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
70 号	SK 061	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	223	110	62	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕）、土師質土器、瓦質土器、瓦質土器（擂鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・盤）、龍泉（碗）、朝鮮（青磁）、中国白磁（碗）、瓦、銅銭、木炭、鉄輪、鉄釘、鉄滓、青銅器（煙管）		土壙墓か？
71 号	SK 062	土 壙	円 形	逆梯形	259	約 208	102	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器（瓶）、龍泉・同安（碗）、白磁（碗）、鉄釘	中世	
72 号	SK 063	土 壙	隅丸長方形		70	90		土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器、中国青磁・白磁（碗）、鉄滓、玄武岩 上層ー土師器、輸入陶磁器 下層　土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗）、龍泉（碗）、鉄滓、鉄釘	中世	
73 号	SK 064	土 壙	隅丸長方形					土師質土器 上層ー土師器（杯・皿）、輸入陶磁器、瓦、鉄釘、鏡	中世	
74 号	SK 065	土 壙	隅丸長方形	舟底形	215	185	69	土師器（杯）	中世	
75 号	SK 066	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	136	97	61	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、瓦質陶器（甕）、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）、瓦、鉄釘		
76 号	SK 067	土 壙	円 形	逆梯形	97	98	18	土師器（杯・皿）、須恵器（杯）、土師質土器（擂鉢、火舎）、輸入陶器（壺・壺・瓶）、同安（碗）、中国青磁・白磁（碗）、中国明代（碗）、瓦、鉄釘、砂岩、木炭、滑石石鍋	中世	
77 号	SK 068	土 壙	楕 円 形	逆梯形	133	約 104	44	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器	中世	
78 号	SK 069	土 壙	楕 円 形	逆梯形	104	94	14.6	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋）、輸入陶器（壺・壺・鉢・盤）、中国白磁（碗）、中国青磁	中世	
79 号	SK 070	土 壙	楕 円 形	レンズ形	約 77	約 60	11	土師器（杯）、瓦器、龍泉（碗）、輸入陶器、凝灰岩質岩	中世	
80 号	SK 071	土 壙						龍泉（碗）	中世	
81 号	SK 072	土 壙	円 形	逆梯形	108	約 98	39.9	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、輸入陶器（瓶）、中国白磁（碗）、越州（碗）	中世	
82 号	SK 073	土 壙	楕 円 形	逆梯形	107	74	34.5	土師器、土師質土器、輸入陶器	中世	
83 号	SK 074	土 壙	楕 円 形	擂鉢形	160	136	74.5	土師器（甕・杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋・土鍋）、唐津系（碗）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・紅皿・小杯）、輸入陶器（瓶）、中国白磁（碗・皿）、中国明代（皿）、土錘、砥、貝	近世	
84 号	SE 020	井 戸	円 形	裁頭円錐形	(骨階) 60 約 136	55 約 100	124	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（七輪）、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗）、龍泉・同安（碗）、瓦、鉄釘、砥石、滑石石鍋	中世	土師質土器（七輪）は流込みか
85 号	SK 075	土 壙	楕 円 形	逆梯形	200	約 144	55	土師器（杯・皿）、土師質土器、国産陶磁器	近世	SE 020 と切合う
86 号	SK 076	土 壙	円 形	擂鉢形	約 135	約 124	118	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器		井戸か
87 号	SE 021	井 戸	円 形		(井筒) 48 95	46 94	80	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋・七輪）、国産陶器（壺・甕・土鍋・仏花器・墨汁壺）、国産磁器（碗・皿・猪口）、土錘、土製、鉄釘、木炭	近世	
88 号	SE 022	井 戸	楕 円 形	逆梯形	248	約 125	81	土師器（杯・皿）、須恵器、輸入陶器（甕・壺・鉢）、山茶青磁・白磁（碗）、瓦、凝灰岩質岩、砥石、鉄輪	近世	土壙か
89 号	SK 077	土 壙	円 形	擂鉢形	約 204		90	土師器、土師質土器		
90 号	SK 078	土 壙	楕 円 形	逆梯形	約 136	88	19	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、輸入陶器（碗・瓶）、中国白磁・青磁（碗）、瓦、鉄釘、砥石、鉄輪	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑥

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(推測値、単位:cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
91 号	SK 079	土 壙	楕 円 形		244	230	86	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器、輸入陶磁器、瓦、鉄釘、鉄輪	中世	
92 号	SE 023	井 戸	楕 円 形	漏斗状円錐形	約 400	約 295	219.2	土師器（杯・皿）、土師質土器（塩焼壺・鍋・火舎）、唐津系（鉄絵碗）、京焼系（碗）、国産陶器（壺・壺・鉢・内野山窯）、伊万里系（壺・鉢）、輸入陶器、中国白磁（碗）、瀬戸系（碗）、瓦、鉄滓、貝、硯石、青銅製品、刀子	近世	唐津系（鉄絵碗16～17世紀初）、国産陶器（内野山窯跡17世紀後～18世紀前）
93 号	SE 024	井 戸	不整円形		162	130	86	瓦質土器（壺）、土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、瓦質土器（鍋）、国産陶磁器、輸入染付磁器、中国白磁（碗）、明代（皿）、瓦、鉄釘、埴輪（円筒）	近世	SE 023 と切合う
94 号	SK 080	土 壙	楕 円 形	擂鉢状	約 104	約72	100	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器	中世	SE 024 を切合う
95 号	SK 081	土 壙	隅丸長方形		100	60	18.9	土師器（皿）、須恵器、中国白磁（碗・皿）	中世	
96 号	SK 082	土 壙	隅丸長方形		78	40	19.9	土師器（杯）、瓦器（碗）、輸入陶磁器、鉄釘	中世	
97 号	SK 083	土 壙	小 円 形		37	39	19	土師器（皿）、輸入陶磁器、埴輪（円筒）	中世	
98 号	SK 084	土 壙	楕 円 形		約 176	約 292	約20.6	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、須恵質土器、輸入陶器（壺・壺・盤・鉢・瓶）、瀬戸・同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、滑石石鍋、凝灰岩、埴輪（円筒）、刀子	中世	
99 号	SK 085	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	216	126	16	土師器（杯・皿）、黒色土器（杯）、瓦器、土師質土器（土鈴）、瓦質土器、須恵質土器、国産陶器（壺・碗・灯明台・小杯）、伊万里系（碗・仏飯器・紅皿）、輸入陶磁器（壺）、中国白磁（碗）、瓦、土製、鉄釘	近世	
100 号	SK 086	土 壙	楕 円 形	逆梯形	約 144	約 140	68	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、瓦質土器、輸入陶器（壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、瀬戸・同安・唐代（碗）、瓦、鉄釘、埴輪（円筒）、硯板	中世	境界地にある
101 号	SK 087	土 壙	隅丸長方形	逆梯形	88	65	49	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、須恵質土器、国産陶器、輸入陶器（壺・瓶）、同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦、滑石石鍋、埴輪	近世	
102 号	SE 025	井 戸	楕 円 形	逆梯形	約 75	132	53	土師器（杯・皿・灯明皿・甕）、瓦器、瓦質土器（火舎）、国産陶器、輸入陶器（壺・瓶）、同安（碗・皿）、中国白磁（碗）、瓦、青銅器（釣）、埴輪（円筒）	近世	
103 号	SK 088	土 壙	円 形	逆梯形	約 110	84	34.8	土師器（杯・皿・灯明皿）、瓦器、土師質土器（壺・鍋・七輪・碗）、瓦質土器、須恵質土器、唐津系（碗）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・瓶・仏飯器・小杯・紅皿）、輸入陶器（壺・壺・瓶）、中国白磁（碗）、瀬戸・同安（碗）、瓦、土製品（人形・玩具）、鉄釘、鉄滓、銭、チャート、埴輪、塵	近世	
104 号	SK 089	土 壙	隅丸長方形	擂鉢形	90	74	60.8	土師器（碗・皿）、輸入陶磁器	中世	
105 号	SK 090	土 壙	楕 円 形	逆梯形	100	60	28	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器、国産陶器（丹波焼・壺）、輸入陶器、中国白磁（碗）、鉄釘、鉄滓、瓦、埴輪	中世	
106 号	SK 091	土 壙	不 形	逆梯形	約 124	約 32	33.3	土師器、輸入陶磁器、鉄釘、埴輪 土師器（杯・皿）、緑釉陶器、輸入陶器、中国白磁、（碗）、瓦、鉄釘	中世	瓦敷内
107 号	SK 092	土 壙	円 形	レンズ状	約 193	約 178	9.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶器（壺）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、埴輪 下層―土師器、瓦	中世	瓦敷内
108 号	SK 093	土 壙	楕 円 形	逆梯形	84	71	62	土師器（杯・皿）、土師質土器（擂鉢）、瓦質土器（火舎）、国産陶器、伊万里系（碗）、輸入陶磁器、瓦、貝殻	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（上壙・井戸）一覧表 ⑦

整理番号	分類番号	遺構名	形態		規模（計測値、単位：cm）			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
109号	SK 094	土壙	隅丸長方形			約 490		土師質土器、瓦質土器（火舎・七輪）、唐津系（大甕・皿・瓶）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・皿・瓶・仏飯器）、輸入陶磁器	近世	
110号	SK 095	土壙						土師器、土師質土器（鍋・七輪）、国産陶器（摺鉢・蓋）、伊万里系（碗・皿・仏飯器・瓶・紅皿）、鉄津	近世	
111号	SK 096	土壙						土師質土器（七輪）、国産陶磁器、鉄釘、瓦、土鈴	中世	
112号	SK 097	土壙	不整円形	截頭円錐形	380	320		土師器（杯・皿・灯明皿）、土師質土器（鍋・火舎・七輪）、瓦質土器（火舎・鉢）、唐津系（甕・鉢・皿）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・皿・瓶・仏花器）、輸入陶磁器、土製品（人形）、茶臼、煙管、碗、瓦	近世	井戸か
113号	SK 098	土壙	円形	截頭円錐形	約 358		75.1	土師器（杯・皿・灯明皿）、土師質土器（甕・壺・鍋・火舎・七輪）、瓦質土器（甕・火舎）、唐津系（鉢・碗・皿・瓶）、京焼系（碗・皿）、伊万里系（碗・皿・瓶・そば猪口）、中国明代（皿）、同安（碗）、鉄釘、鎌砥石、鉄包丁	近世	唐津系（17～18世紀）、京焼系（碗18世紀、皿17世紀後）、
114号	SK 099	土壙						土師器（杯・皿）、土師質土器、唐津系（碗・上瓶）、京焼系（鉢・碗・皿）、伊万里系（碗・皿・瓶・そば猪口・鉢）、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、龍泉・同安（碗・皿）、中国白磁（碗）、瓦、土製品（人形）、土鈴、青銅器（煙管）	近世	唐津系（碗17世紀前半）、京焼系（18世紀前半）、輸入陶器（中世）、伊万里系（18世紀
115号	SK 100	土壙						土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器（鉢）、国産陶器（壺・鉢・碗・瓶）、伊万里系（碗・皿・紅皿）、中国明代（碗・皿）、中国青磁・白磁（碗）、輸入陶器	近世	
116号	SK 101	土壙						土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢・摺鉢・七輪）、瓦質土器、唐津系（壺・鉢・皿）、伊万里系（碗・皿・仏花器・猪口）、中国明代（皿）、輸入陶器	近世	唐津系（16世紀末～17世紀前）、伊万里系（碗18世紀）
117号	SE 026	井戸	隅丸方形	円筒形	210			土師質土器		
118号	SE 027	井戸	円形	円筒形		径 122	112.2	土師器（杯・皿）、土師質土器（七輪）、瓦質土器、唐津系・京焼系（碗）、伊万里系（碗・紅皿）、輸入陶磁器、瓦、鉄釘、鉄津、鈴	現代	唐津系（16末～17初・18世紀）、京焼系（18世紀）、伊万里系（18世紀）
119号	SK 102	土壙	楕円形		約 229	約 88	49.1	土師質土器、瓦質土器（大甕）、輸入陶磁器、瓦	中世	
120号	SK 103	土壙	楕円形	逆梯形	224	約 140	59.5	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器（鍋・火舎）、瓦質土器（火舎）、国産陶器（甕・鉢・碗・皿・水差・壺）、伊万里系（碗）、輸入陶磁器、瓦、土鈴、鉄釘、桂化木、青銅器（煙管）	近世	
121号	SK 104	土壙	隅丸長方形	逆梯形	140	約 130	46	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦、鉄釘		
122号	SE 028	井戸	円形	截頭円錐形	（井筒）320	約 280	172	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（鍋敷・捏鉢）、国産陶磁器、輸入陶磁器		同円番号の上壙あり
123号	SK 105	土壙	楕円形	舟底形	135	約 123	35	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器（鍋）、瓦質土器、須恵質土器、国産陶磁器、輸入陶器、龍泉（碗・皿）、瓦、鉄釘		国産陶磁器は流込みか？
124号	SK 106	土壙	隅丸長方形		80	120		土師器（杯・皿）、国産陶器、輸入陶磁器		
125号	SK 107	土壙	円形	摺鉢形	92	70	31.6			同一番号の上壙あり
126号	SK 108	土壙	不整楕円形	逆梯形	約 120	約 90	75	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦、鉄釘、短輪		
127号	SK 109	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 80	約 110	40	土師器、土師質土器（甕）、須恵質土器（甕）、輸入陶磁器、短輪	中世	境界地にある

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑧

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模（計測値、単位：cm） 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
128 号	SK 110	土壙	隅丸方形	レンズ形	69	61	60	土師器、土師質土器（壺）、国産磁器（皿）、輸入陶磁器	近世	国産陶磁器は1630～1659年代
129 号	SK 111	土壙	隅丸長方形		100	約240	21.8	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器、国産陶磁器、輸入陶器（瓶）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、滑石石鍋		
130 号	SE 029	井戸	隅丸長方形	逆梯形	（井筒）73 132	52 96	103.4	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・皿）、土師質土器（七輪）、瓦質土器（火舎・擂鉢）、輸入陶器（壺）、中国白磁（碗）、朝鮮青磁（碗）、鉄釘		
131 号	SE 030	井戸	長方形	逆梯形	約 45	約 60	36.5	土師器、輸入陶器、瓦	中世	
132 号	SK 112	土壙	不整円形	逆梯形	60	62	62.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、輸入陶器、土錘、鉄釘、木炭、貝殻		
133 号	SK 113	土壙	円形			290		土師器（皿・火鉢台）、土師質土器（鉢・七輪）、瓦質土器（鉢・火舎）、唐津系（大鉢・瓶）、京焼系（碗・皿）、瀬戸系（碗）、伊万里系（碗・皿・仏飯器・そば猪口）、輸入陶磁器（壺・鉢・碗・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、鉄滓、青銅器（煙管）	近世	唐津系（大鉢17～18世紀、伊万里系（碗・皿・仏飯器・そば猪口18世紀、肥前17世紀後～19世紀）
134 号	SK 114	土壙	長方形に近い		約 253		42	土師質土器（下し皿・灯明皿）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・皿・壺）	近世	伊万里系（18世紀）
135 号 1 号石組井戸	SE 001	井戸	円形		（井筒） 内径 約 345	113	95 184.4	唐津系（碗）、国産磁器（碗）、輸入陶器（壺）、瓦、石臼、銅銭 **井戸側内一土師器**（杯・皿）、瓦器（皿）、土師質土器（鉢・擂鉢）、瓦質十器（鉢）、中国白磁（碗・小皿）、同安（碗）、輸入陶器（瓶）、瓦、鉄釘 **掘り方－土師器**（杯・皿）、瓦器、羽釜器、土師質土器（鍋・擂鉢・七輪）、瓦質十器、国産磁器碗器、輸入陶磁器（壺・壺・盤・碗・皿）、瓶子、同安（碗・皿）、朝鮮（碗）、中国明代（碗・皿）、瓦、鉄釘、滑石、紡石	中世	国産陶磁器は上部からの後込み
136 号	SK 115	土壙								
137 号	SK 116	土壙	不整円形			400		土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質十器（鉢・鍋・七輪）、瓦質土器（鉢）、国産陶器（鉢・碗・瓶）、伊万里系（碗・皿・筒・紅皿）、輸入陶器（壺・壺・鉢・瓶・仏飯器）、瓦、滑石石鍋、青銅器（煙管）	近世	
138 号	SK 117	土壙	隅丸長方形		210	138	29.5	土師器（杯・皿・灯明皿）、土師質十器		
139 号	SK 118	土壙	楕円形		約 252		70	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鉢・鍋・火舎）、瓦質土器（火舎）、備前系（壺）、唐津系（碗・皿）、京焼系（碗・瓶）、伊万里系（碗・瓦・瓶・仏飯器）、中国白磁（碗）、輸入陶器（壺・壺）、同安（碗）、中国明代（碗・皿）、瓦、土錘、鉄釘、鉄滓、凝灰岩、滑	近世	
140 号	SK 119	土壙	楕円形		約 340		114.3	土師器（杯）、瓦質土器、志野系（瓶）、輸入陶磁器、瓦、鉄滓、硯輪	近世	
141 号	SK 120	土壙	円形		25	25		土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、国産陶器（壺・瓶・灯明皿）、輸入陶器（壺・壺・鉢・瓶）、瓶泉・同安（碗）、硯輪	近世	
142 号	SK 121	土壙	不整形	逆梯形	約 400	230	91.5	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（皿）、土師質土器（鉢・鍋）、国産陶器、輸入陶器（壺・壺・鉢・瓶）、瓶泉（碗）、中国白磁（碗・皿・瓶）、瓦、鉄釘、木炭	近世	同一番号の土壙あり
143 号 2 号 瓦井戸	SE 004	井戸	円形	円筒形	（井筒）70 138	70 135		土師器（皿）、土師質土器、瓦質土器、須恵質土器、肥前系（大皿）、輸入陶器（碗）、中国白磁（碗）、鉄釘 **掘り方－土師器**（杯）、瓦器（碗）、須恵器（壺）、土師質土器（七輪）、輸入陶器（壺・皿）、滑石	近世	肥前系（17世紀）
144 号	SK 122	土壙	楕円形		10.1	約10		土師器（皿）、土師質土器、輸入陶磁器、硯輪	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑨

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模（計測値、単位：cm） 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
145 号	SE 031	井戸	円形		径 256		113	土師器（杯、皿）、国産陶磁器、中国青磁・白磁（碗）、中国明代	近世	
146 号	SK 123	土壙						土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、国産陶器、瓦質土器、輸入陶器（壺・壺・鉢）、中国白磁（碗）、埴輪		
147 号	SK 124	土壙	長方形	擂鉢形	85	275	36	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・鉢・杯・皿）、土師質土器（鉢・鍋）、瓦質土器（鉢）、国産陶器（鉢・碗・瓶）、輸入陶器（壺・壺・鉢・皿・瓶・壺）、龍泉・同安（碗）、瓦、土錘、鉄釘、木炭、埴輪	近世	同一番号の土壙あり
147A 号	SK 125	土壙	円形	逆椀形		約 56	109.8			
147B 号	SK 126	土壙	円形	逆椀形	約 570	約 270		土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（甕・壺・鍋）、中国白磁（碗・皿・合子）、瓦、埴輪	中世	
148 号	SE 032	井戸？	円形	半壊形	75	74	29	土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、輸入陶磁器、瓦、鉄釘	中世	土壙と思われる
149 号	SK 127	土壙	隅丸方形	擂鉢形	約 101		12	土師器（杯・皿）、輸入陶器（壺・鉢）、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、鉄釘、貝	中世	
150A 号	SK 128	土壙	隅丸長方形	舟底形	150	105	27			
150B 号	SK 129	土壙	楕円形	U字形	約 80	90	70	土師器（杯・皿）、須恵器、瓦質土器、輸入陶器、中国白磁（碗）、鉄滓、銅銭	中世	境界地にある
150C 号	SK 130	土壙	隅丸長方形	逆堰形	約 45	約 62	18.3	土師器（杯）、瓦器（碗）、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）	中世	
151 号	SK 131	土壙	隅丸長方形		約 333		236	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（甕・壺・鉢・鍋・火舎・擂鉢・七輪）、瓦質土器（甕・鉢）、備前系（擂鉢）、伊万里系（碗・皿・蓋・杯・香炉）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶・壺）、中国白磁（碗）、同安（碗・皿）、瓦、土錘、土面、埴輪	近世	
152 号	SK 132	土壙	隅丸長方形	半壊形	100	70	41.4	土師器（杯・皿）、輸入陶器	中世	
153 号	SK 133	土壙	楕円形	U字形	105	75	50.1	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、国産陶器（壺・鉢）、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、埴輪	近世	国産陶器は流込みか？
154 号	SK 134	土壙	不整円形	擂鉢状	158	152	87.4	土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢・鍋）、輸入陶器（甕・壺）、中国白磁（碗・合子）、龍泉・同安（碗）、瓦、鉄滓、埴輪、刀子	中世	
155 号	SK 135	土壙	円形	井底状	90	94	33.6	土師器（杯・皿）、須恵器、輸入陶磁器、埴輪	中世	
156 号	SK 136	土壙	楕円形	U字形	71	107	18	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器	中世	
157 号	SK 137	土壙	隅丸長方形			350	110.2	土師器（杯・皿）、土師質土器（七輪）、瓦質土器、高取系（焙烙）、伊万里系（碗・皿・仏飯器）、輸入陶磁器、瓦、埴輪	近世	
158 号	SK 138	土壙	楕円形	逆椀形二段掘り	108	90	40	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、瓦質土器、輸入陶器（甕・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、埴輪、青銅器片	中世	
159 号	SK 139	土壙	不整形				126.1	土師器（杯・皿）、土師質土器（甕・鉢・鍋・擂鉢・七輪・灯明皿）、瓦質土器（鉢・鍋）、国産陶器（擂鉢）、唐津系（鉢）、伊万里系（碗・皿・鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶・壺）、中国白磁（碗・皿）、瓦、木炭、貝、埴輪、ガラス製品	近世	近現代か？
160 号	SK 140	土壙	円形				28.1	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器、国産陶器（擂鉢・碗・皿・水差・瓶・灯明皿）、伊万里系（小皿）、輸入陶器（壺・碗）、龍泉（碗）、中国明代（碗）、瓦、鉄釘	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑩

整理番号	分類番号	遺構名	形態		規模(計測値、単位：cm)			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
161号	SE 033	井戸	円形	井筒	→ 84 約195	約172	139	土師器（杯・皿）、瓦器（杯・七輪）、土師質土器（鍋・火舎・七輪）、瓦質土器（鍋敷・七輪）、国産陶器（備前鉢・唐津碗・高取系甕・京焼・小杯）、伊万里碗・皿・瀬戸・美濃角皿・壺・瓶・蓋・仏飯器・合子・猪口）、輸入陶器（甕・皿）、同安（碗）、中国白磁（碗・皿・合子）、瓦、鉄釘、鉄滓、木炭、貝、竹、玩具、埴輪、鉄製品（金ばし）	近世	国産陶器（小杯18～19世紀呉須鉄絵）、伊万里系（角皿・大正・昭和）、中国白磁（宋元代）
162号	SK 141	土壙	隅丸長方形	摺鉢状	64	110	35.5	土師器（杯）	中世	
163号	SK 142	土壙	隅丸長方形	平坦形	98	77	35	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗・皿・瓶）、中国青磁（碗）、瓦、柱化木、滑石石鍋、埴輪	近世	
164号	SK 143	土壙	楕円形	U字形	146	82	52	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器、中国陶器（壺・瓶・甕・盤）、龍泉（碗・皿）、中国白磁（碗）、滑石石鍋、国産陶磁器、埴輪		
165号	SK 144	土壙	隅丸長方形		約155		49.2	土師器（皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、国産陶器（壺・碗・瓶）、輸入陶器（甕・壺・盤）、中国白磁（碗・皿・合子）、中国青磁（碗）、瓦、木炭、埴輪	近世	同一番号の土壙あり
166号	SK 145	土壙	楕円形	截頭円錐形	約180	60		土師器（灯明皿）、須恵器、土師質土器（鍋・七輪）、京焼系（小鉢）、伊万里系（碗）、輸入陶磁器、鉄釘、鉄滓、木炭、埴輪	近世	井戸か井筒あり
167号	SE 034	井戸	隅丸長方形	逆梯形	205	約170	64.1	土師器、土師質土器、瓦質土器（植木鉢）、国産陶器（鉢）、輸入陶器（甕・碗）、中国青磁・白磁、鉄製品	近世	土壙か
168号	SK 146	土壙	隅丸長方形	U字状	90	110	14.4	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器（甕・壺・鉢）、中国青磁・白磁、埴輪	中世	
169号	SE 035	井戸	円形		100	90		国産陶磁器（碗・仏飯器・皿・壺）	近世	
170号	SK 147	土壙	隅丸方形		約50		27.1	国産陶器、伊万里系（碗）、輸入陶磁器、瓦、瓦塼、砥石	近世	
171号	SK 148	土壙	隅丸方形	摺鉢形	140	150	89.1	土師器、土師質土器、国産陶器、鉄釘、鉄滓	近世	
172号	SK 149	土壙	楕円形	逆梯形	210	172	100.3			
173号	SK 150	土壙	楕円形	逆梯形	220	約180	117.8	土師器、国産陶磁器	近世	
174号	SK 151	土壙	隅丸長方形	摺鉢状		約133	73	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、須恵質土器、輸入陶器（鉢・碗）、中国白磁（碗・皿・壺）、瓦、鉄釘、滑石石鍋、木炭、埴輪	中世	
175号	SK 152	土壙	楕円形	逆梯形	248	144	87.9	土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋）、須恵質土器（甕）、輸入陶器（壺・瓶・盤）、中国白磁（碗・皿・合子）、龍泉・同安（碗）、瓦、刀子、鉄釘、鉄滓、凝灰岩、埴輪	中世	同一番号の土壙あり
176号	SK 153	土壙	不整円形	摺鉢形	124	約133	59	土師器、輸入陶磁器、木炭、埴輪	中世	
177号	SK 154	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約85	57	40.8	土師器、輸入陶磁器、埴輪	中世	SK 153 を切合う
178号	SK 155	土壙	楕円形	逆梯形	82	82	24.8	土師器、輸入陶器（瓶）、中国白磁（碗）、瓦	中世	
179号	SK 156	土壙	楕円形	逆梯形	約105	66	15.4	土師器（杯）、瓦器、土師質土器、輸入陶器（甕）	中世	
180号	SK 157	土壙	円形		約180		105	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器（鍋・鉢・七輪）、唐津系（碗）、高取系（甕）、京焼系（碗）、伊万里系（碗・皿・瓶・壺・杯・鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・皿・瓶・仏花器）、龍泉（碗）、中国白磁（碗・皿・瓶・香炉）、土面、土鈴、鉄釘、埴輪	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑪

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
181 号	SK 158	土壙	隅丸長方形	逆梯形	130	140	116.5	土師器（杯・皿）、土師質土器（壺・七輪）、瓦質土器（鉢）、陶質陶器（壺・そば猪口）、伊万里、輸入陶磁器 中国青磁・白磁、中国明代（皿）、瓦、土錘、鉄釘、鉄滓	近世	
182 号	SK 159	土壙	隅丸方形	逆梯形	110	120	64			井戸か
183 号	SK 160	土壙	円形	逆梯形	約 122	約 100		土師器（杯・皿）、土師質土器（摺鉢）、瓦質土器（鍋・擂鉢）、輸入陶器（鉢）、中国青磁・白磁（碗）、瓦、植輪	中世	井戸か井筒あり
184 号	SK 161	土壙	円形				137.1	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（甕・鉢・鍋）、瓦質土器（鉢）、須恵質土器（甕）、輸入陶器（甕・壺・瓶）、中国白磁（碗・皿）、瓦、滑石石鍋、植輪	中世	
185 号	SK 162	土壙	不整形	逆梯形	300	200	38.8	輸入陶器、鉄釘、鉄製品（馬具か）	中世	
186 号	SK 163	土壙	楕円形	逆梯形	50	85		土師器、土師質土器、輸入陶磁器	中世	
187 号	SK 164	土壙	不整楕円形	舟底形	108	58	26	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器、瓦、鉄釘、鉄滓、木炭	中世	
188 号	SK 165	土壙	隅丸長方形	舟底形	90			土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢・鍋・火舎）、瓦質土器（壺・擂鉢）、輸入陶器（壺・瓶）、中国白磁（碗・皿）、中国青磁（碗）、瓦、土製人形	中世	
189 号	SK 166	土壙	不整形	逆梯形	約 555	280	25	土師器（杯・皿・灯明皿）、土師質土器（鉢・鍋・擂鉢・七輪）、瓦質土器（鉢）、陶津系（碗・皿・甕）、京焼系（碗）、緑釉陶器（碗）、伊万里系（碗・瓶口・仏飯器・瓶）、輸入陶器（壺・壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、硯皿（碗）、同安（皿）、中国明代（碗）、瓦、鉄釘、鉄滓、鉛糸	近世	井戸か
190 号	SK 167	土壙						土師器（杯）、須恵器、瓦、木炭	中世	
191 号	SK 168	土壙	円形	逆梯形	約 340		55.5	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（鉢）、輸入陶器（壺・壺・瓶・鉢）、中国青磁・白磁（碗）、鉄釘、鉄滓、植輪	中世	井戸か
192 号	SE 036	井戸	円形		径 78		11	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、国産陶器、輸入陶器、中国白磁（碗）、龍泉・同安（碗）		同一番号の土壙あり
193 号	SE 037	井戸	円形	裁頭円錐形	径 76		71	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、国産陶器（甕・壺・瓶）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿・壺）、瓦、鉄釘、植輪	近世	
194 号	SK 169	土壙	楕円形	裁頭円錐形	194	244	99	土師器（杯）、瓦器（碗）、土師質土器、輸入陶器（甕・鉢・瓶・壺）、中国青磁・白磁（碗）、植輪	中世	井戸。井筒あり
195 号	SE 038	井戸	円形		径 98	120 (109)		土師器（杯）、瓦器（碗）、須恵器（甕）、土師質土器、須恵質土器、伊万里系（碗・小杯）、植輪	近世	
196 号	SK 170	土壙	隅丸長方形		約 180		137.6	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（杯）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（鉢）、須恵質土器（甕）、陶前系（鉢）、瀬戸系（壺）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶・皿・碗・盤）、中国白磁（碗・皿・瓶）、龍泉・同安（碗・皿）、朝鮮（碗）、瓦、鉄釘、木炭、滑石石鍋、石製品片、植輪 上層－土師器（杯） 下層－土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、輸入陶器（甕・碗・皿）、中国白磁（皿）、同安（皿）、鉄釘	中世	
197 号	SK 171	土壙	長方形に近い		200		57.7	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・杯）、土師質土器（鍋）、須恵質土器（甕・鉢）、国産陶器、輸入陶器（壺・鉢・瓶・盤）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿）、瓦、滑石石鍋、鉄釘、鉄滓	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑫

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
198 号	SK 172	土壙	楕円形	逆台形	135	94	18.8	土師器（杯）、瓦器（碗・杯）、須恵器、土師質土器（鍋）、輸入陶器（壺・瓶・盤）、中国青磁（碗）、中国白磁（碗・皿）、瓦、銅銭	中世	
199 号	SE 002	2号石組井戸	円形		内径 87.5		約 140	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鉢）、瓦質土器（壺・鍋・鉢）、輸入陶磁器、石臼、凝灰岩 井筒内 土師器（杯）、瓦質土器（擂鉢）、瓦、瓦塔	中世	16世紀代
200 号	SK 173	土壙	不整形	逆台形	400	約 330	49	土師器（皿）、瓦器、土師質土器（鉢）、須恵質土器（甕）、中国白磁	中世	
201 号	SK 174	土壙	楕円形			約 101	49	土師器、輸入青磁器、鉄剣	中世	
202 号	SK 175	土壙	隅丸長方形	擂鉢形	107	85	30.1	土師器（碗・杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、輸入陶器、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘	中世	
203 号	SK 176	土壙	楕円形		65			土師器（皿）、輸入陶器、須恵器、土師質土器	中世	
204A 号	SE 039	井戸	楕円形	逆台形	約 200			土師器（杯）瓦器（碗）、土師質土器、瓦質土器（鉢）、輸入陶器（甕・壺・水差・瓶・鉢）、龍泉（碗）中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、埴輪、青銅器片	中世	
204B 号	SE 040	井戸	楕円形	数段円錐形	約 55			土師器（杯・皿）、須恵器（皿・甕）、土師質土器、輸入陶器（甕・碗・瓶）、中国白磁（碗・皿）、龍泉（碗）、瓦、木棺、埴輪	中世	
204C 号	SE 041	井戸	円形		約 160			土師器、輸入陶磁器、鉄釘、埴輪	中世	
205 号	SE 042	井戸	円形	数段円錐形	(井筒) 44 約 375	46	138.2	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・皿）、須恵器、土師質土器（鍋・鉢）、国産陶磁器（鉢・甕）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿・瓶）、瓦、上釣、鉄剣、滑石石鍋、埴輪	近世	
206 号	SE 043	井戸	楕円形	数段円錐形	約 210	200	75	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋・七輪）、国産陶器（鉢・壺）、輸入陶器（壺・壷・鉢・碗・瓶）、龍泉・同安（碗・皿）、中国白磁（碗・皿・合子）、瓦、土錘、鉄剣、埴輪	近世	
207 号	SK 177	土壙	隅丸長方形		約 90	約 75	33.6	瓦器（碗）、中国白磁（碗）、埴輪	中世	
208 号	SE 085	井戸	円形	数段円錐形	(井筒) 160 380	168 400	182.4	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（甕・鉢）、国産陶磁器（壺・鉢）、輸入陶器（甕・壺・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・瓶）、瓦、鉄釘、埴輪	近世	
209 号	SE 044	井戸	円形	円錐形	約 235	240	117.1	土師器、土師質土器、輸入陶磁器（碗・皿・壺・瓶）、鉄滓、埴輪	中世	
210 号	SE 045	井戸	円形	円錐形	(井筒) 120 190	88 138	78.8	土師器（皿）、瓦器（碗）、須恵器（壺・皿）、土師質土器（鍋）、輸入陶磁器（壺・壷・碗）、鉄剣、埴輪	中世	
211 号	SE 046	井戸	円形	数段円錐形	170	155	113	土師器（杯・皿・盃）、土師質土器、瓦質土器（壺）、須恵質土器、国産陶磁器、輸入陶器（甕・壺）、中国青磁・白磁（碗・皿）、ベンガラ、青銅器片		
212 号	SE 047 048	井戸	円形	数段円錐形	(井筒) 81 約 312	76	164.2	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・鉢）、輸入陶器（甕・壺・体・碗・瓶・盤）、龍泉・同安（碗・皿）、中国白磁（碗・皿・水差・瓶・合子）、瓦、鉄釘、埴輪、青銅器片		同一番号の土壙あり
213 号	SK 178	土壙	楕円形	逆台形	約 175	約 118	72.2	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、須恵質土器（東播系鉢・甕）、国産陶器、輸入陶器（壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、埴輪		同一番号の土壙あり
214 号	SK 179	土壙	楕円形	舟底形	約 103		39.7	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、国産陶磁器、輸入陶器（碗）、中国白磁（碗）、中国青磁、埴輪		

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑬

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(上段値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
215 号	SK 180	土壙	長方形		132	82	10.4	土師器、輸入陶磁器、瓦、貝	中世	
216 号	SK 181	土壙	円形	逆梯形	約 120	約 110	32.4	土師器、瓦器、土師質土器、輸入陶磁器、瓦	中世	
217 号	SK 182	土壙	円形	逆梯形	100	105	84	土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、土師質土器（鉢・鍋）、輸入陶器（甕・壺・瓶）、同安（碗）、中国白磁（碗・皿・合子）、瓦、鉄釘、木炭、旋輪	中世	
218 号	SK 183	土壙	楕円形		約 50	約 95	52	土師器、瓦器、輸入陶器（壺）、中国白磁（碗）	中世	
219 号	SK 184	土壙	隅丸長方形	舟底形	115	144	124	土師器（杯・皿・鍋）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋・壺）、国産陶器（瓶）、輸入陶器（甕・壺）、中国白磁（碗・皿）、瓦、滑石石鍋、旋輪	近世	
220 号	SE 049	井戸	円形		約 265	200	103.5	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、瓦質土器、輸入陶器（鉢・瓶・壺）、中国青磁・白磁（碗・皿）、瓦、鉄釘 上層―土師器（杯・皿）、瓦質土器（壺）、輸入陶器（鉢・壺・瓶）、中国白磁（碗）、環状石器	中世	
221 号	SE 005	井戸	円形	逆梯形	（井筒）69 140	68 104	75.5	土師器（杯・皿）、須恵器（甕）、土師質土器（鉢・鍋・七輪）、瓦質土器（甕・鍋）、須恵質土器（甕）、伊万里系（小碗）、輸入陶磁器、同安（碗）、瓦、鉄釘、鉄滓、旋輪	近世	
222 号	SK 185	土壙	円形	擂鉢形	95	72	47	土師器、輸入陶器、旋輪	中世	
223 号	SK 186	土壙						土師器、輸入陶器、瓦	中世	
224 号	SK 187	土壙	長方形	逆梯形	100	65	9.3	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、国産陶器（鍋・皿）、輸入陶器（甕・鉢・瓶・壺）、同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦		
225 号	SK 188	土壙	楕円形	半球形		約 82	28.6	土師質土器（鉢）、輸入陶器	中世	
226 号	SK 189	土壙						土師器（杯・皿）、土師質土器、中国青磁・白磁（碗）、旋輪	中世	
227 号	SK 190	土壙						土師器（杯）、瓦器（鉢・碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶器（甕・鉢・瓶・壺）、中国青磁・白磁（碗・皿）、瓦・鉄刺	中世	
228 号	SK 191	土壙						土師器、瓦器、須恵器、土師質土器（鉢）、輸入陶器（甕）、同安（皿）、中国白磁（碗）	中世	
229 号	SE 050	井戸	円形		確 90	約 261	225.7	井筒内―土師器、土師質土器（七輪）、国産陶磁器	近世	
230 号	SE 051	井戸	楕円形	擂鉢形	約 151	約 90	95.9	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶器（甕）、龍泉・同安（碗）	中世	土壙か
231 号	SK 192	土壙						土師器（杯）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鉢）、中国白磁（碗）	中世	
232 号	SK 193	土壙						土師器、輸入陶器	中世	
233 号	SK 194	土壙	隅丸長方形	逆梯形	90	74	23	土師器（杯）、中国白磁（碗）、旋輪	中世	
234 号	SK 195	土壙	不整形	擂鉢形	約 135		7.6	土師器、瓦質土器、輸入陶磁器	中世	
235 号	SE 052	井戸	円形	舟底円錐形	（井筒）86 258	68 257	227	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋・ミナベ）、須恵質土器（東播系鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・瓶・壺）、龍泉・同安（碗・皿）、中国白磁（碗・皿）、瓦、旋輪	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（上壙・井戸）一覧表 ⑭

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模（計測値、単位：cm） 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
236 号	SE 053	井戸	円形	逆梯形	（計算）60 約 300	60 280	219.5	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器（鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・碗・瓶・盤）、龍泉（碗・皿）、中国白磁（碗・皿）、瓦、鉄釘、埴輪	中世	
237 号	SK 196	土壙	円形	逆梯形	約 165		32	土師器（杯・皿）、瓦器（鉢・碗）、須恵器（鉢）、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗）、埴輪	中世	
238 号	SK 197	土壙						土師質土器（鉢）、国産陶器（甕・壺）、輸入陶器（甕・盤）、中国白磁（碗・瓶）、埴輪	中世	
239 号	SK 198	土壙	円形		約 165		60	土師器（杯）、瓦器（碗）、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、埴輪、青銅器（飾金具）	中世	
240 号	SE 054	井戸						土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（甕・鉢・碗）、龍泉・同安（碗）	中世	上部は近世ゴミ穴
241 号	SK 199	土壙						土師器（杯）、伊万里系磁器	近世	
242 号	SK 200	土壙	楕円形	擂鉢形	92	93	73	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器、須恵質土器（甕）、国産陶器（碗・皿・壺・瓶）、輸入陶器（甕・瓶・盤）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦	中世	
243 号	SK 201	土壙						土師器（杯）、瓦器（鉢）、輸入陶磁器、埴輪	中世	
244 号	SK 202	土壙						土師器（杯・皿）、輸入陶器（瓶）、中国白磁、埴輪	中世	
245 号	SK 203	土壙						土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕）、中国白磁（碗）、埴輪	中世	
246 号	SK 204	土壙						土師器、須恵器、輸入陶器、埴輪	中世	
247 号	SK 205	土壙						土師器（杯）、輸入陶磁器、瓦	中世	
248 号	SE 055	井戸						土師器（杯・皿）、輸入陶器、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・合子）、瓦、埴輪	中世	
249 号	SK 206	土壙								
250 号	SK 207	土壙								
251 号	SK 208	土壙	不整円形		約 80	115	27	上層－土師器（杯・皿）、輸入陶磁器、埴輪 下層－土師器（杯）、土師質土器、輸入陶磁器、埴輪	中世	他の土壙に切られる
252 号	SK 209	土壙								
253 号	SE 056	井戸	隅丸方形		190			土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、瓦質土器、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶）、龍泉・同安（碗・皿）、中国白磁（碗・皿・瓶・壺）、瓦、鉄釘、埴輪	中世	
254 号	SK 210	土壙						土師器、瓦器、土師質土器、国産陶器（壺・鉢）、輸入陶器（甕）、中国青磁・白磁（碗・皿）、瓦	近世	
255 号	SK 211	土壙						土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋・鉢）、瓦質土器、須恵質土器、国産陶器、輸入陶器（甕・鉢・瓶・盤）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿・瓶）、鉄釘、瓦、滑石石鍋		SK 210 より混入あり
256 号	SK 212	土壙						土師器（皿）、輸入陶磁器、骨、埴輪	中世	
257 号	SE 057	井戸						土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、埴輪	中世	
258 号	SK 213	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 160	90		土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、土師質土器（鍋）、国産陶器（碗・鉢・瓶）、伊万里系（碗・鉢・蓋）、輸入陶器（鉢・瓶）、中国青磁・白磁（碗・皿）、瓦、土面、上鈴、刀、銅鏡、埴輪、銅鈴	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑮

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
259 号	SK 214	土壙	不整形				80			
260 号	SK 215	土壙	隅丸長方形	逆梯形	160	150	23.7			
261 号	SK 216	土壙						土師器（杯・皿）、瓦器（椀）、須恵器（甕）、土師質土器（鉢・鍋）、輸入陶器（壺・壺）、中国青磁（碗）、中国白磁（碗・皿・壺）、瓦、鉄釘、坩輪、滑石石鍋	中世	
262 号	SE 058	井戸						土師器（杯・皿）、瓦器（椀）、須恵器、土師質土器（鉢・火舎）、丸質土器、唐津系（碗）、伊万里系（碗・瓦・蓋口）、輸入陶器（壺・壺・碗・瓶）、中国青磁・白磁（碗・合子）、瓦、鉄釘	近世	
263 号	SK 217							土師器、土師質土器、輸入陶器	中世	
264 号	SE 059	井戸	円形	擂鉢状	（井筒）50 320	50 275	157.2	土師器（杯・皿）、瓦器、土師質土器（壺・鉢・鍋・火舎・七輪）、瓦質土器（壺・鉢・火舎）、須恵系（甕）、国産陶器（壺・壺・鉢・蓋・仏飯器・灯明皿）、伊万里系（碗・皿・小杯・鉢）、輸入染器（壺・壺・碗・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国明代（鉢）、中国白磁（碗）	近世	国産陶器（18～19世紀）
265 号	SK 218	土壙	楕円形	逆梯形	472	275	140.7	土師器（杯・皿）、土師質土器（壺・七輪・ろう瓜）、瓦質土器（壺）、国産陶器（碗・瓶・仏花器）、伊万里系（皿）、輸入染器（壺・壺・鉢・碗）、中国青磁・白磁（碗）、瓦、土鈴、土面、貝	近世	
266 号	SE 060	井戸	不整円形	円筒形	150.2	137	152.7	土師器、土師質土器（壺・鉢・鍋・七輪・灯明皿・焼台）、唐津系（碗）、伊万里系（碗・皿・瓶・杯・重箱・鉢）、輸入陶器（壺・壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、瓦、土面、貝	近世	
267 号	SK 219	土壙	円形	一				土師器（杯・皿）、瓦器（椀）、須恵器、土師質土器（鍋）、須恵質土器（東播系鉢）、国産陶磁器、輸入陶器（壺・壺）、中国青磁・白磁（碗）、瓦、鉄釘、鉄滓、坩輪瓶下又は小刀	近世	未掘、井戸か
268 号	SK 220	土壙	円形	逆梯形	100	95	68.3	土師器（杯・皿・碗）、黒色土器、瓦器（碗）、須恵器（甕）、土師質土器（鉢・鍋・七輪・灯明皿・瓶）、瓦質土器（鉢・七輪）、瀬戸美濃（碗）、器取陶器（壺）、伊万里磁器（碗・皿・蓋・壺・杯）、輸入陶器（壺・鉢・瓶）、同安（碗）、中国白磁（碗・香炉）、瓦、土製人形、土鈴、鉄釘、刀子、貝、木製、滑石石鍋、砥	近世	
269 号	SK 221	土壙	不整円形	逆梯形	93	96	68.3	土師質土器（七輪・貯金箱）、国産陶器（香・碗・皿・水差・瓶・灯明皿・仏花器・蓋口・蓋）、伊万里磁器（碗・皿・蓋・鉢・杯・蓋口）、輸入陶磁器、瓦、土鈴、土面	近世	
270 号	SK 222	土壙	円形	逆梯形	115	94	38.7	土師器、瓦器（碗）、土師質土器、唐津陶器（皿）、国産磁器（碗）、輸入陶磁器（鉢・皿・皿）	近世	
271 号	SK 223	土壙	楕円形	U字形	約 178	約 90	54.8	土師器（杯・碗）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（甕）、須恵質土器（甕）、輸入陶器（壺・壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、鉄滓、貝	中世	
272 号	SK 224	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 123	約 70	85	土師質土器（七輪）、瓦質土器（鉢）、伊万里系（碗）、中国磁器、土鈴	近世	SK 218 と切り合う
273 号	SK 225	土壙	隅丸方形	逆梯形	148	135	37.6	土師器（貯金箱）、土師質土器（鍋・七輪）、国産陶器（鉢・碗・灯明皿・鉢）、伊万里磁器（碗・瓶）、輸入陶器、坩輪	近・現代	
274 号	SK 226	土壙	円形	逆梯形	約 70	75	54.1	土師器、須恵器、土師質土器、輸入陶磁器		
275 号	SK 227	土壙	隅丸長方形	逆梯形	118	95	40.7	土師器、瓦器、須恵器、国産陶磁器、輸入陶器（碗）、中国白磁（碗）	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑯

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
276 号	SK 228	土　壙	弓　形	逆梯形	163	135	65.2	土師器、須恵器、土師質土器（鉢・七輪）、瓦質土器（七輪）、国産陶器（甕・鉢・鉢・壷・碗・皿）、伊万里磁器（碗・皿・瓶）、中国青磁（香炉）、瓦、砥石	近世	
277 号	SE 061	井　戸	円　形	逆梯形	（井筒）58 215	55 約200.2	159.7	土師器、土師質土器（鍋）、中国白磁（碗）、羽釜	中世	
278 号	SK 229	土　壙	楕円形	擂鉢形	252	約 165	101.8	土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、土師質土器（鍋）、国産陶器（甕・鉢・壷・皿・仏花器・植木鉢・碗）、伊万里磁器（碗・皿・瓶）、輸入陶器（甕・壷・瓶・鉢）、中国白磁（碗・皿）、瀬戸・美濃（碗・皿）、同安（碗）、瓦、土鈴	近世	
279 号	SK 230	土　壙	円　形	逆梯形	102	92	47.7	土師器（碗・杯・皿）、瓦器（碗）、輸入陶器（甕・壷）、中国白磁（碗・皿）、羽釜	中世	
280 号	SE 062	井　戸	円　形	逆梯形	（井筒）115 345	114 310	102.3	土師器（皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・鉢）、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、輸入陶器（甕・壷・鉢・碗・瓶・盤）、瀬戸・美濃（碗）、中国白磁（碗）、鉄釘、羽釜	中世	
281 号	SE 063	井　戸	不整円形	逆梯形	（井筒）52 447	56 405	251.1	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器（鍋・七輪）、国産陶器（壷・鉢・碗・灯明皿・擂）、伊万里磁器（碗・皿）、輸入陶器（甕・壷）、中国青磁、瓦、羽釜、瓦器（碗）	近世	伊万里系（18世紀～幕末含む）
282 号	SK 231	土　壙	楕円形	逆梯形		約 215	91.6	土師器（皿）、土師質土器（鍋・七輪・灯明皿・内黒土器）、国産陶器（鉢・碗・甕）、伊万里磁器（碗・皿）、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗・皿）、瓦	近世	SK 302 に切られる
283 号	SK 232	土　壙	楕円形	逆梯形	約 154	約 150	60.8	土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢・鍋・七輪）、瓦質土器（甕・鉢）、唐津焼（壷・碗）、伊万里磁器（碗）、輸入陶器（壷・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、瓦、土製人形、羽釜、鉄釘	近世	SK 380 に切られる
284 号	SK 233	土　壙	不整形	擂鉢形	117	105	60.7	土師質土器（鉢・鍋・七輪・灯明皿）、瓦質土器（甕・鉢・鍋）、国産陶器（鉢・灯明皿）、伊万里磁器（碗・皿・鉢）、輸入陶器（甕・壷・鉢）、中国白磁（碗・皿・鉢）、瓦・土鈴、土面、土製人形、鉄釘、鉄滓、其、羽釜	近世	
285 号	SK 234	土　壙	楕円形	逆梯形	318	172	97.2	土師器、土師質土器（鍋・鉢・七輪）、国産陶器（甕・壷・鉢・碗・水差・瓶・灯明皿・蓋）、伊万里磁器（碗・皿・急・鉢・杯）、輸入陶器、中国青磁・白磁（碗）、瓦、土面	近世	
286 号	SK 235	土　壙	楕円形	逆梯形	約 210	150	60.3	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・皿）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、緑釉陶器（壺）、国産陶器（甕・瓶）、輸入陶器（甕・壷・鉢・瓶・盤）、中国白磁（碗・皿・瓶）、瀬戸・美濃（碗）、中国染付（碗）、瓦、鉄釘、刀子、羽釜	中世	
287 号	SK 236	土　壙	楕円形	逆梯形	190	150	18.5	土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦、木炭	近世	
288 号	SK 237	土　壙	楕円形	逆梯形	約 90	85	18.5	土師器（碗・杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶器、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、鉄釘、青銅仏像、羽釜	中世	
289 号	SK 238	土　壙	隅丸長方形	逆梯形	179	約 70	65.3	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶器、輸入陶器（甕・壷・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘		
290 号	SK 239	土　壙	楕円形	擂鉢形	108		50	土師器（杯）、土師質土器、瓦質土器（鉢）、輸入陶器（甕・鉢）、龍泉（碗）	中世	SK 238 に切られる
291 号	SK 240	土　壙	隅丸長方形	逆梯形	127	95	48.8	土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢・鍋・七輪）、瓦質土器（鉢・七輪）、国産陶磁器、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗・瓶）、瓦、木炭、鉄釘	近世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑰

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
292号	SK 241	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 205	140	29.7	土師器(杯・皿)、土師質土器(鉢・鍋)、瓦質土器(鉢)、国産陶器、輸入陶磁器、鉄釘、木炭	近世	
293号	SK 242	土壙	円形	摺鉢形	95			土師器(杯・皿)、土師質土器、瓦質土器、国産陶器輸入陶器(壺・鉢・瓶・緑釉皿)、同安(碗)、中国白磁(碗・皿)、鉄釘、骨、植輪	中世	SK 380 に切られる
294号	SK 243	土壙	楕円形		約 185		57.3	土師器(壺・杯)、土師質土器(鍋・鉢・七輪)、国産陶器(甕・壺・上瓶・人形)、伊万里磁器(碗・皿・花瓶)、輸入陶器、瓦、土圏	近世	SK 244 に切られる
295号	SK 244	土壙	不整形	—	約 710	約 310	48.3	土師器(杯・皿)、瓦器(碗)、須恵器、土師質土器(鉢・七輪)、瓦質土器、国産陶器(壺・甕・碗・植木鉢)、伊万里磁器(碗)、輸入陶器(甕・壺・鉢)、中国白磁(碗)、中国青磁(碗・皿)、瓦	近世	未掘
296号	SK 245	土壙	楕円形		70	50		土師質土器、瓦	中世	
297号	SK 246	土壙	楕円形	摺鉢形	70	50		土師器(杯・皿)、瓦器(碗)、須恵器(甕・鉢)、瓦質土器(鉢)、須恵質土器(東播系鉢)、国産陶器(壺・碗・瓶)、輸入陶器(甕・壺・瓶)、龍泉(碗)、中国白磁(碗・皿)、瓦、滑石石鍋、植輪、土製人形	中世	
298号	SK 247	土壙	楕円形	逆梯形	約 207	約 85	170.3	土師質土器、国産陶磁器、輸入陶磁器	近世	境界地
299号	SK 248	土壙	楕円形	摺鉢形	170	110	94.6	土師器、土師質土器(鉢・七輪・灯明皿)、国産磁器(甕・鉢)、伊万里磁器(碗)、輸入陶器、中国白磁(碗)、土鈴、土城形	近世	
300号	SK 249	土壙	楕円形		約 48		16.3	土師器、土師質土器、瓦質土器、鉄釘、木炭	中世	
301号	SK 250	土壙	楕円形		約 150		60.6	土師器(杯・皿)、瓦器(碗)、土師質土器、国産陶器(碗)、中国白磁(碗)	近世	
302号	SK 251	土壙	円形	逆梯形	75	70	51.6	土師器(杯・皿)、瓦器(碗)、須恵器、土師質土器、国産陶器(鉢・瓶)、中国白磁(碗・皿)、木炭、鉄釘	中世	同一番号の土壙あり
303号	SK 252	土壙	楕円形	摺鉢形	92	55	38.3	土師器(杯)、瓦器、須恵器	中世	
304号	SK 253	土壙	楕円形		約 140		31	土師器(杯・皿)、土師質土器(壺・鉢・鍋・七輪・瓦)、国産陶器(甕・鉢・碗・皿・壺・瓶・合子・灯明皿・仏花器・蓋)、伊万里系(碗・皿・瓶・鉢)、輸入陶器(甕・壺)、中国白磁(碗・皿・瓶)、中国青磁(碗)、土圏、土製人形、木炭、植輪	近世	境界地にあり
305号	SK 254	土壙	円形	逆梯形	142	約 145	48.2	土師器(杯・皿)、黒色土器(杯)、瓦器(甕)、土師質土器、国産陶器(碗)、輸入陶器(壺・鉢)、中国白磁(碗)、植輪		井戸か、未掘
306号	SK 255	土壙	楕円形	摺鉢形	300	170	42.5	土師器(杯・皿)、瓦器(碗)、須恵器(甕・杯)、土師質土器、唐津系(碗)、輸入陶器(壺・盤)、中国青磁(碗)、中国白磁(碗・皿)、瓦、骨		SK 366 に切られる
307号	SK 256	土壙	円形	逆梯形	145	155	135.7	土師器(杯・皿)、瓦器(碗・皿)、輸入陶器(甕・壺・鉢・碗・盤)、中国白磁(碗・皿・瓶)、同安(碗)、植輪	中世	
308号	SK 257	土壙	楕円形	逆梯形	60			土師器(杯・皿)、瓦器(碗)、須恵器(蓋)、土師質土器、国産陶器、輸入陶器(甕・壺・鉢・碗・盤・瓶)、中国白磁(碗・皿)、同安(碗)、植輪	近世	SK 229 に切られる
309号	SK 258	土壙	不整円形	逆梯形	約 190	164	53.1	土師器(杯・皿)、黒色土器(碗・皿)、須恵器、土師質土器、国産陶器(壺・碗・皿)、伊万里系(碗・皿・瓶)、輸入陶器(甕・鉢・瓶)、中国青磁・白磁(碗・皿)、植輪	近世	
310号	SE 064	井戸	円形	截頭円錐形	(井筒) 64 262	45 205	165.7	土師器(杯・皿)、須恵器、土師質土器、輸入陶器(甕・壺・鉢・碗)、龍泉・同安(碗・皿)、中国白磁(碗・皿)、瓦、鉄釘、植輪、銅銭	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑱

整理番号	分類番号	遺構名	形態		規模(計測値、単位：cm)			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
311号	SE 055	井戸	円形		(井筒) 48 190	48 195	133.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、須恵質土器、緑釉陶器（碗）、伊万里系（碗・皿・仏花器）、輸入陶器（甕・壺・鉢・皿）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿・合子）、瓦、銅銭、青銅器（煙管）、坑輪	中世	
312号	SK 259	土壙	円形	逆梯形	100	85	24	土師器、須恵器（甕）、土師質土器	中世	
313号	SK 260	土壙	円形	摺鉢形	75	68	29.1	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕）、国産陶磁器、輸入陶器、同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦、木炭、滑石石鍋、鉄釘	中世	
314号	SK 261	土壙	楕円形	逆梯形	98	48	29.2	土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、輸入陶磁器	中世	
315号	SK 262	土壙	円形	逆梯形	85	85	26.1	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、龍泉（碗）	中世	
316号	SK 263	土壙	円形	摺鉢形	107	85	31.4	土師器（杯・皿）、瓦器、中国白磁（碗）	中世	
317号	SK 264	土壙	楕円形	逆梯形	80	50	33.2	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器	中世	
318号	SE 066	井戸	円形	摺鉢状	(井筒) 45 230	45 約200	210	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・皿）、須恵器、土師質土器、須恵質土器（甕）、国産陶磁器、輸入陶器（甕・壺・鉢）、中国白磁（碗・皿・合子）、同安（碗・水差）、瓦、坑輪 上層—土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、輸入陶器（甕・壺・碗・鉢）、中国白磁（碗・皿・合子）、中国青磁、瓦、鉄釘、滑石石鍋 下層—中国白磁（碗）、中国青磁（碗）	中世	国産陶器は上部からの流込みか。底面に井桁あり
319号	SK 265	土壙	隅丸長方形		55	40		土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、土師質土器、輸入陶器（甕・瓶・碗）、同安（碗）、中国白磁（碗）	中世	
320号	SK 266	土壙	隅丸方形	逆梯形	111	110		土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器（鉢・鍋）、国産陶器（瓶・盞）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、龍泉・同安（碗）、鉄釘、坑輪	近世	
321号	SK 267	土壙	不整円形	逆梯形	90	80		土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、中国白磁（碗）、鉄釘、刀子、坑輪	中世	
322号	SK 268	土壙	円形	逆梯形	100	90		土師器（杯）、須恵器、土師質土器（鉢・鍋）、須恵質土器（甕）、東播系（鉢）、国産陶磁器、輸入陶器（甕・鉢・瓶・盤）、中国白磁（碗）、同安（碗）、滑石石鍋、坑輪		
323号	SK 269	土壙	円形	逆梯形	90	90		土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器（鍋）、瓦質土器、国産陶器（壺）、輸入陶磁器、瓦		
324号	SK 270	土壙	隅丸長方形	逆梯形	90	80		土師器（杯）、須恵器、土師質土器、輸入陶磁器、鉄釘	中世	
325号	SK 271	土壙	楕円形		50	80				
326号	SK 272	土壙	楕円形	舟底形	117	50	67.6	土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢）、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗・皿）、銅銭、瓦	中世	
327号	SK 273	土壙	楕円形	舟底形	約40	約118	135.1	土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗）、須恵器、国産陶器、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、同安（碗・皿）、鉄釘、坑輪 掘り方—土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗・皿）、須恵器、土師質土器、須恵質土器（甕）、国産陶磁器、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）、瓦、坑輪	近世	井戸か、井筒あり
328号	SK 274	土壙	円形		95	80	22.5	土師器、国産陶器、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗・皿）	中世	
329号	SK 275	土壙	隅丸長方形	逆梯形	163	120	20.4	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器、国産陶器（鉢）、輸入陶磁器		

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑲

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値、単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
330 号	SK 276	土壙	不整円形	逆梯形	90	70	50	土師器（杯・皿）、瓦質土器（甕・鉢）、輸入陶器（甕・壺）、中国白磁・青磁（碗）	中世	
331 号	SK 277	土壙	楕円形	逆梯形	約 387	165	107.5	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器（甕・鍋・鉢）、瓦質土器、瀬津、国産磁器（碗・皿・小杯・合子）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、龍泉（碗）、鉄滓、埴輪、鉄製品（鎹）		境界地にあり
332 号	SK 278	土壙	楕円形	舟底形	136	73	70.4	土師器（杯・皿）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（鉢）、輸入陶器（甕・壺・瓶・碗）、中国白磁（碗・皿・壺）、中国青磁（碗）、瓦、埴輪	中世	
333 号	SK 279	土壙	不整楕円形	レンズ状	200	約 150	51	土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、土師質土器、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿）、瓦、埴輪		
334 号	SK 280	土壙	楕円形	レンズ状	約 125	89	37.5	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器		井筒か、SK 342 と同一
335 号	SK 281	土壙	不整形	摺鉢形	622	約 140	50.4	土師器（杯・皿・灯明皿）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（甕・火鉢・浮鉢・糯米鉢）、瀬津系（碗・皿）、伊万里系（碗・小碗・小瓶）、輸入陶器（甕）、同安（碗・皿）、瓦、鉄釘、青銅、木製品、骨、埴輪、青銅器（鉄管・環状鋼製品）	近世	
336 号	SK 282	土壙	楕円形	逆梯形		85	52.5	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦	中世	SK 300 を切合う
337 号	SK 283	土壙	円形	逆梯形	107	92	22.7	土師器（杯・皿）、土師質土器（鉢）、輸入陶磁器、埴輪	中世	
338 号	SK 284	土壙	楕円形	逆梯形	175	約 120	32.5	土師器（杯・皿）、土師質土器、須恵質土器、国産陶器、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗）、中国青磁（碗）、埴輪		
339 号	SK 285	土壙	円形	逆梯形	138	約 110	32	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・鉢・碗）、土師質土器（鉢）、須恵質土器（甕・鉢）、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、鉄滓、埴輪	中世	
340 号	SK 286	土壙	円形	逆梯形	約 95		36.7	輸入陶磁器	中世	SK 217 と切合う
341 号	SK 287	土壙	楕円形	逆梯形	120			土師器（杯）、土師質土器（鉢）、瓦質土器（鉢）、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、鉄釘	中世	
342 号	SK 288	土壙	楕円形	逆梯形	135	107	80	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、中国白磁（碗）、埴輪	中世	
343 号	SK 289	土壙	不整隅丸長方形	レンズ形	215	135	39.3	土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗）、須恵器（壺・鉢）、土師質土器、須恵質土器（甕）、輸入陶器（壺）、中国磁器、埴輪	中世	同一土壙名あり
344 号	SK 290	土壙	円形	レンズ形	70	約 65	54.7	土師質土器、国産陶器、伊万里系（皿・杯）		
345 号	SE 067	井戸	円形	逆梯形	92	95	130.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶器（甕・壺・瓶）、同安（碗）、中国白磁（碗・皿）、瓦、鉄釘	中世	
346 号	SE 068	井戸	円形		85	85	95.8	輸入陶器、瓦、埴輪		
347 号	SK 291	土壙	円形	逆梯形	60	50	32.5	土師器（杯）、瓦器（碗・杯）、土師質土器、輸入陶磁器、鉄釘、埴輪	中世	内部に礫・入骨土壙墓か？
348 号	SK 292	土壙	楕円形		60	160		土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗・皿）、須恵器、土師質土器、須恵質土器、中国白磁（碗）、骨	中世	
349 号	SK 293	土壙	円形	逆梯形	110		45.4	土師器（杯）、土師質土器、瓦質土器、輸入陶磁器	中世	SK 310 に切られる
350 号	SK 294	土壙	楕円形	逆梯形	約 112	100	26.3	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（碗）、土師質土器（捏鉢）、瓦質土器（鉢）、須恵質土器（甕）、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗・皿・瓶）、瓦、鉄滓、埴輪	中世	同一番号の土壙あり

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ⑳

整理番号	分類番号	遺構名	形態		規模(計測値，単位：cm)			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
351 号	SE 009	井戸	円形	逆梯形	50	45		土師器、瓦器，土師質土器、輸入陶器，須輪	中世	
352 号	SK 295	土壙	隅丸長方形	舟底形	100	80	61.9	土師器（杯・皿），瓦器（椀・鍋），須恵器（壺），土師質土器（鉢），須恵質土器（壺），国産陶器（甕），国産白磁（碗），鉄滓，砥石，須輪		
353 号	SE 006	瓦井戸	円形		(井筒) 55 約 110	55 94	16.4	土師器（皿），土師質土器，中国明代（磁），中国青磁	中世	
354 号	SK 296	土壙	円形		約 66		35			
355 号	SK 297	土壙	隅丸長方形		160	約 140		土師器（杯・皿），瓦器（碗），土師質土器（鍋・擂鉢），須恵質土器（壺），国産陶磁器（瓶），輸入青磁（壺），建窯（碗），同安（碗・皿），中国白磁（碗），瓦，須輪	中世	
356 号	SK 298	土壙						土師器（杯・皿），須恵器（甕・硯），瓦質土器（鉢），国産陶器（壺・碗・水差・瓶），輸入陶器（壺・壺・瓶），建窯・同安（碗），中国白磁（碗・皿），瓦，鉄釘，滑石石鍋，須輪	近世	
357 号	SK 299	土壙	円形		60					
358 号	SK 300	土壙	楕円形	逆梯形	920	約 538	185.6	南側包含層ー土師器（杯・皿），瓦器（碗・杯），須恵器（硯・杯・蓋），土師質土器（香・鉢・鍋），須恵質土器（壺），京焼系（碗），伊万里系（碗・皿・蓋・灯明皿），輸入陶器（壺），瓦，中国青磁・白磁（皿），須輪，刀子	近世	
359 号	SK 301	土壙	楕円形	擂鉢形	約 115	約 90	163.6	土師器（杯），瓦器（碗・皿），土師質土器（鉢），須恵質土器（壺），瓦質陶器，輸入陶器，同安（碗），中国白磁（碗・小皿），瓦，須輪	中世	
360 号	SK 302	土壙	不整形	逆梯形	500	400	126.1	土師器（杯・皿），土師質土器，瓦質土器，須恵質土器（壺），唐津系（碗・皿・蓋・鉢），伊万里系（碗・皿・瓶），輸入磁器，瓦，須輪	近世	SK 139 と同一
361 号	SK 303	土壙	隅丸長方形	半球形	276	94	77.6	土師器（杯・皿），瓦器（碗），須恵器（硯・杯），土師質土器（壺・鉢），伊万里系（碗・皿），輸入磁器，瓦，土錘，木炭，鉄釘，須輪	近世	
362A 号	SK 304	土壙	楕円形	逆梯形	約 75	60	20.9	土師器（皿），瓦器（杯），須恵器，土師質土器（鍋），鉄滓，須輪	中世	
362B 号	SK 305	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	65	60	13.7			
363 号	SK 306	土壙	楕円形	逆梯形	90	55		土師器（杯），須恵器，土師質土器（鉢），須輪		
364 号	SK 307	土壙	楕円形	逆梯形	100	約 80		土師器（杯），瓦器（碗），土師質土器，瓦質土器（鉢），輸入陶磁器，瓦，須輪	中世	
365 号	SK 308	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 140	90	20.4	土師器（杯），国産陶器，中国青磁（碗）		末掲
366 号	SK 309	土壙	楕円形	逆梯形	約 112	93	22.4	土師器（杯・皿），国産陶器（壺），輸入陶器		
367 号	SK 310	土壙	円形		95	90	54.6	土師質土器（七輪），中国仁庵（皿）	近世	末掲
368 号	SK 311	土壙	円形	擂鉢形	88	約 54	31.2	土師器（杯），瓦器（碗・杯），須恵器（壺），土師質土器（鉢・鍋・七輪），須恵質土器（壺），輸入陶器（鉢），須輪	中世	
369 号	SK 312	土壙	楕円形	舟底形	約 94	約 150	127.2	土師器（杯・皿・鍋），瓦器（碗），須恵器（杯），輸入陶器（鉢・碗），中国白磁（碗），鉄滓，須輪	中世	
370 号	SK 313	土壙	円形	擂鉢形	約 112	95	28.1	土師器（杯・皿），土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗），瓦，鉄釘，鉄滓	中世	同一番号の土壙あり

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ㉑

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模（計測値、単位：cm）長	幅	深	出土遺物	時期	備考
371 号	SE 070	井戸	円形		（井筒）45 約 252	47 約 220	132.3	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・皿）、須恵器（甕・壺）、土師質土器、須恵質土器（甕）、備前系（鉢）、輸入陶器（壺・壺・鉢・碗・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、瓦塼、泥めんこ、埴輪	中世	
372 号	SK 314	土壙	楕円形		200			土師器（杯・皿）、瓦器、輸入陶器（壺・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、鉄滓、埴輪	中世	
373 号	SK 315	土壙	隅丸方形		48		12.1			
374 号	SK 316	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約 150		1.9	土師器（杯・皿）、土師質土器、輸入陶磁器、埴輪	中世	
375 号	SK 317	土壙	不整円形	逆梯形	200			土師器（杯）、瓦器、須恵質土器、中国白磁（碗・皿）、鉄釘、埴輪	中世	井戸か
376 号	SK 318	土壙						土師器、須恵質土器、輸入陶磁器、瓦	中世	
377 号	SK 385	土壙	隅丸方形	逆梯形	102	80	66.2	土師器、瓦器（碗）、須恵質土器、輸入陶磁器、埴輪	中世	
378 号	SK 319	土壙	円形	逆梯形	100	100	72	土師器、土師質土器、国産陶器、中国白磁（碗）、中国青磁（碗）、瓦、鉄釘	中世	
379 号	SK 320	土壙	楕円形	逆梯形	340	約 200	84.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鉢・鍋）、瓦質土器、須恵質土器、国産陶磁器、輸入陶器（壺・瓶）、中国白磁（碗）、龍泉・同安（碗）、瓦、埴輪、鉄滓 井筒―土師器、輸入陶磁器	近世	SK 338 と同一土壙か
380 号	SK 321	土壙	円形	擂鉢形	50	50	9.4	中国白磁、瓦		
381 号	SK 322	土壙	円形		180	170	95.1	土師器（杯・皿）、瓦器（碗・皿）、土師質土器、国産陶器（鉢）、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）、木炭、鉄釘、埴輪	近世	
382号	SK 323	土壙	不整形				14.3	土師器（杯・皿）、輸入陶器（壺・瓶）、中国白磁・青磁、瓦	中世	
383 号	SK 324	土壙	隅丸長方形	—	約 140	約 183	37.5	土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器	近世	未調
384 号	SK 325	土壙	楕円形		140	100	27.7			
385 号	SK 326	土壙	不整形	逆梯形		140		土師器、土師質土器、輸入陶磁器	中世	未調
386 号	SK 327	土壙	楕円形	逆梯形			23.6	土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗）、須恵器（杯）、土師質土器（鍋）、須恵質土器（鍋）、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦、土製品、鉄釘、埴輪	近世	SK 324 に切られる
387 号	SK 328	土壙（井戸）	円形	逆梯形	約 375	300	233.9	土師器（杯・皿・碗）、瓦器（碗・杯）、須恵器（碗・皿・瓶・甕）、土師質土器、瓦質土器、須恵質土器（鍋）、国産陶器、輸入陶磁器、瓦、硯石、埴輪 井筒―土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器、瓦、鉄釘、埴輪 掘り方―土師器（杯）、瓦器（碗）、土師質土器（鍋）、須恵質土器（鉢）、国産陶器（鍋）、輸入陶器（壺・鉢）、同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦、埴輪	近世	同一土壙名あり
388 号	SK 329	土壙	楕円形	逆梯形	125	100	44.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、国産陶器（瓶）、輸入陶器（壺）、中国白磁・青磁（碗）		
389 号	SK 330	土壙	楕円形	逆梯形	約 70	約 115	28	土師器、瓦器、輸入陶器、中国白磁（碗）、鉄釘	中世	
390 号	SK 331	土壙	円形	逆梯形	約 150	約 145	95	土師器（杯）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶磁器	中世	

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ㉒

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模（計測値、単位：cm） 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
391号	SK 332	土壙	円形	逆梯形	約195	222	130	土師器（杯）、中国白磁	中世	未掘
392号	SK 333	土壙	楕円形	逆梯形	203	約80	85	土師器（杯・皿）、黒色土器（杯）、瓦器（碗・皿）、須恵器（皿）、輸入陶磁器（瓶・盤・碗・皿）、瓦、鉄釘、製鉄関係遺物	中世	
393号	SK 334	土壙	円形	逆梯形	約149	約120	130			未掘
394号	SK 335	土壙	不整円形	逆梯形	約200			土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（甕）、東播系土器、輸入陶器、中国白磁・青磁（碗）、瓦、鉄釘、小刀、泥めんこ、埴輪	中世	境界地未掘
395号	SK 336	土壙	隅丸長方形	逆梯形	270		91	土師器（杯・皿）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、輸入陶器、中国青磁・白磁（碗）、瓦、鉄釘、ガラス製品、埴輪 井筒内―土師器、瓦質土器、国産陶器、中国青磁、鉄釘	近・現代か	同一番号の土壙あり 現代か、井戸か
396号	SK 337	土壙	不整形 楕円形	摺鉢形	132	約92	35.6	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶磁器	中世	同一番号の土壙あり
397号	SK 338	土壙	隅丸長方形		230	135	50.5	土師器、瓦器、須恵器、土師質土器、輸入陶磁器、瓦 井戸内―土師器（杯）、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（甕）、中国白磁・青磁（碗）、瓦、鉄釘 掘り方―土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、須恵質土器、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁・青磁（碗）、瓦、鉄釘、埴輪	近世	井戸か、未掘 同一土壙名あり
398号	SK 339	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約260	約220	39.8	土師器、土師質土器、輸入陶磁器、刀子、埴輪	中世	境界地 同一土壙名あり
399号	SE 071	井戸	円形	逆梯形	（井筒） 70 330	76 318	170	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器（鍋）、瓦質土器（捏鉢）、須恵質土器（東播系鉢）、国産陶器（甕・壺・鉢）、輸入陶器（甕・壺・鉢・瓶・盤）、伊万里系（皿）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗・皿・合子）、中国明代（碗）、硯、瓦、鉄滓、鉄釘、凝灰岩埴輪 井筒内―土師器、瓦器（碗）、須恵器（捏鉢）、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗）	近世	伊万里（皿17世紀後）
400号	SK 340	土壙	不整形	方底形	約740			土師器（杯・皿）、輸入陶磁器	中世	土壙3つに分離
401号	SK 341	土壙	不整楕円形	逆梯形	約275	約200	26.3	土師器（杯）、輸入陶磁器、瓦	中世	井戸掘り方か
402号	SK 342	土壙						土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（皿・瓶）、中国青磁（碗）、瓦、鉄釘	中世	
403号	SK 343	土壙	楕円形	逆梯形	約175	約80	61.9	土師器（皿）、土師質土器、輸入陶磁器	中世	
404号	SE 007	井戸	円形	円筒形	（井筒） 67 138	68 125	29.8	須恵器、土師質、国産陶器、輸入陶器（甕・鉢）、龍泉（碗）、瓦、鉄滓、鉄釘、石炭	近世	
405号	SE 072	井戸	隅丸方形	逆梯形	（井筒） 62 190	57 185	63.8	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（碗）、土師質土器（鉢・捏鉢・七輪）、須恵質土器（甕）、国産陶器（鍋）、伊万里系（碗）、輸入陶器（甕・鉢・耳付壺・壺・瓶・盤）、龍泉（碗・皿）、同安（皿）、中国白磁（碗・皿）、瓦、埴輪	近世	
406号	SE 073	井戸	円形	逆梯形	約275	265	66	土師器（杯）、土師質土器（摺鉢）、輸入陶器（盤）、中国白磁（碗）、瓦	中世	井筒か SK 300 の
407号	SK 344	土壙	隅丸長方形	逆梯形	約172		108.4	土師器（皿）、須恵器、輸入陶磁器		

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 (23)

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模(計測値，単位：cm) 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
408 号	SK 345	土壙	不整形	逆台形	100	90	60.7			
409 号	SK 346	土壙	楕円形	逆台形	約 268	154	89.8			
410 号	SK 347	土壙	円形	擂鉢形	165	155	117.8			
411 号	SK 348	土壙	円形	擂鉢形	約 90	約 155	34.4			
412 号	SK 349	土壙	隅丸長方形	擂鉢形	約 143	130	19			
413 号	SK 350	土壙	隅丸長方形	逆台形	約 170	約 60	8.5			
414 号	SK 351	土壙	隅丸長方形	逆台形	約 150	約 77	19			
415 号	SK 352	土壙	隅丸長方形	舟底形	約 142	110	89.4	土師器、中国青磁・白磁、瓦、滑輪	中世	
416 号	SK 353	土壙	円形	擂鉢形	76	67	57.9	土師器（坏・皿）、国産陶器、輸入陶器、中国白磁（碗）、同安、銭貨、瓦	中世	井筒か 掘り方は大きい
417 号	SK 354	土壙	楕円形	擂鉢形	262	80	111	瓦器（碗）、須恵器、須恵質土器、輸入陶磁器、滑石	中世	
418 号	SK 355	土壙	円形	擂鉢形	154	60	6.8	刀子、ガラス製品、土師器、輸入陶器、鉄滓		
419 号	SK 356	土壙	不整形	擂鉢形	約 100	約 69	9.3	土師器、瓦器、須恵器、土師質土器、須恵質土器		木根
420 号	SK 357	土壙	不整形	逆台形	約 305	150	72.5	土師器		
421 号	SK 358	土壙	楕円形	擂鉢形	210	150	41	伊万里系（磁）	近世	
422 号	SK 359	土壙	隅丸長方形	逆台形	約 87		7.9			
423 号	SK 360	土壙								
424 号	SE 074	井戸	円形	逆台形	(井筒) 65	65 約 120	127.2	土師器（杯）、土師質土器（鍋）、亘理陶器（皿）、輸入陶器（甕・鉢）、中国白磁（碗）、瓦、鉄釘、滑輪		境界坑
425 号	SE 075	井戸	隅丸方形	逆台形	99	約 60	19.9			同一土壙名あり
426 号	SK 361	土壙	隅丸長方形	擂鉢形	約 300		41.5			
427 号	SE 076	井戸	円形	円筒形	(井筒) 60 約 253	58 約 305	109.2	土師器（碗・杯・皿）、瓦器（皿）、須恵器（甕・鉢・瓶）、土師質土器（鍋）、須恵質土器（鉢）、国産陶器（瓶）、輸入陶器（甕・鉢・皿）、同安（皿）、中国白磁（碗）、瓦、滑輪		木根 同一土壙名あり
428 号	SK 362	土壙	円形	逆台形	約 120		7.0	土師器（杯）、瓦器、中国白磁	中世	S E 066 と切合う
429 号	SK 363	土壙	楕円形		70	190		中国白磁（合子・蓋）	中世	
430 号	SK 364	土壙	隅丸方形	U字形	81	66	40	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・壺）、国産陶器（皿）、輸入陶器（甕）、中国白磁（碗）、滑輪	中世	
431 号	SK 365	土壙	円形	逆台形	約 113	100	107.2			
432 号	SK 366	土壙	楕円形	擂鉢形	約 174		113.3	瓦器（皿）、土師質土器（鉢・火舎）、瓦質土器（鉢）、国産陶器（瓶）、伊万里系（磁）、中国白磁（碗・皿）、瓦、青銅器（透管）、骨	近世	

＊約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ㉔

整理番号	分類番号	遺構名	形態 平面形	形態 断面形	規模（計測値、単位：cm） 長	幅	深	出土遺物	時期	備考
433号	SK 367	土壙	楕円形	逆梯形	70			土師器（杯・皿）、須恵器（蓋）、土師質土器（壺）、国産陶器（鉢）、伊万里系（碗）、輸入陶器（甕・壺）、瓦、土錘	近世	
434号	SE 077	井戸	不整円形	逆梯形	（井筒）70	約171	130			
435号	SE 078	井戸	楕円形	逆梯形	（井筒）60 約253	108	55.8	土師器（杯）、瓦器（碗）、須恵器（鉢・皿）、土師質土器（鍋）、国産陶器（壺・鉢・瓶）、輸入陶器（甕・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、石錘、植輪	近世	
436号	SE 079	井戸	円形	逆梯形	（井筒）64 約150	76 約114	146	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（鉢）、土師質土器（甕・鍋・七輪）、瓦質土器（甕）、国産陶器（瓶・灯明皿）、伊万里系（碗）、輸入陶器（甕・壺・瓶）、中国白磁（碗）、瓦、鉄滓、漆製品（耳かき）	近世	
437号	SK 368	土壙	円形	逆梯形	120	110	24	土師器（杯）、瓦器（碗・皿）、須恵器（鉢・碗）、土師質土器（鉢・鍋・火合）、瓦質土器（鉢）、須恵質土器（甕・鉢）、輸入陶器（鉢・瓶）、中国青磁（碗）、中国白磁（碗・皿・瓶）、瓦、鉄	中世	SE062の井筒か未掘
438号	SK 369	土壙	不整円形	最強円錘形	約190	約422	168	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕・皿）、須恵質土器（甕）、輸入陶器（甕）、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、滑石石鍋、植輪	中世	井戸か
439号	SK 370	土壙	円形	逆梯形	60	60	50			SK369と切合う
440号	SK 371	土壙	楕円形	逆梯形	60	約90		土師器（杯）、須恵質土器（甕）		
441号	SK 372	土壙	円形	逆梯形	90		9.5	土師器（碗・杯・皿）、瓦器（碗・杯）、須恵器（甕・碗）、土師質土器（鉢）、国産陶器、輸入陶器（甕・瓶）、中国白磁（碗・皿）、瓦、鉄釘、植輪		
442号	SE 080	井戸	円形	逆梯形	120	約90		土師器（杯）、瓦器（杯）、須恵器（甕）、土師質土器（鍋）、瓦質土器（甕）、輸入陶器（甕・鉢）、中国白磁（碗・皿・瓶）、瓦	中世	井筒あり
443号	SK 373	土壙	円形		50	50				
444号	SK 374	土壙	隅丸長方形	逆梯形	70	50		土師器（杯）、瓦器（碗）、須恵器、須恵質土器（甕）、国産陶器、輸入陶器（碗・鉢・盤）、瓦、土錘、鉄滓、木炭		
445号	SK 375	土壙	円形	逆梯形	110	110		土師器（杯・皿）、瓦器、須恵器、輸入陶器（壺・鉢）、天目碗、輸入白磁（碗）	中世	
446号	SK 376	土壙	不整形	逆梯形	168	109	25	土師器（杯）、瓦器（碗）、須恵器（鉢・碗・皿）、須恵質土器（甕）、国産陶器（瓶）、輸入陶器（甕・鉢）、植輪		
447号	SK 377	土壙	隅丸長方形		160	約70		土師器、瓦器（甕・碗）、土師質土器（鍋・七輪）、瓦質土器（捏鉢）、国産陶器、輸入陶器（甕・壺・鉢）、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、瓦、土錘、滑石石鍋、植輪		
448号	SE 081	井戸	円形	逆梯形	150	150	197	土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、国産陶磁器、輸入陶器（甕・壺）、中国白磁（碗）、中国青磁（碗）、瓦、植輪 掘り方―土師器（杯）、須恵器（碗・蓋）、輸入陶器（壺・碗・瓶・盤）、中国白磁（碗）、瓦	近世	井戸か
449号	SE 082	井戸	不整楕円形	逆梯形	165	110	18	土師器（杯・皿）、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（甕・壺・鉢・皿・瓶・盤）、龍泉（碗）、中国白磁（碗・合子）、中国青磁（碗・皿）、植輪	中世	土壙か

※約は現存の幅・長さを表す。

Tab. 6　第28次調査遺構（土壙・井戸）一覧表 ㉕

整理番号	分類番号	遺構名	形態		現機（計測値、単位：cm）			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
450 号	SE 083	井戸	円形		（井筒）140 291	142 約 270	162.2	上師器（杯・皿・小鉢）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、須恵質土器（甕）、輸入陶磁器（碗）、鉄釘、滑輪 上層—土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、輸入陶器、中国青磁・白磁（碗）、瓦、埴輪 下層—土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器、土師質土器、輸入陶器、中国白磁（碗・皿）	中世	
451 号	SE 86	井戸	円形		240	240		掘り方—上師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（碗・皿・壺）、土師質土器（鍋・浮鉢）、須恵質土器（甕）、国産陶器（壺・碗・瓶）、輸入陶器（甕・壺・碗・瓶・盤）、同安（碗）、中国白磁（碗）、瓦、鉄滓、鉄釘、木炭、埴輪 井筒—土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、須恵器（甕）、土師質土器（甕）、国産陶器（甕・壺・鉢・瓶・摺鉢）、輸入陶器（甕）、龍泉（碗）、中国白磁（碗）、瓦	近世	
452 号	SE 084	井戸	円形	逆梯形	80		119.5	井筒—土師器、土師質土器（鍋）、輸入陶器（壺）、中国白磁（碗・皿・合子）、中国青磁（碗）、鉄釘、骨	中世	井筒あり
453 号	SK 379	土壙						土師器（皿）、須恵器、輸入陶磁器、瓦	中世	
454 号	SE 308	井戸	円形	逆梯形	234	約 204	151			井筒あり
455 号	SK 380	土壙	不整形	摺鉢形	約 450	300		土師器（杯）、須恵器、土師質土器、瓦質土器、輸入陶器（甕・瓶）、中国青磁・白磁	中世	
456 号	SK 381	土壙	円形		130	130		土師器（杯）、輸入陶器（壺）、中国青磁（碗）、中国白磁（碗）	中世	
457 号	SK 382	土壙	円形	逆梯形	104	104	69	土師器（杯・皿）、須恵器（碗）、土師質土器（甕・鉢・鍋）、須恵質土器（東播系・鉢）、国産陶器（甕・鉢）、瓦、埴輪、輸入陶器（甕・鉢・碗・瓶）、龍泉・同安（碗）、中国白磁（碗）、明代（碗） 井筒—骨	近世	
458 号	SK 383	土壙	楕丸長方形		110	85		土師器（杯・皿）、瓦器（碗）、土師質土器、輸入陶器（甕・鉢・瓶）、中国白磁（碗）、備前系（摺鉢）、瓦、黒曜石、埴輪、鉄釘	中世	
57 号	SK 386									
125 号	SK 387									
147 号	SK 388									
168 号	SK 389									
165 号	SK 390									
175 号	SK 391									
192 号	SK 392									
212 号	SK 393									
213 号	SK 394									
302 号	SK 395									
379 号	SK 396									
395 号	SK 397									
396 号	SK 398									
397 号	SK 399									
398 号	SK 400									
399 号	SK 401									
425 号	SK 402									
427 号	SK 403									

※約は現存の幅・長さを表す。

付　編　Ⅰ

博多遺跡群第28次調査出土の硯について

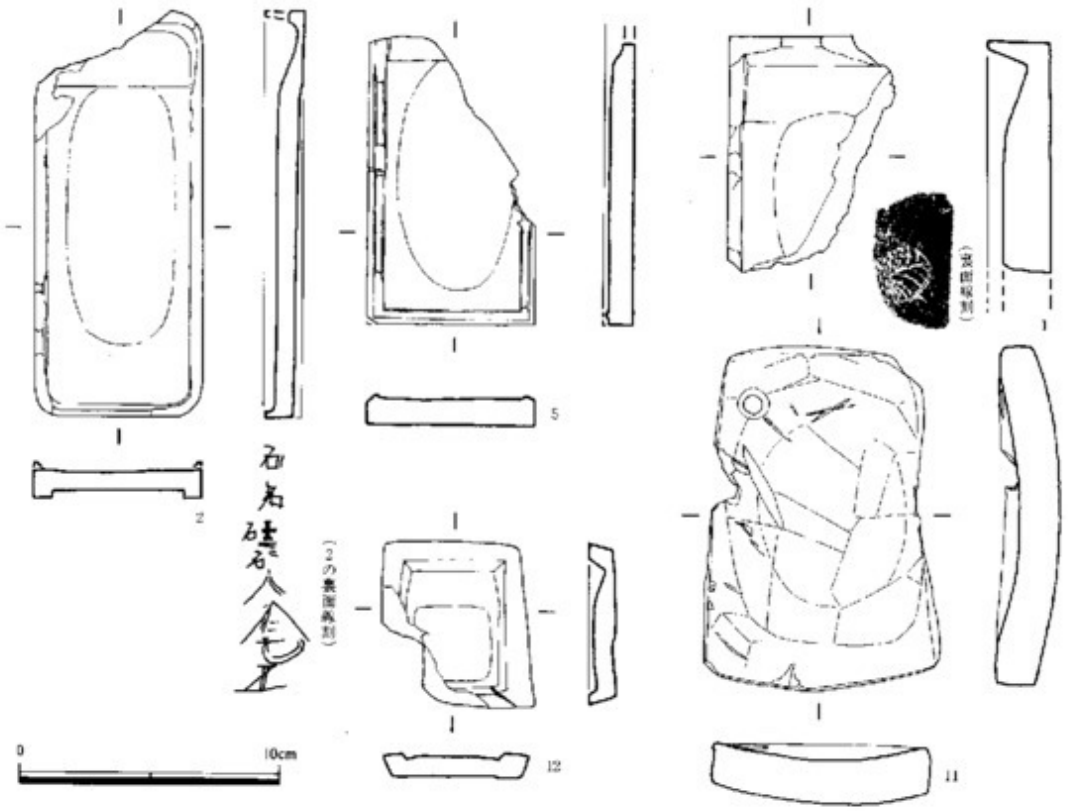
池　田　洋　子（福岡市埋蔵文化財センター）

博多28次調査では14個の硯が出土した。すべて石硯である。陶硯については各方面で報告されてきたが、石硯については最近ようやく形態分類がなされてきたところである。折角の機会であるのでこれらの硯の分類と時期とを考えてみたい。

硯の形態としてはA～Iの9グループに分けられる。まずA類としては(8)の台形硯がある。特徴として硯頭部の縁帯幅と側面の幅とに差がないこと。硯頭部から海部への削りが鋭角である。内面に角が付いている。裏が平坦である。側面はわずかに上へ開く傾斜をもっている。以上の事から水野分類の台形硯ⅠAc—①に、又横田分類のⅢAに属する。このタイプは博多遺跡群第35次調査、御笠川南条坊遺跡、大分県伐採山城跡等があり、14世紀を代表する形態である。B類としては(9)がある。内面が角をもち、側面がわずかに上へ開く。裏は平坦である。方形硯ⅠAc に属し、北九州市長野D遺跡、博多遺跡群高速鉄道関係祇園町工区、御笠川南条坊遺跡等があり、14世紀後半～15世紀後半頃の時期が与えられる。C類としては(2)がある。内面が隅丸で、側面は垂直、裏は中国の太子硯を模して、硯頭より3cmドったところより幅0.5～0.8cmの脚を削りだしている。長方形ⅠBaに属し、16世紀以降に比定される。有脚の例としては大宰府史跡70次調査があるが、これは裏面をU字状に削とったものである。本調査の(6)もU字状に脚を作っているが破片の為形態分類ができない。D類としては(13)がある。中が隅丸で、側面がわずかに傾斜し、裏は平坦である。長方硯ⅡAc に属し、15世紀前半以降と思われる。E類は数が多く(1)、(3)、(4)、(7)、(12)が含まれる。中が隅丸、側面は垂直、裏面は平坦である。長方硯ⅡBc に属し、15世紀に比定されるものと思われるが、水野氏が類例として掲げられている朝倉氏遺跡35次調査のような装飾があるものではなく、簡易なものであり今後検討を要する。F類としては(5)がある。内面に角をもち、側面は垂直、裏は平坦である。側面より3mm内側に縁帯を巡らせているので、蓋が付くものと思われる。長方硯ⅠBcに属し、16世紀以降幅広く見

（単位：cm）

番号	出土地点	種類	形態	長	幅	厚	石材	内面形態	側面	裏面
(1)	SK 018	石硯	長方硯	現存 5.5	現存 3.6	2.0	頁岩	隅丸	垂直	平坦
(2)	SK 019	石硯	(隅丸) 長方硯	15.6	6.25	約 1.4	小豆色凝灰岩	隅丸	垂直	有脚
(3)	SK 097	石硯	長方硯	12.2	5.8	現存1.04	頁岩	隅丸	垂直	平坦
(4)	SK 118	石硯	長方硯	18.4	8.1	2.3～2.4	頁岩	隅丸	垂直	平坦
(5)	SK 118	石硯	長方硯？	現存10.9	6.4	現存0.95	小豆色凝灰岩	角	垂直	平坦
(6)	SK 121	石硯	長方硯？	現存 6.3	現存 5.9	1.65	小豆色凝灰岩	不明	不明	U字脚
(7)	SK 131	石硯	長方硯？	現存 3.9	7.25	1.95	頁岩	隅丸	垂直	平坦
(8)	SE 071	石硯	台形硯	現存 8.7	現存 6.3	2.2	小豆色凝灰岩	角	傾斜	平坦
(9)	SD 02	石硯	長方硯	現存 3.6	現存 1.9	1.35	小豆色凝灰岩	角	傾斜	平坦
(10)	SD 06	転用硯		13.15	8.1～9.3	1.1～1.8	滑石			
(11)	トレンチ	石硯	方形硯	6.2	5.2～5.4	0.7～0.8	滑石	角	傾斜	平坦
(12)	包含層	石硯	長方硯	現存15.6	7.3	2.8～2.9	中粒砂岩	隅丸	垂直	平坦
(13)	包含層	石硯	長方硯	現存7.15	6.8	2.1	中粒砂岩	隅丸	傾斜	平坦
(14)	包含層	石硯	楕円硯	12.3	最大5.75	1.3	頁岩	楕円	垂直	平坦



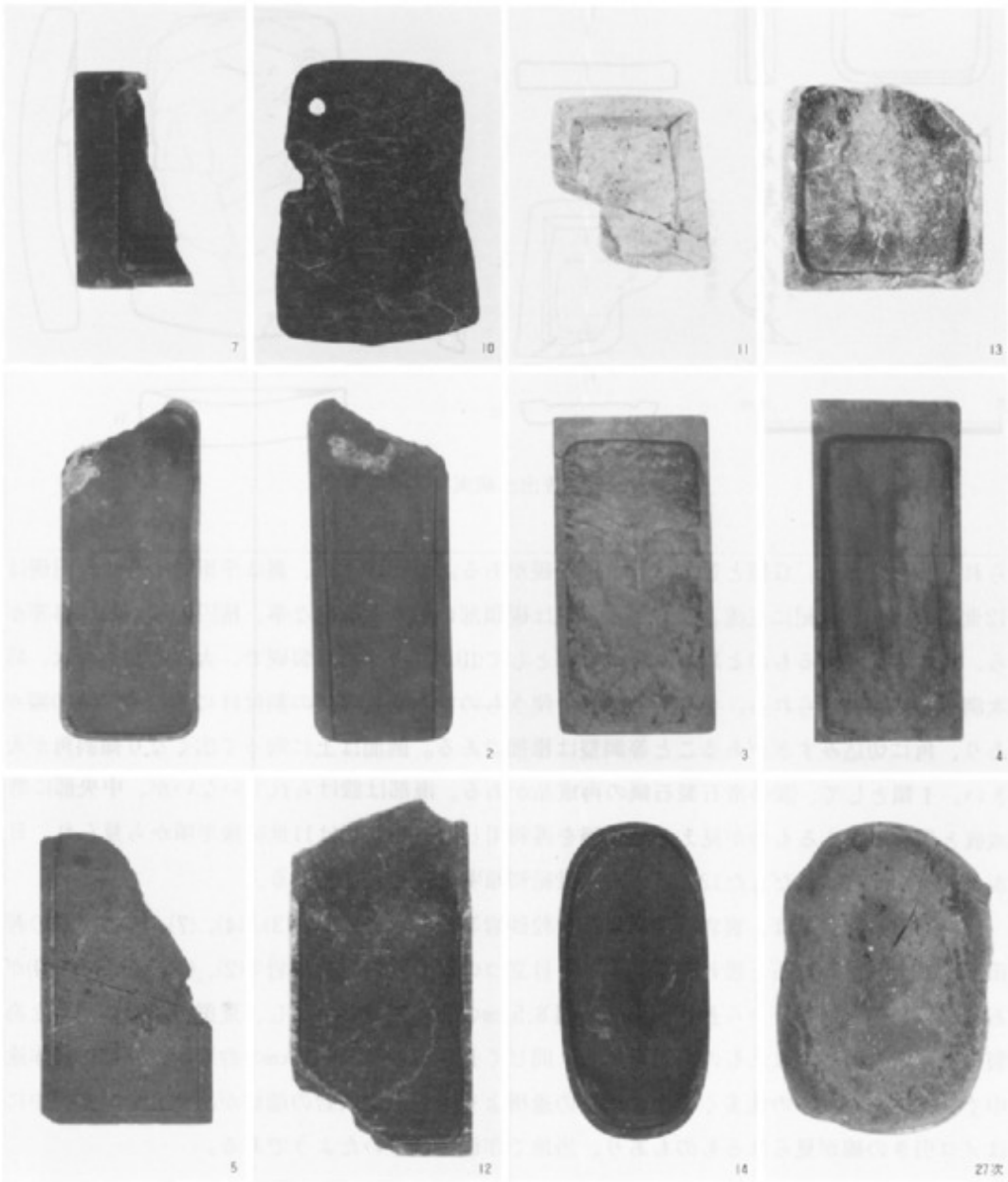
博多28次調査出土硯実測図（1/3）

られるようである。G類としては(14)の楕円硯がある。側面は垂直、裏は平坦である。楕円硯は12世紀末より14世紀に主流となるが、本硯は硯頭部の削りが垂直な事、楕円の幅が狭い事等から、更に時代が降るものと思われる。H類として(11)がある。滑石製硯で、大宰府史跡33次、45次調査に類例がみられる。小形で手持ちで使うものである。縁帯の割付けに0.6～1.1cmの幅があり、角に切込みすぎがあること等調整は稚拙である。側面は上に向って広くなり傾斜角が大きい。I類として、(10)の滑石製石鍋の再成品がある。海部は設けられていないが、中央部に磨滅痕と墨痕と思えるものが見える。石鍋を再利用した滑石製硯は11世紀後半頃から見られ、日本で硯材が採石されだした12世紀末－13世紀初頭頃まで作られている。

次に石材に関しては、頁岩、凝灰岩、中粒砂岩等がみられ、(1)、(3)、(4)、(7)、(14)は対馬の若田石、(12)、(13)は天草石と思われる。中でも目立つのが小豆色の凝灰岩で(2)、(5)、(6)、(8)、(9)があり、その他石組井戸から長さ22.7cm、幅8.5cmの硯の素材が出土し、荒掘の段階で割れた為製作を中止し捨てられたものと思われる。同じく長さ5.4cm、幅4.9cmの台形硯の頭部も製作途中で発見された。その他多くの中・近世の遺構より小豆色凝灰岩の端材が出土している。中にはノコ引きの線が見られるものもあり、当地で作硯されていたようである。

博多28次調査で目を引くのはおびただしい数の中国産青磁・白磁碗であり、墨書土器も数多く、145点出土している。中世博多の対宋貿易の輝しい名残りであろうか。今後、これらの置物と硯との関係、石材の種類、小豆色凝灰岩の硯の分布等を研究課題としていきたい。

参考文献
水野和雄「日本石硯考—出土品を中心として—」考古学雑誌第70巻第4号　1980
横田賢次郎「福岡県内出土の硯について—分類と編年に関する一試案—」九州歴史資料館研究論集9　1983
玉口時雄「転用硯考—墨書土器研究への一考察—」『古代探叢』滝口宏先生古稀記念考古学論集　早稲田大学出版部



第28次調査出土硯写真（第27次調査出土の硯は須恵器の転用硯である）

付 編 Ⅱ

博多遺跡群第28次調査出土中世人骨

中 橋 孝 博・永 井 昌 文
（九州大学医学部解剖第２講座）

1985年５月～８月、福岡市博多区御供所町において、ビル建設にともなう考古調査（博多遺跡群、第28次調査）が行われ、馬等の獣骨と共に、１体の人骨が出土した。保存状態が悪く、残念ながらその形質を十分には窺い得ないが、当地では数少ない中世人資料であり、以下、知り得たところを報告しておく。

（検出状況） 溝状のくぼみの中から、馬等の獣骨類や土師器等と共に検出されたもので、頭蓋１個が後頭部を上にした状態で出土した。他にこの遺体のものと思われる四肢骨片も見出されたが、保存状態が悪く、取上げは不可能であった。この四肢骨に近接して獣骨が見出され、墓壙も検出されなかったこと等から、埋葬遺体ではなく、他の獣骨類と共に溝に流れ込んだものと推察されている。

（所属時代） 頭蓋に近接して出土した土師器や他の考古学的所見から、12世紀後半頃の人骨とみなされている。

（人骨所見） 観察可能な遺存部位は、頭蓋冠部に限られ、顔面部は歯小片を残して消失している。(図参照)

眉間部の膨隆、鼻根部の陥凹は共に弱く、側頭線の粗糙度も弱い。また、主縫合の外板にはまだ開離している部分がみられるが、内板はほとんど癒合しており、熟年に達した女性人骨とみなされる。

計測はほとんど不可能だが、頭蓋冠の上面観において、頭蓋最大幅、最小前頭幅が共にかなり狭い特徴が窺え(それぞれ約130mm・約82mm)、頭蓋最大長は180mm近くに達するので、その頭型はかなり長頭に傾くものと推察される。

また、鼻根部はかなり扁平で、その彎曲示数は88.9を示す。(表参照)

以上、当女性人骨には、長頭性と扁平な鼻根部といった特徴が見出され、これらはいずれも従来より中世人骨の特徴として指摘されていた点に合致するものである。同じ博多区の上呉服町から出土した２体の中世人骨（中橋・永井、1986）もやはり長頭性が強いので、今回の資料を加えて、これまで旧博多市街区内から出土した中世人骨３体はいずれも長頭性をその特徴としてもつことが判明した。古くから港町、商都として栄えた博多の住人がどういった形質をもつ人々であったのか、特にその頭形は、同じ博多の近世人(中橋・1987)や他地方との関係上、

非常に興味深い問題点を含んでおり、今後はその長頭性の程度と、時代変化をみきわめる必要がある。現状では（今回の資料を含めて男性１、女性２）まだまだ統計的に有意の議論は不可能だが、少しづつでも資料が蓄積され、いずれそうした問題の検証が可能になることを期待したい。

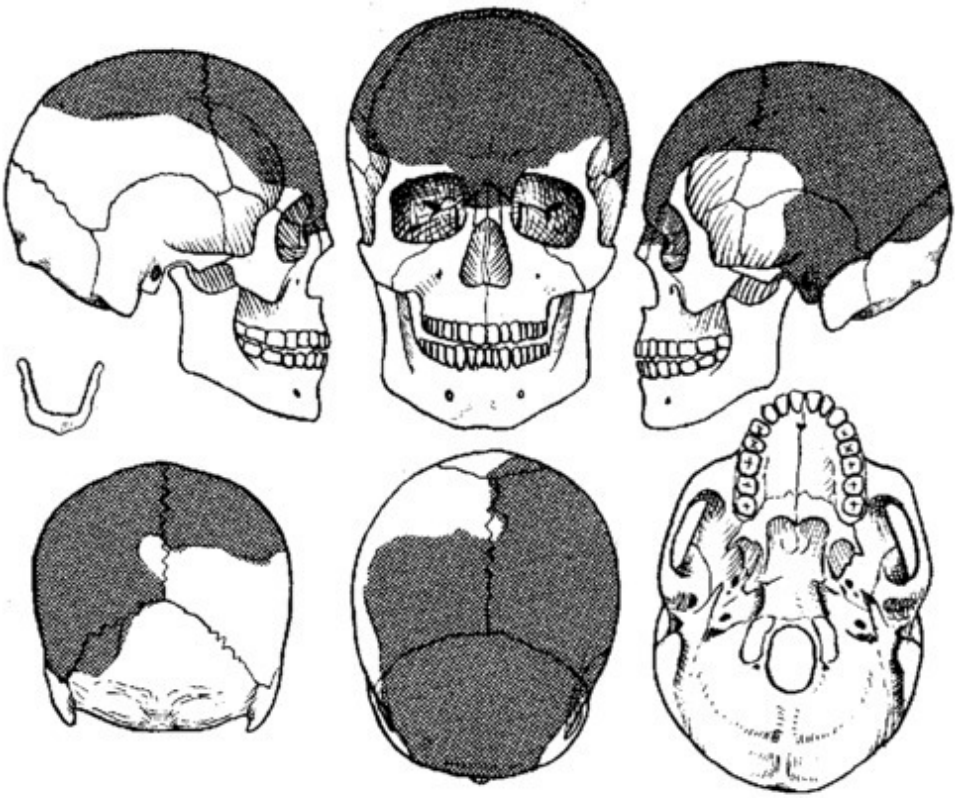
（当人骨を研究する機会を与えて下さった福岡市教育委員会の諸先生、諸士に感謝致します。）

文　献

中橋孝博・永井昌文(1985)「山口県下関市吉母浜遺跡出土の弥生・中世人骨」吉母浜遺跡、下関市教育委員会。

中橋孝博・永井昌文(1985)「博多遺跡群、第26次調査出土中世人骨」福岡市埋蔵文化財調査報告書第144集、福岡市教育委員会。

中橋孝博(1987)「福岡市天福寺出土の江戸時代人頭骨」　人類学雑誌，95。



頭蓋骨遺存部位

計測値の比較（女性）

博多第28次調査		吉母浜（中世）	
		n	M
M.1	頭最大長（175～178）	26	176.4
M.8	頭最大幅（130）	26	132.0
M.8/1	頭長幅示数（73～74.2）	26	74.9
M.9	最小前頭幅（82）	25	91.4
M.50	前眼窩間幅 16	25	17.8
F	鼻根横弧長 18	25	19.8
50/F	鼻根彎曲示数 88.9	25	90.3
M.57	鼻骨最小幅（8）	24	7.7

博多 Ⅶ

福岡市埋蔵文化財調査報告書第147集

1987(昭和62)年3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区大名2-10-29
福岡ようきビル内

印刷 福岡印刷株式会社